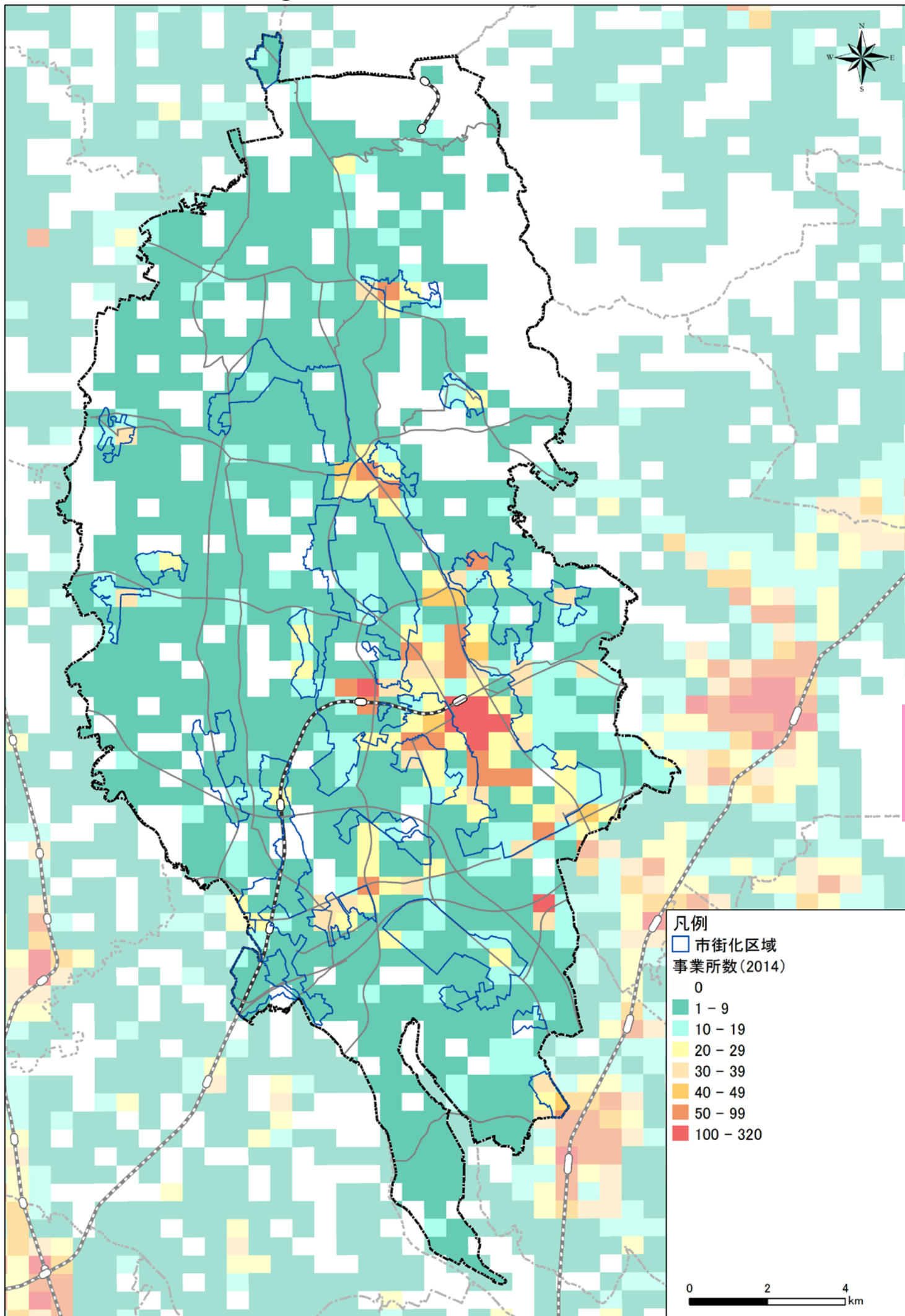
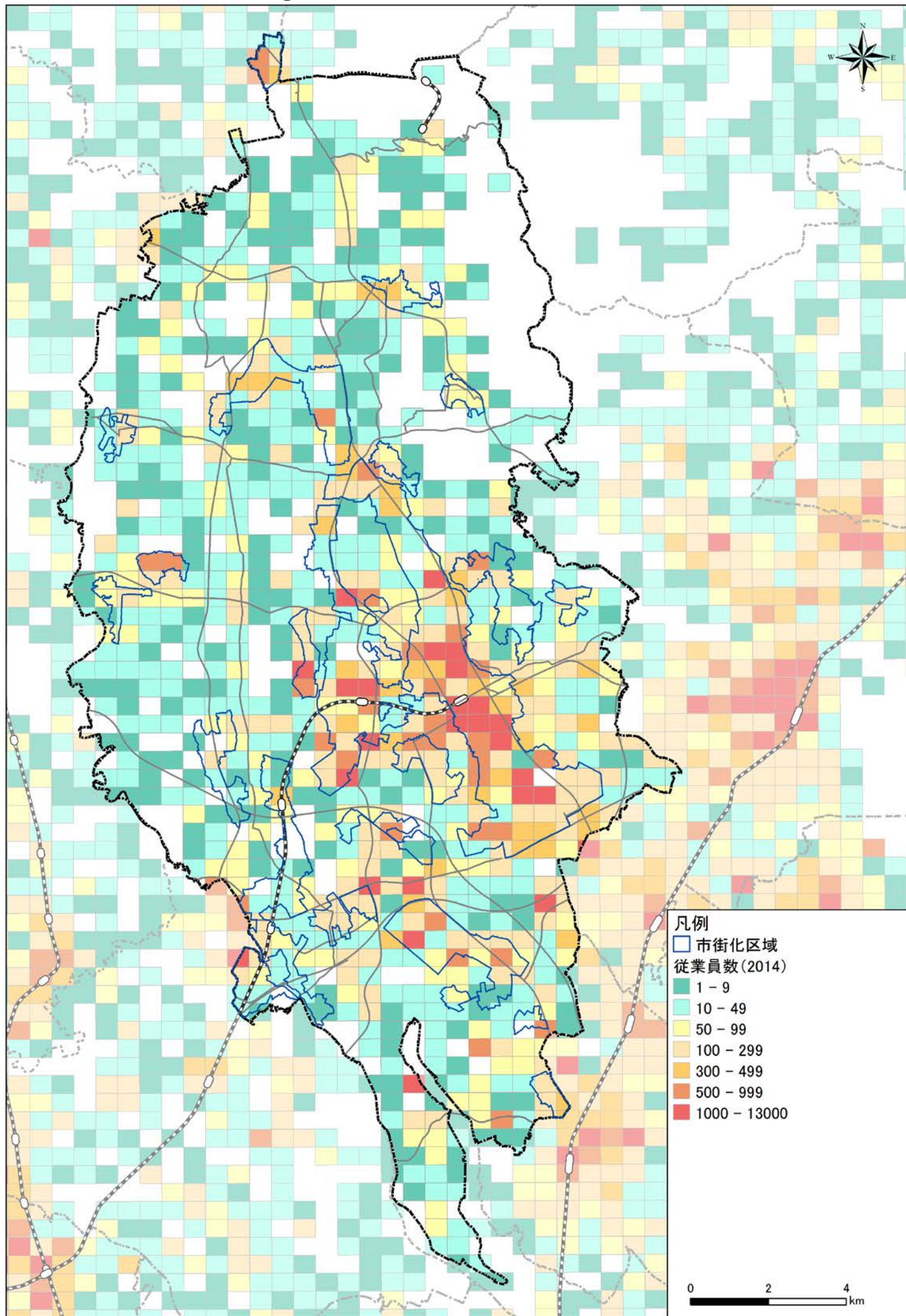


1) 事業所・従業者 ①事業所数

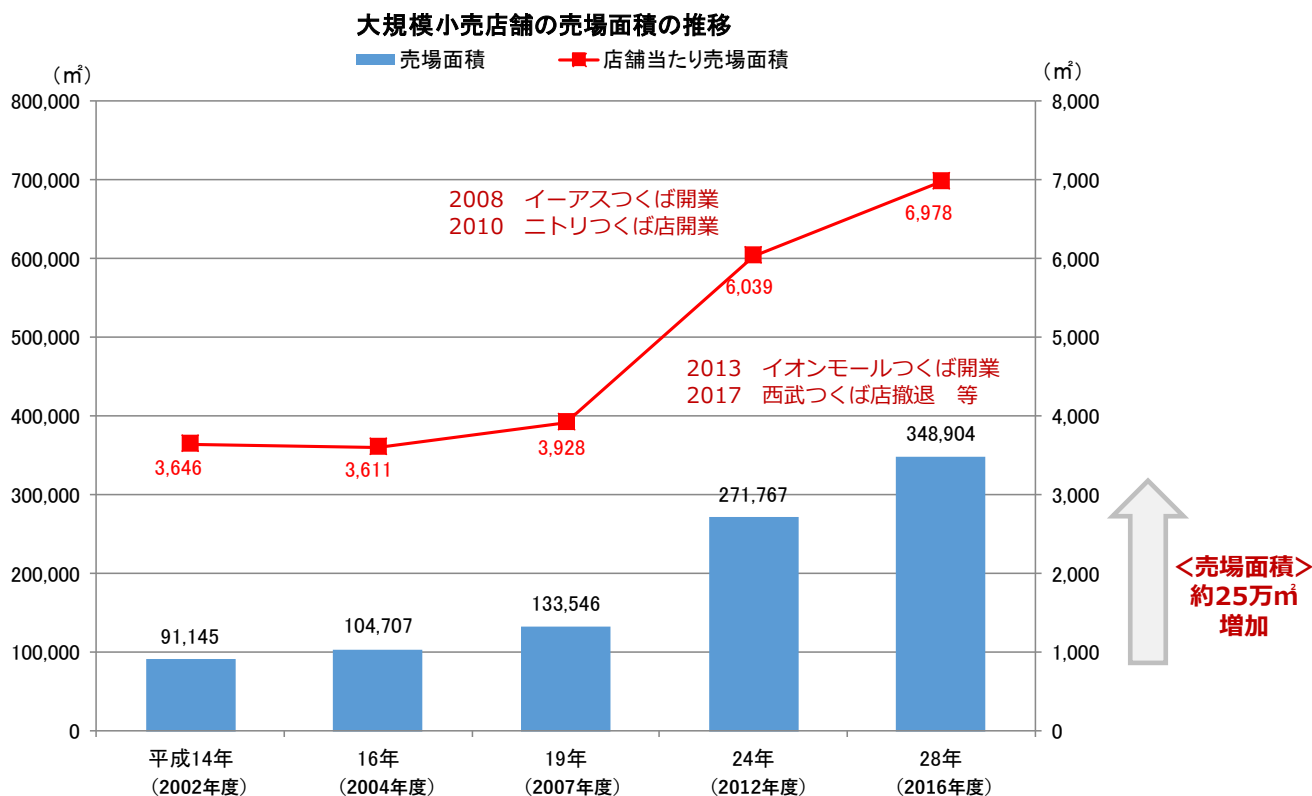


1) 事業所・従業者 ②従業者数

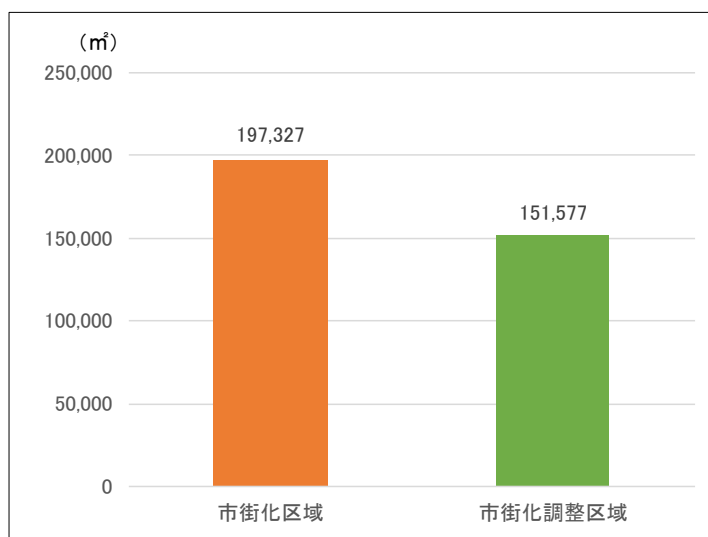


2) 大規模商業施設 ①売場面積

- 大規模小売店舗の売り場面積は、平成14年～28年の15年間で約25万㎡増加しています。
- それに伴い、店舗当たり売り場面積も拡大しており、平成28年には約7,000㎡と平成14年時と比較して約2倍となっています。
- イオンモール（店舗面積約5万㎡）の立地など、市街化調整区域の売り場面積が増加しつつあります。



区域区分別の大規模小売店舗の売場面積（平成28年度時点）

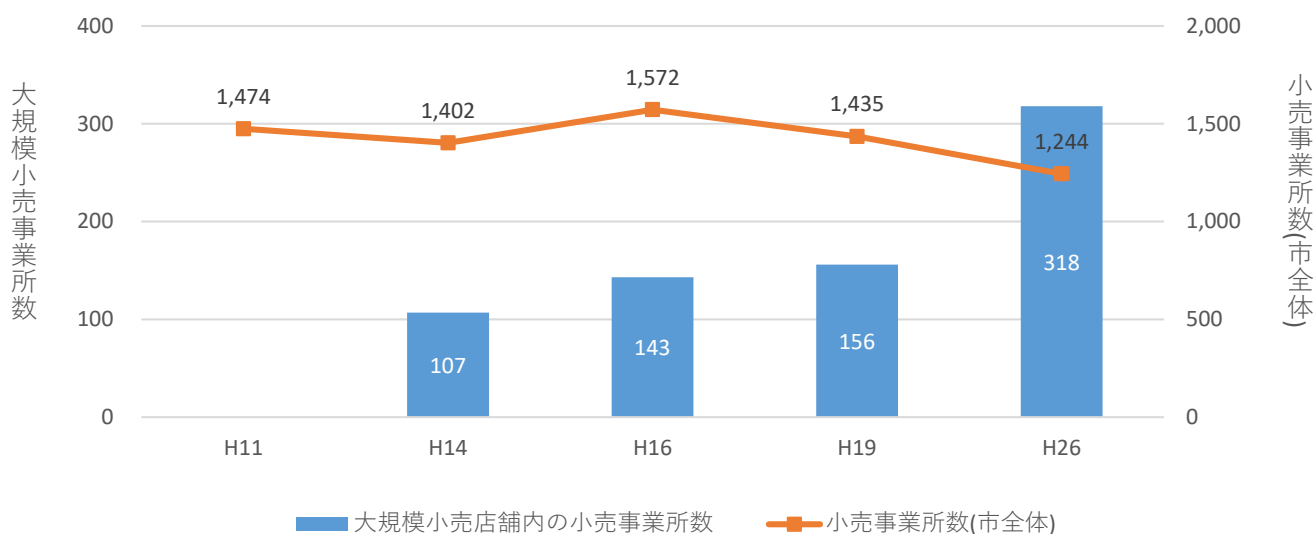


注：平成28年の値は都市計画基礎調査をもとに西武の店舗面積（大規模小売店舗総覧2017参照）を減じた値

2) 大規模商業施設 ②事業所数

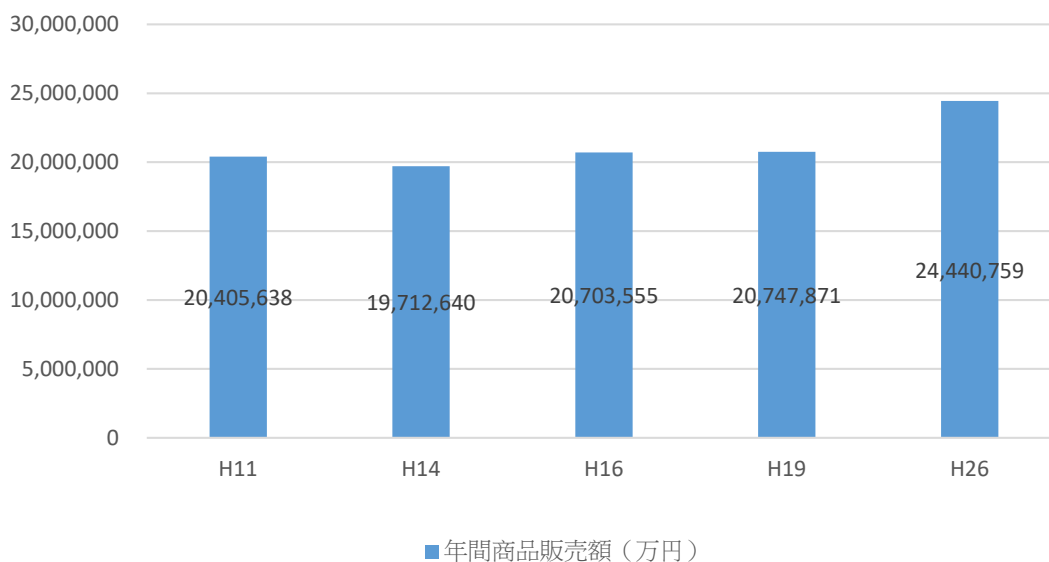
- 大規模小売事業所数は増加傾向にあり、平成19年から平成26年の間に2倍以上に増加しています。
- 小規模事業所数は、平成16年以降減少傾向に転じ、平成26年には、1,244ヶ所となっています。
- 小売業の年間商品販売額は、平成14年以降増加傾向にあります。

大規模小売事業所数の推移



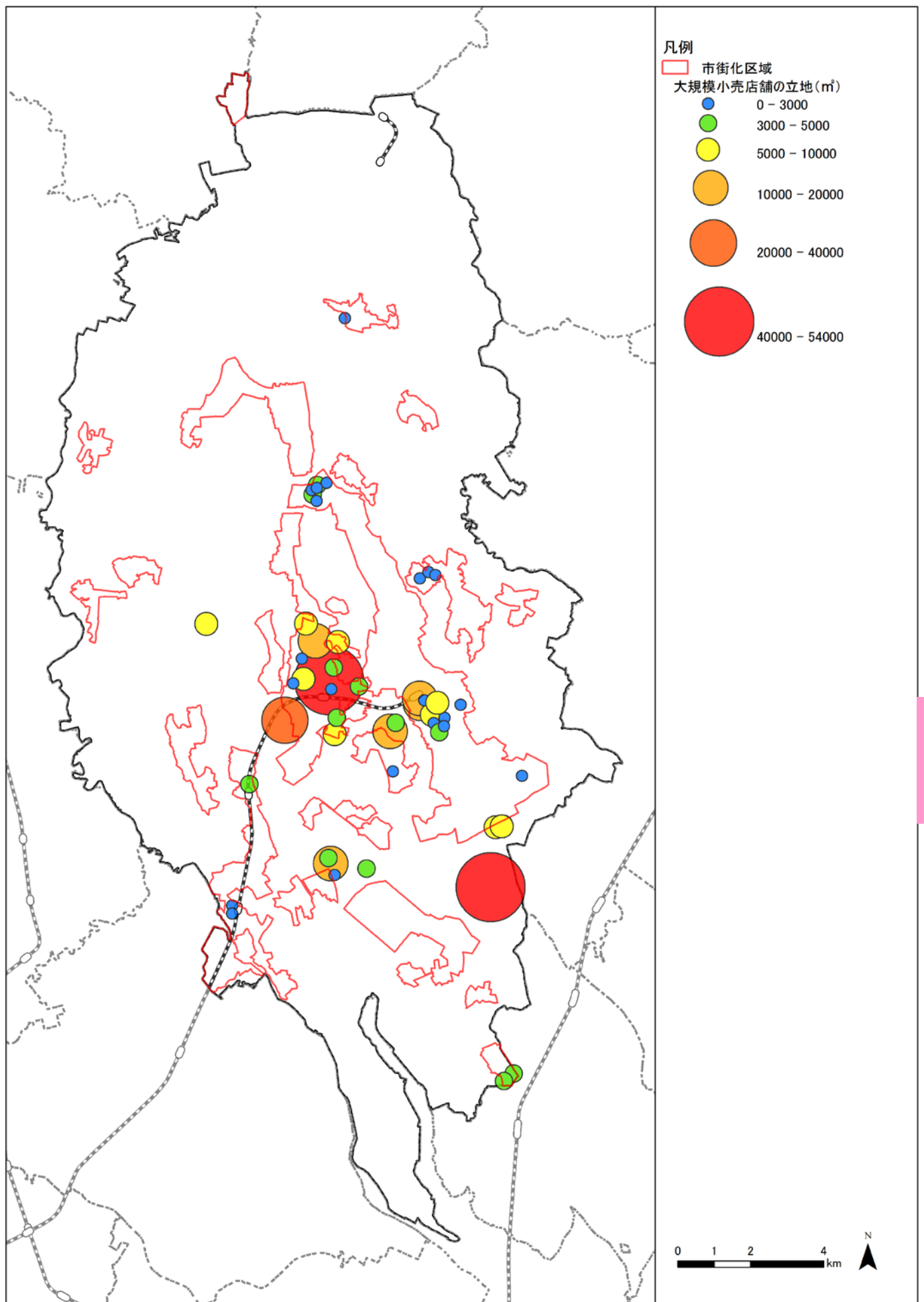
出典：茨城県商業統計

小売業の年間商品販売額（万円）の推移



出典：茨城県商業統計

2) 大規模商業施設 ③立地

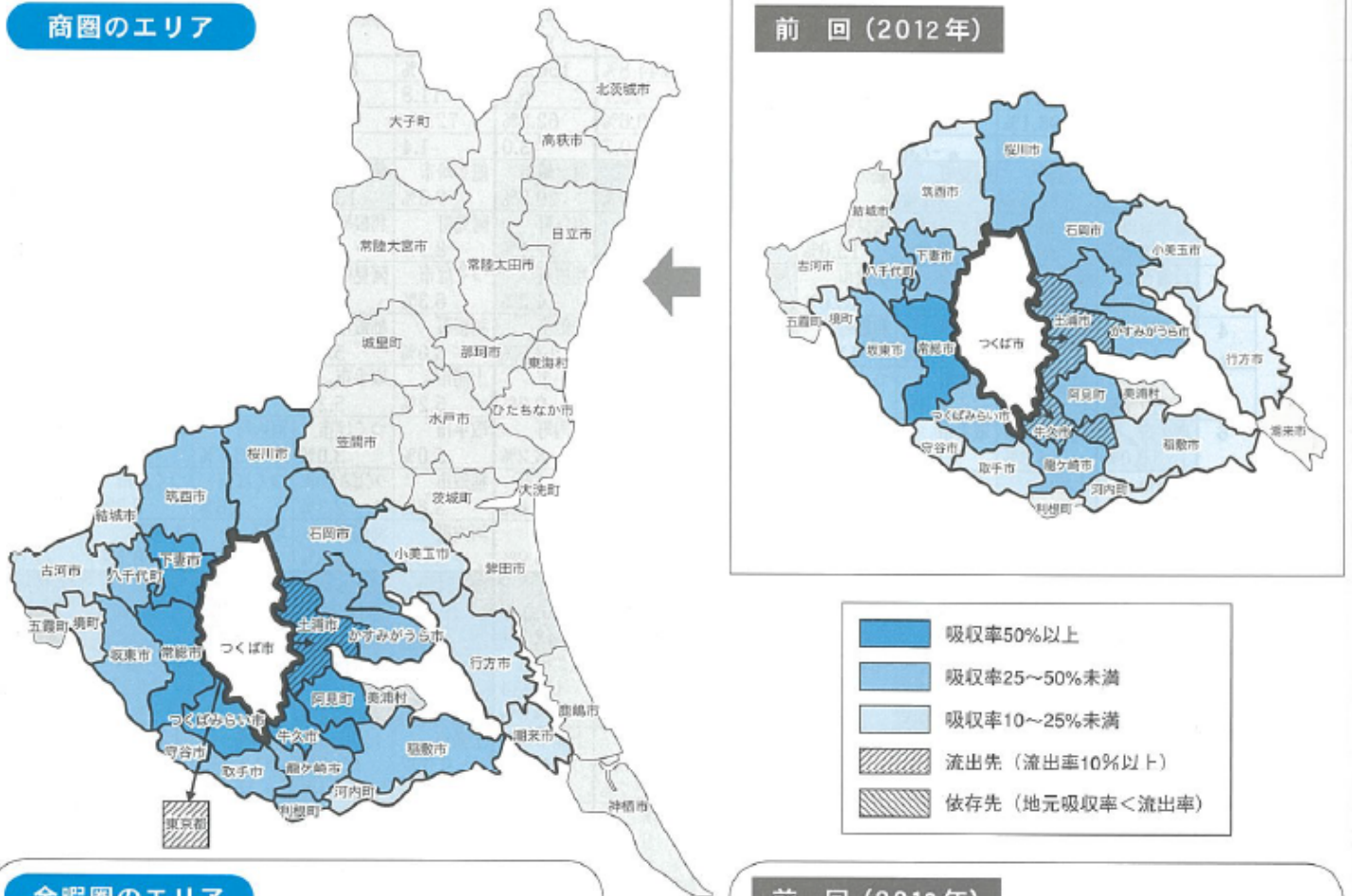


出典：都市計画基礎調査、東洋経済「大型小売店舗総覧」

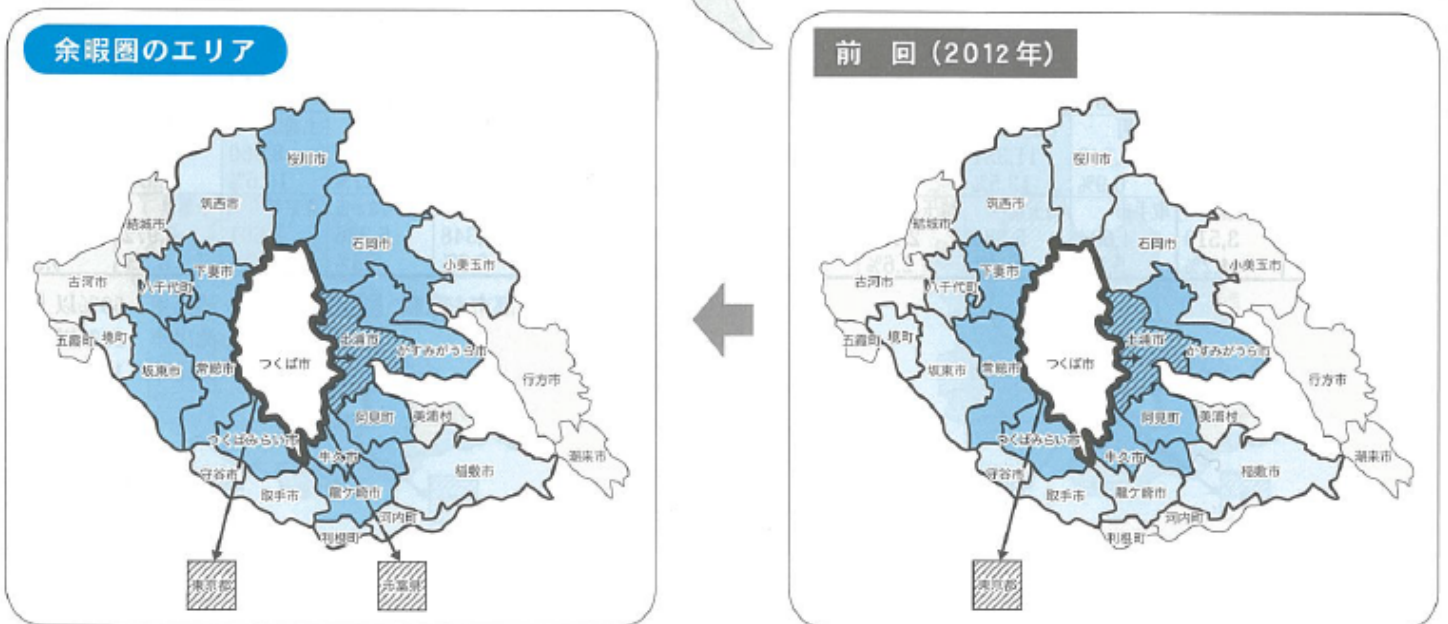
3) つくば市の商圈

- 商圈を2012年と比較すると、結城市や古河市は2012年につくば市への吸収率が10%未満でしたが、2016年時は10~25%未満となっています。吸収率が10%の市町村は、2012年の20市町村から2016年は24市町村となっており、商圈が広がっています。
- 余暇圏は、他市町村からの吸収率は、20市町村が10%を超え、前回の17市町村から増加しています。また、流出先は東京都や千葉県、土浦市が10%以上となっています。

商圈のエリア



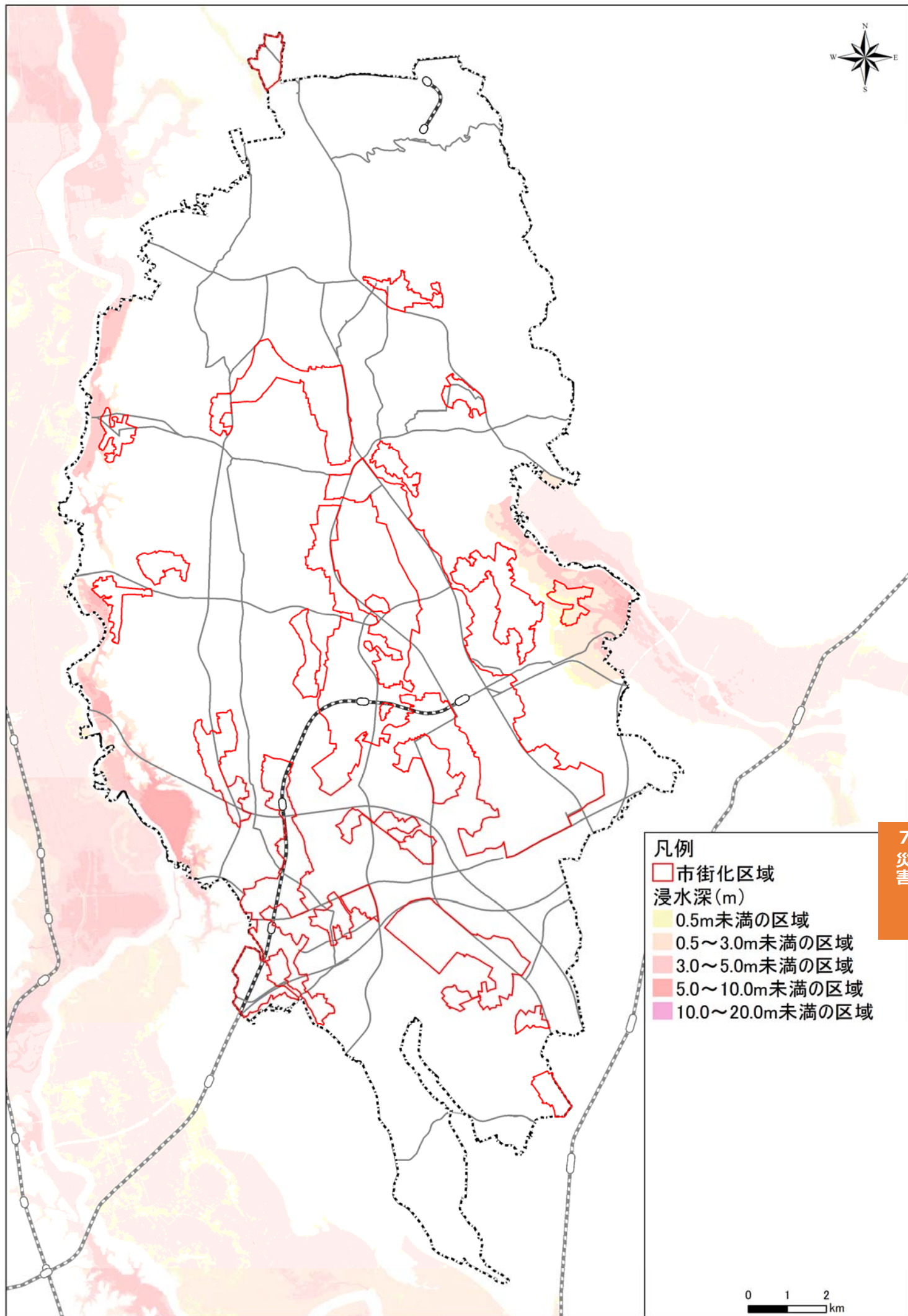
余暇圏のエリア



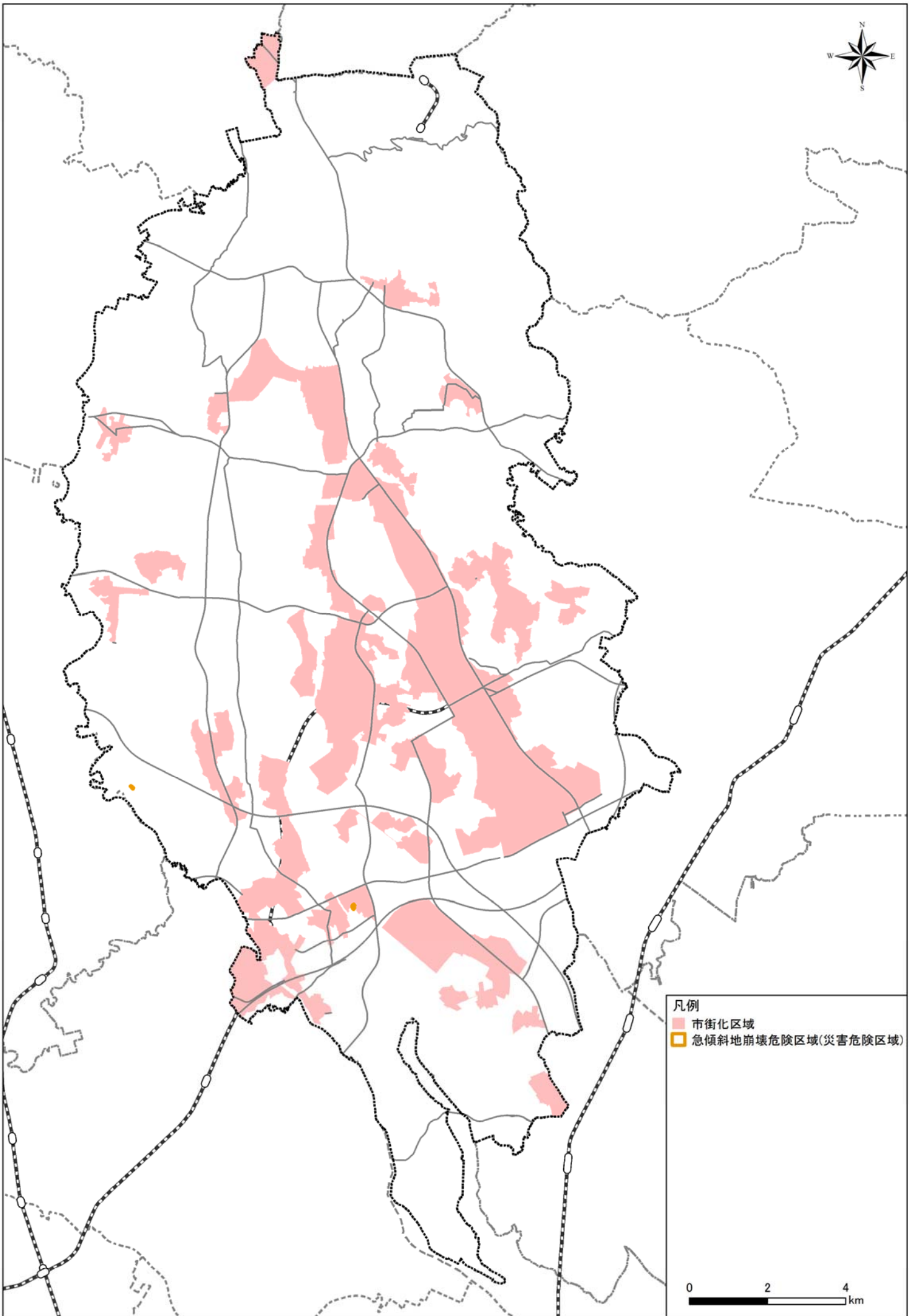
* 美浦村を除く茨城県内全域の県内公立中学校第1学年生徒を子女にもつ25,155世帯を対象としたアンケート調査から、買い物行動別に特定市町村への流出率、特定市町村からの吸収率を算出

出典：2016茨城県生活行動圏調査報告書
(発行：一般財団法人常陽地域研究センター)

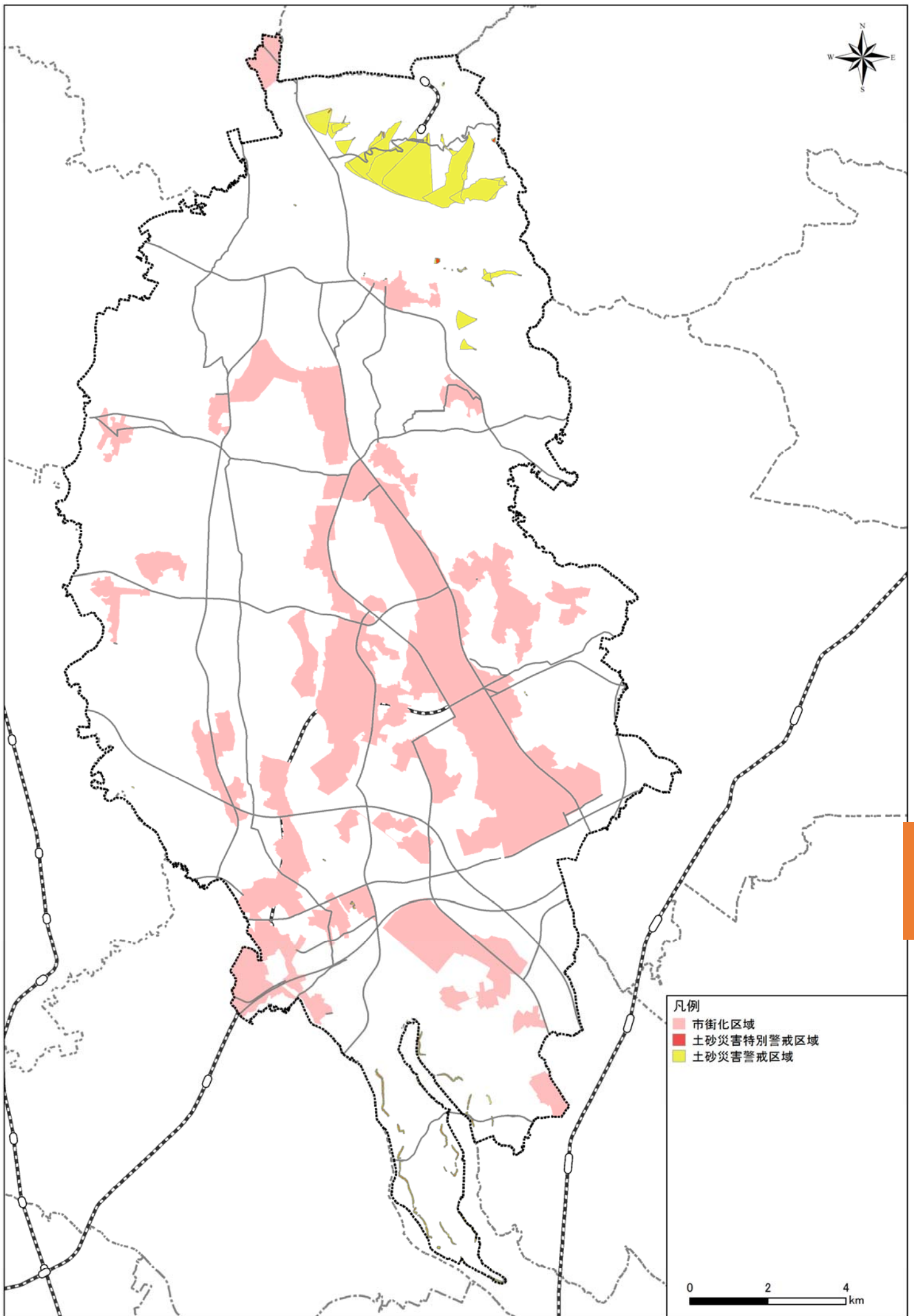
1) 浸水想定区域



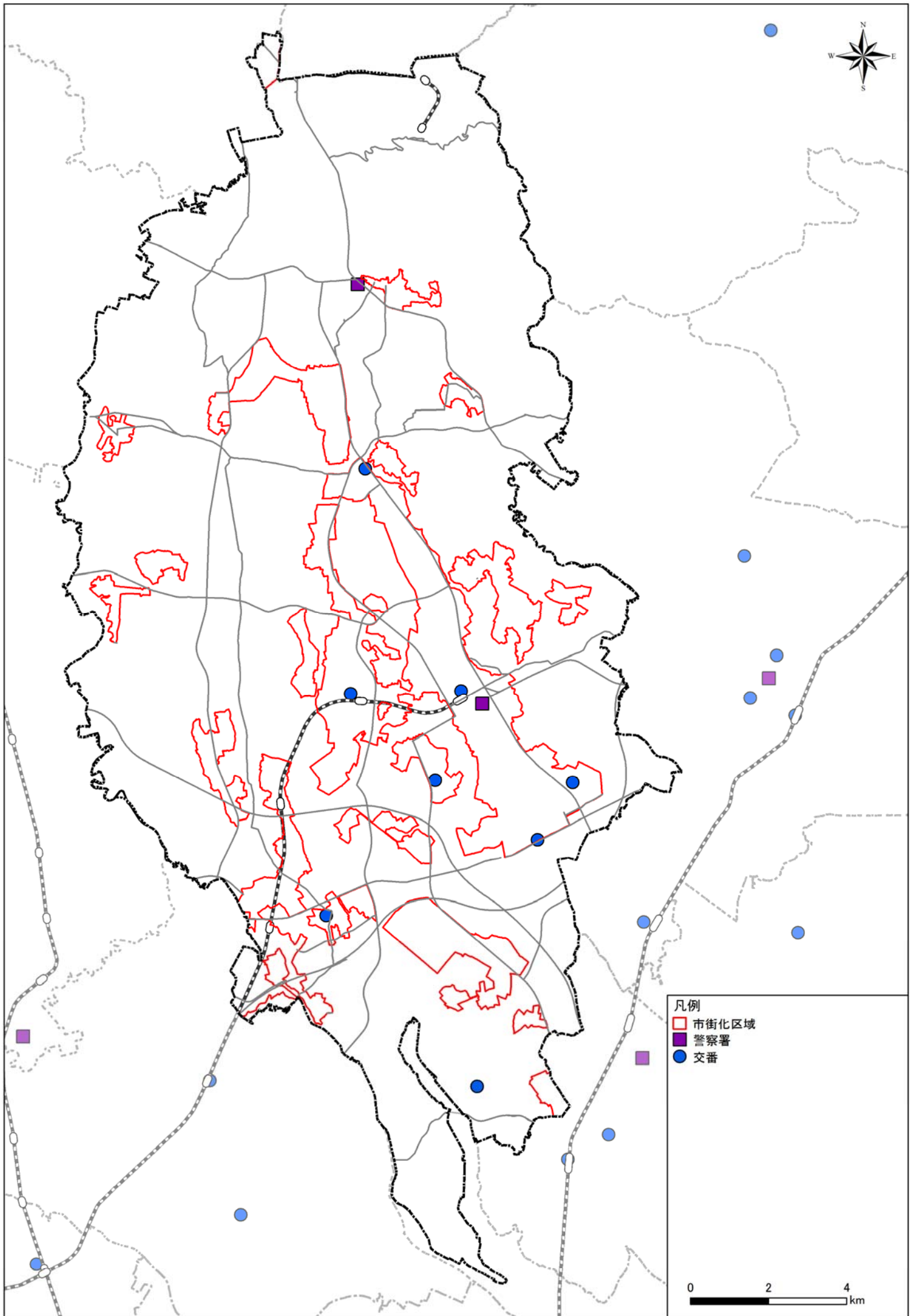
2) 急傾斜地崩壊危険区域 (災害危険区域)



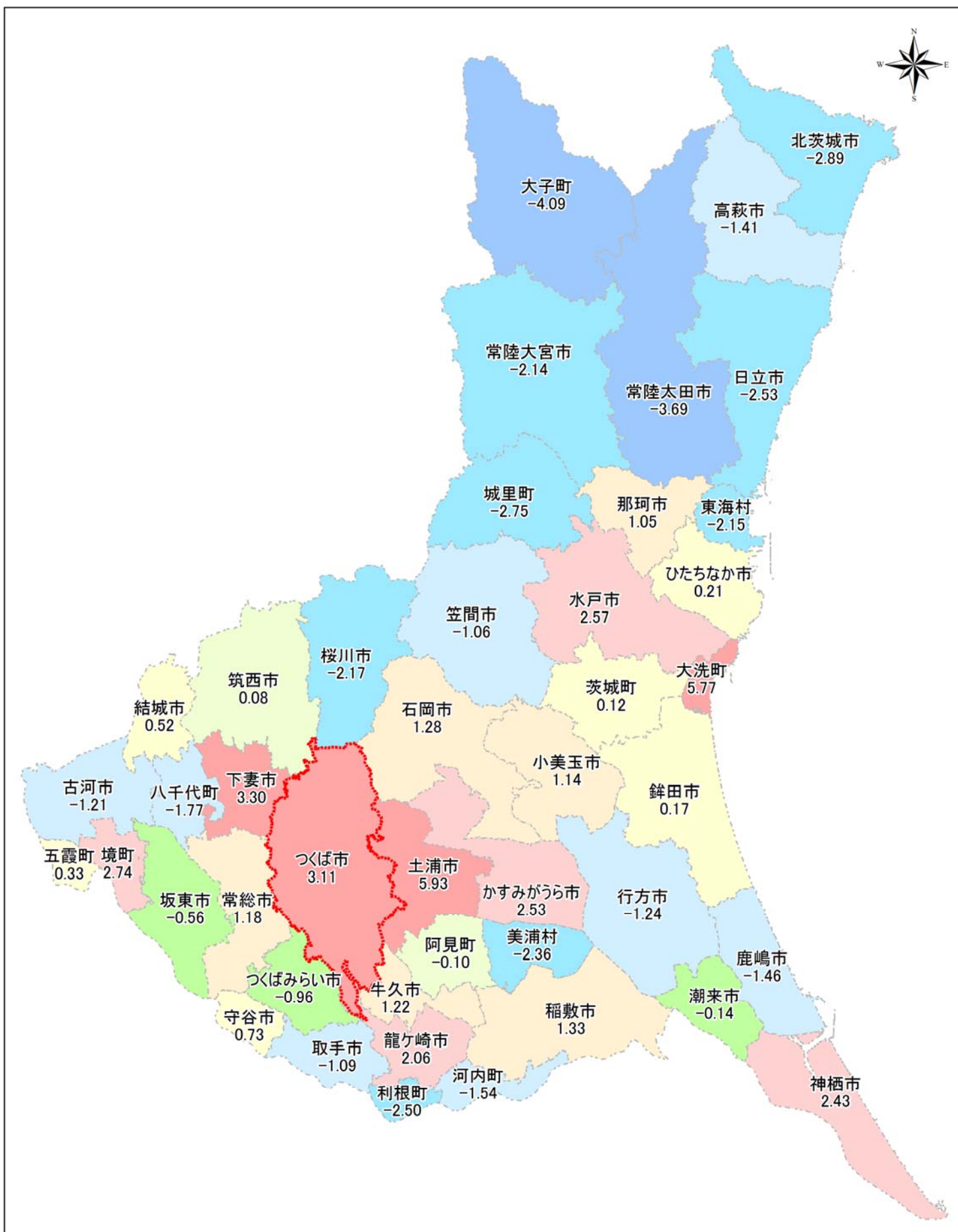
3) 土砂災害特別警戒区域 土砂災害警戒区域



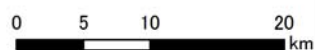
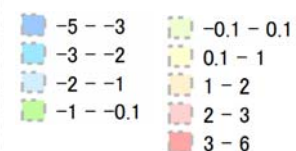
4) 警察署 交番 立地図



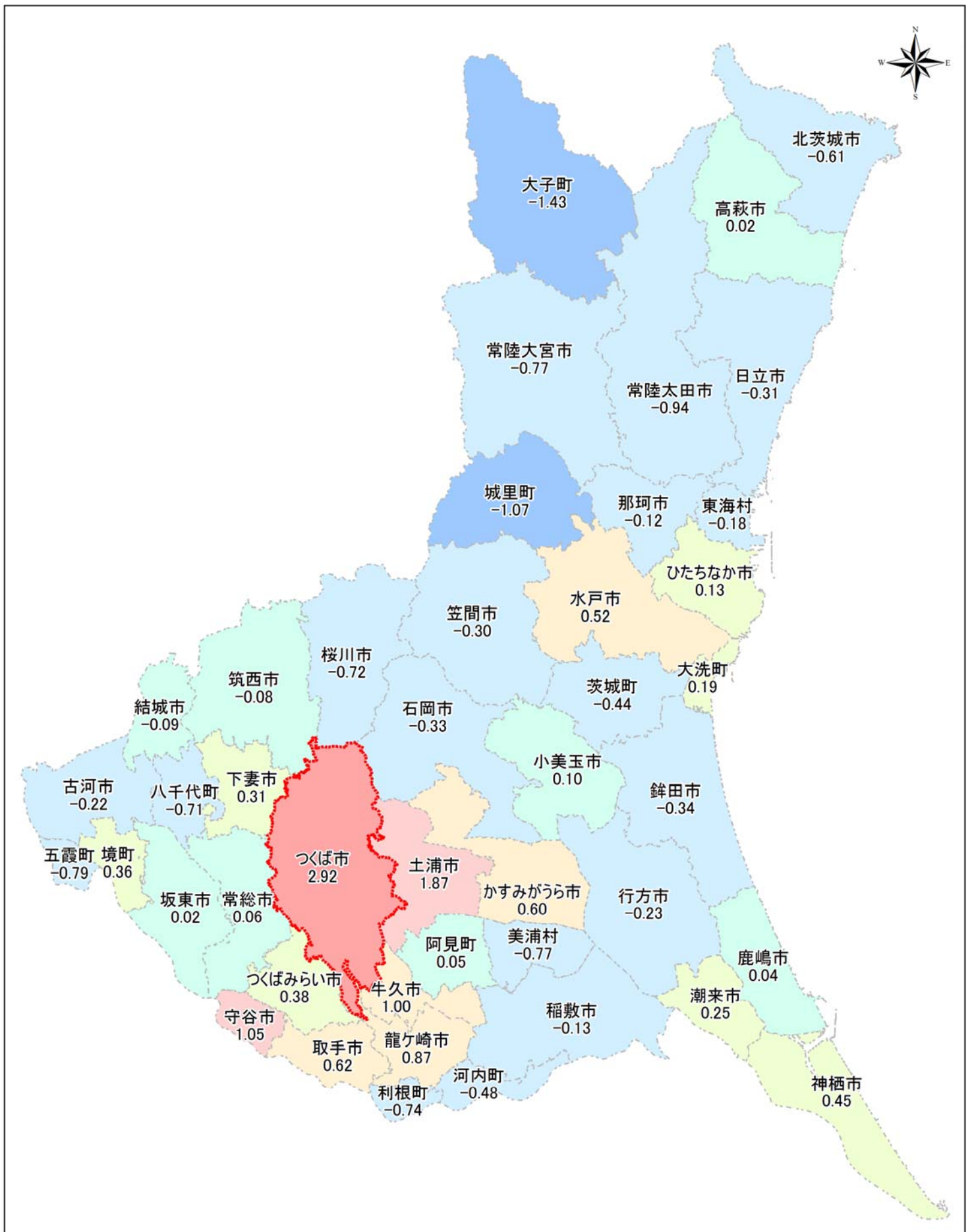
5) 1,000人当たり犯罪件数 (県との平均の比較)



凡例
1,000人当たり犯罪率(刑法犯)における県平均との差(県平均8.4件/1,000人、2016%)

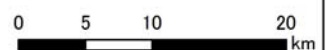
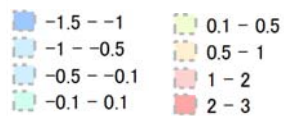


6) 1,000人当たり乗物盗難割合 (県との平均の比較)

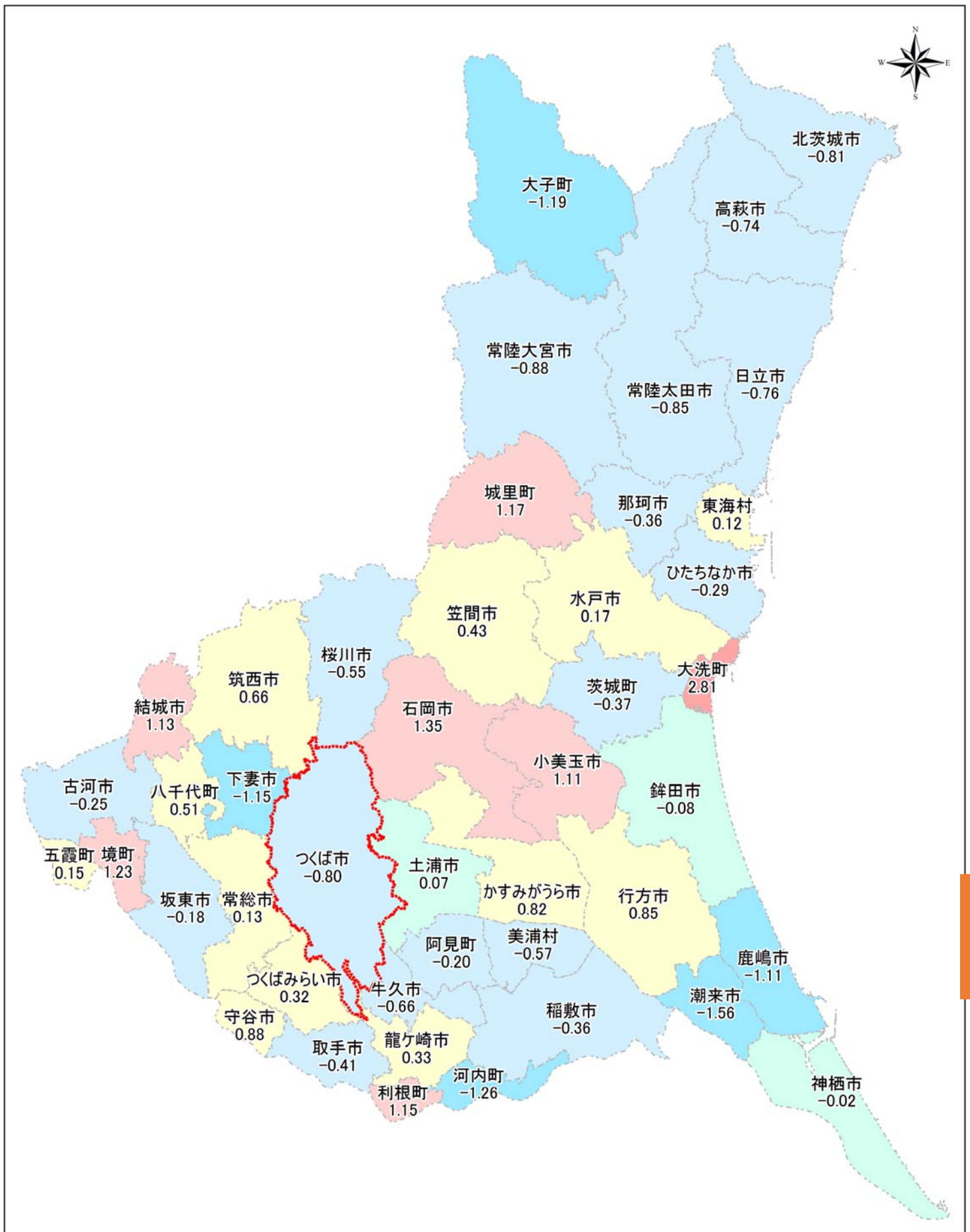


凡例

県平均犯罪率(乗り物盗)との差(2016年%) (県平均1.43)



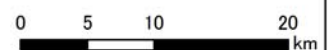
7) 1,000人当たり住宅侵入割合 (県との平均の比較)



7 災害

凡例
 県平均犯罪率(住宅侵入)との差(2016年)(県平均1.93)

- 2 - -1
- 1 - -0.1
- 0.1 - 0.1
- 0.1 - 1
- 1 - 2
- 2 - 3



1) 調査概要

①お住まいの地域とこれからのまちづくりに関するアンケート

- 誘導区域や誘導施設の指定に向けて、市民の生活行動や現状の居住環境の評価、身近に必要な生活利便機能等に関する市民のニーズを把握

調査概要

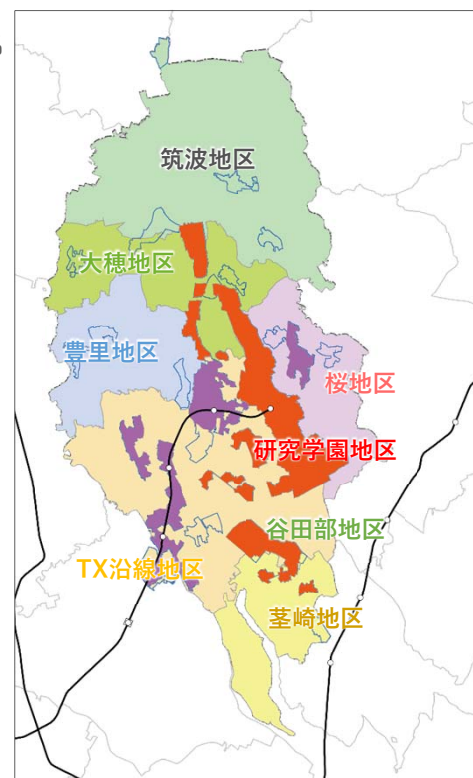
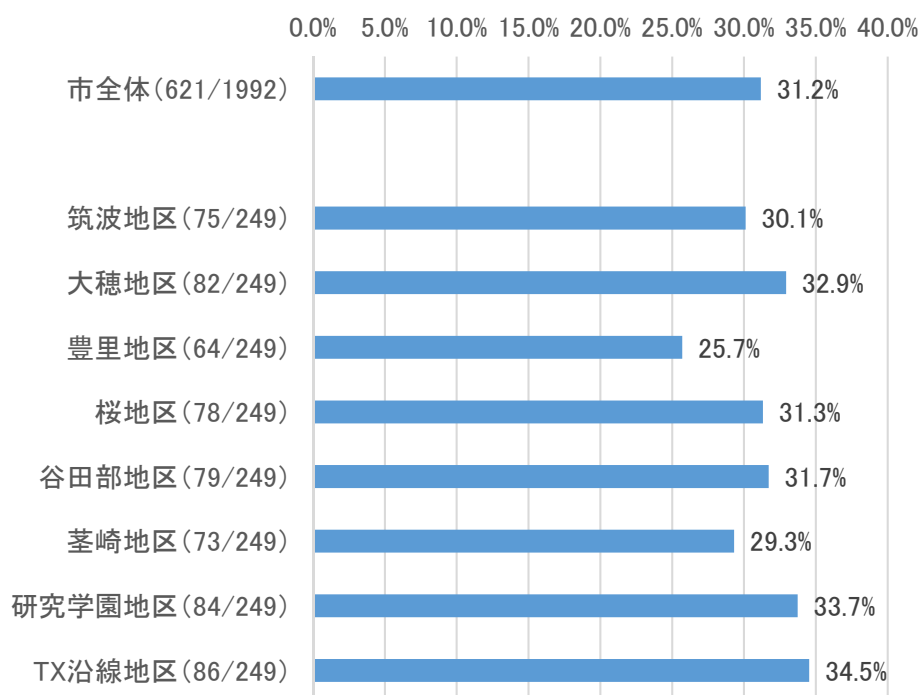
調査区域	つくば市全域
調査対象	「層化二段無作為抽出法」 市内を8地区（8-3参照）に区分し、それぞれを層とした。 標本数の配分は、各層における20歳以上の人口（平成28年1月1日現在）により、約2,000の標本数を世代に偏りがないように配分
調査期間	平成28年2月8日～平成28年2月26日
調査方法	郵送配布・郵送回収
配布数	1,992通
回収数	621通
回収率	約31.2%

調査項目

1. 【回答者属性】あなた自身について	
問1	性別
問2	年齢（世代）
問3	職業
問4	家族構成
問5	自宅住所
問6	勤務地
問7	居住歴
問8	自宅形態
2. 【生活行動】あなたの日常行動について	
問9	目的別の外出頻度、行き先、交通手段
問10	一番良く訪れる拠点的な地区
問11	問10を訪れる頻度・目的
問12	問10を訪れるときに利用する交通手段
3. 【居留意向】現在、お住まいの地域の住みやすさについて	
問13	住まいの地域の満足度
問14	定住意向
問15	住み続けたいと思う理由
問16	引っ越したいと思う理由
4. 【まちづくり】コンパクトなまちづくりについて	
問17	人口減少・高齢化の進行による影響
問18	つくば市における今後のまちづくりの進め方
問19	コンパクトな都市づくりへの考え方（中心市街地や拠点地区への住み替え）
問20	中心市街地や拠点地区への住み替えのための制度
問21	徒歩圏に必要な施設、今後重要になる施設
問22	自由記入欄

- 市全体の回収率は31.2%
- 回収率が最も高い地区は、研TX沿線地区が34.5%、次いで研究学園地区が33.7%。一方、回収率が低い地区は、豊里地区が25.7%。

地区別の回収率



② 「まちづくり」「つくバス・つくタク」地区別懇談会アンケート

- 「まちづくり」「つくバス・つくタク」地区別懇談会アンケート調査項目のうち、「目的別の外出の行き先」は主調査と同様の調査項目であるため、「目的別の外出の行き先、交通手段」については、「まちづくり」「つくバス・つくタク」地区別懇談会アンケートの票を加えて集計を行った。

調査概要

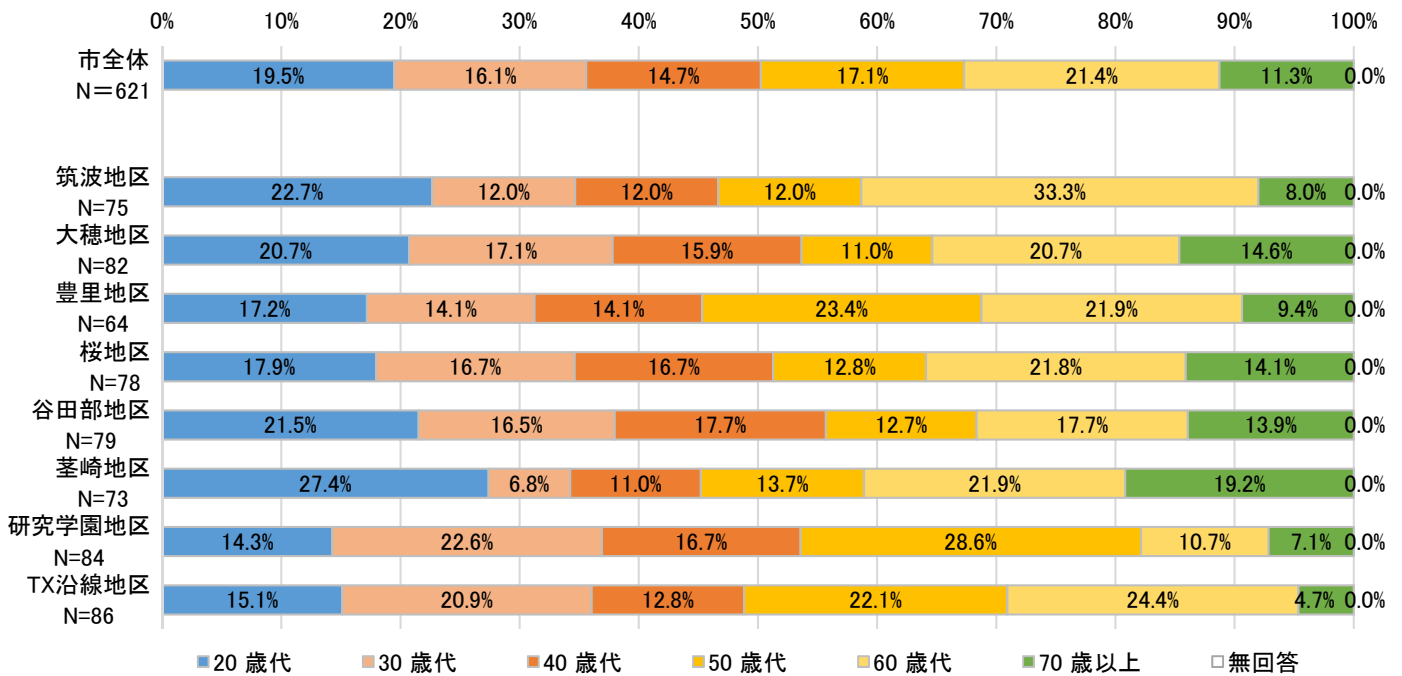
調査地区	筑波地区、大穂地区、豊里地区、桜地区、谷田部地区、荳崎地区、中心地区（つくば駅周辺）、市全体
調査期間	平成29年7月8日～平成29年7月19日
調査方法	「まちづくり」「つくバス・つくタク」地区別懇談会終了時に、参加者に対してアンケートを配布
調査項目	住所、性別、年齢 問1 来場するために利用した交通手段 問2 交通施策に関する意見 問3 お住まいの地域の紹介(自慢)したいと思うモノ・コト 問4 お住まいの地域の利用しにくい、不十分な生活機能 問5 目的別の外出の行き先、交通手段
回収数	317通

2) 地区別の市民意向

①年齢構成

・市全体では各世代のバランスよく回答が得られている。

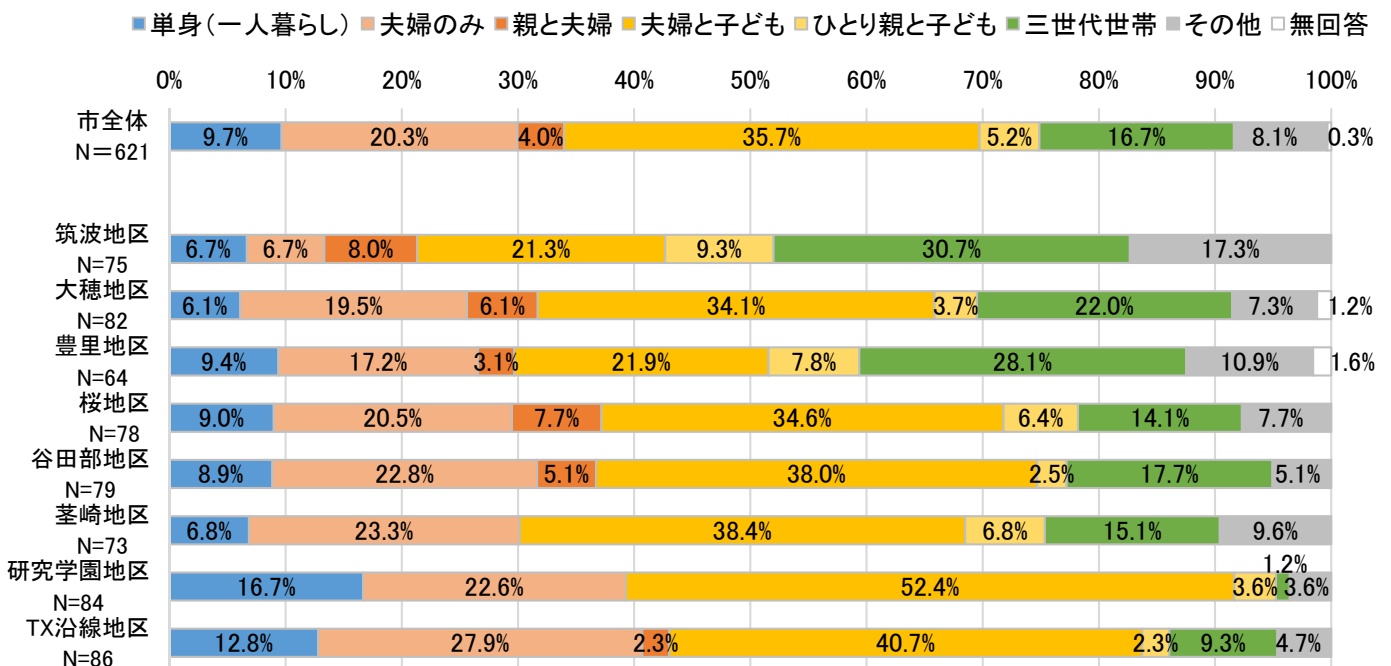
地区別の年齢構成



②家族構成

・市全体では「夫婦と子ども」の割合が35.7%

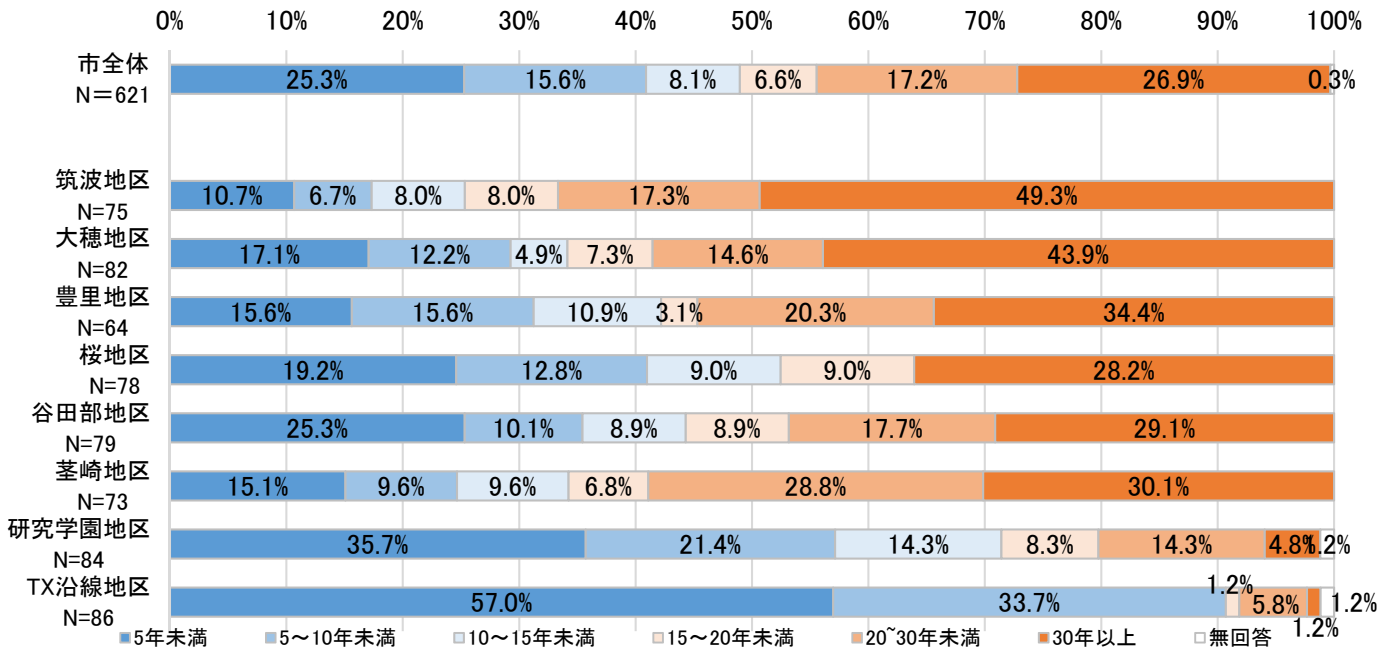
地区別の家族構成



③居住歴

- 市全体では「30年以上」が26.9%、次いで「5年未満」が25.3%
- 筑波地区、大穂地区、豊里地区、桜地区、谷田部地区、荃崎地区は、「30年以上」の割合が最も高い
- 研究学園地区、TX沿線地区は、「5年未満」の割合が最も高い

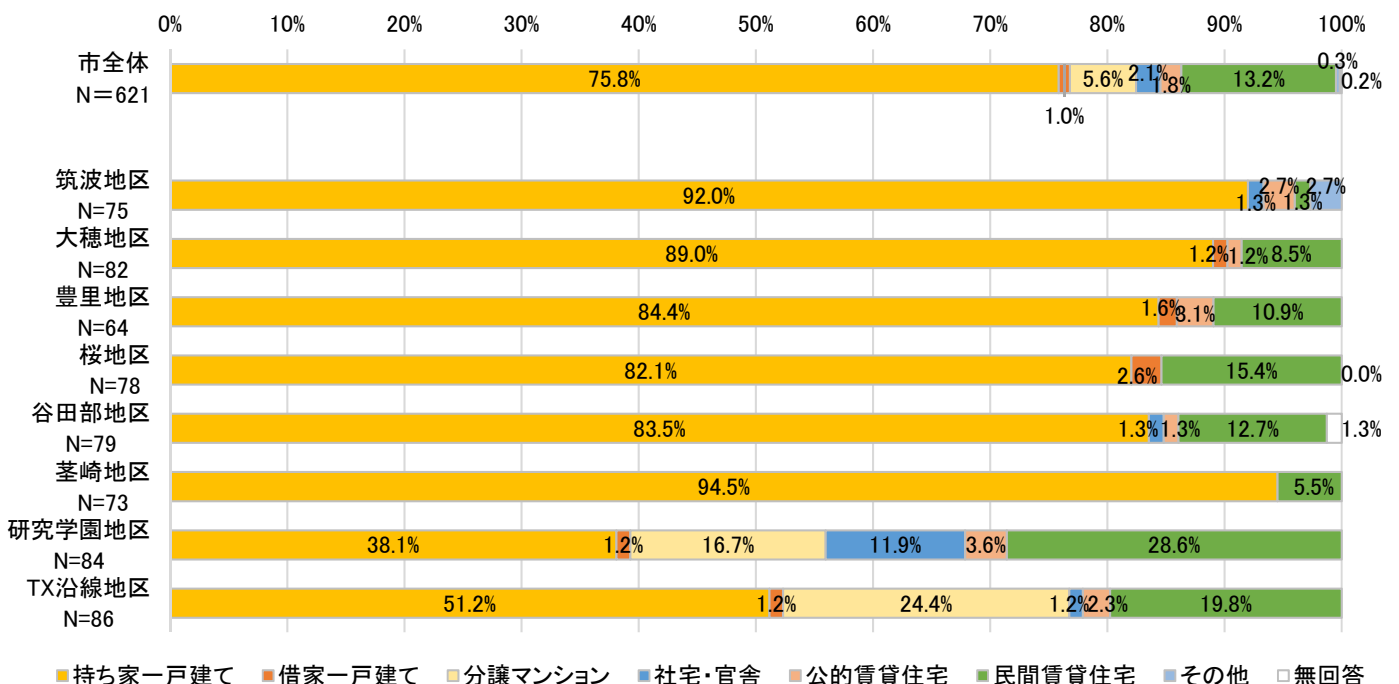
地区別の居住歴



④住宅形態

- 市全体では「持ち家一戸建て」の割合が75.8%、次いで「民間賃貸住宅」が13.2%
- 8地区全てにおいて、「持ち家一戸建て」の割合が最も高くなっている
- 研究学園地区とTX沿線地区は、他の地区と比較して、「持ち家一戸建て」の割合が低く、「社宅・官舎」「民間賃貸住宅」の割合が高い

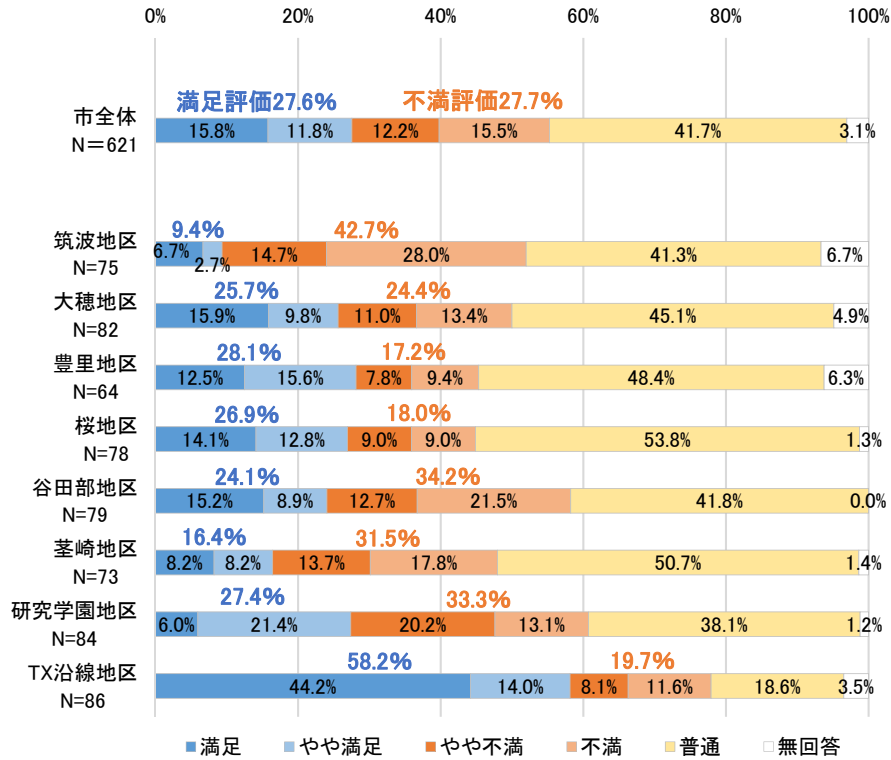
住宅の形態



⑤ 住みやすさの満足度

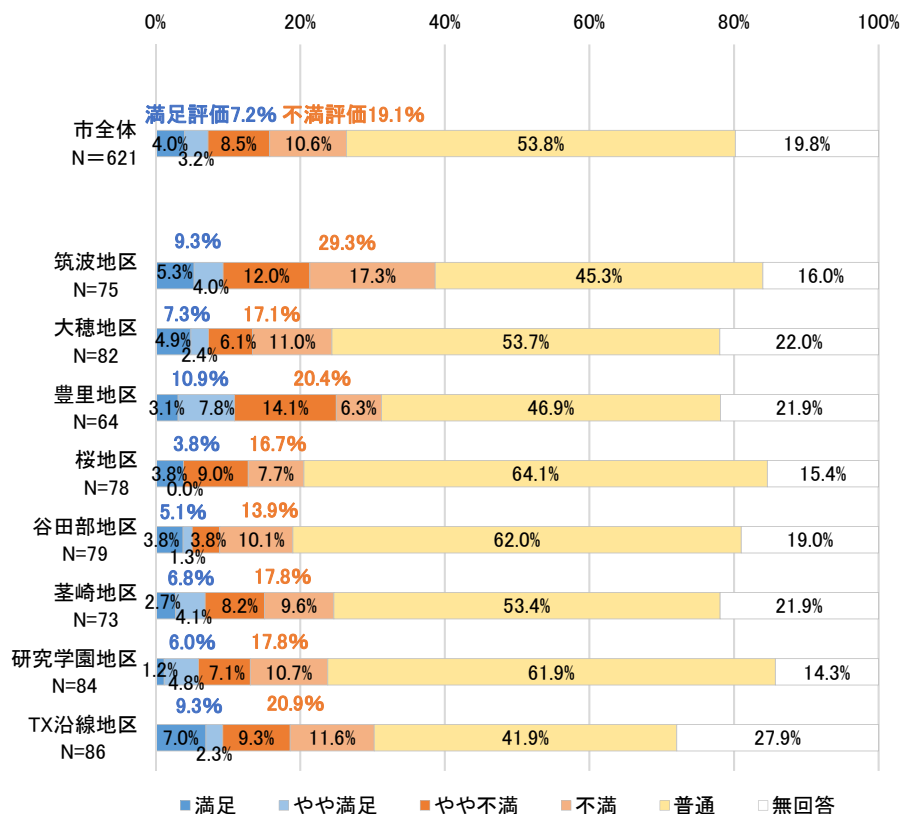
行政サービス（市役所、窓口センター）の利用

- 「満足」「やや満足」を含む「満足評価」は市全体で27.6%
- TX沿線地区では「満足評価」が58.2%であり、市全体と比較して非常に高い
- 「やや不満」「不満」の「不満評価」は市全体で27.7%に対し、筑波地区で42.7%と最も高く、次いで谷田部地区で34.2%



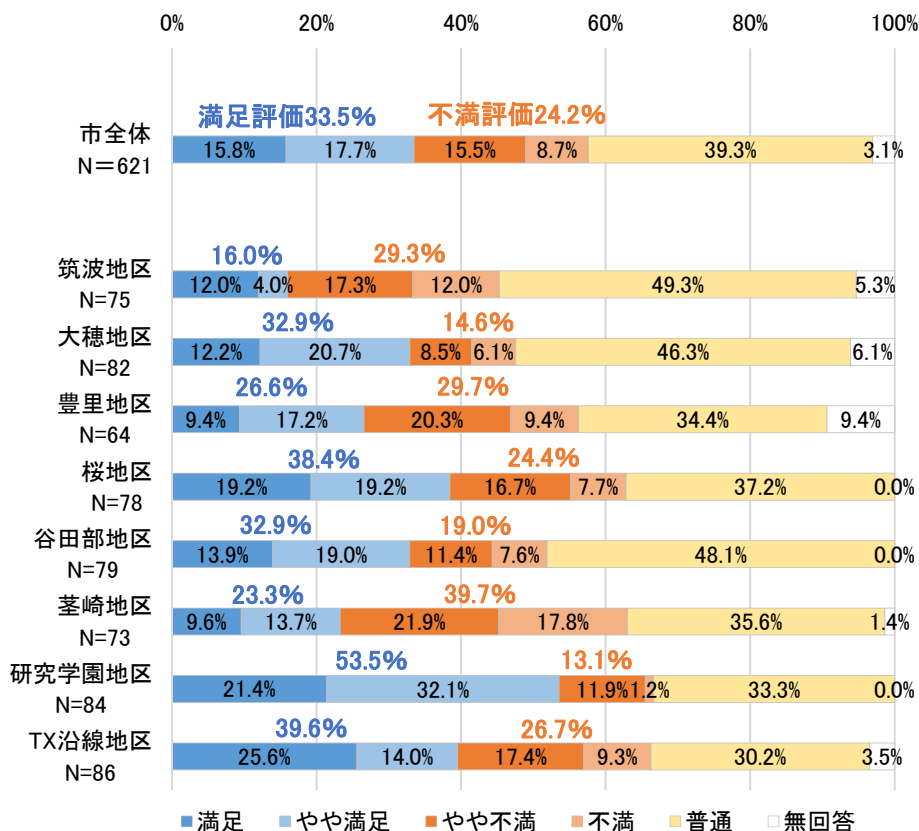
福祉施設（デイサービス等）の利用

- 「普通」の割合が市全体で53.8%、全ての地区で40%以上
- 筑波地区の「不満評価」は29.3%と最も高い



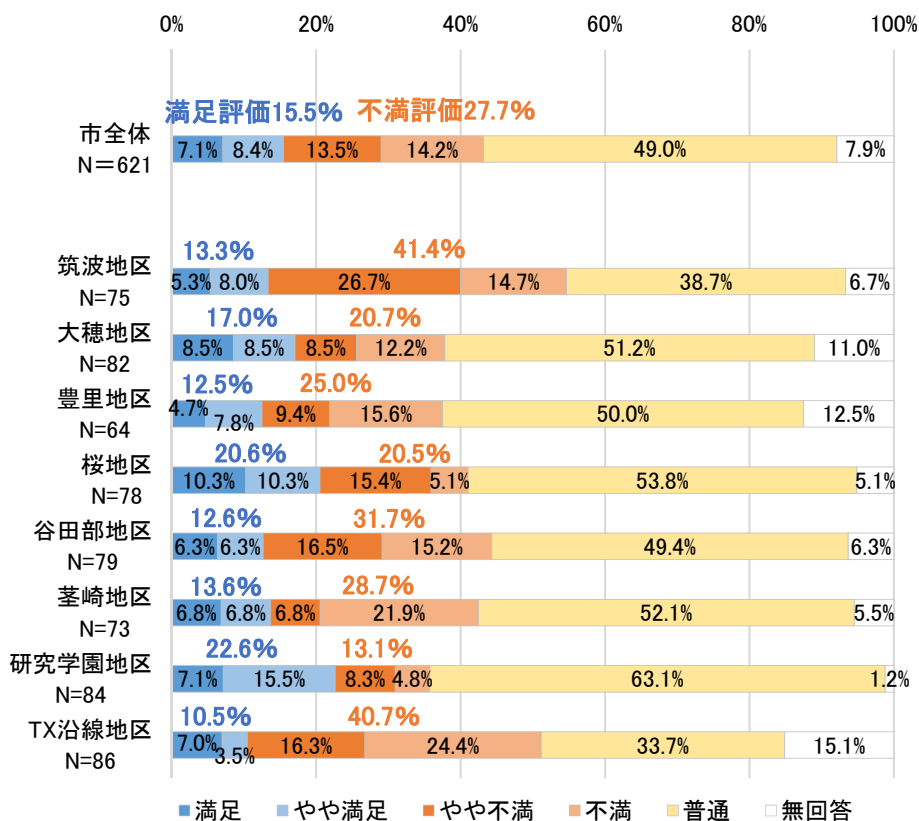
医療機関（病院、診療所等）の受診

- 「満足評価」は市全体で33.5%、研究学園地区で53.5%と最も高く、次いでTX沿線地区で39.6%
- 「不満評価」は市全体で24.2%、荻崎地区で39.7%と最も高く、次いで豊里地区が29.7%



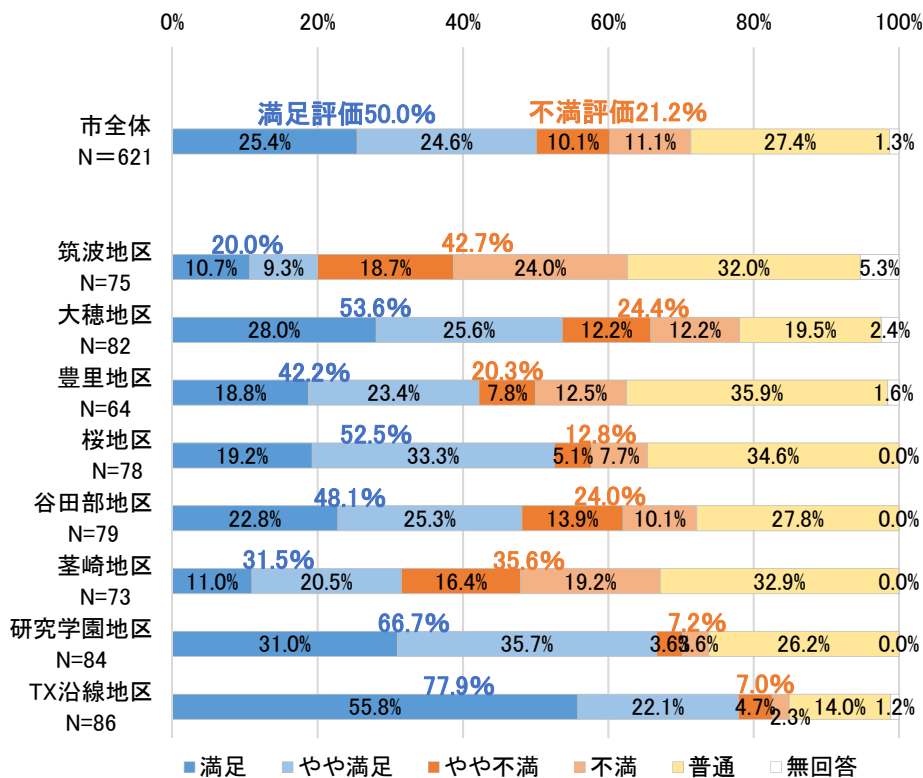
交流施設（公民館等）の利用

- 「満足評価」は市全体で15.5%、研究学園地区で22.6%と最も高く、次いで桜地区で20.6%
- 「不満評価」は市全体で27.7%、筑波地区で41.4%と最も高く、次いでTX沿線地区で40.7%



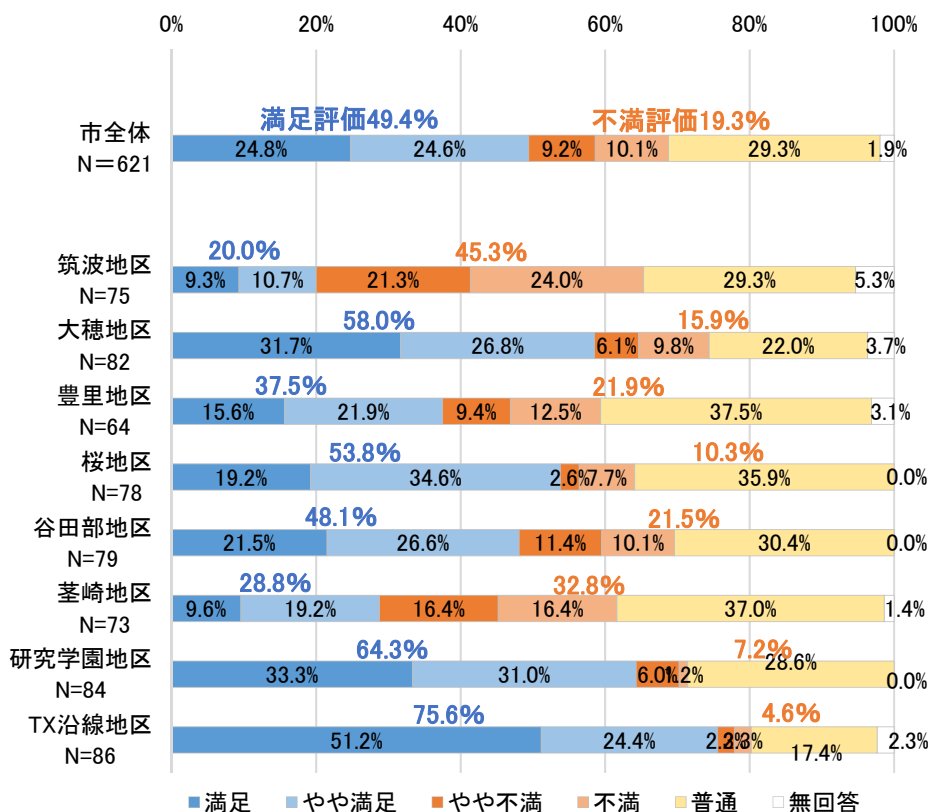
食料品等の買い物

- 「満足評価」は市全体で50.0%、TX沿線地区で77.9%と最も高く、次いで研究学園地区で66.7%
- 「不満評価」は市全体で21.2%、筑波地区で42.7%と最も高く、次いで荃崎地区で35.6%



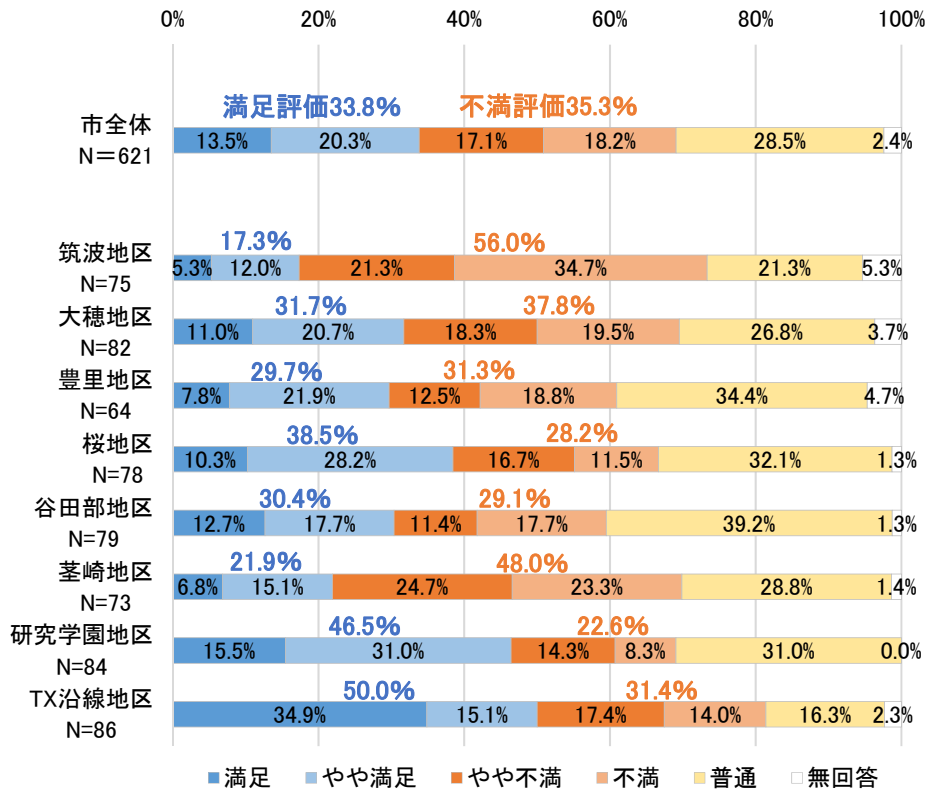
生活用品（洗剤、衛生用品等）の買い物

- 「満足評価」は市全体で49.4%、TX沿線地区で75.6%と最も高く、次いで研究学園地区で64.3%
- 「不満評価」は市全体で19.3%、豊里地区が37.5%と最も高く、次いで荃崎地区で37.0%



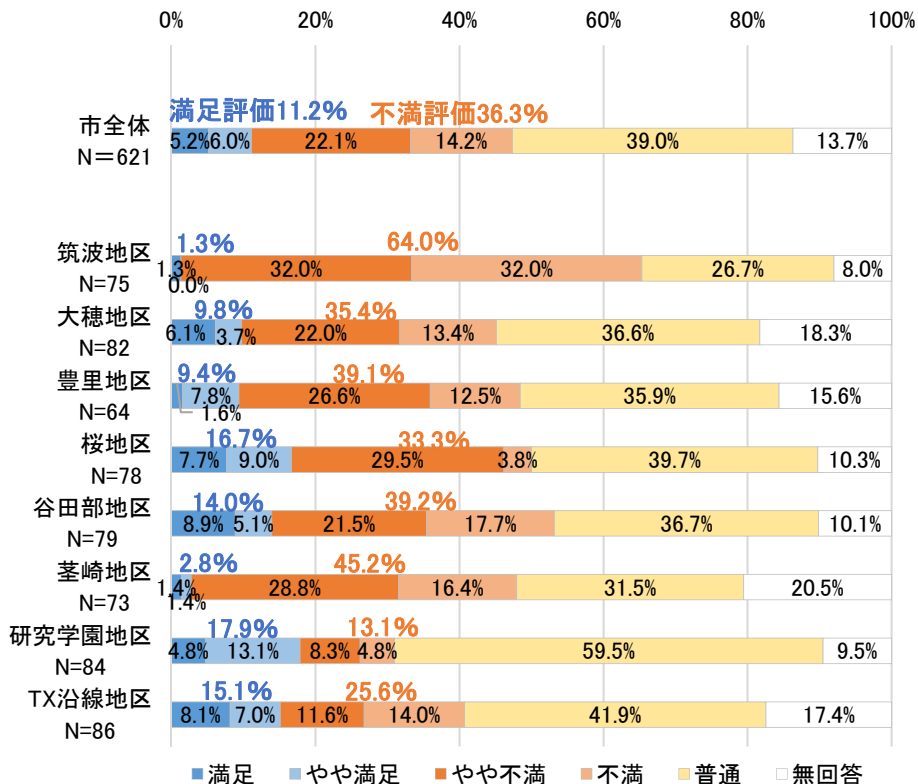
買回り品（洋服、家電、書籍等）の買い物

- ・「満足評価」は市全体で33.8%、TX沿線地区で50.0%と最も高く、次いで研究学園地区で46.5%
- ・「不満評価」は市全体で35.3%、筑波地区で56.0%と最も高く、次いで荃崎地区で48.0%



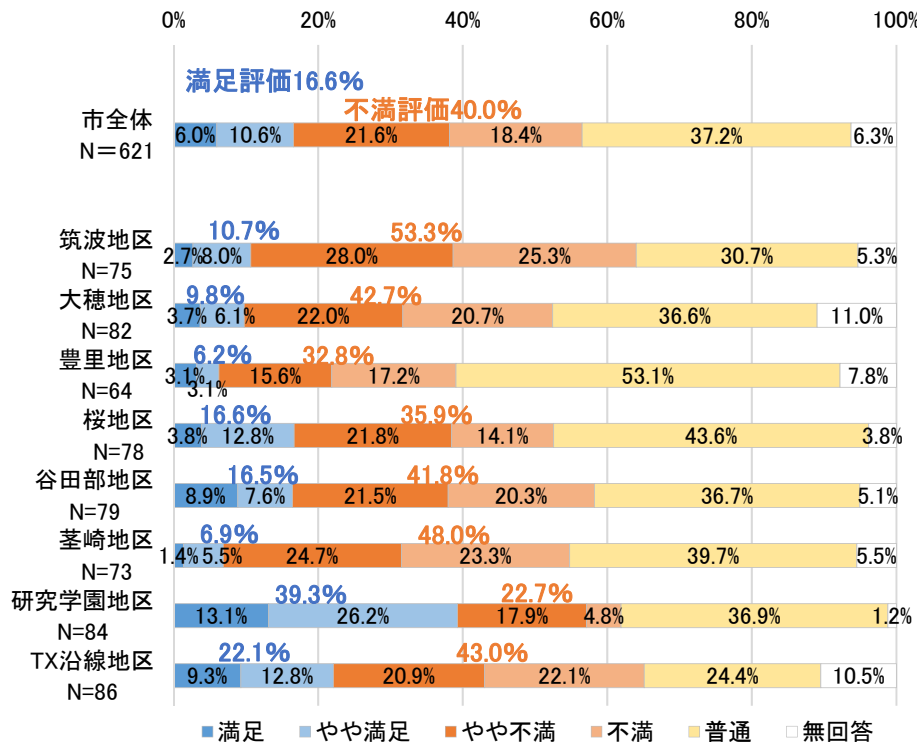
子育て支援施設や子供の遊び場の利用

- ・「満足評価」は市全体で11.2%、研究学園地区で17.9%と最も高く、次いで桜地区で16.7%
- ・「不満評価」は市全体で36.3%、筑波地区で64.0%と最も高く、次いで荃崎地区で45.2%



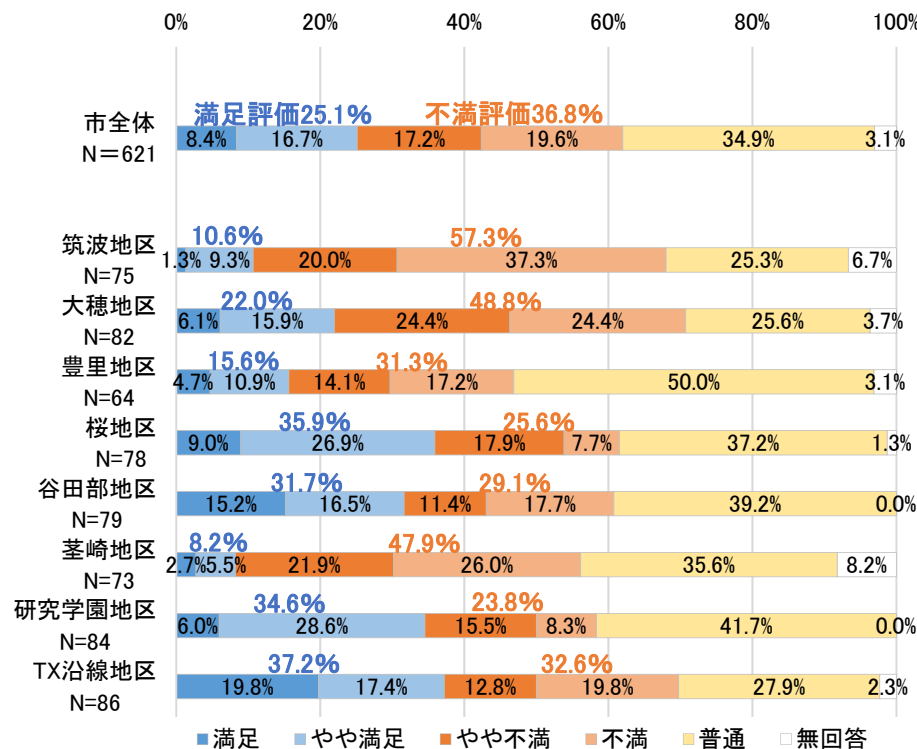
健康、スポーツ施設（体育館・ジム、公園等）の利用

- 「満足評価」は市全体で16.6%、研究学園地区で39.3%と最も高く、次いでTX沿線地区で22.1%
- 「不満評価」は市全体で40.0%、筑波地区で53.3%と最も高く、次いで荻崎地区で48.0%



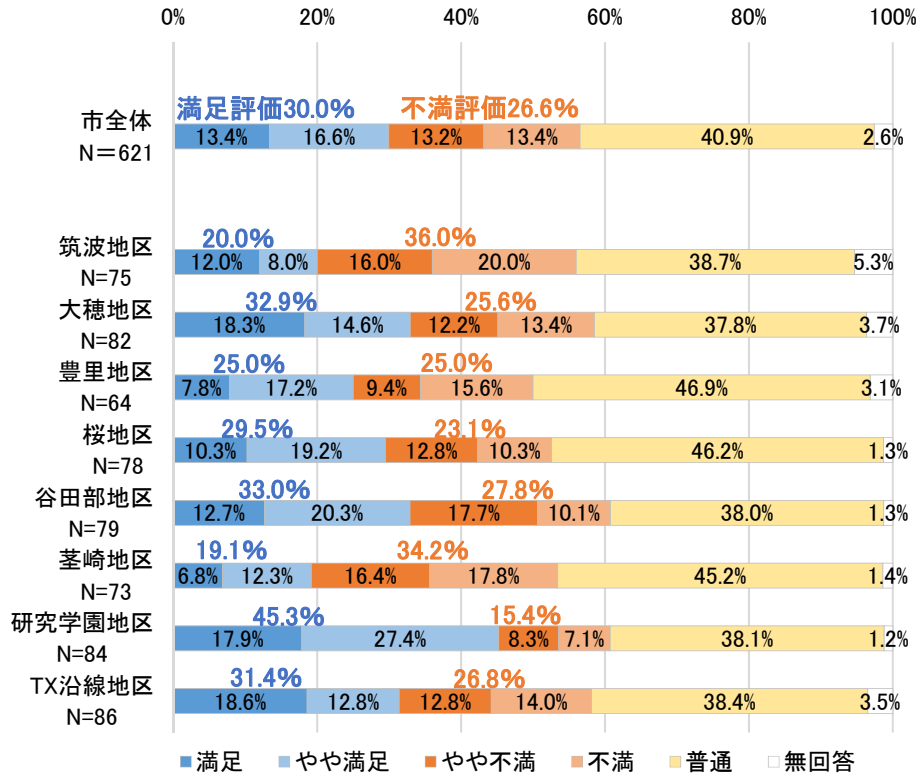
飲食店舗（レストラン、喫茶店、カフェ）の利用

- 「満足評価」は市全体で25.1%、TX沿線地区で37.2%と最も高く、次いで桜地区が35.9%
- 「不満評価」は市全体で36.8%、筑波地区で57.3%と最も高く、次いで大穂地区で48.8%



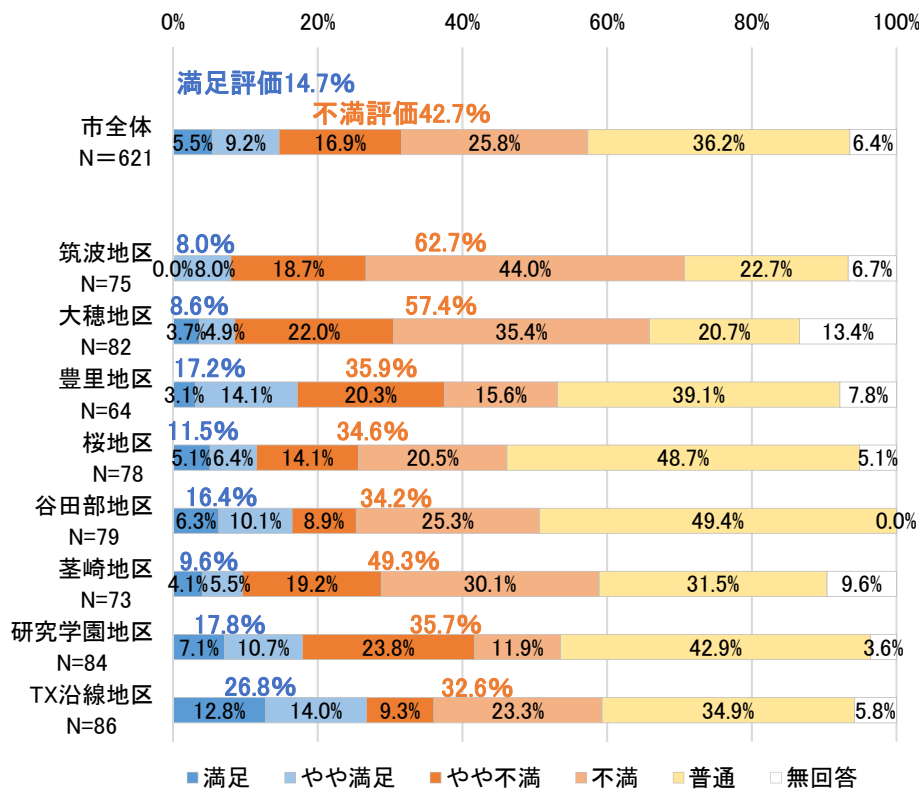
金融機関（銀行、郵便局等）の利用

- 「満足評価」は市全体で30.0%、研究学園地区で45.3%と最も高く、次いで大穂地区で32.9%
- 「不満評価」は市全体で26.6%、筑波地区で36.0%と最も高く、次いで荃崎地区で34.2%



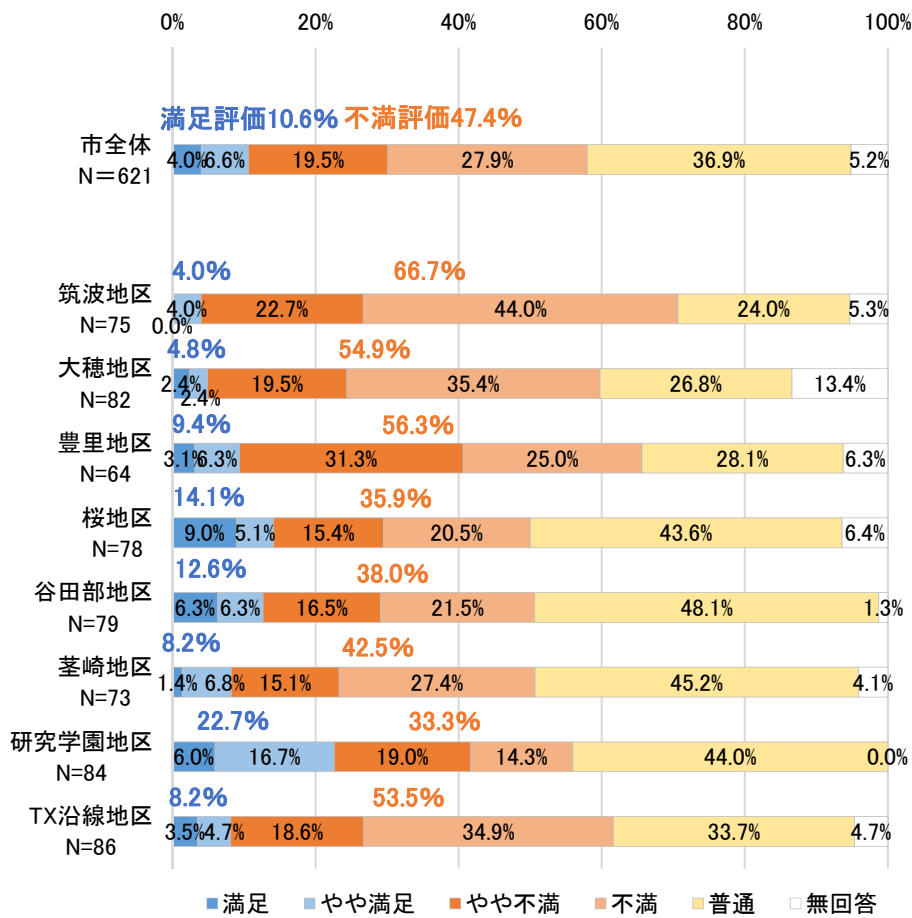
娯楽施設（映画館、ボーリング場等）の利用

- 「満足評価」は市全体で14.7%、TX沿線地区で26.8%で最も高く、次いで研究学園地区で17.8%
- 「不満評価」は市全体で42.7%、筑波地区で62.7%と最も高く、次いで大穂地区で57.4%



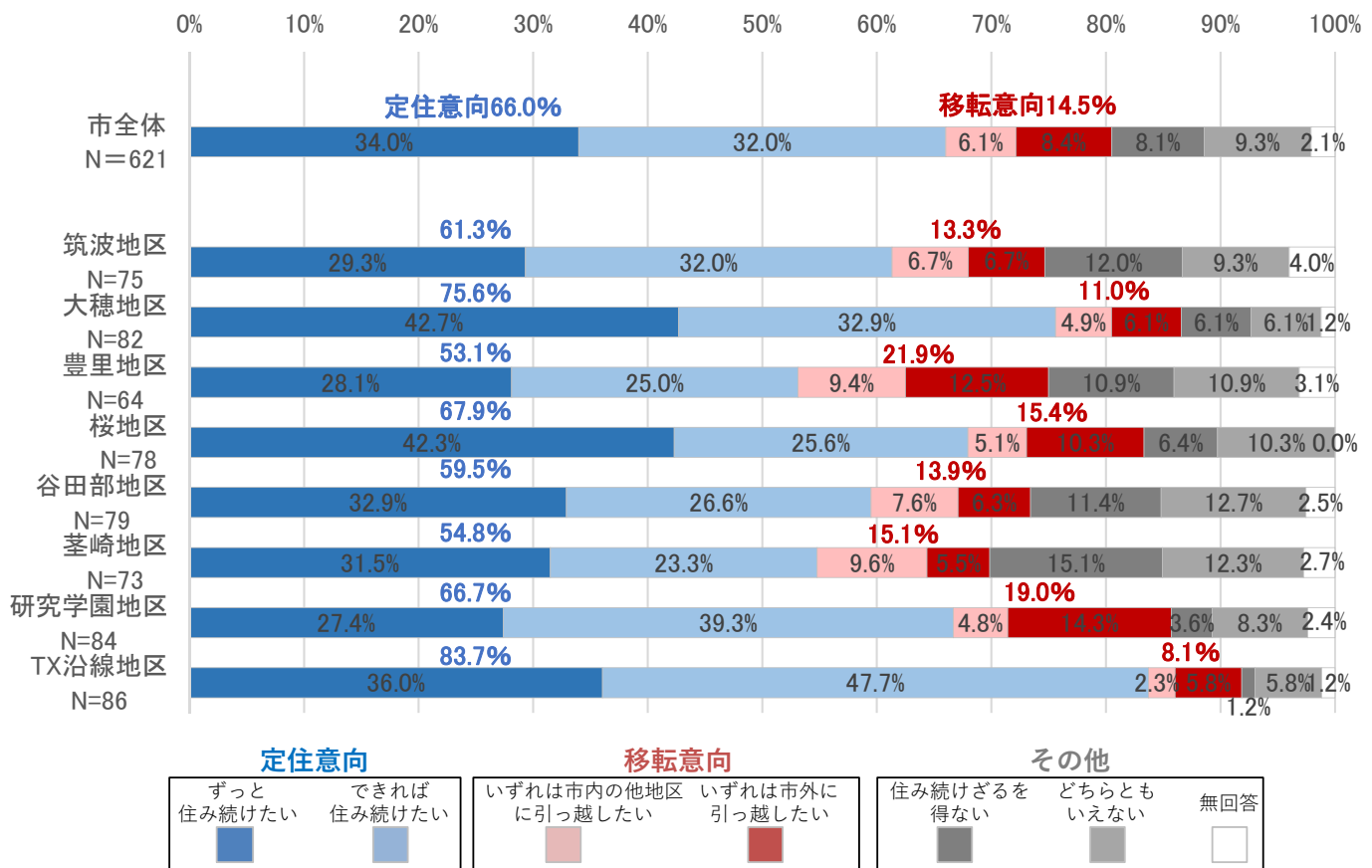
文化施設（図書館、ホール、美術館等）の利用

- ・ 「満足評価」は市全体で10.6%、研究学園地区で22.7%と最も高く、次いで桜地区で14.1%
- ・ 「不満評価」は市全体で47.4%、筑波地区で66.7%と最も高く、次いで豊里地区で56.6%



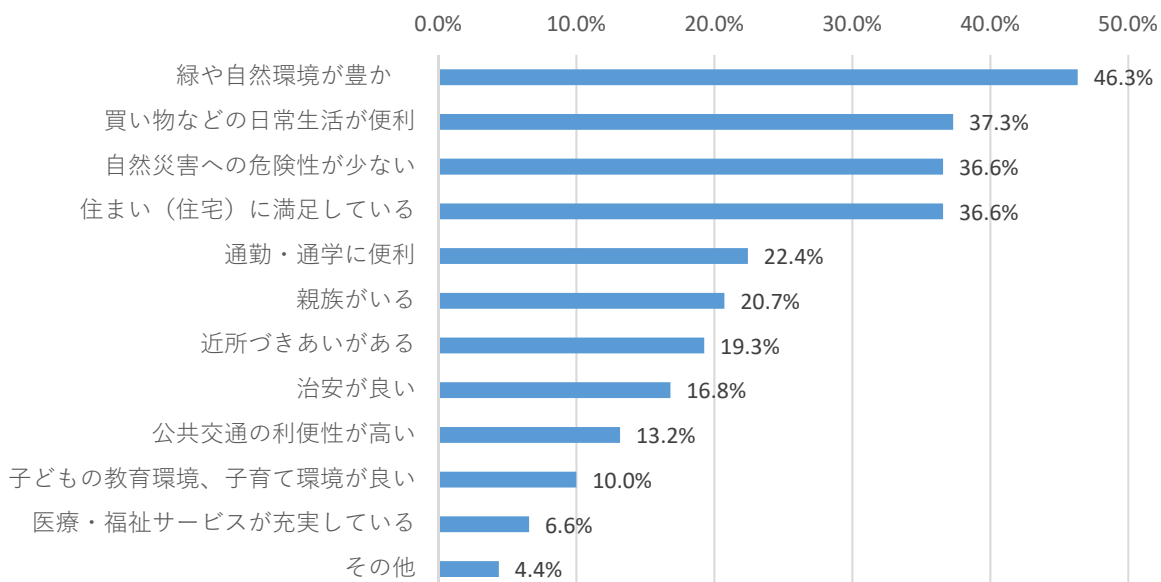
⑥定住意向

- 市全体で「定住意向（「ずっと住みたい」＋「できれば住みたい」）は66.0%
- 「定住意向」は、TX沿線地区で83.7%と最大、次いで、大穂地区で75.6%、桜地区で67.9%
- 「移転意向（「いずれは市内の他地区に引っ越したい」＋「いずれは市外に引っ越したい」を合わせた）」は、豊里地区で21.9%、研究学園地区で19.0%



⑦定住意向の理由

- 「緑や自然環境が豊か」が46.3%で最も高く、次いで「買い物などの日常生活が便利」が37.3%、「自然災害への危険性が少ない」と「住まい（住宅）に満足している」が36.6%となっている

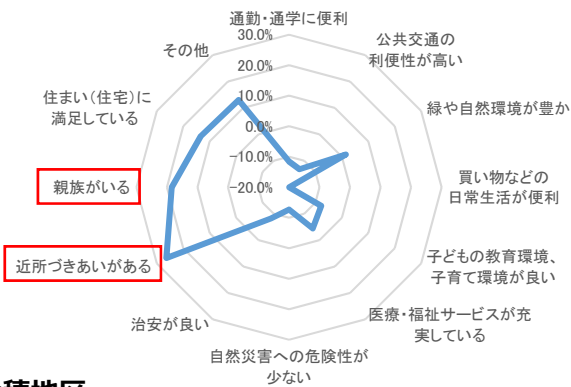


⑦定住意向の理由 地区別

・市全体平均—各地区の割合から、各地区の定住以降の理由の特徴をみていく。

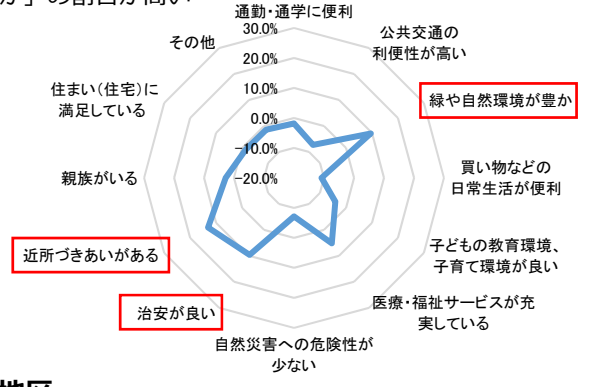
筑波地区

「親族がいる」「近所づきあいがある」の割合が高い



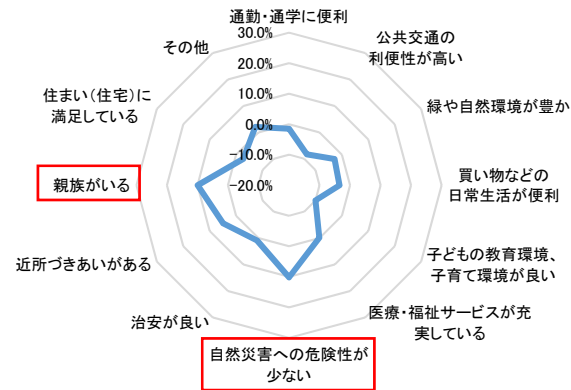
豊里地区

「近所づきあいがある」「治安が良い」「緑や自然環境が豊か」の割合が高い



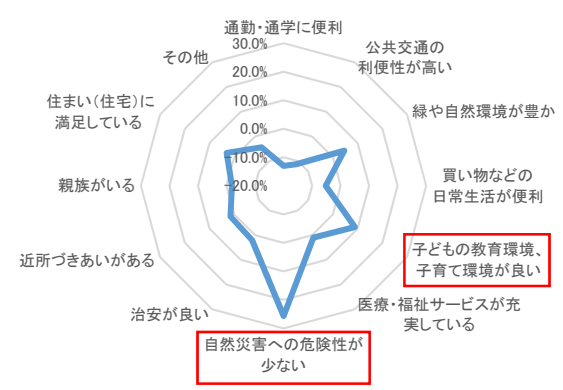
大穂地区

「親族がいる」「自然災害への危険性が少ない」の割合が高い



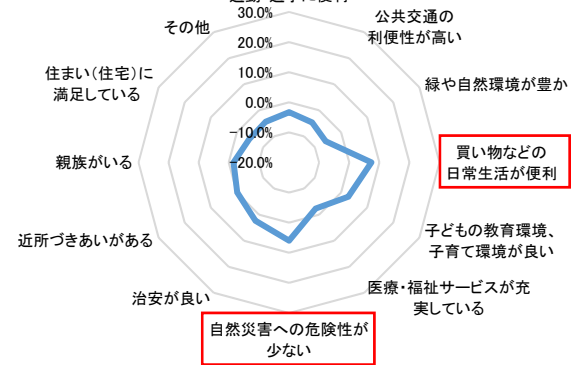
桜地区

「自然災害への危険性が少ない」「子どもの教育環境、子育て環境が良い」の割合が高い



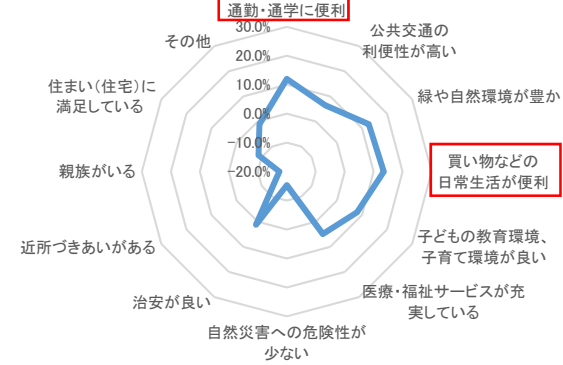
谷田部地区

「買い物などの日常生活が便利」「自然災害への危険性が少ない」の割合が高い



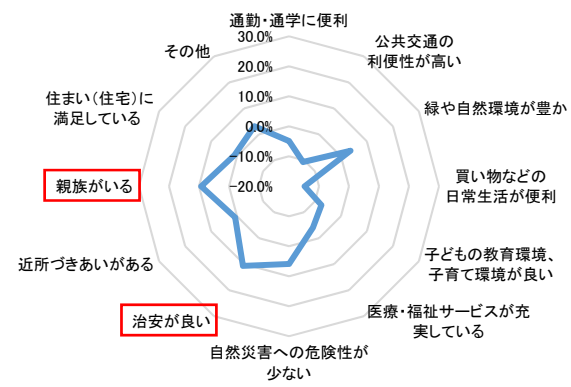
研究学園地区

「通勤・通学に便利」「買い物などの日常生活が便利」の割合が高い



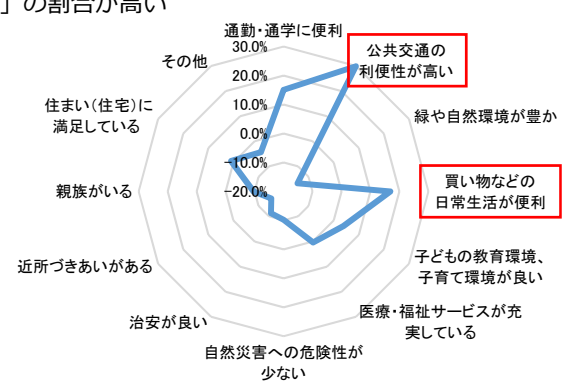
荃崎地区

「親族がいる」「治安が良い」の割合が高い



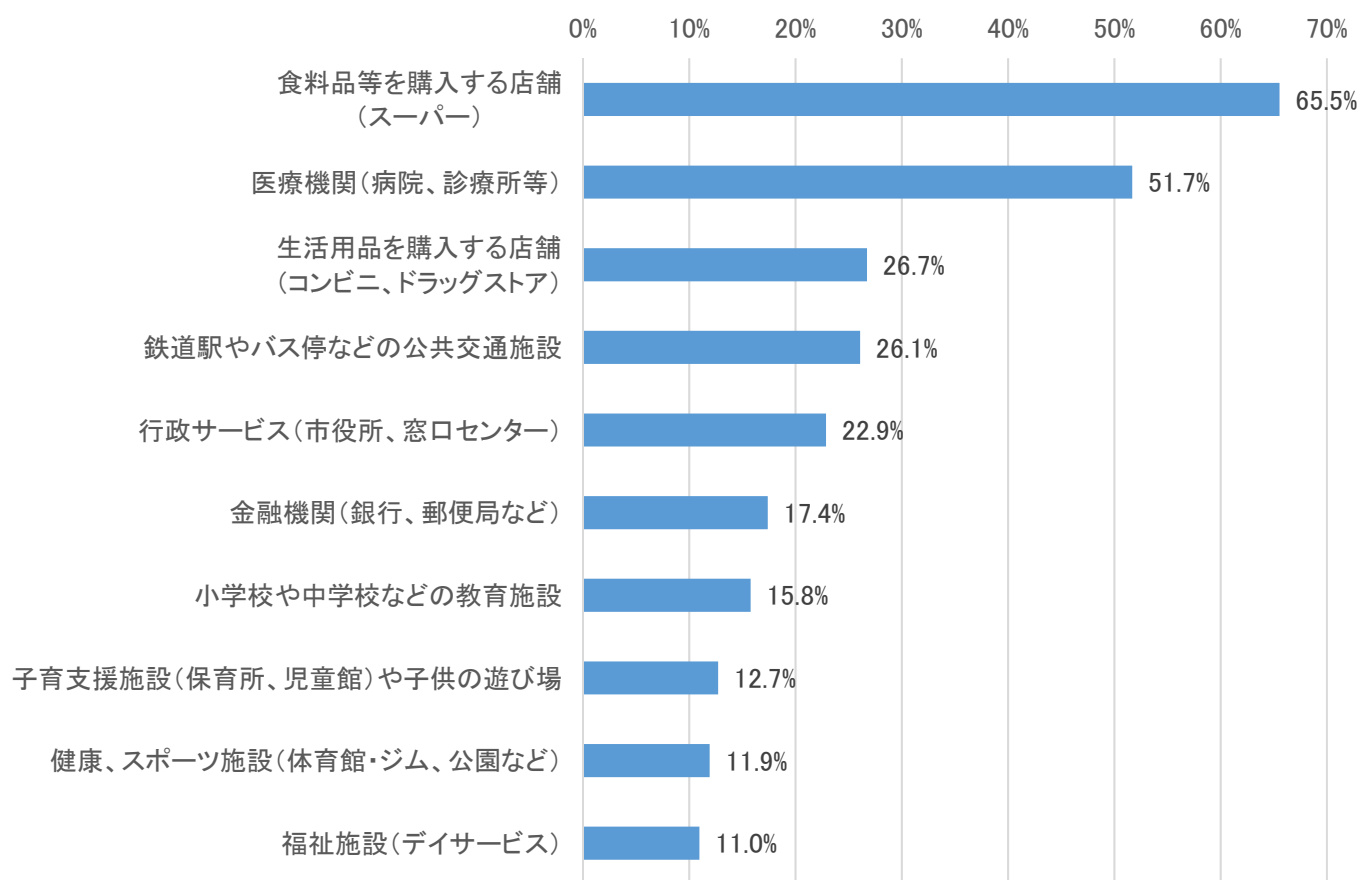
TX沿線地区

「公共交通の利便性が高い」「買い物などの日常生活が便利」の割合が高い



⑧徒歩圏に必要な施設（上位5位）

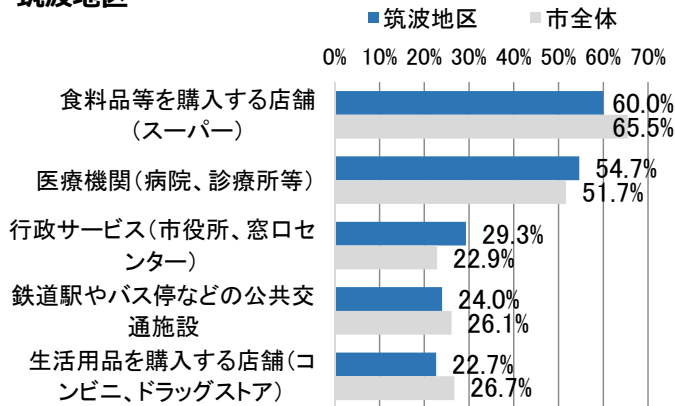
- 「食料品等を購入する店舗（スーパー）」が65.5%、「医療機関（病院、診療所等）」が51.7%と比較的割合が高く、次いで、「生活用品を購入する店舗（コンビニ、ドラッグストア）」が26.7%、「鉄道駅やバス停などの公共交通施設」が26.1%となっています。



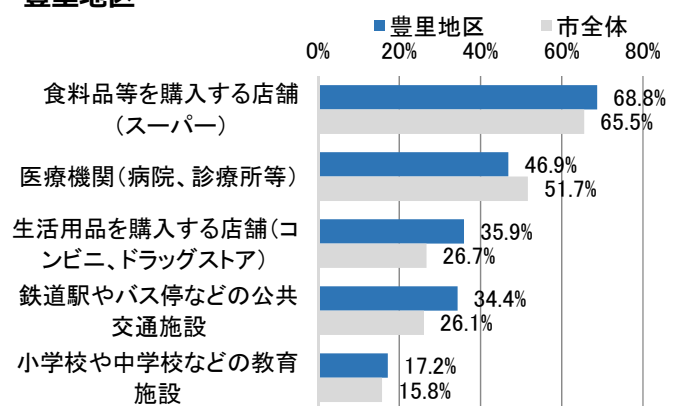
⑧ 徒歩圏に必要な施設（上位5位） 地区別

- ・ 荃崎地区以外の地区では、1位に「食料品等を購入する店舗（スーパー）」、2位に「医療機関（病院、診療所等）」となっています。
- ・ 谷田部地区では、第4位に「金融機関（銀行、郵便局など）」、荃崎地区では、第1位に「医療機関（病院、診療所等）」、TX沿線地区では、第5位に「小学校や中学校などの教育施設」があがっています。

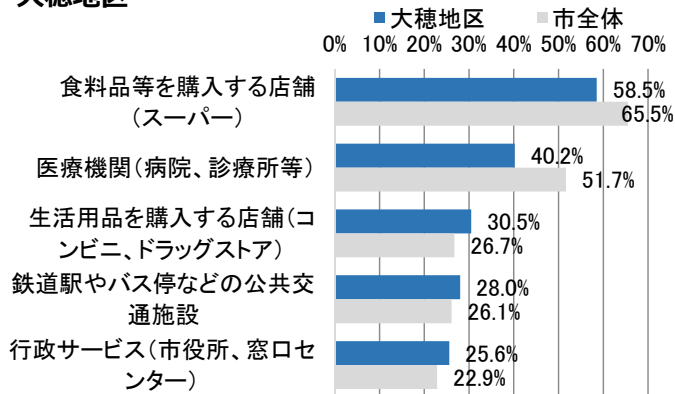
筑波地区



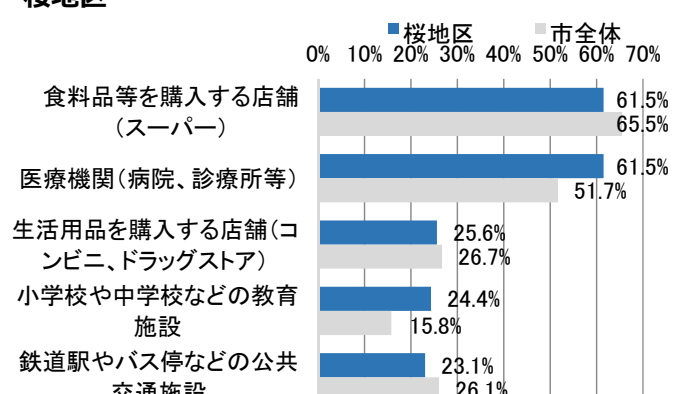
豊里地区



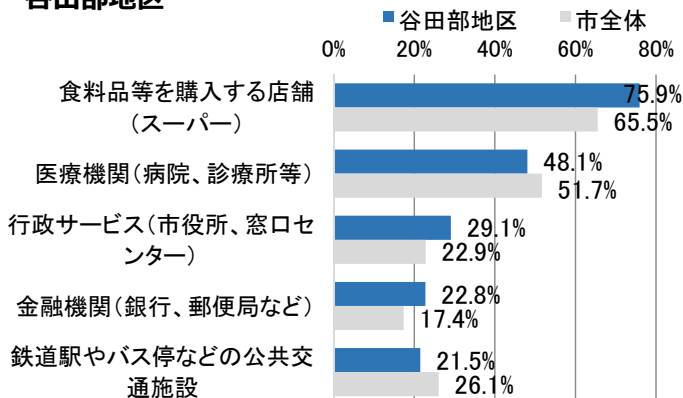
大穂地区



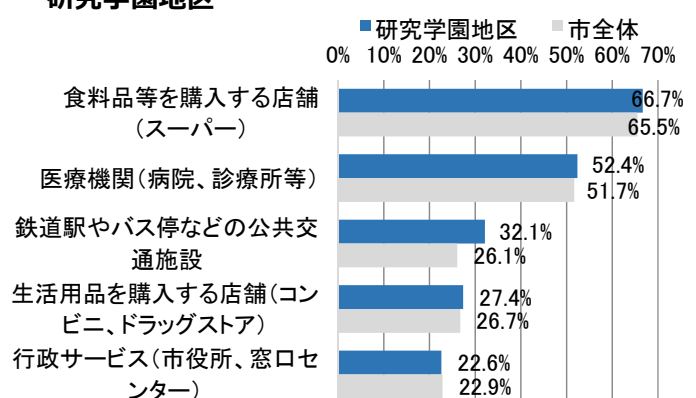
桜地区



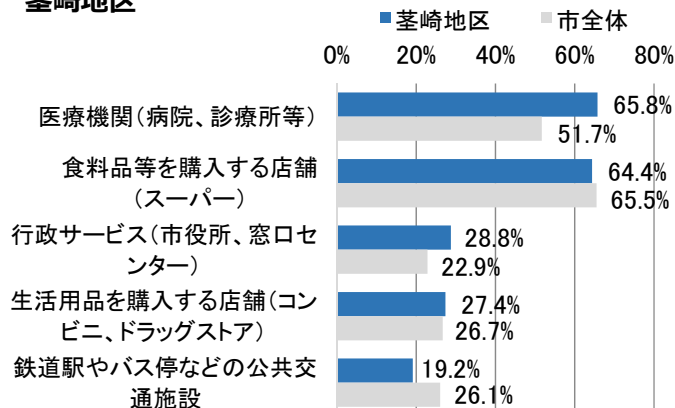
谷田部地区



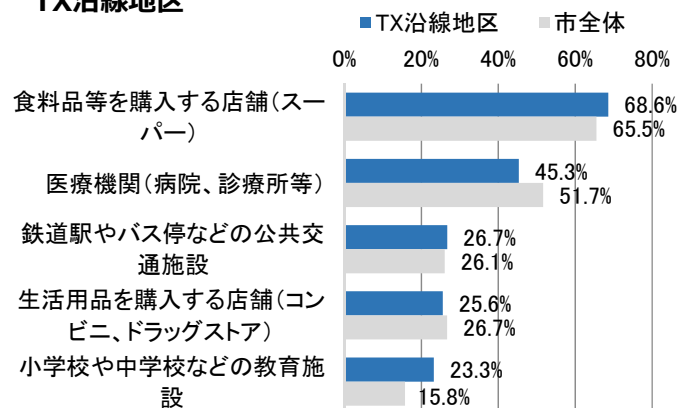
研究学園地区



荃崎地区

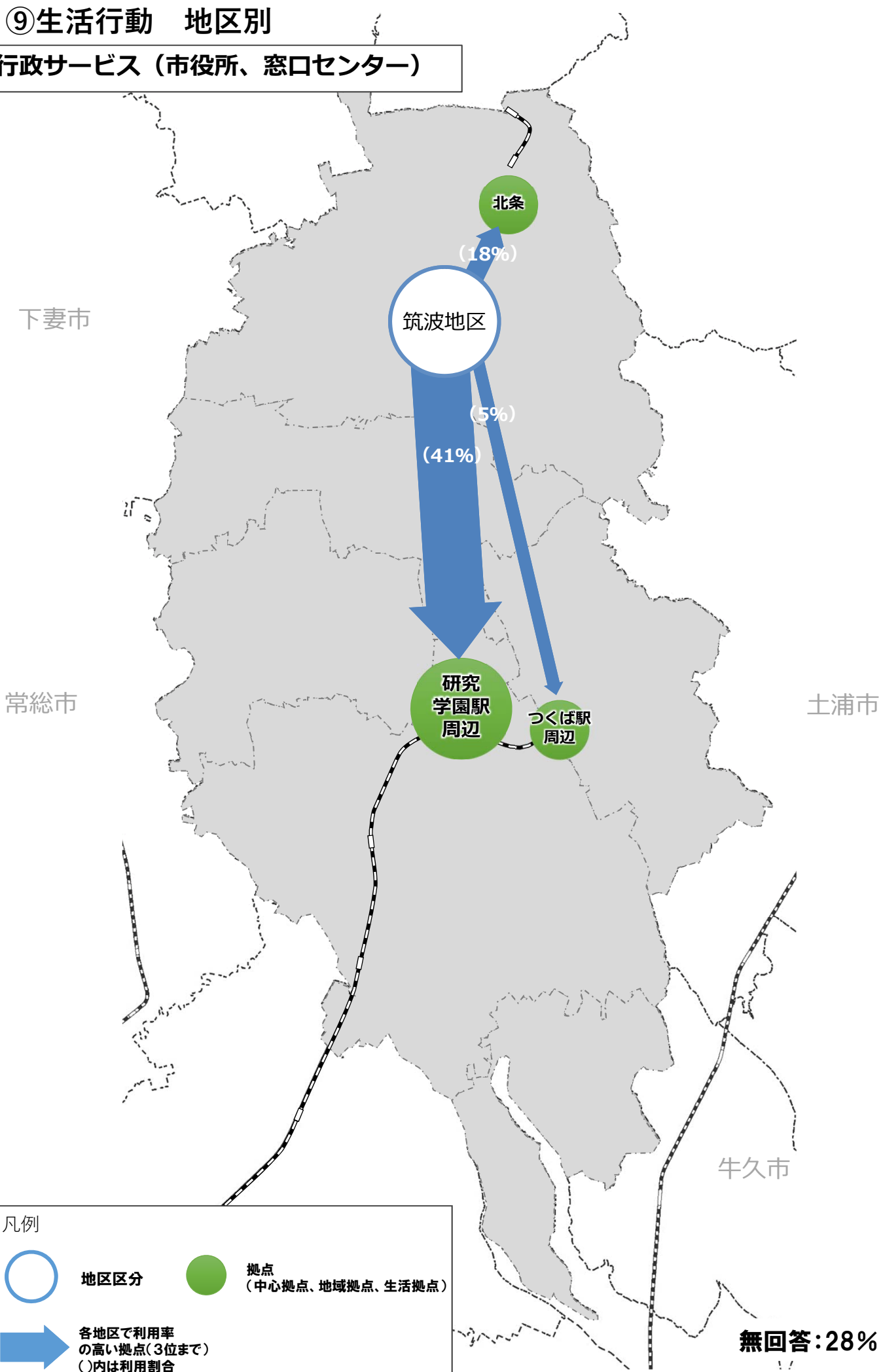


TX沿線地区



⑨生活行動 地区別

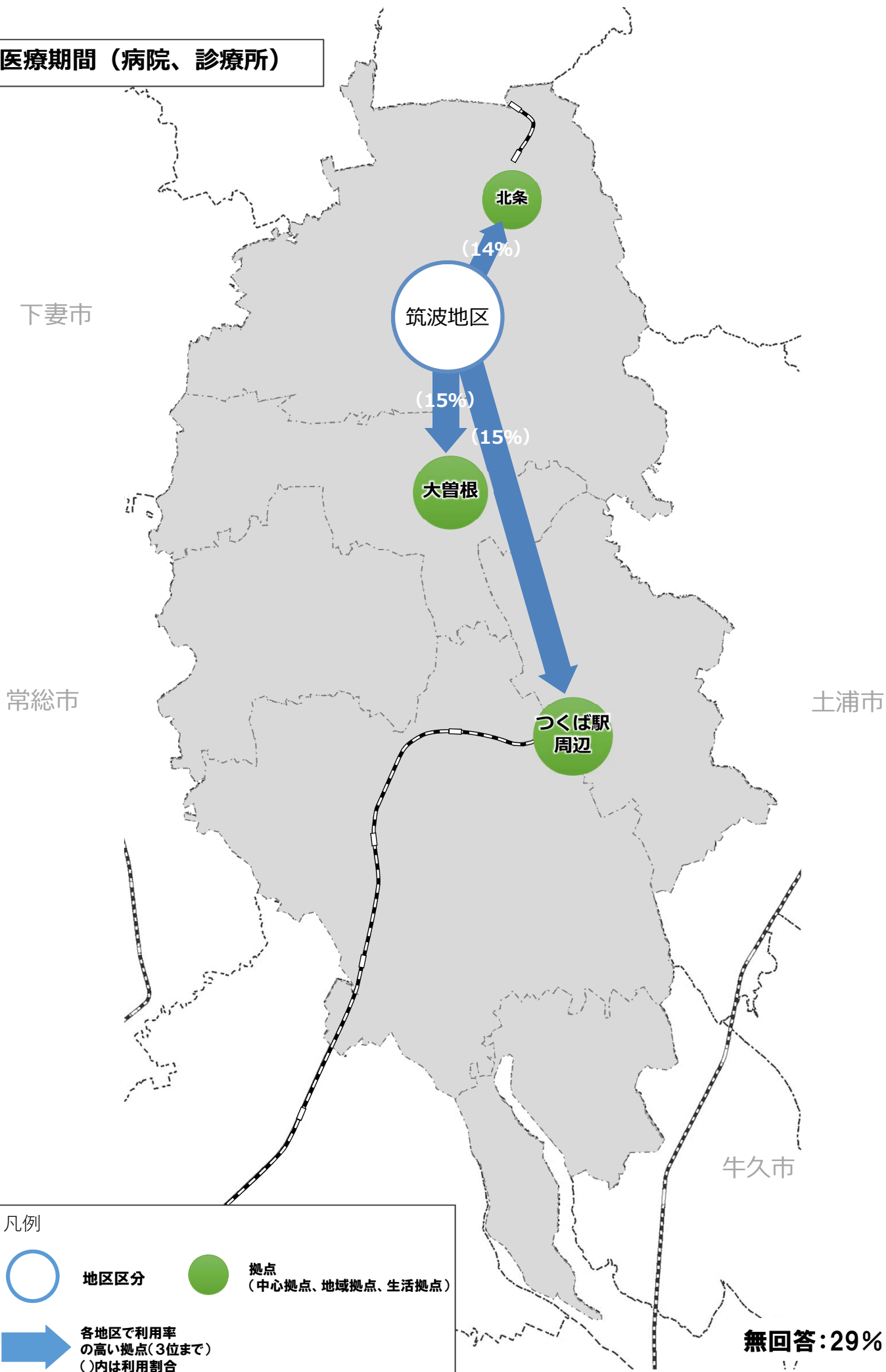
行政サービス（市役所、窓口センター）



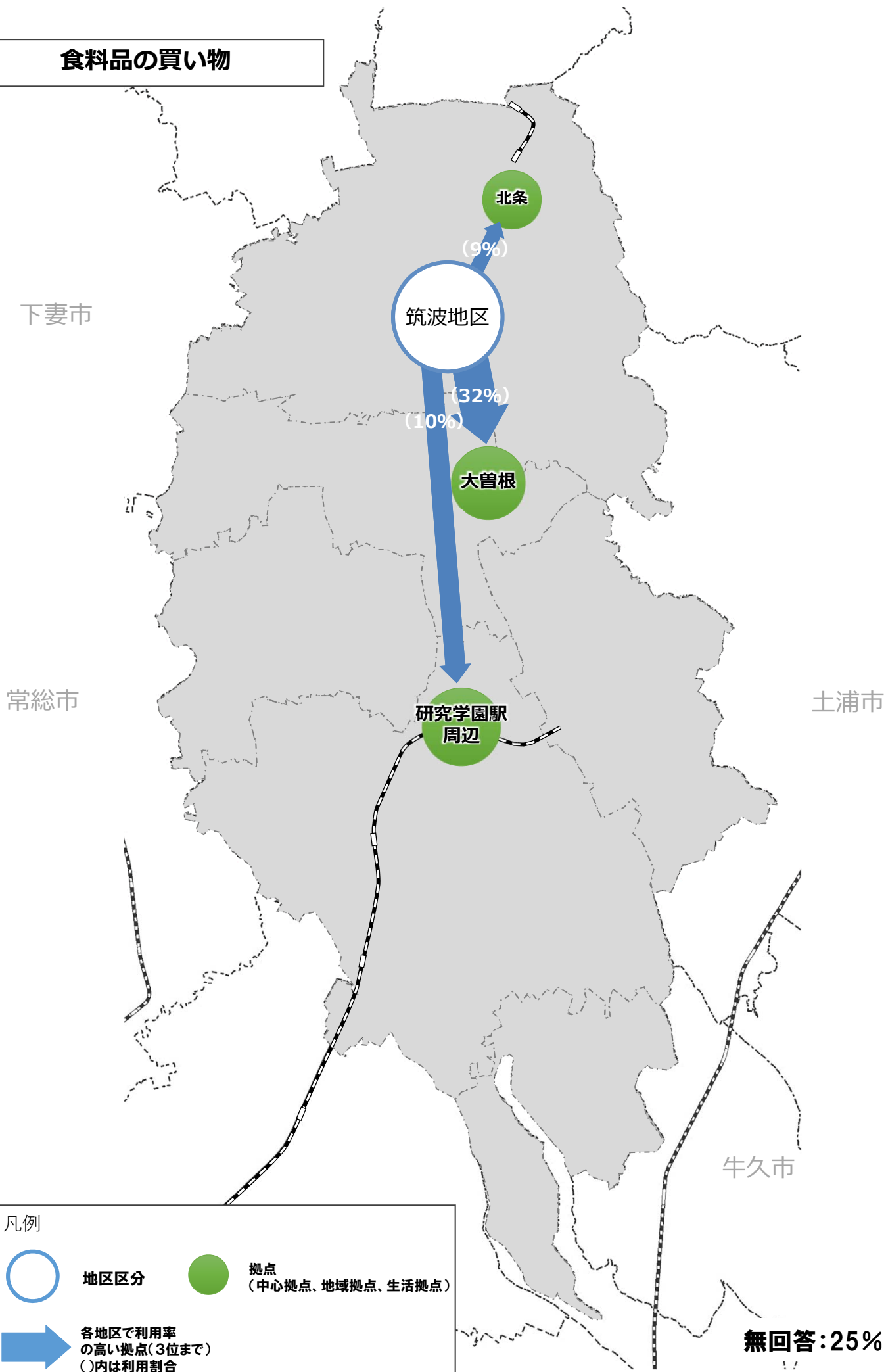
凡例

- 地区区分
- 拠点 (中心拠点、地域拠点、生活拠点)
- ➡ 各地区で利用率の高い拠点(3位まで) ()内は利用割合

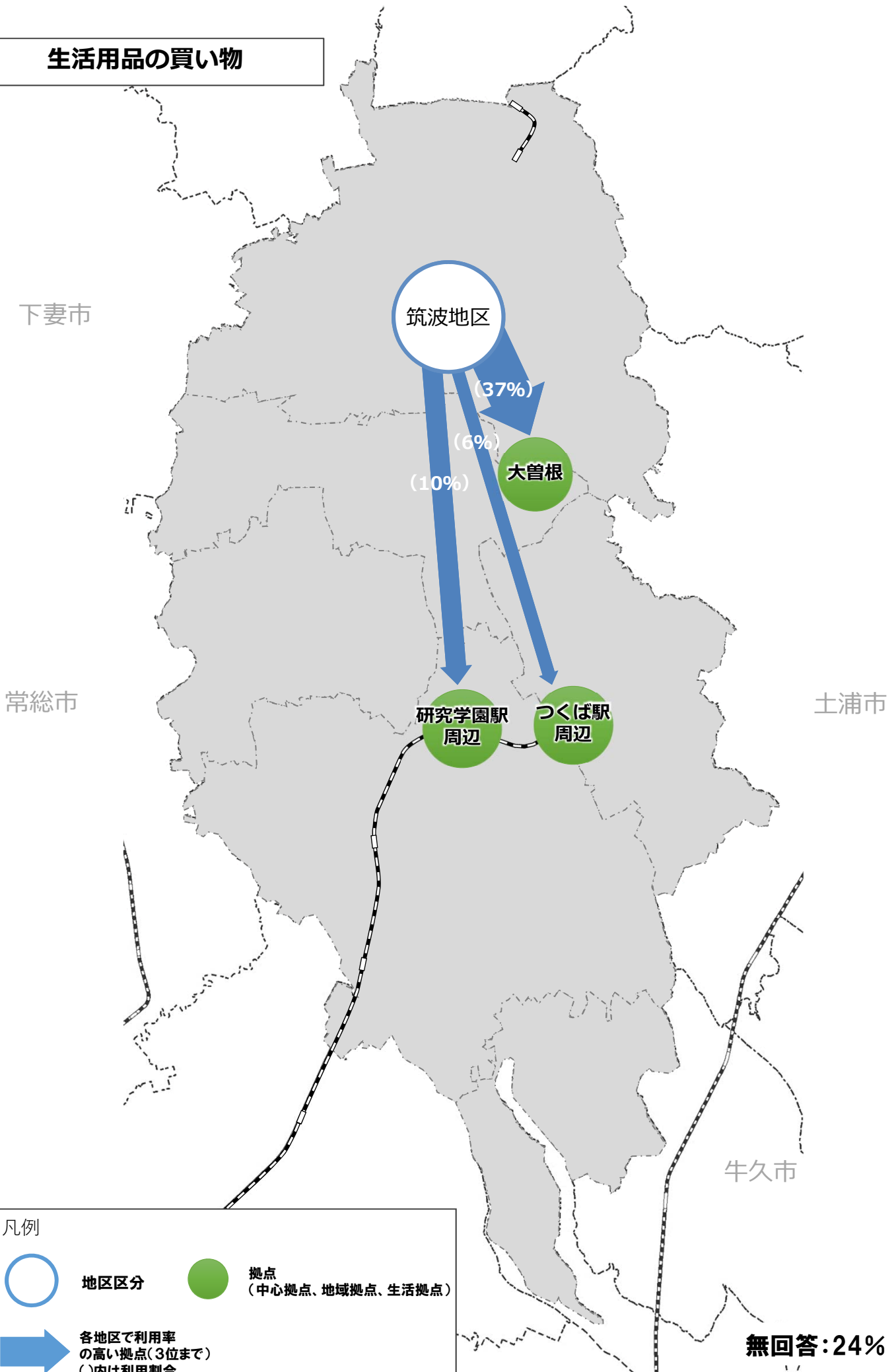
医療期間（病院、診療所）



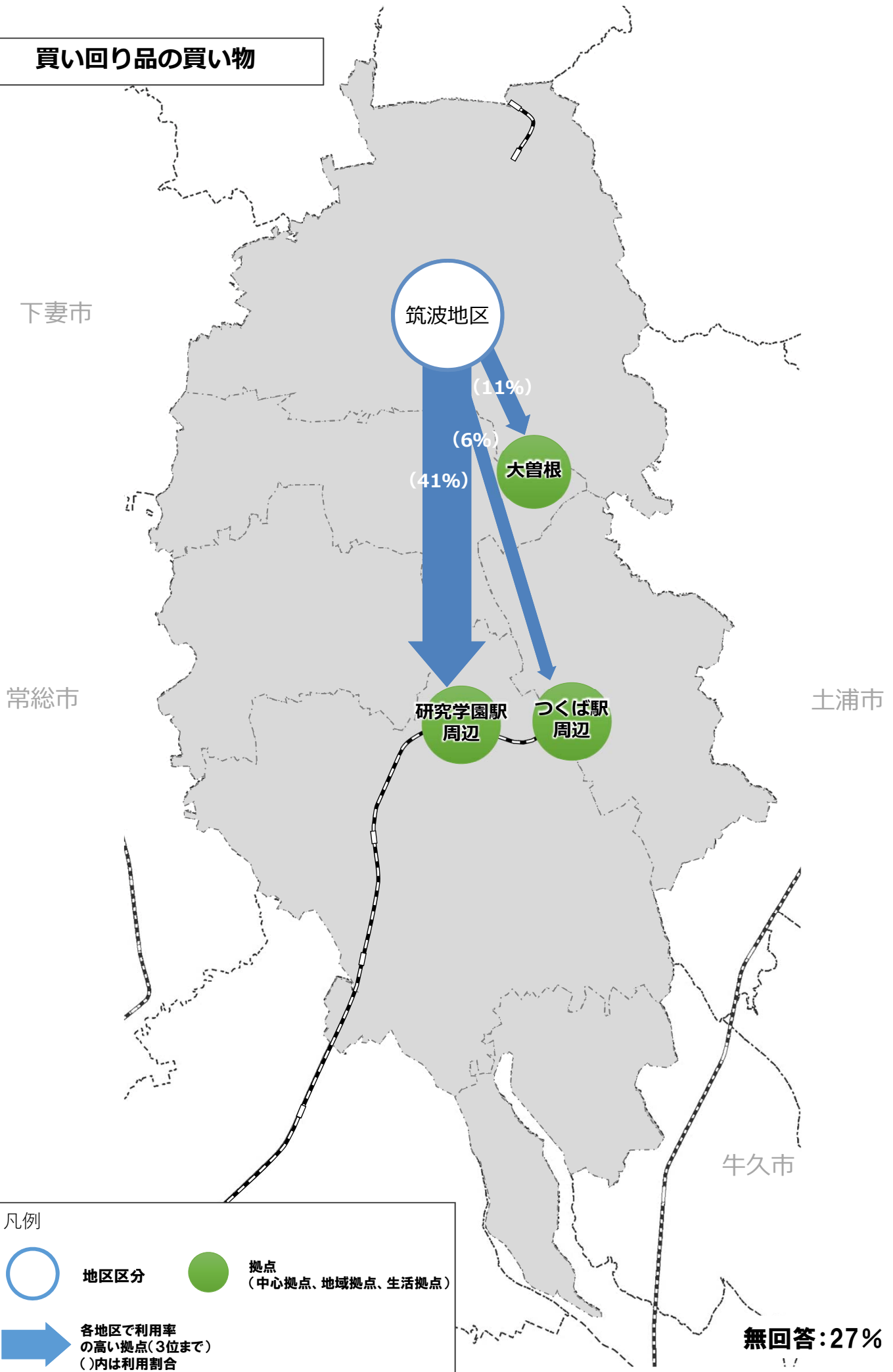
食料品の買い物



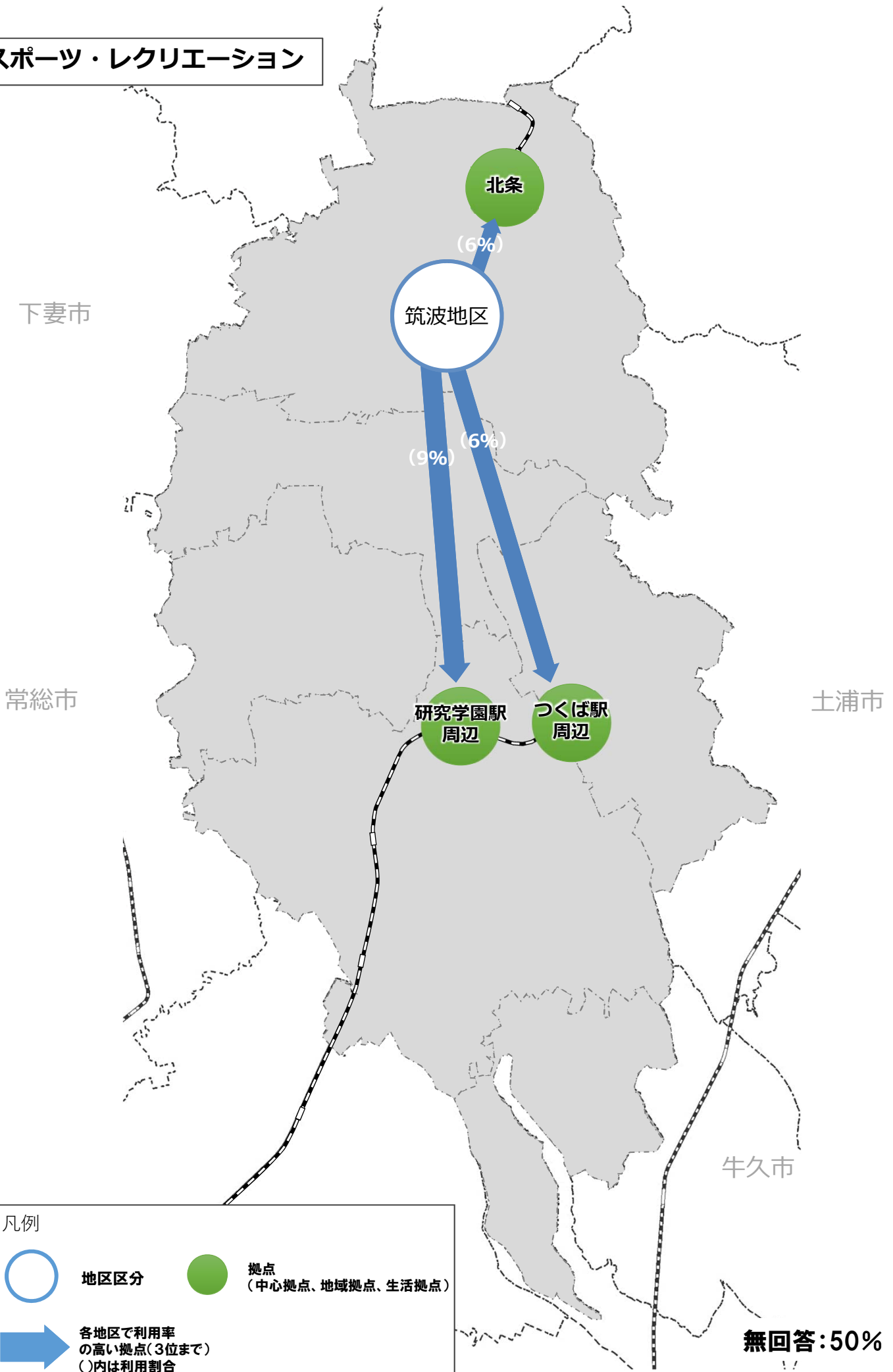
生活用品の買い物



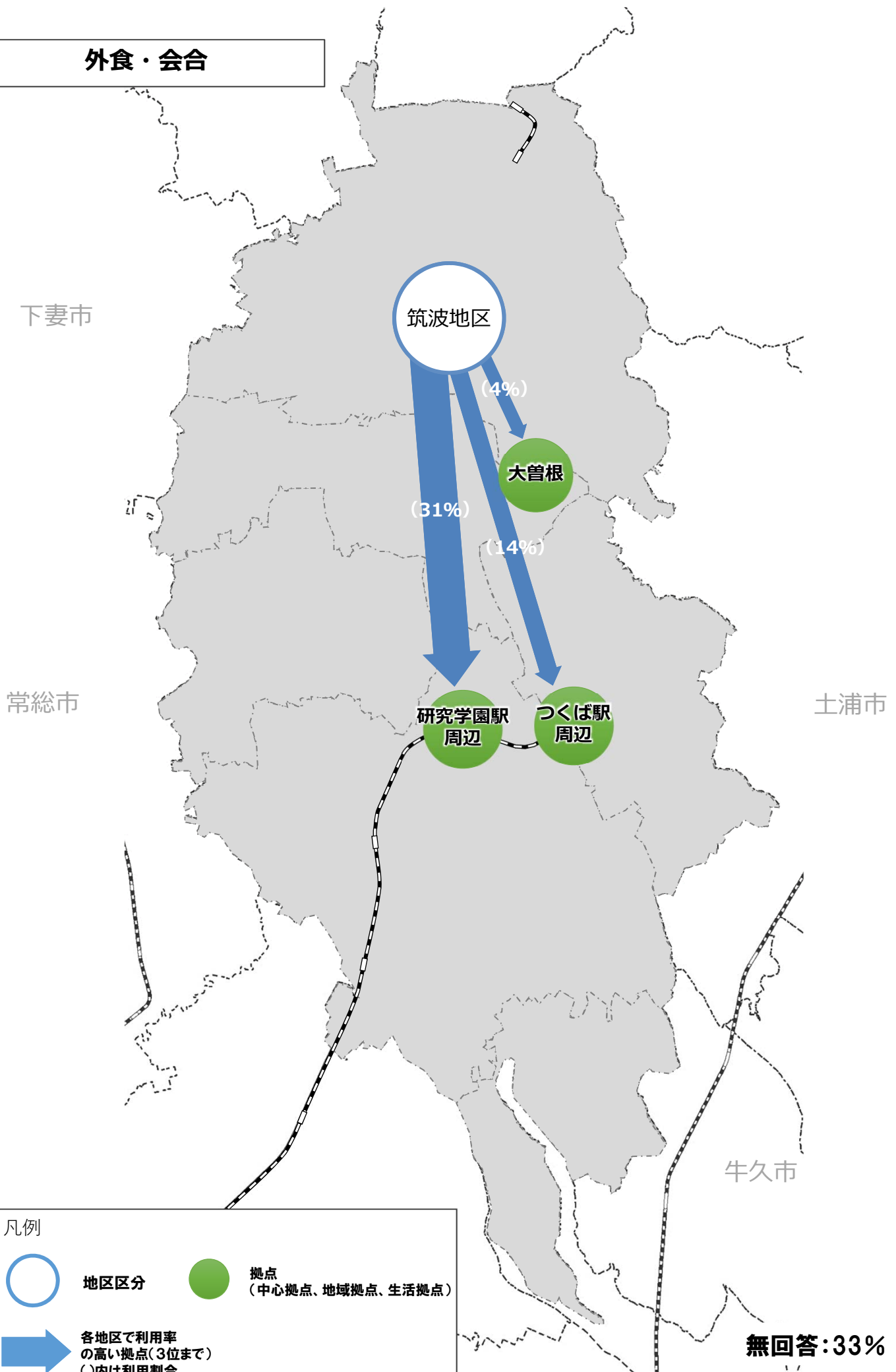
買い回り品の買い物



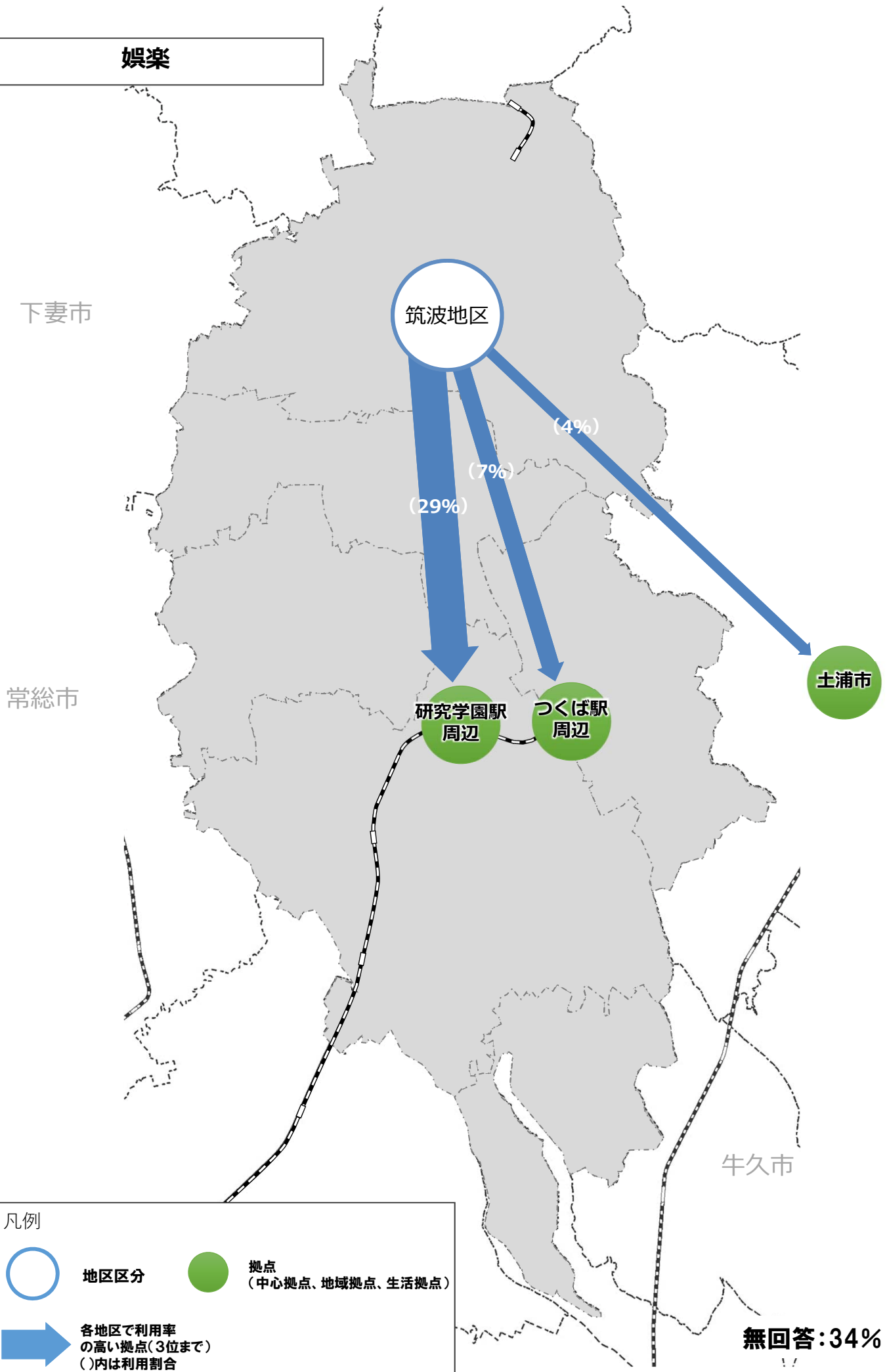
スポーツ・レクリエーション



外食・会合



娯楽

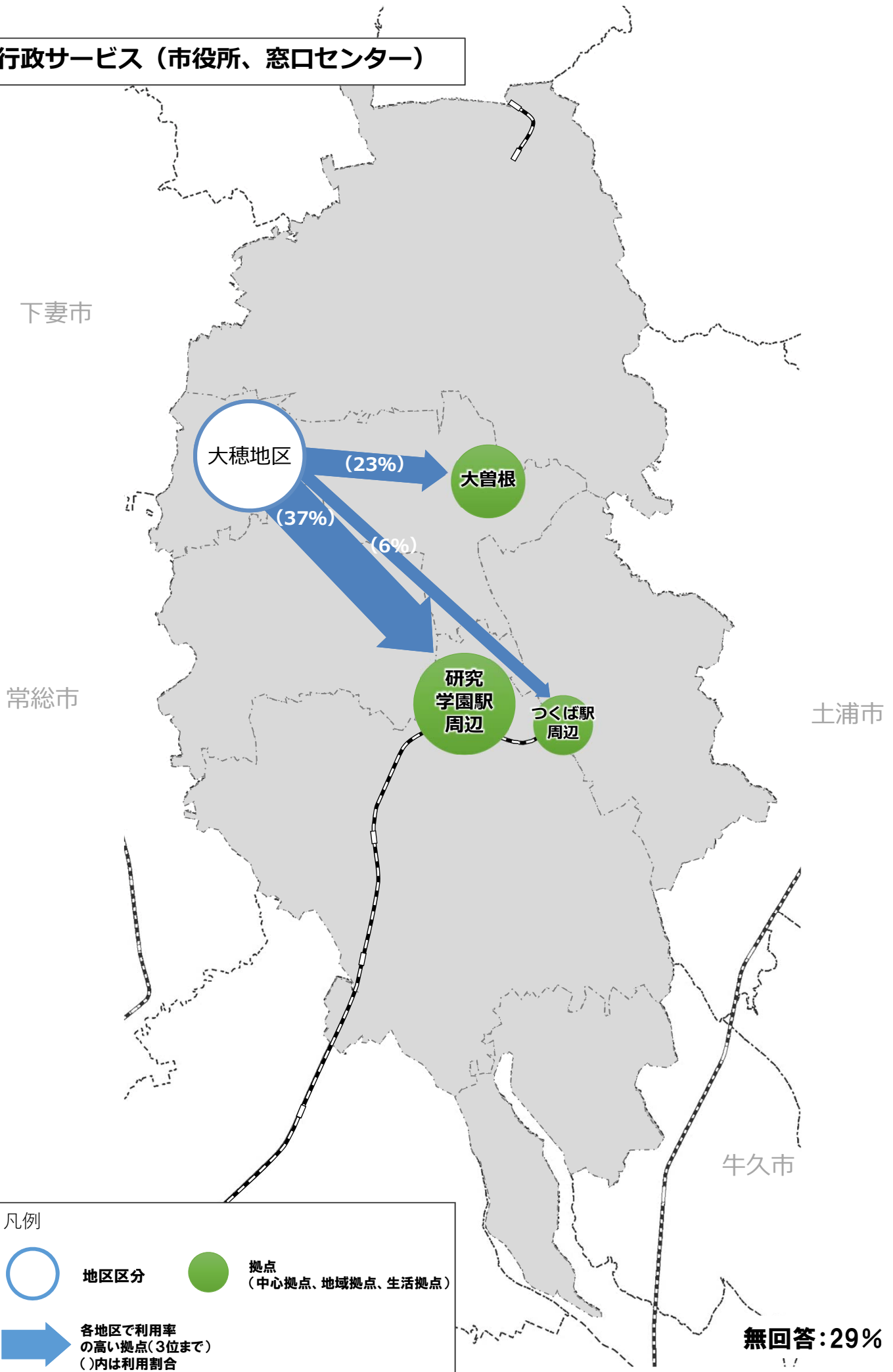


凡例

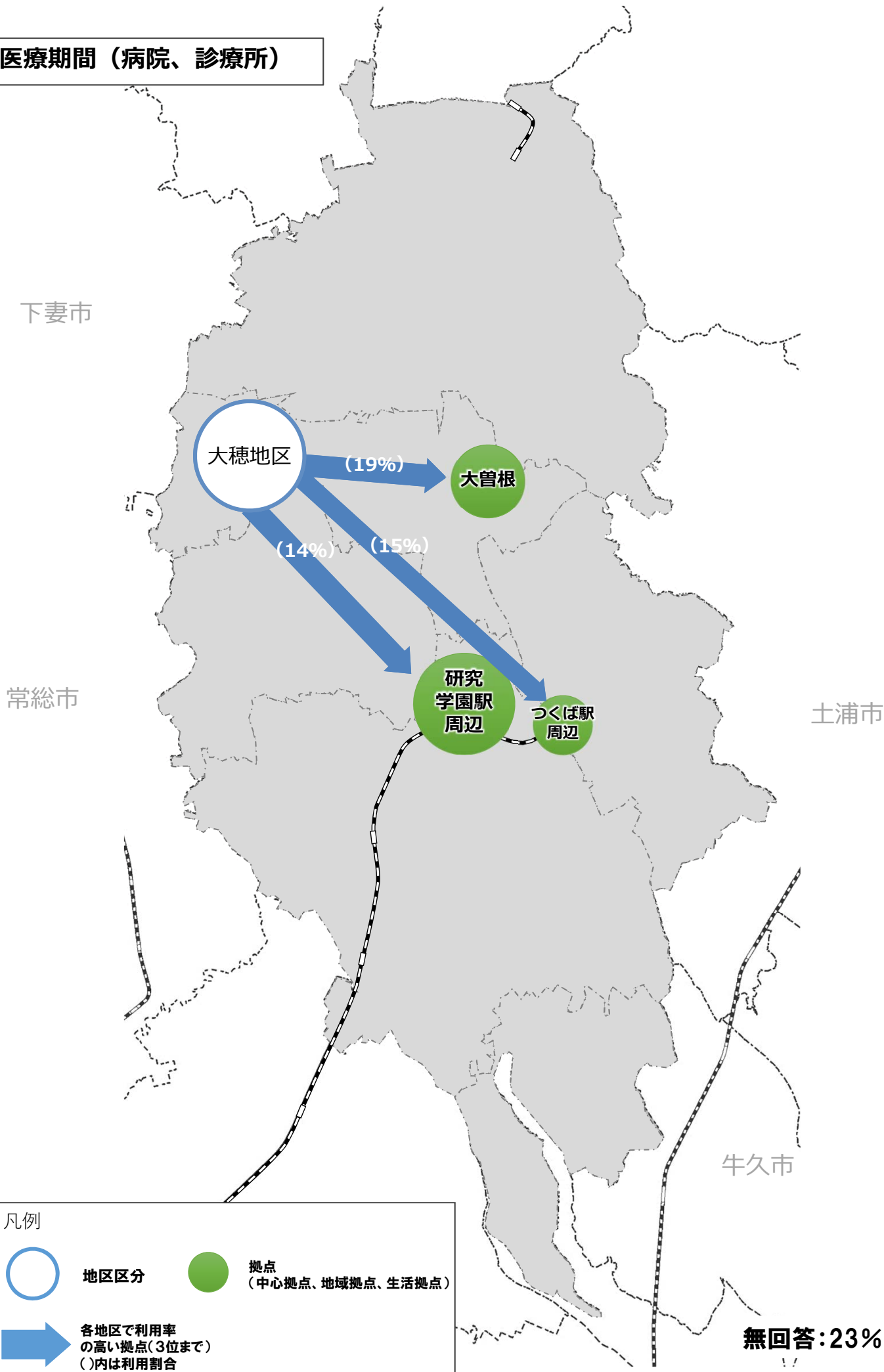
- 地区区分
- 拠点 (中心拠点、地域拠点、生活拠点)
- 各地区で利用率の高い拠点(3位まで) (内は利用割合)

無回答:34%

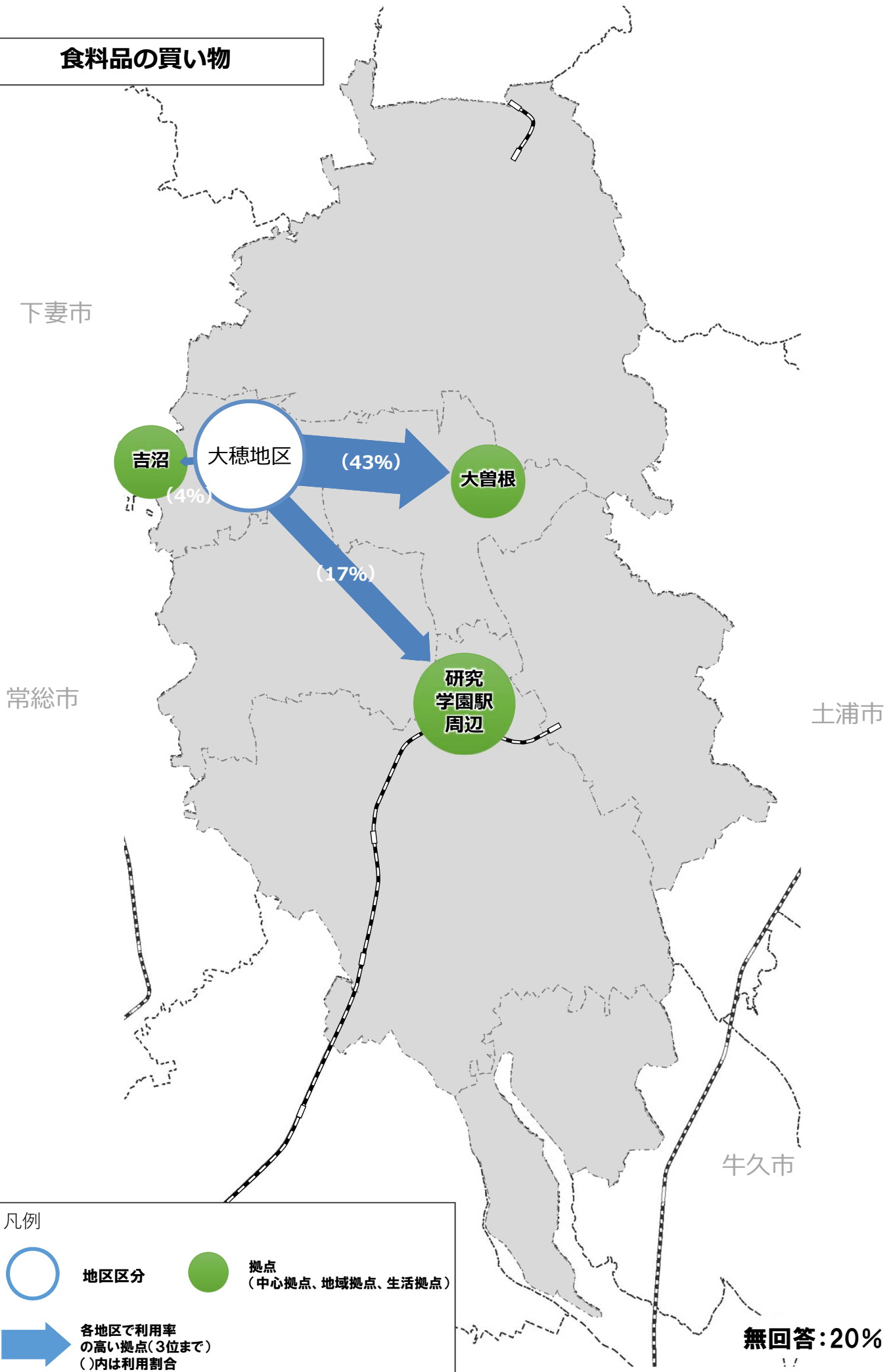
行政サービス（市役所、窓口センター）



医療期間（病院、診療所）



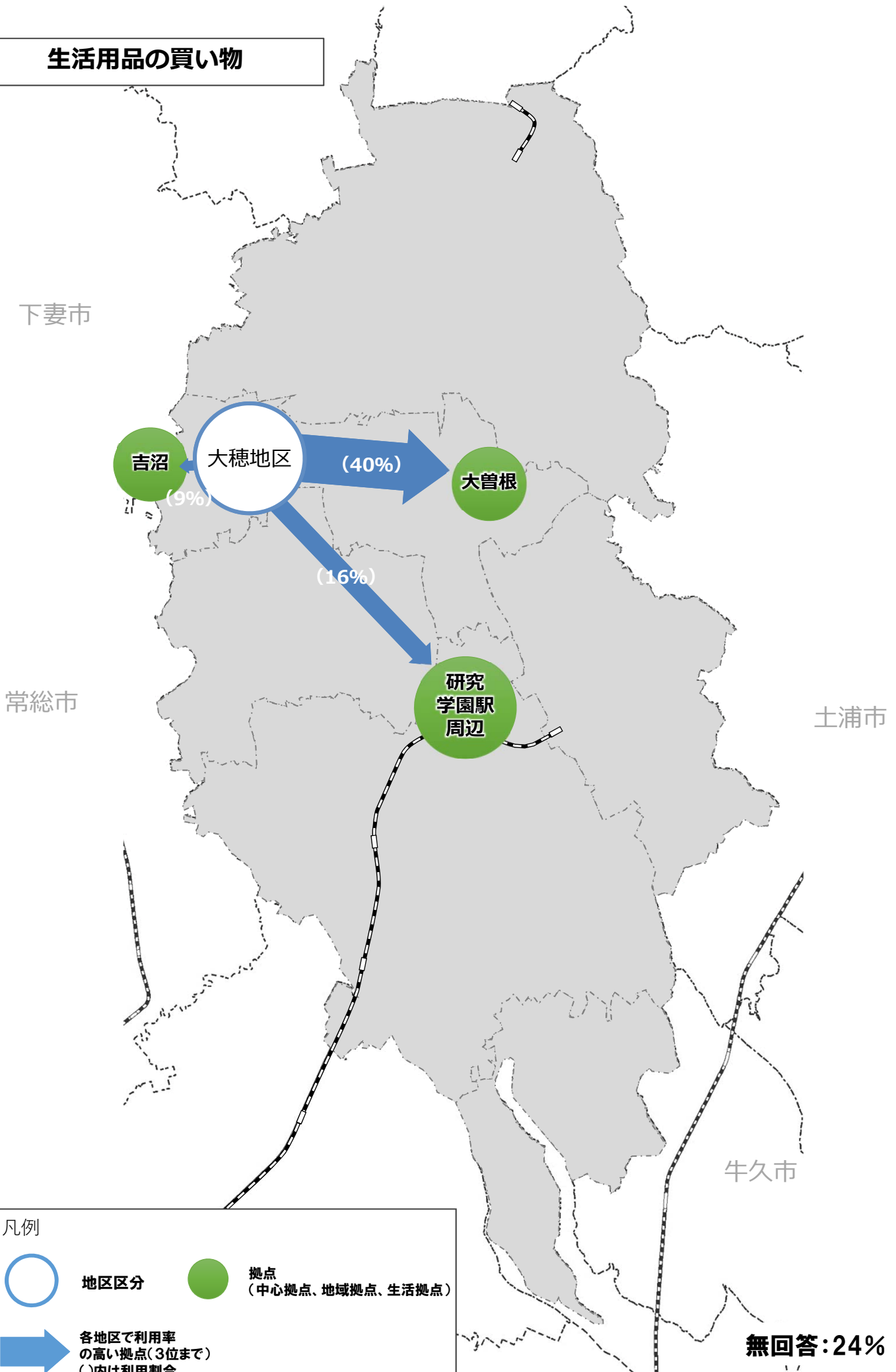
食料品の買い物



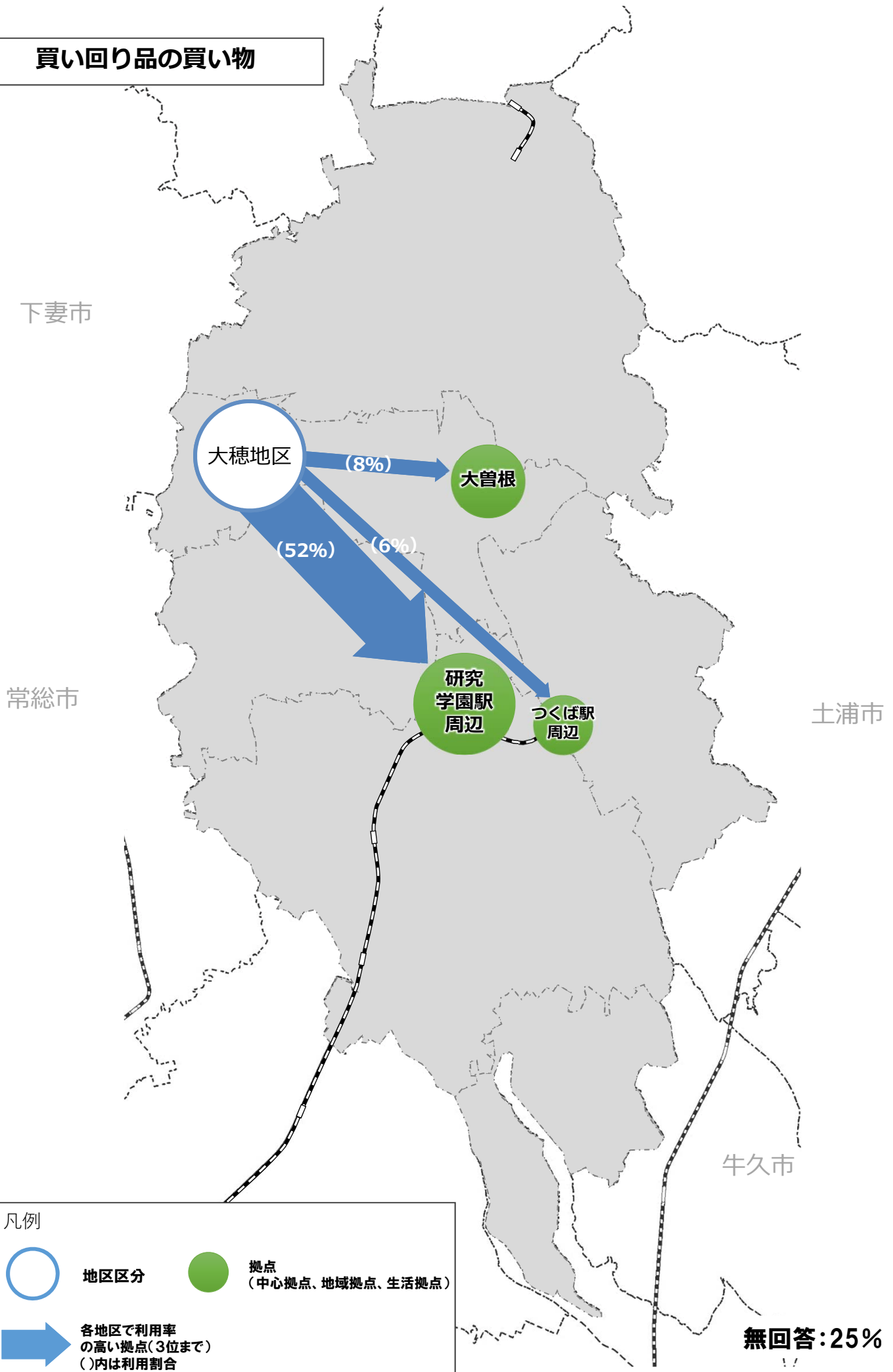
凡例

- 地区区分
- 拠点 (中心拠点、地域拠点、生活拠点)
- ➡ 各地区で利用率の高い拠点(3位まで) ()内は利用割合

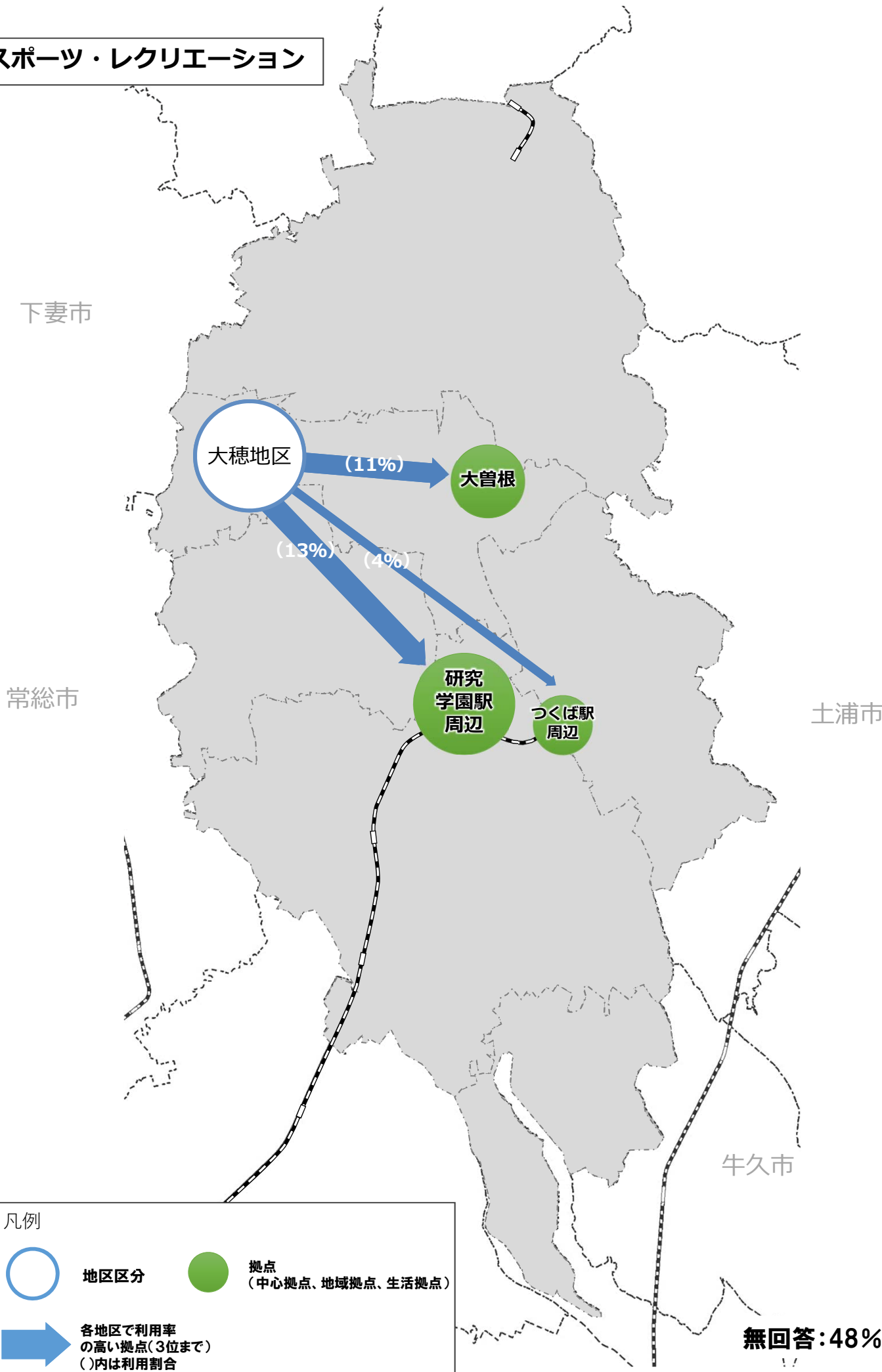
生活用品の買い物



買い回り品の買い物



スポーツ・レクリエーション

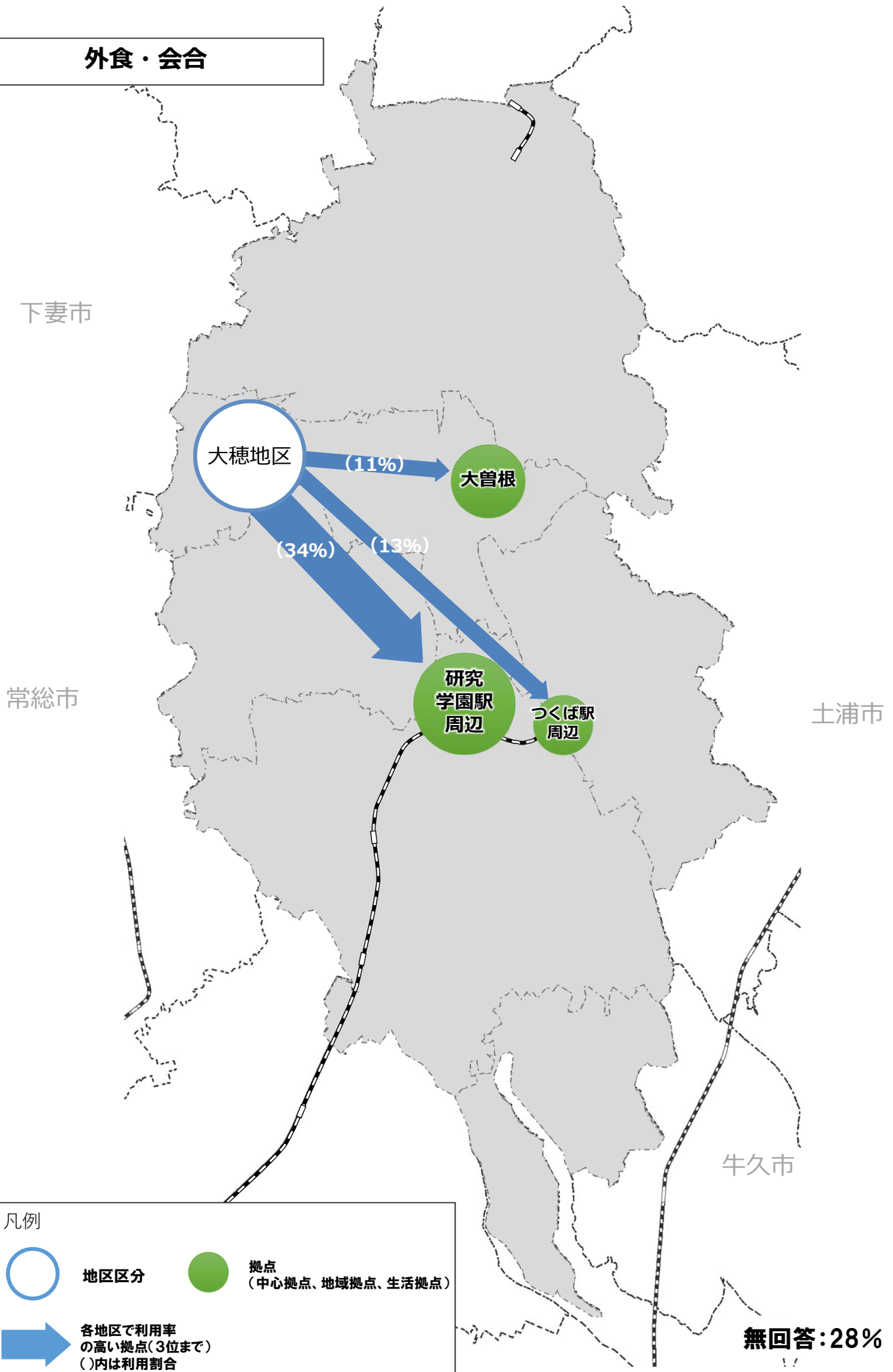


凡例

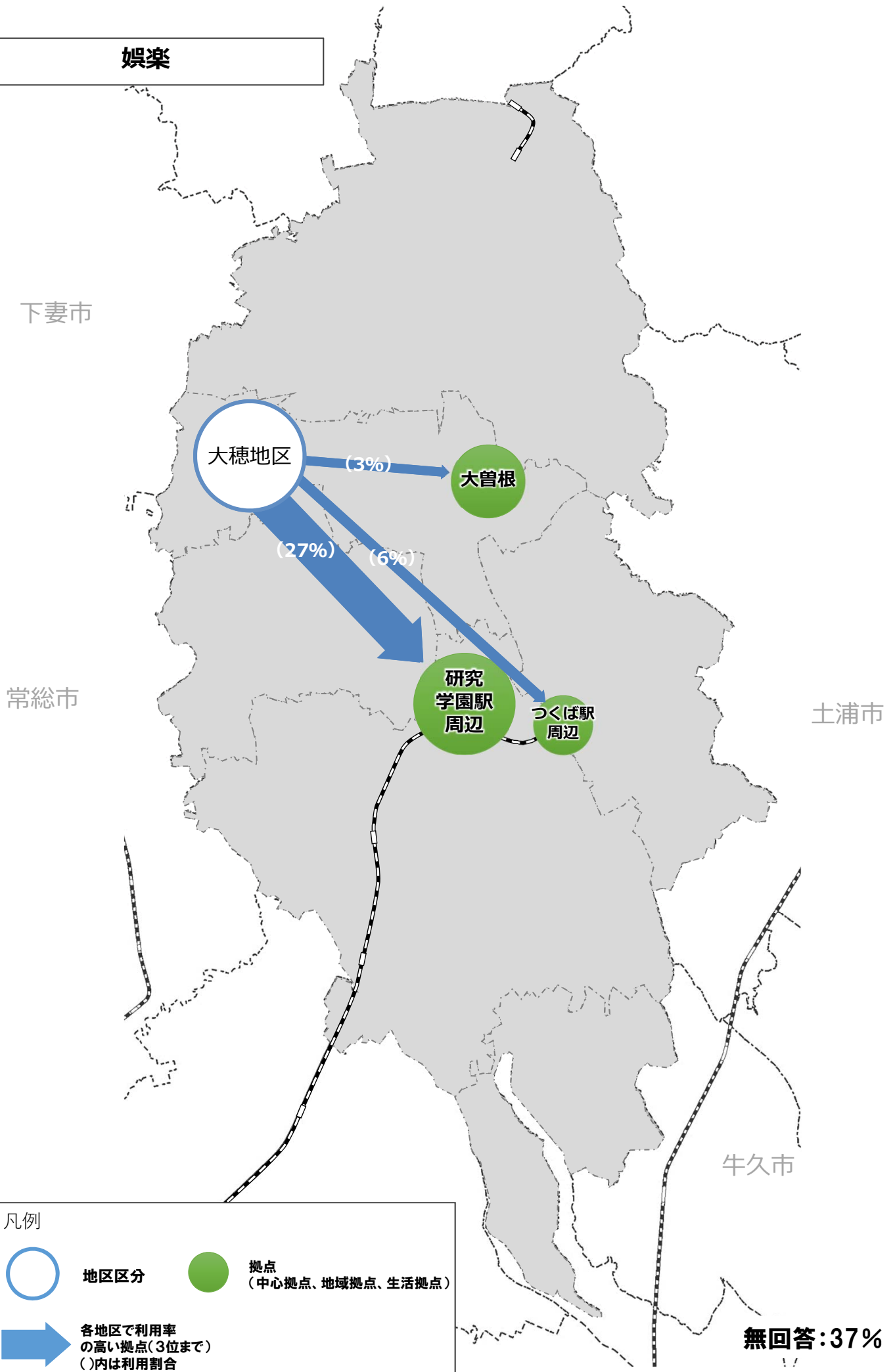
- 地区区分
- 拠点 (中心拠点、地域拠点、生活拠点)
- ➡ 各地区で利用率の高い拠点(3位まで) ()内は利用割合

無回答:48%

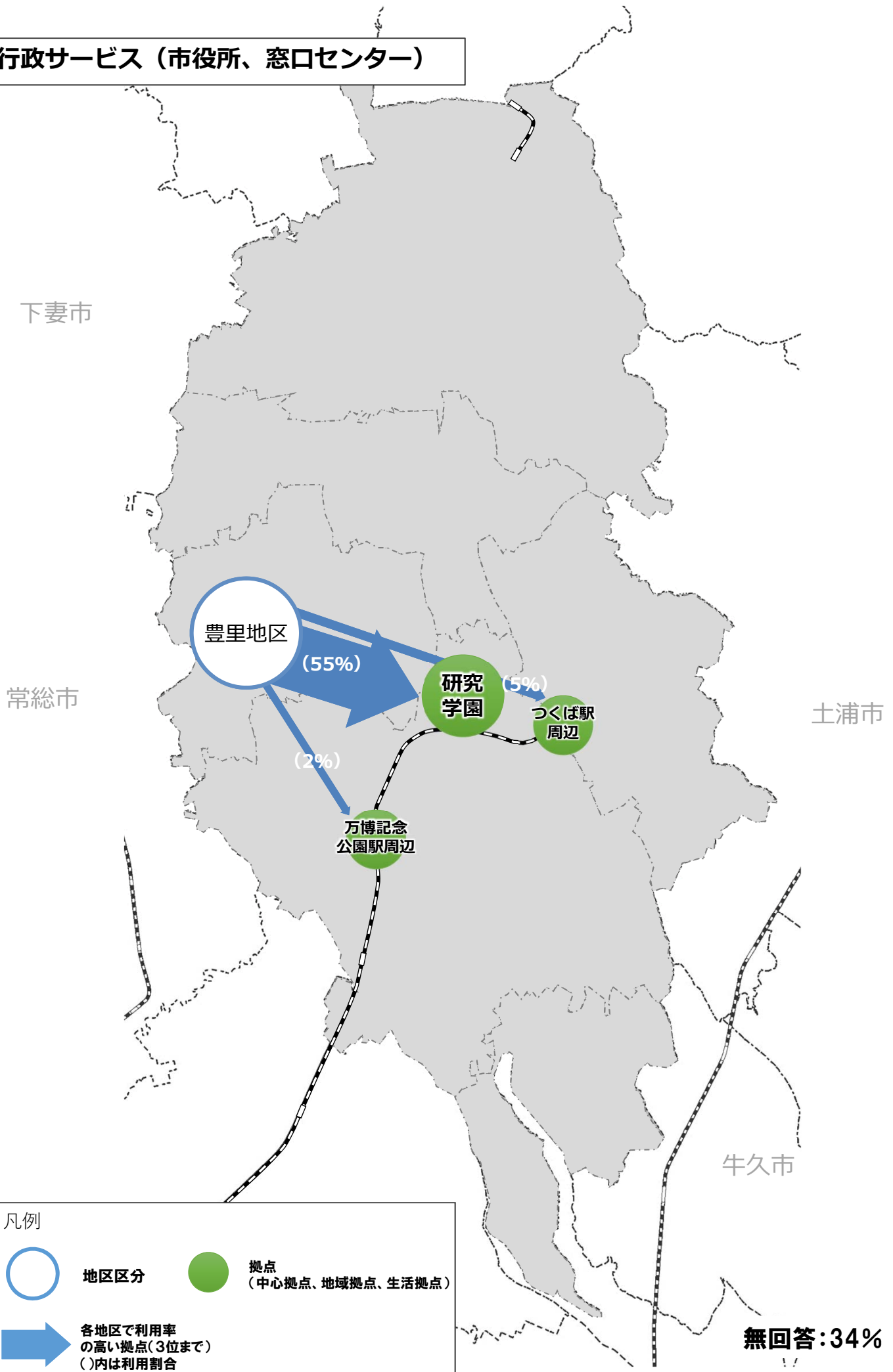
外食・会合



娯楽



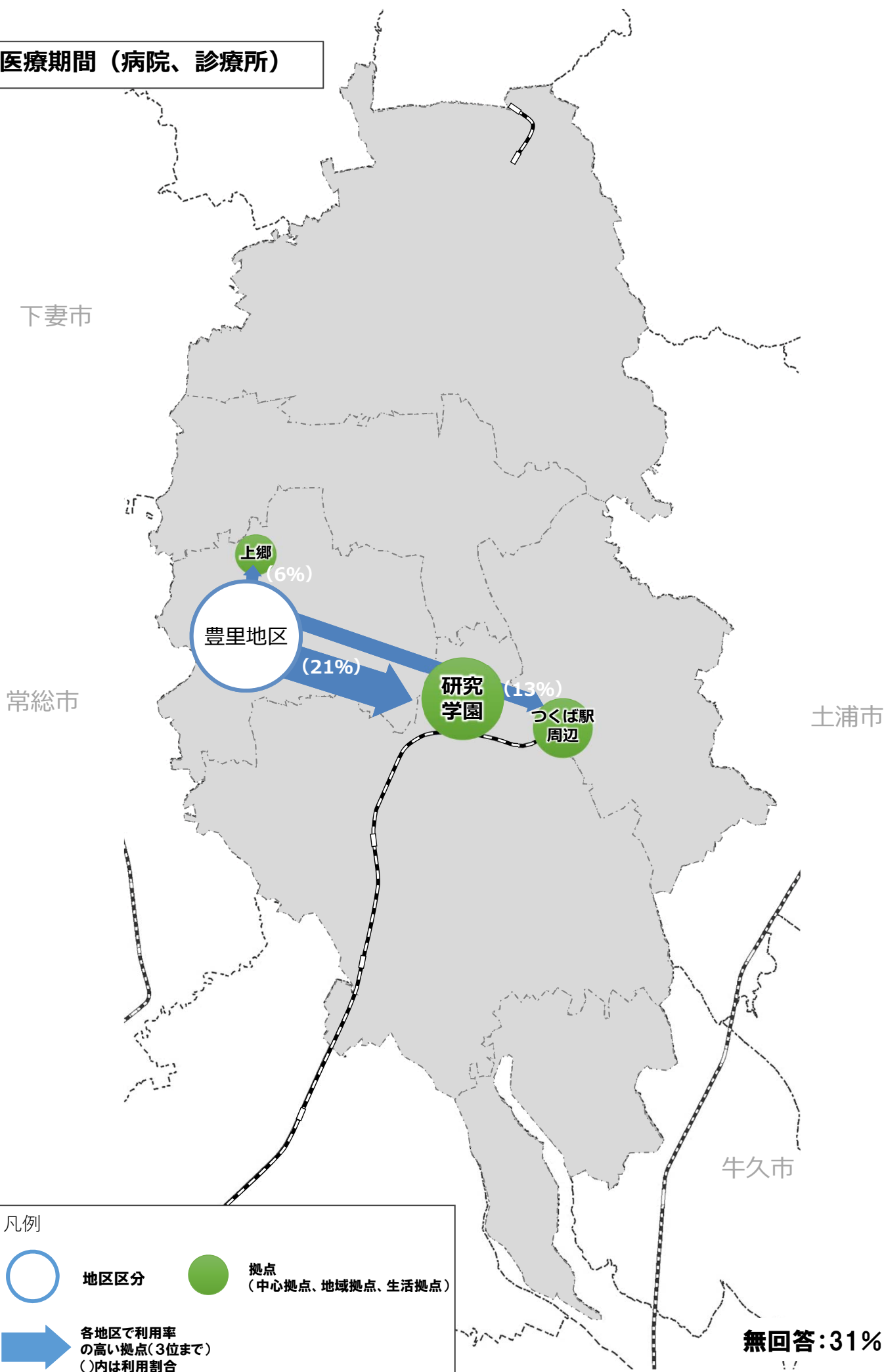
行政サービス（市役所、窓口センター）



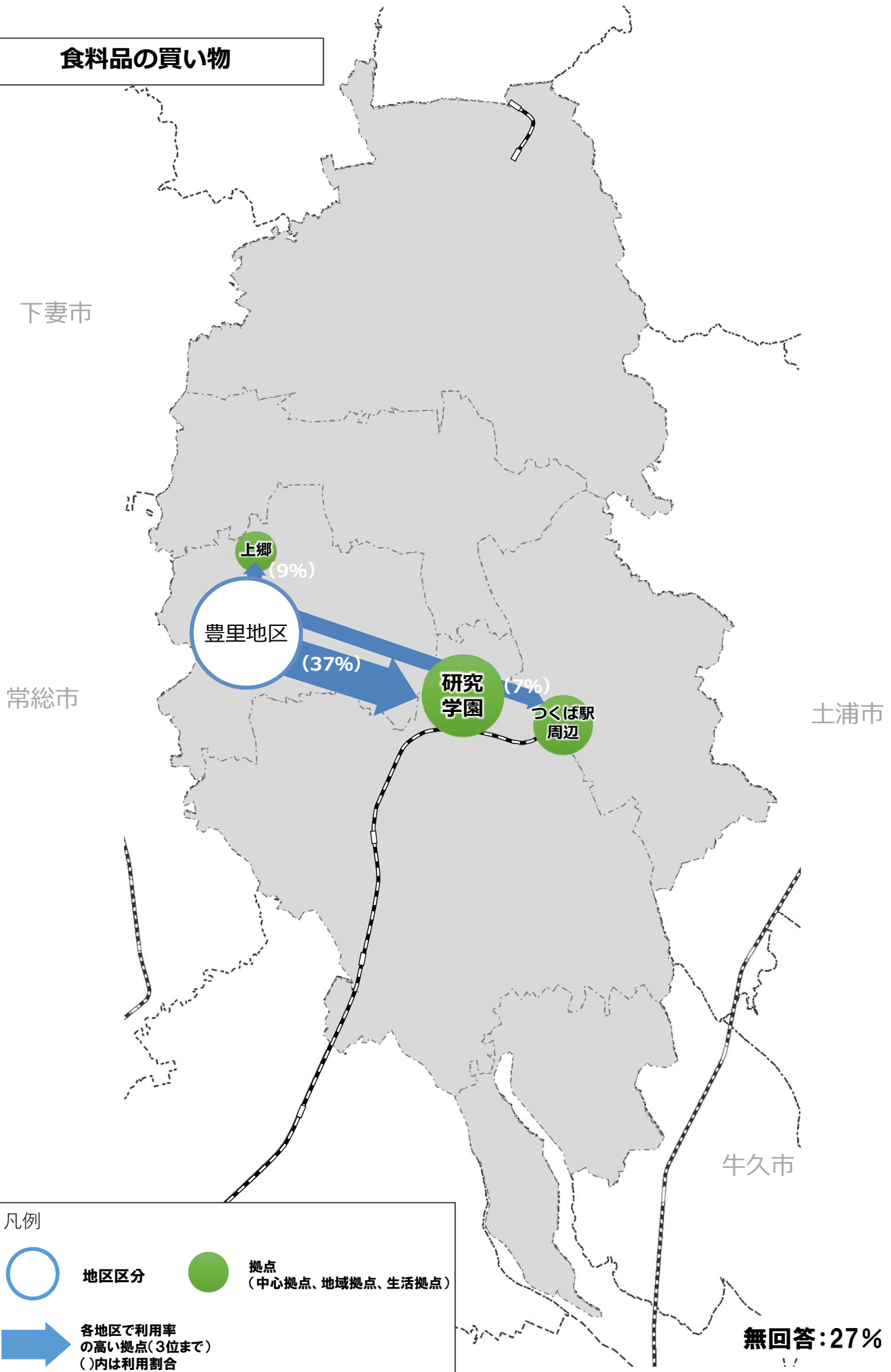
凡例

- 地区区分
- 拠点 (中心拠点、地域拠点、生活拠点)
- ➡ 各地区で利用率の高い拠点(3位まで) ()内は利用割合

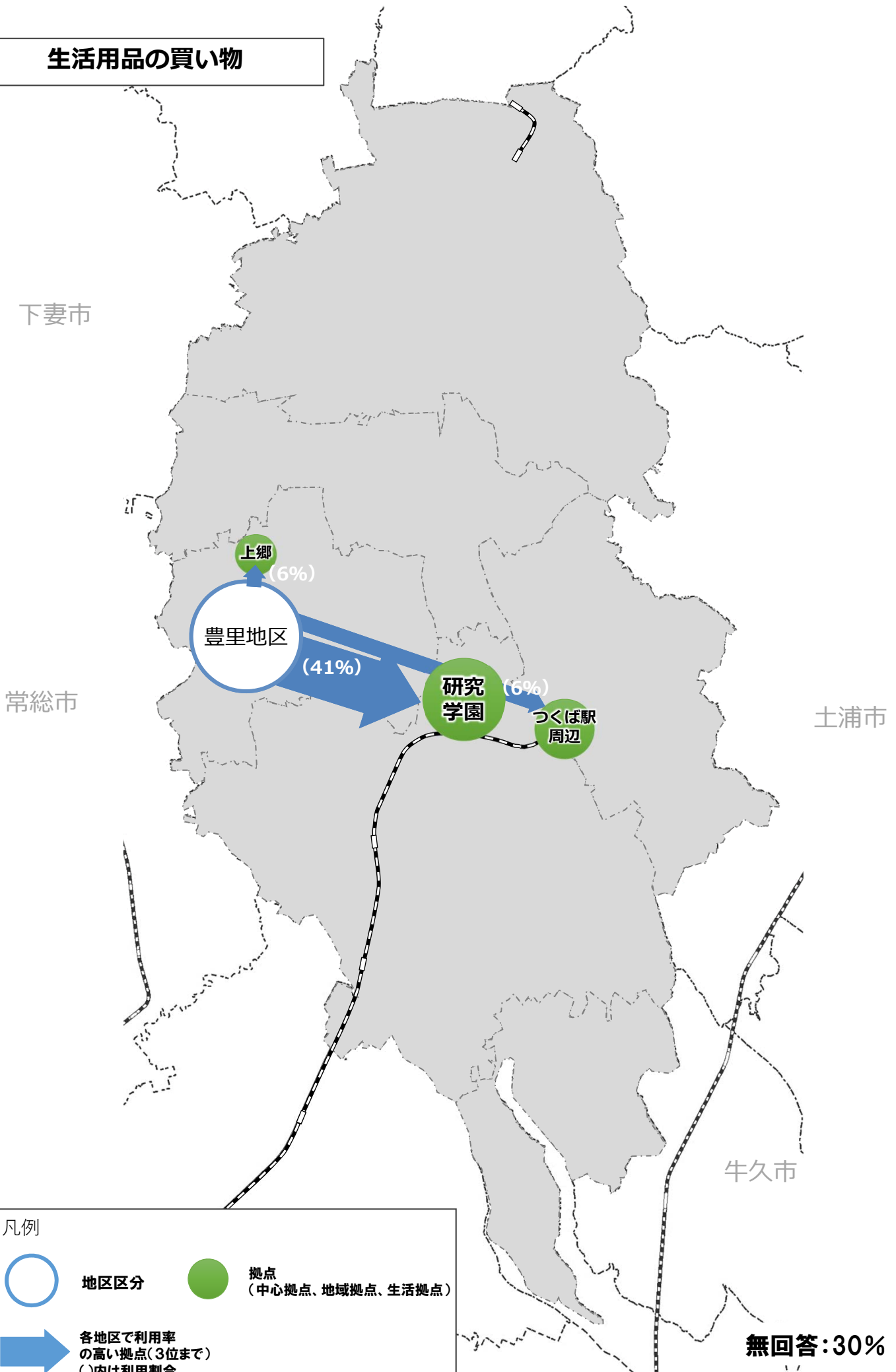
医療期間（病院、診療所）



食料品の買い物



生活用品の買い物



凡例



地区区分

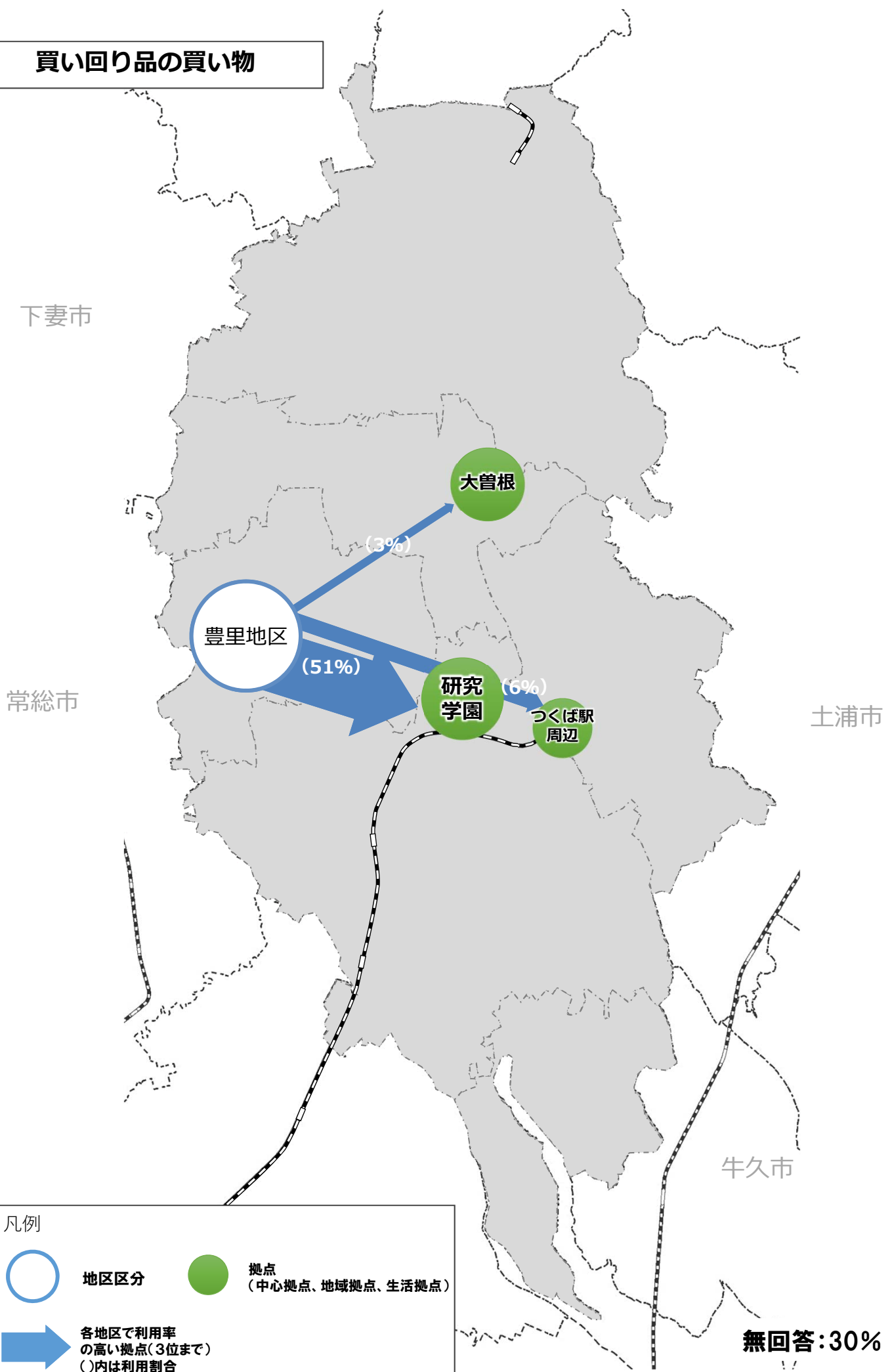


拠点
(中心拠点、地域拠点、生活拠点)

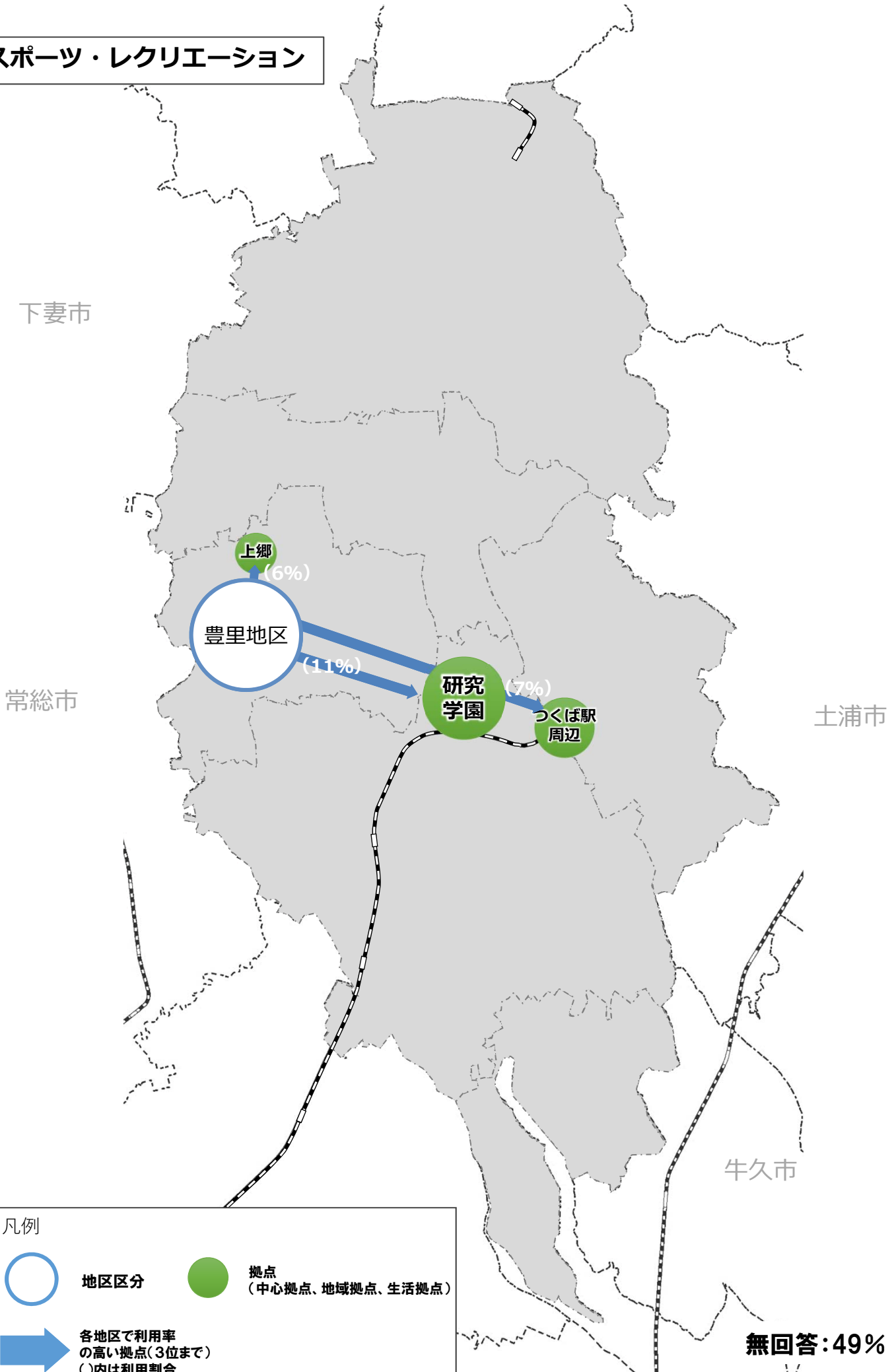


各地区で利用率
の高い拠点(3位まで)
()内は利用割合

買い回り品の買い物



スポーツ・レクリエーション

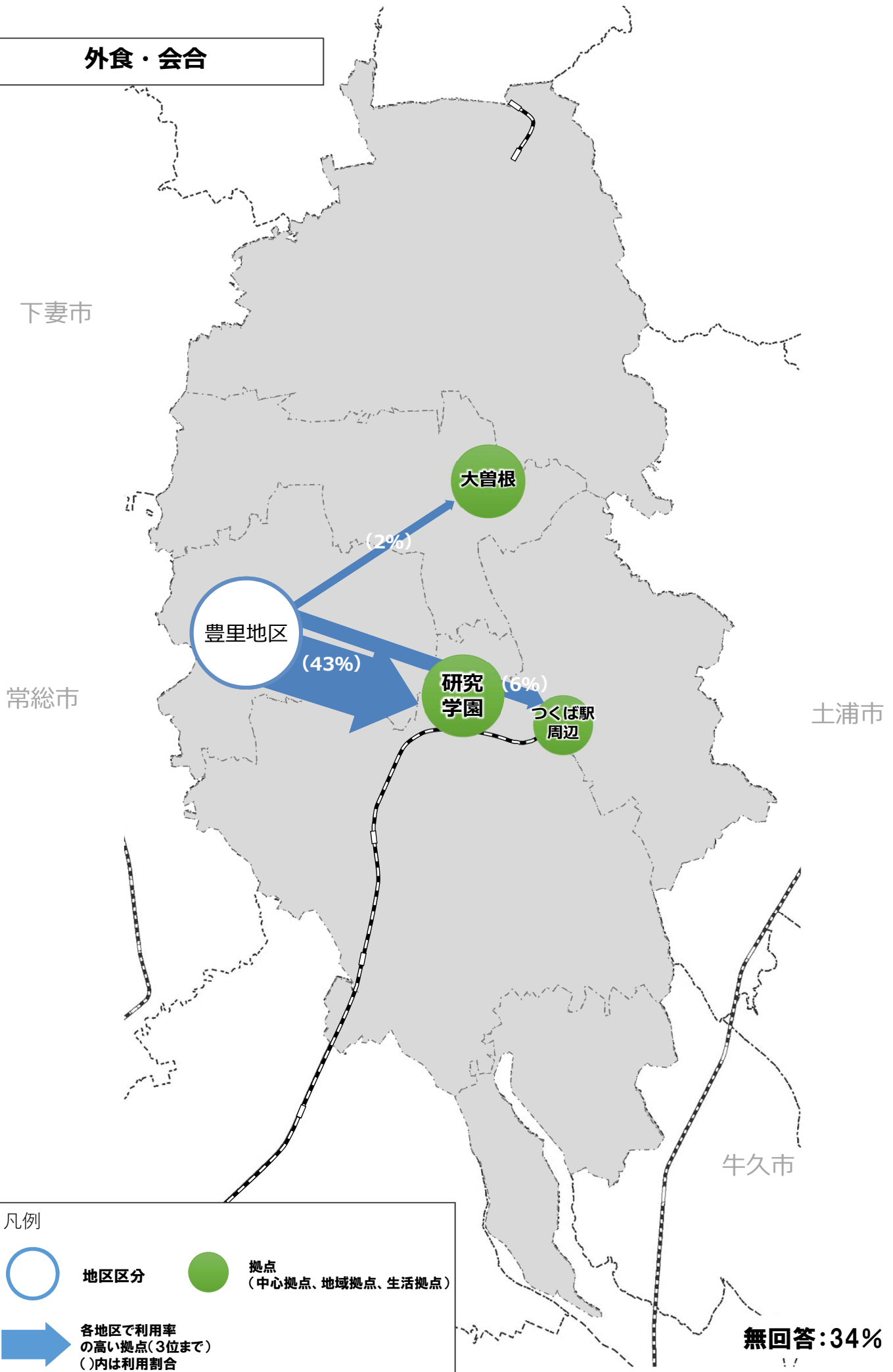


凡例

- 地区区分
- 拠点
(中心拠点、地域拠点、生活拠点)
- 各地区で利用率の高い拠点(3位まで)
()内は利用割合

無回答:49%

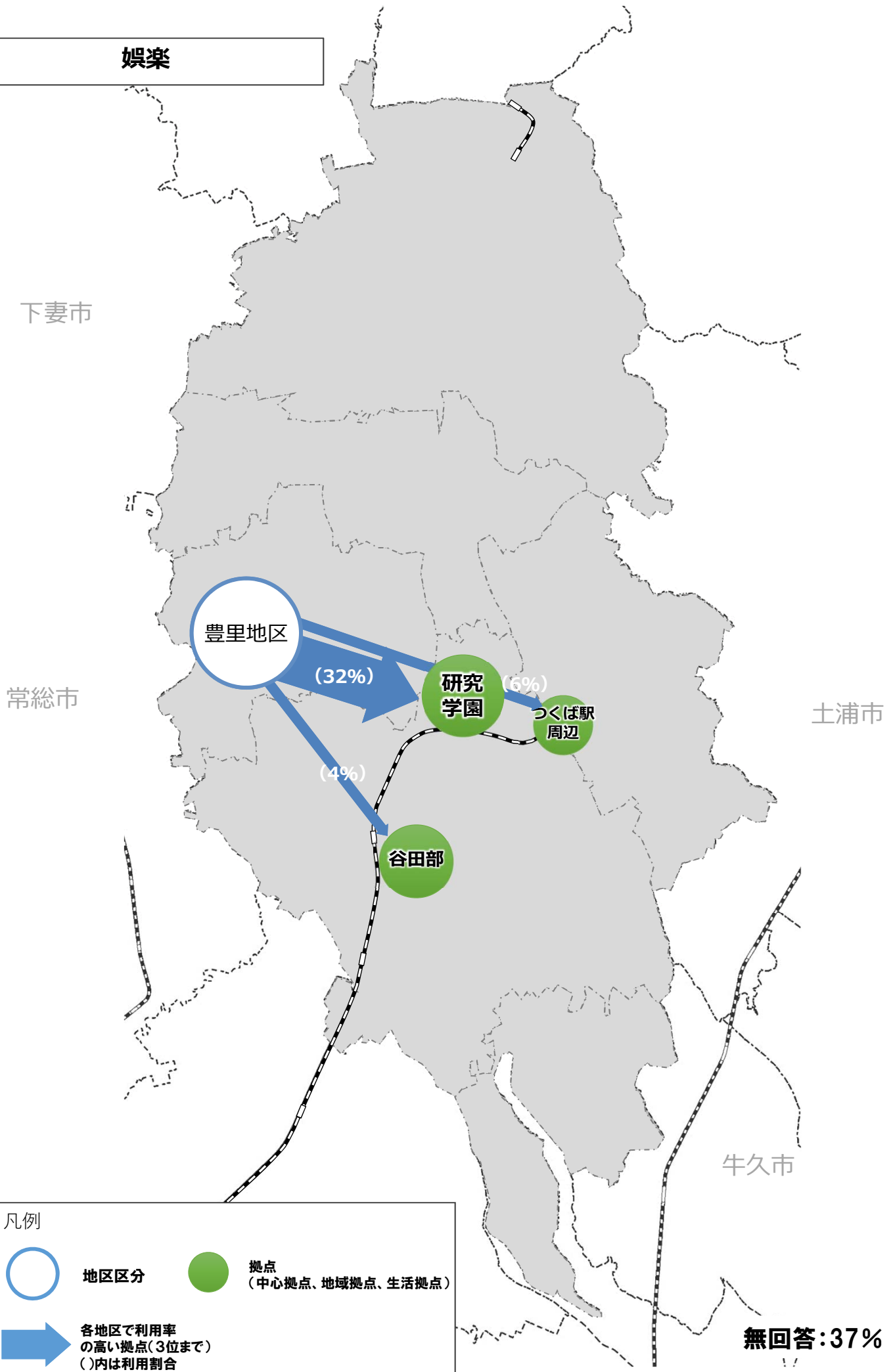
外食・会合



凡例

- 地区区分
- 拠点 (中心拠点、地域拠点、生活拠点)
- ➡ 各地区で利用率の高い拠点(3位まで) ()内は利用割合

娯楽

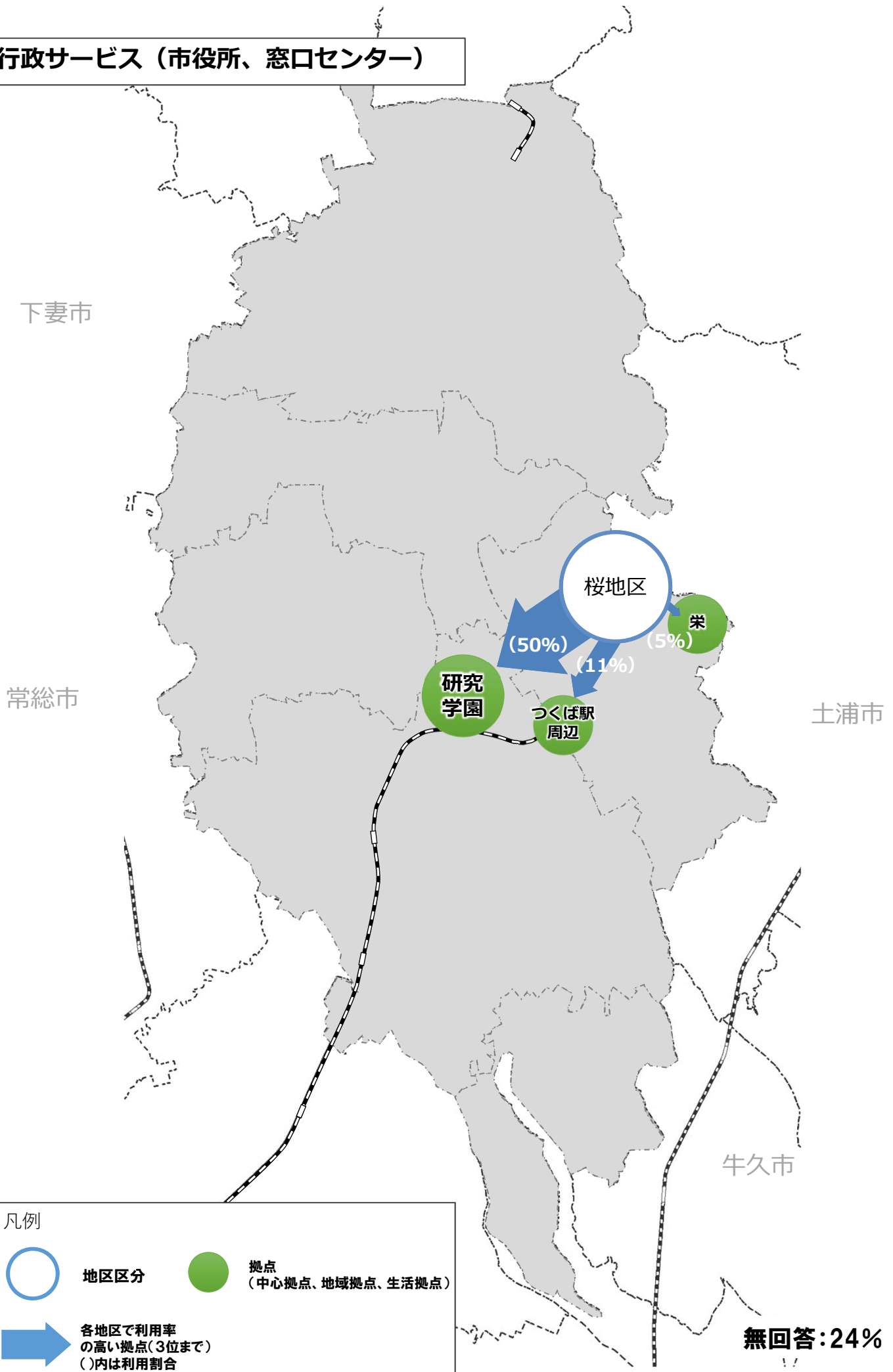


凡例

- 地区区分
- 拠点 (中心拠点、地域拠点、生活拠点)
- 各地区で利用率の高い拠点(3位まで) ()内は利用割合

無回答:37%

行政サービス（市役所、窓口センター）

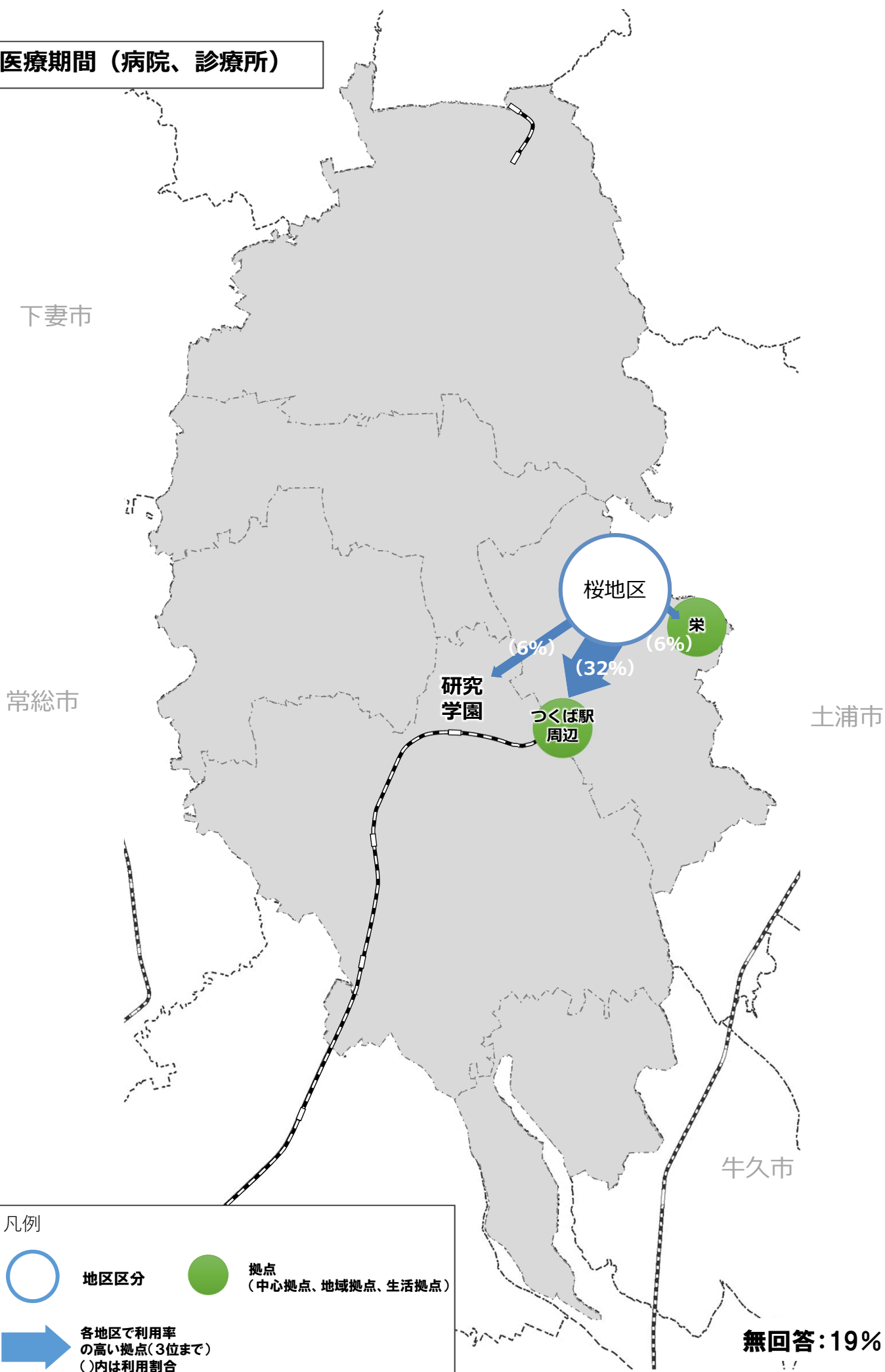


凡例

- 地区区分
- 拠点 (中心拠点、地域拠点、生活拠点)
- 各地区で利用率の高い拠点(3位まで) ()内は利用割合

無回答:24%

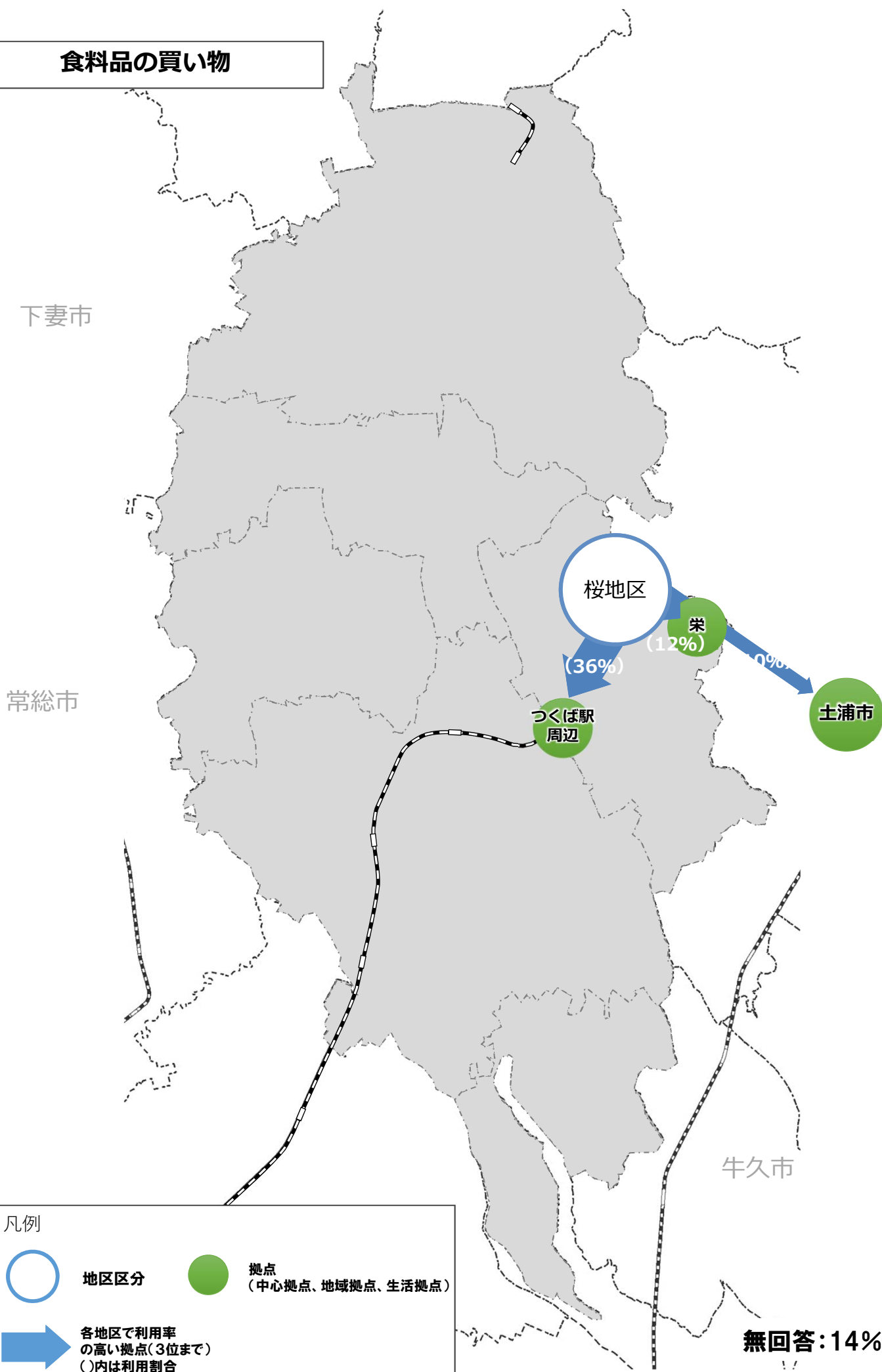
医療期間（病院、診療所）



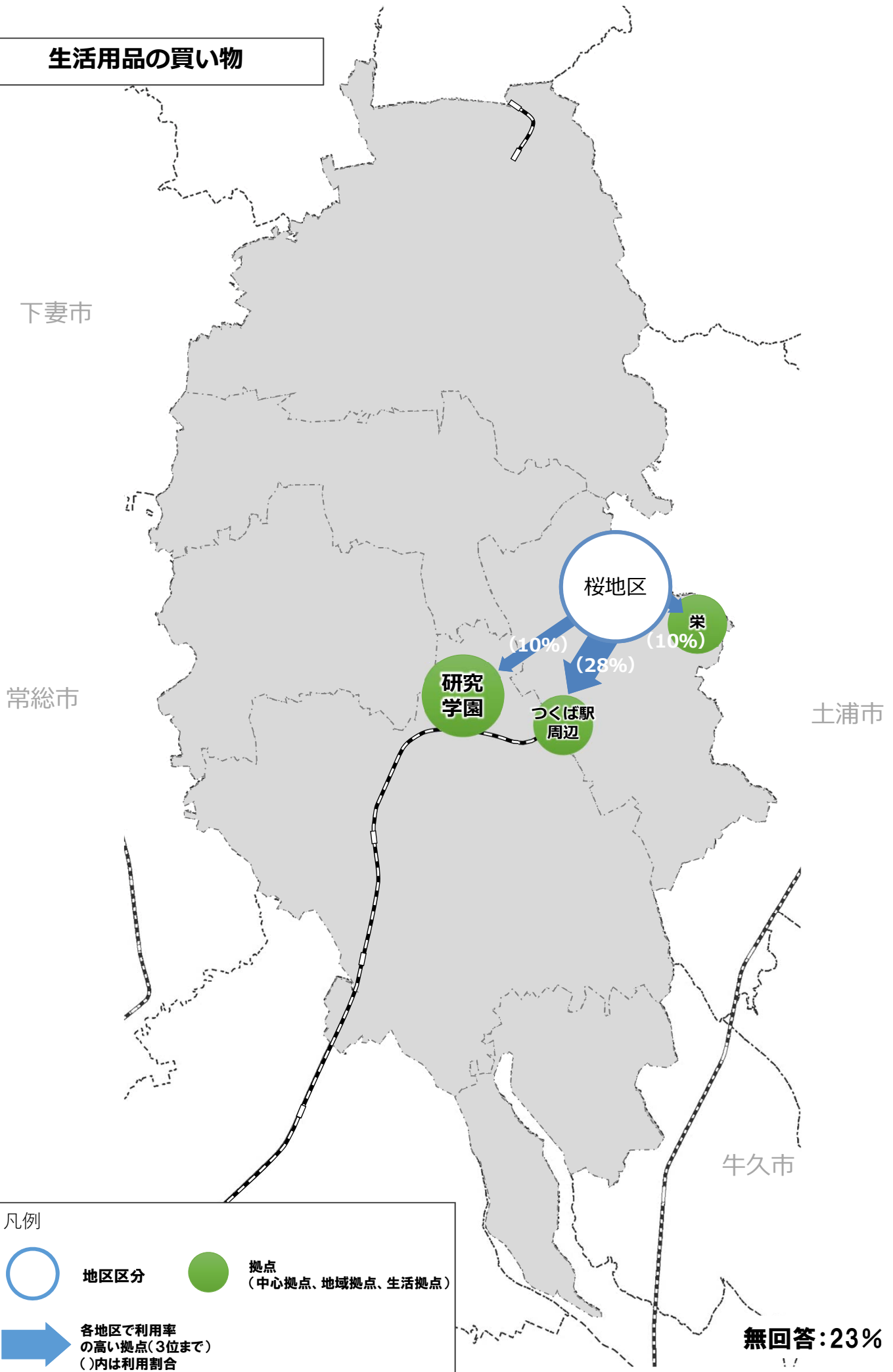
凡例

- 地区区分
- 拠点 (中心拠点、地域拠点、生活拠点)
- ➡ 各地区で利用率の高い拠点(3位まで) ()内は利用割合

食料品の買い物



生活用品の買い物

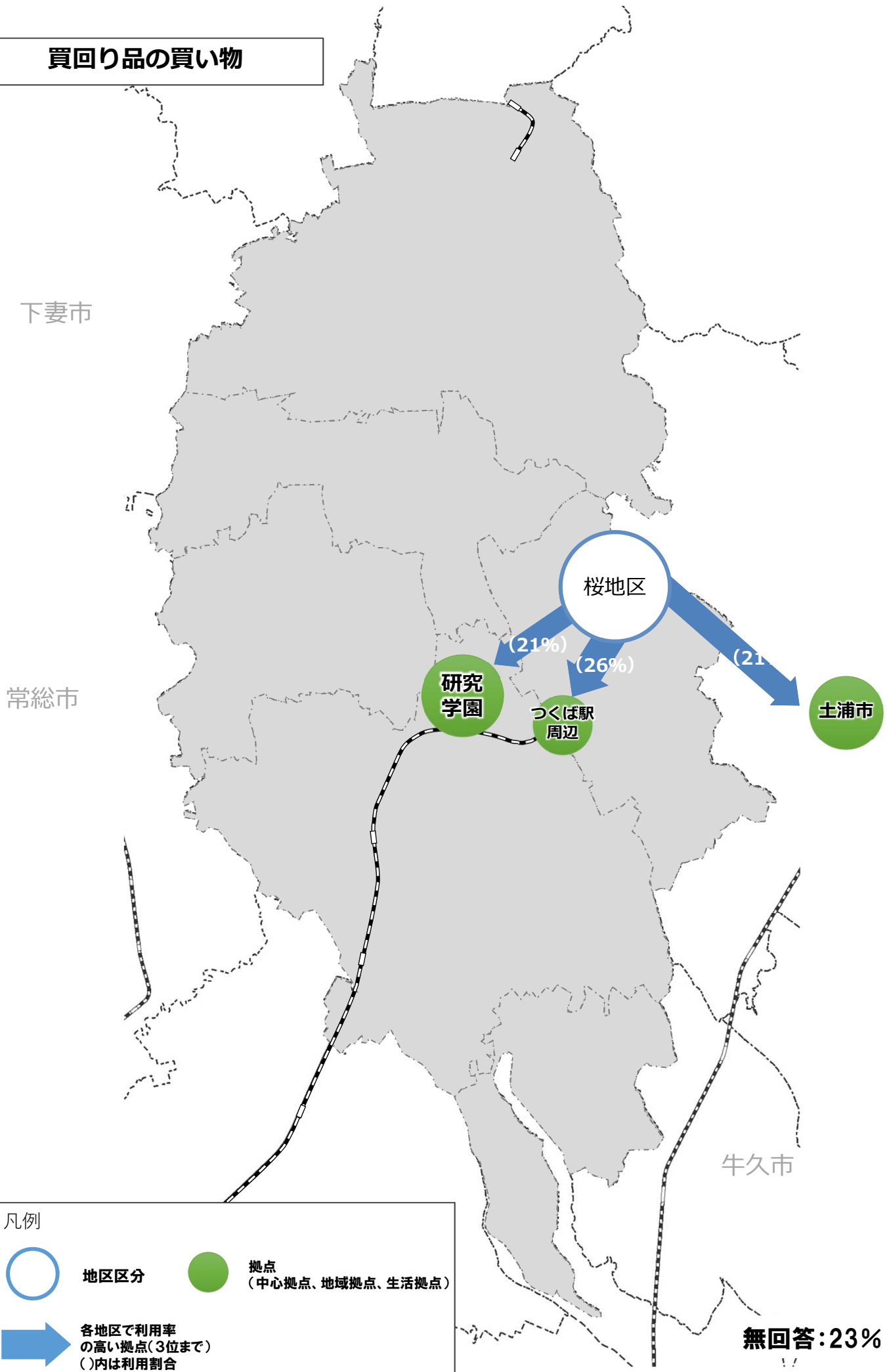


凡例

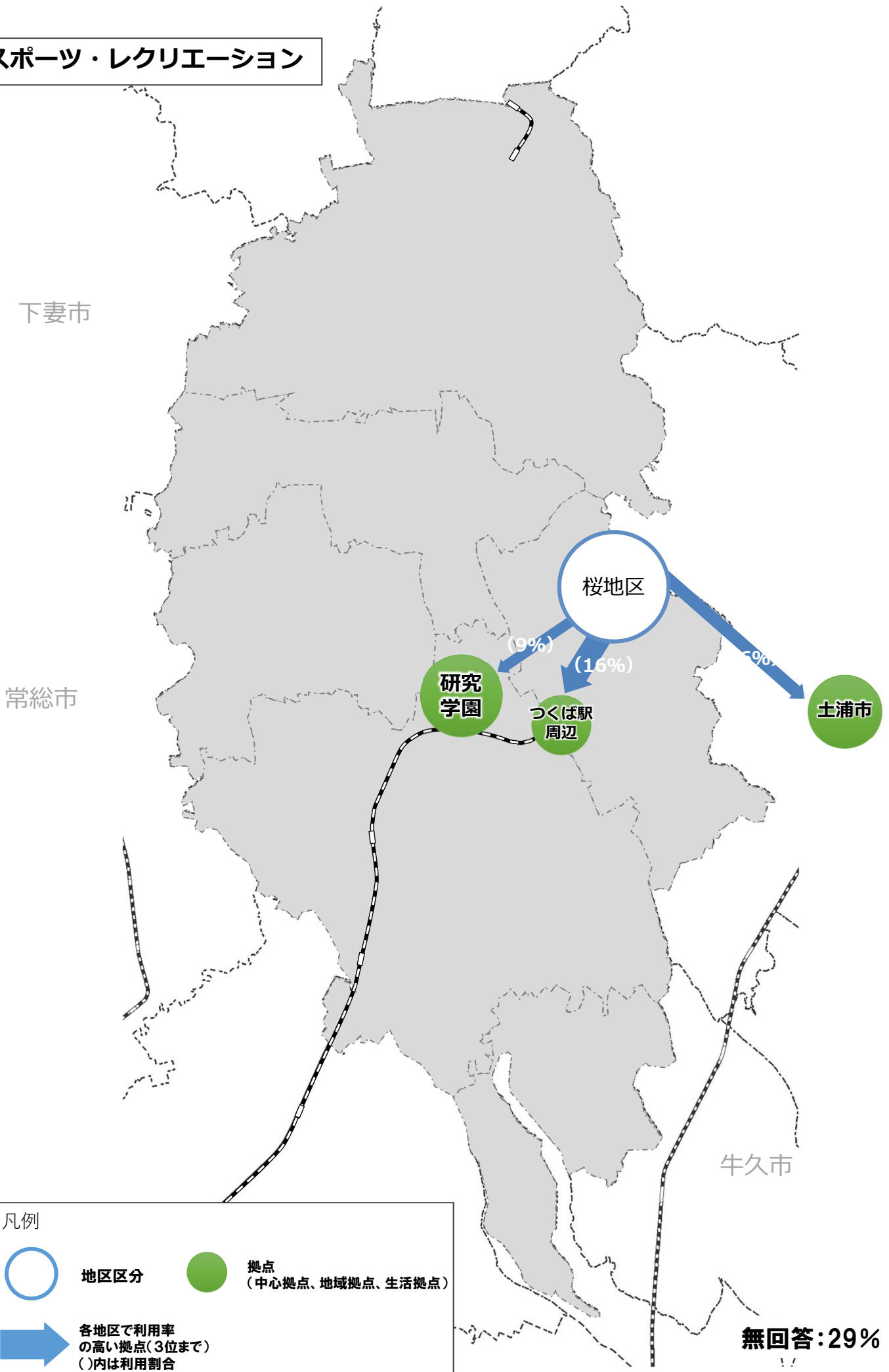
- 地区区分
- 拠点 (中心拠点、地域拠点、生活拠点)
- ➡ 各地区で利用率の高い拠点(3位まで) ()内は利用割合

無回答:23%

買回り品の買い物



スポーツ・レクリエーション

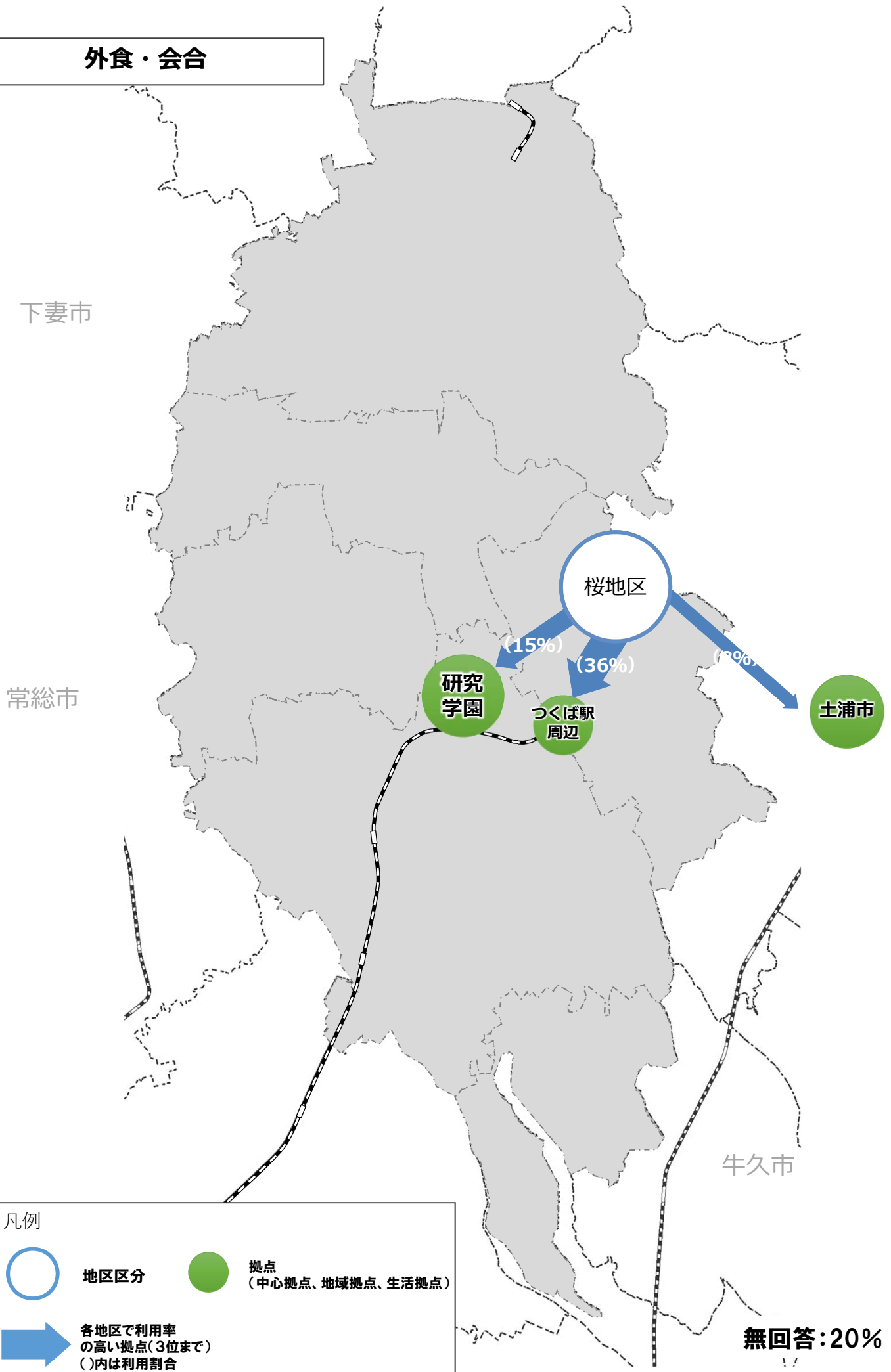


凡例

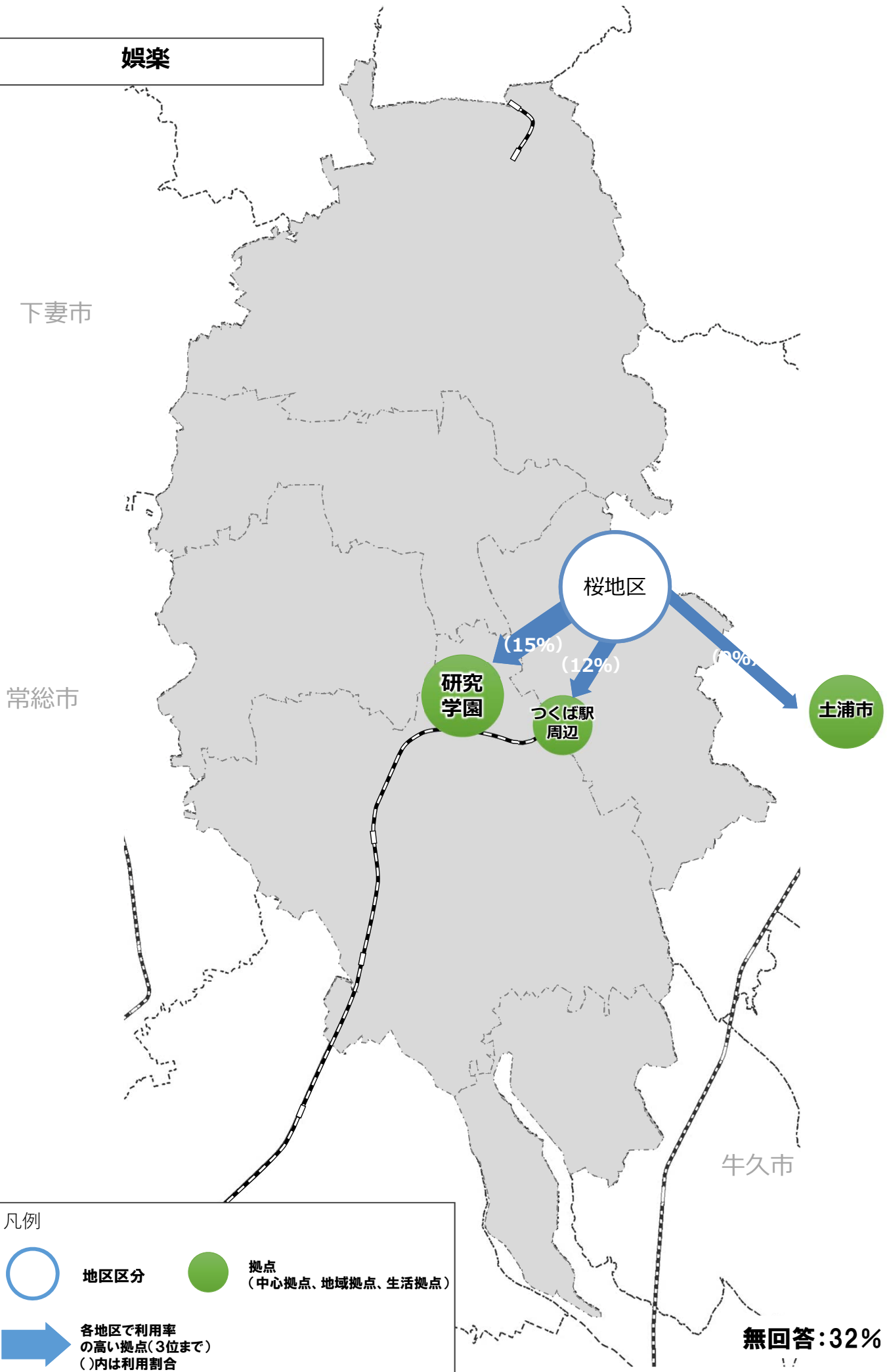
- 地区区分 (District)
- 拠点 (中心拠点、地域拠点、生活拠点) (Hub: Center, Regional, Life)
- 各地区で利用率の高い拠点(3位まで) ()内は利用割合 (Top 3 hubs in each district, utilization rate in parentheses)

無回答:29%

外食・会合



娯楽



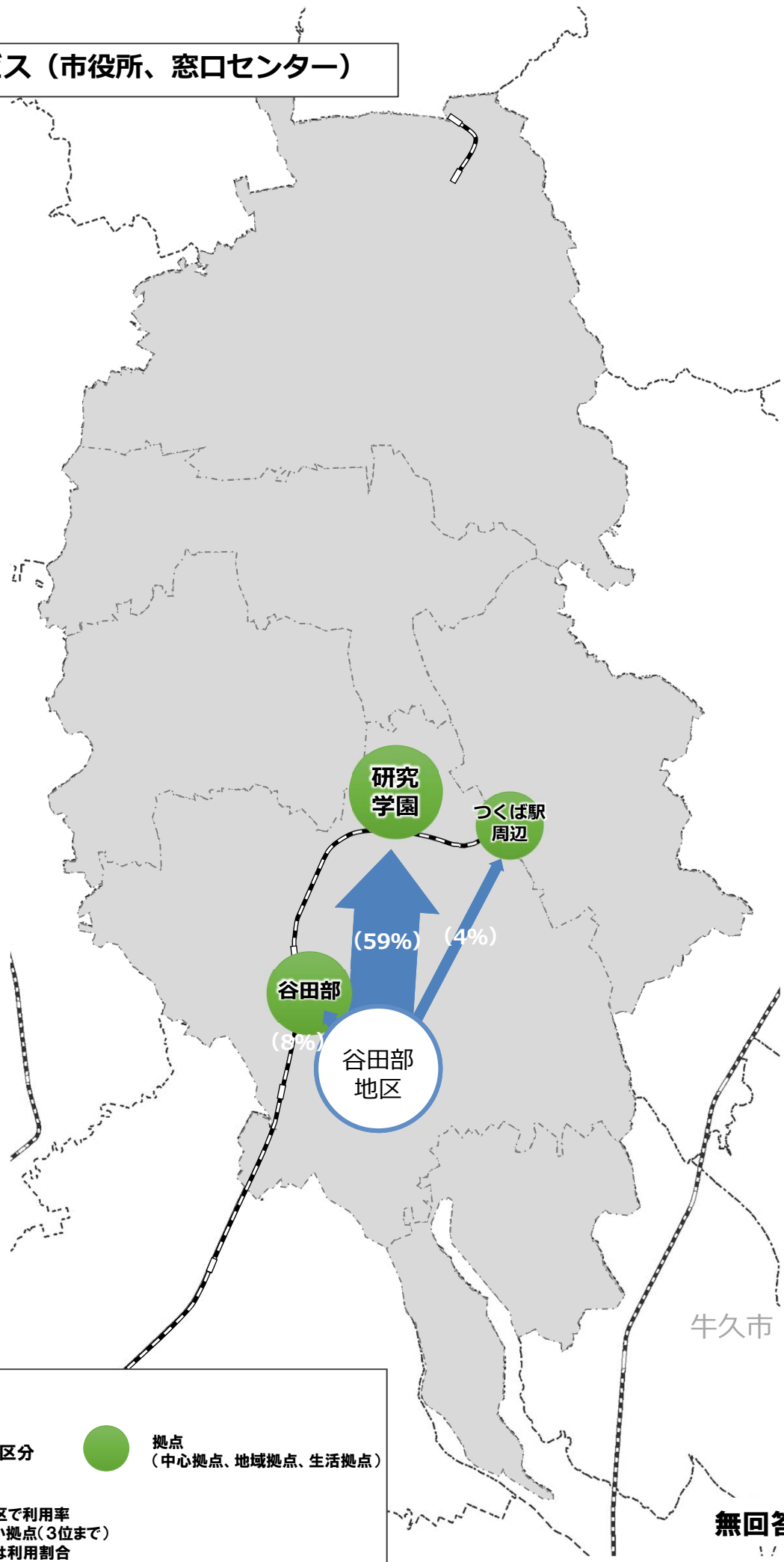
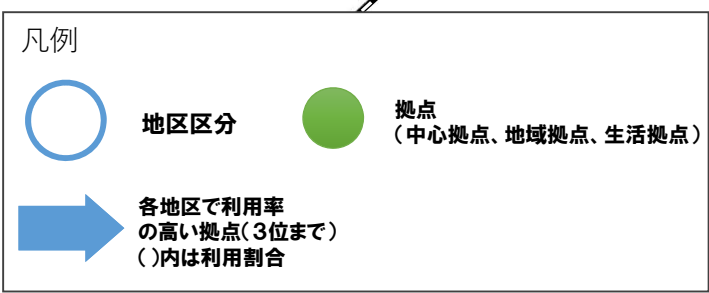
行政サービス（市役所、窓口センター）

下妻市

常総市

土浦市

牛久市



無回答:26%

医療期間（病院、診療所）

下妻市

常総市

土浦市

牛久市

研究学園

つくば駅
周辺

谷田部

谷田部
地区

(9%) (18%)

(25%)

凡例



地区区分



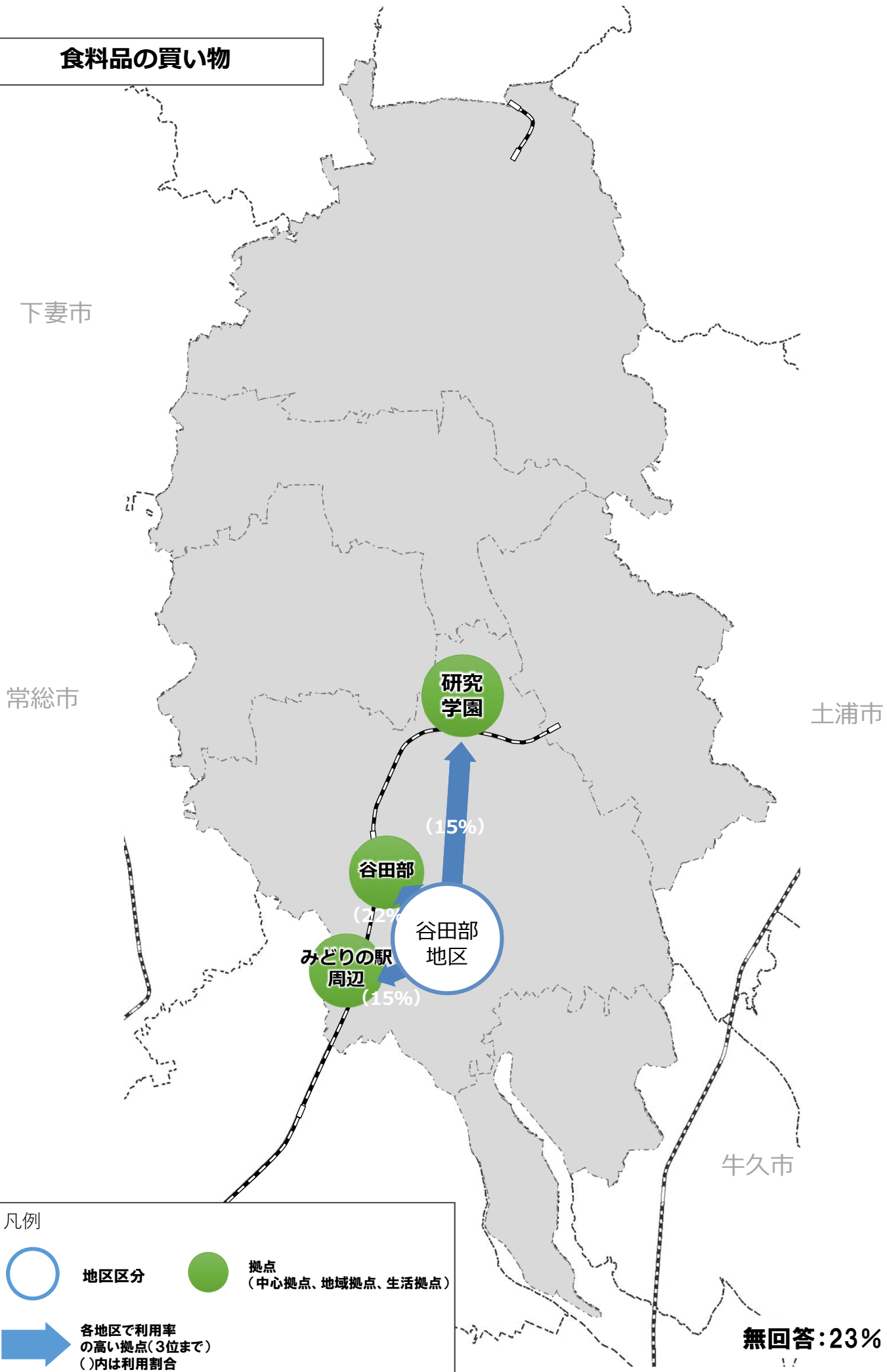
拠点
(中心拠点、地域拠点、生活拠点)



各地区で利用率
の高い拠点(3位まで)
()内は利用割合

無回答:20%

食料品の買い物

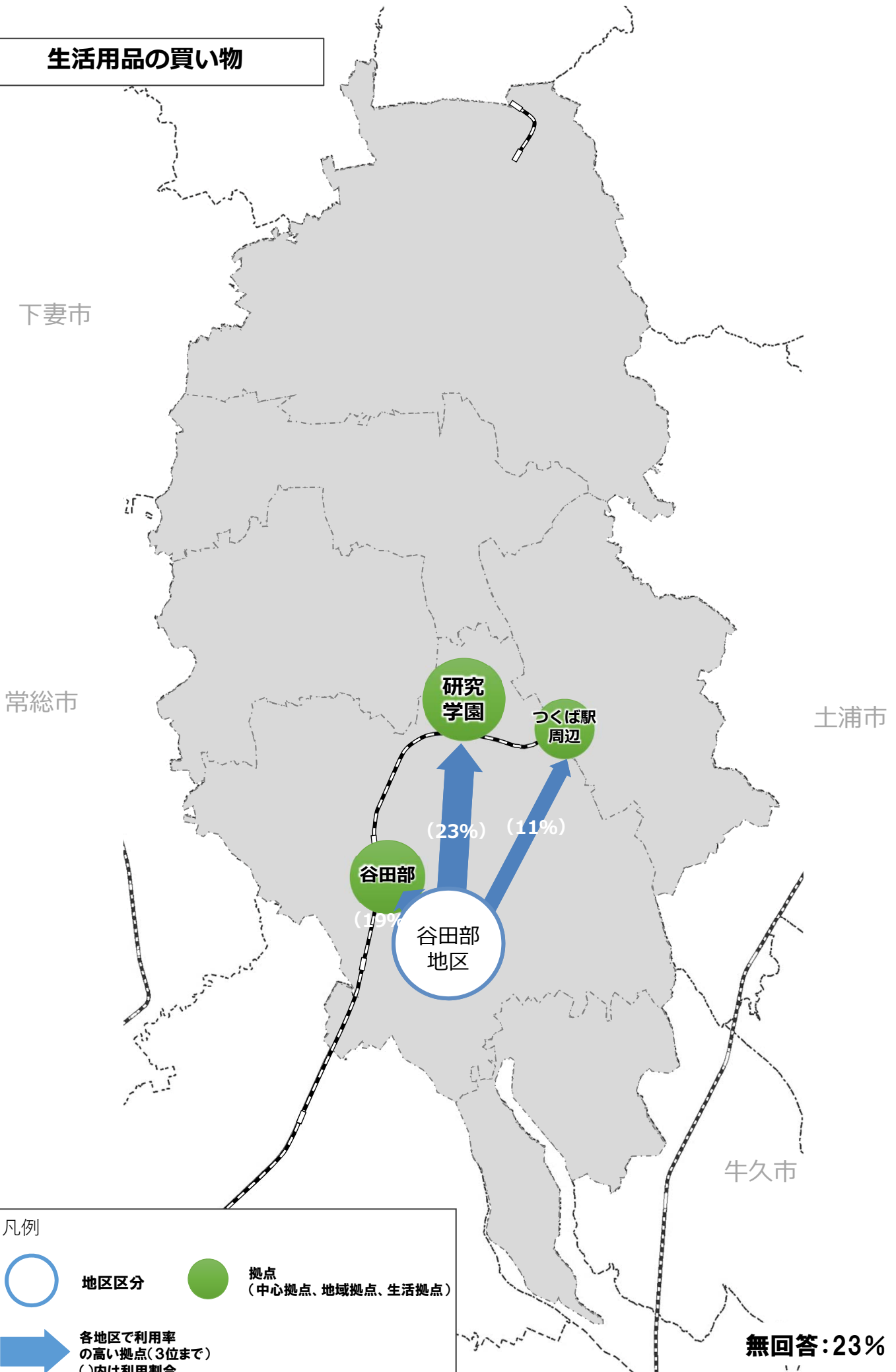


凡例

- 地区区分
- 拠点 (中心拠点、地域拠点、生活拠点)
- ➡ 各地区で利用率の高い拠点(3位まで) ()内は利用割合

無回答:23%

生活用品の買い物

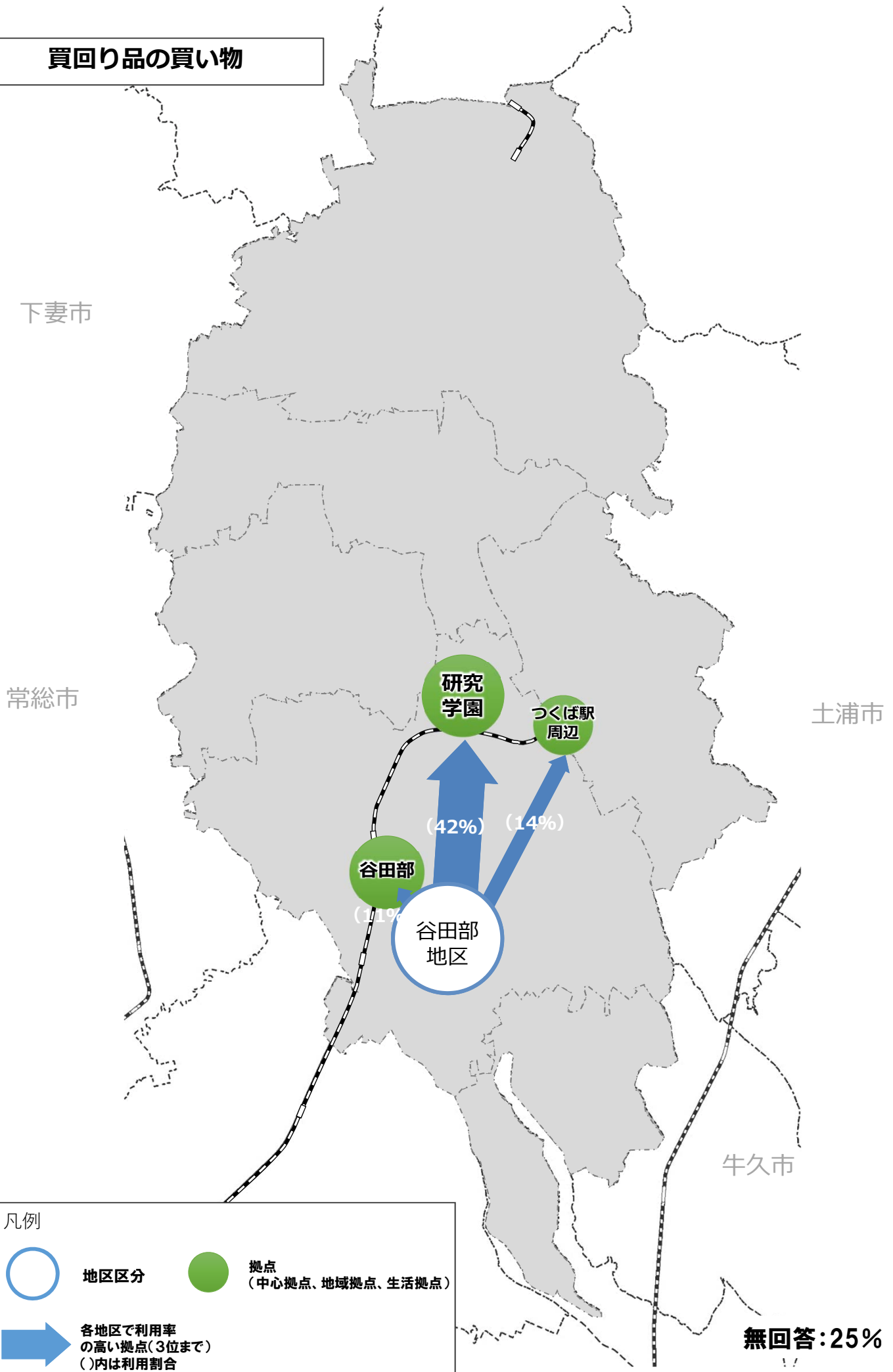


凡例

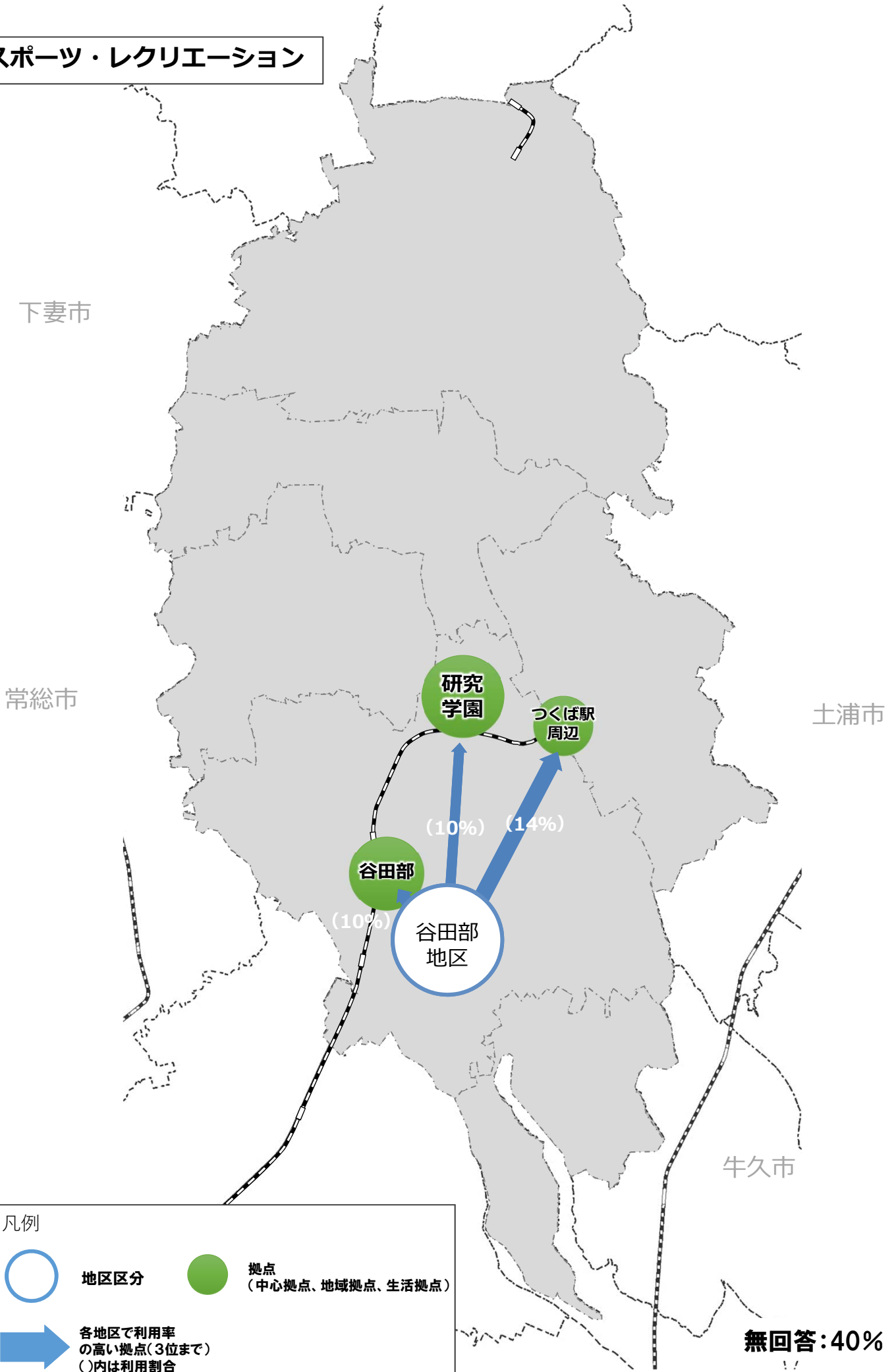
- 地区区分
- 拠点 (中心拠点、地域拠点、生活拠点)
- ➡ 各地区で利用率の高い拠点(3位まで) (内は利用割合)

無回答:23%

買回り品の買い物



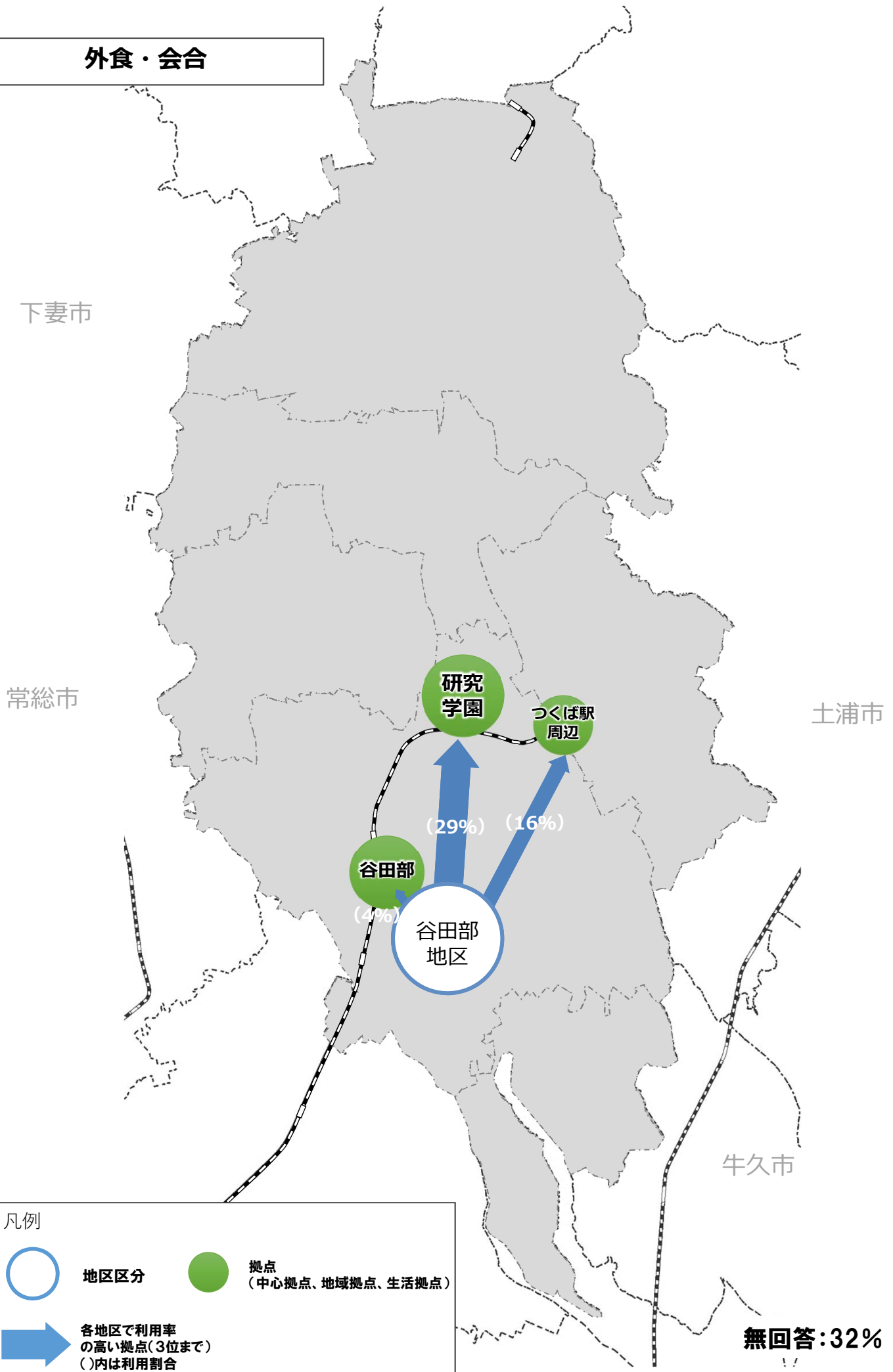
スポーツ・レクリエーション



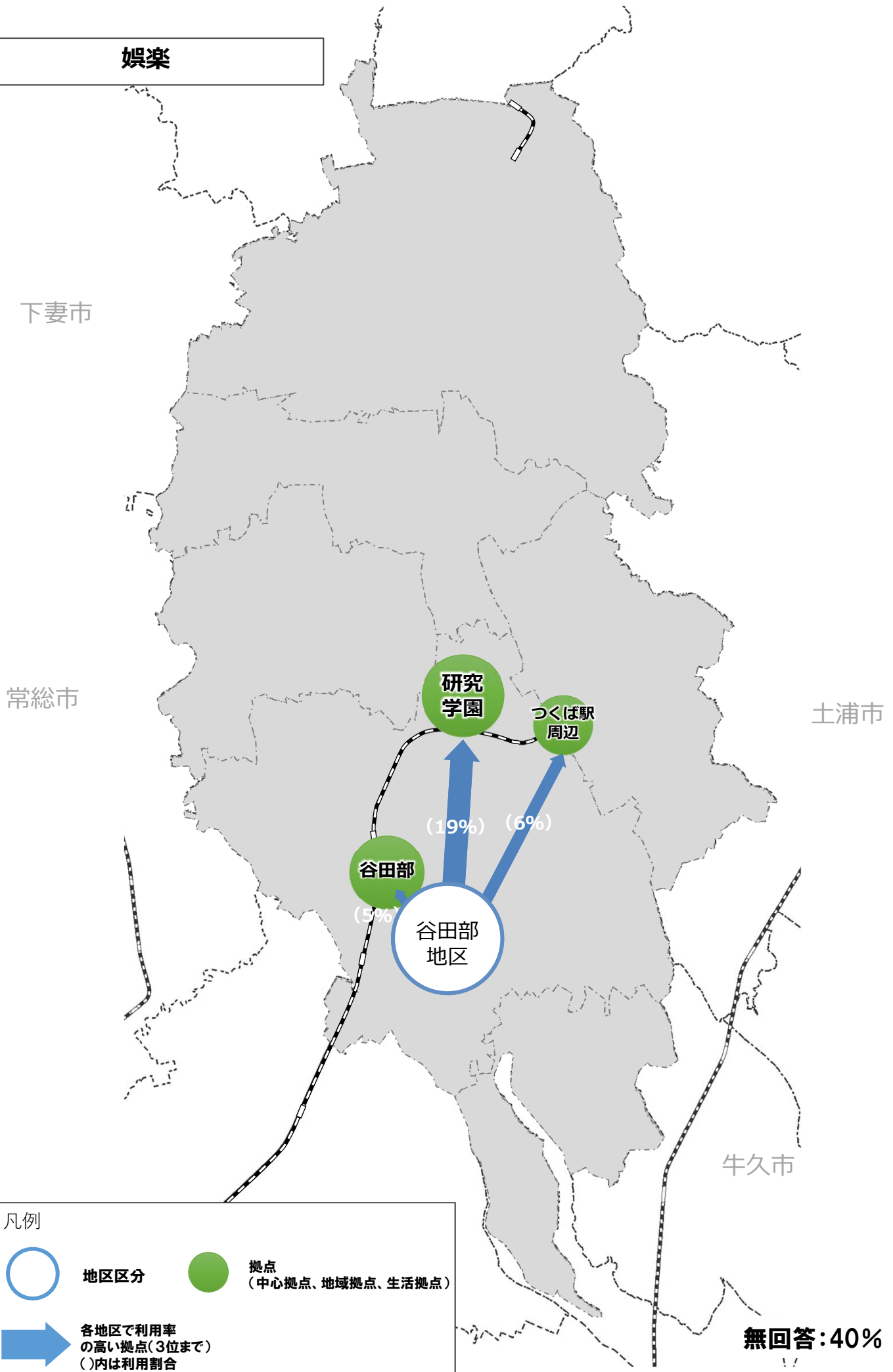
凡例

- 地区区分
- 拠点
(中心拠点、地域拠点、生活拠点)
- 各地区で利用率の高い拠点(3位まで)
()内は利用割合



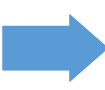
外食・会合



娯楽



凡例

-  地区区分
-  拠点 (中心拠点、地域拠点、生活拠点)
-  各地区で利用率の高い拠点(3位まで) ()内は利用割合

無回答: 40%

行政サービス（市役所、窓口センター）

下妻市

常総市

土浦市

牛久市

研究学園

つくば駅
周辺

高見原

荃崎地区

(25%) (6%)

(8%)

凡例



地区区分



拠点
(中心拠点、地域拠点、生活拠点)



各地区で利用率
の高い拠点(3位まで)
()内は利用割合

無回答:40%

医療期間（病院、診療所）

下妻市

常総市

土浦市

谷田部

(6%)

(12%)

高見原

荃崎地区

(35%)

牛久市

凡例



地区区分



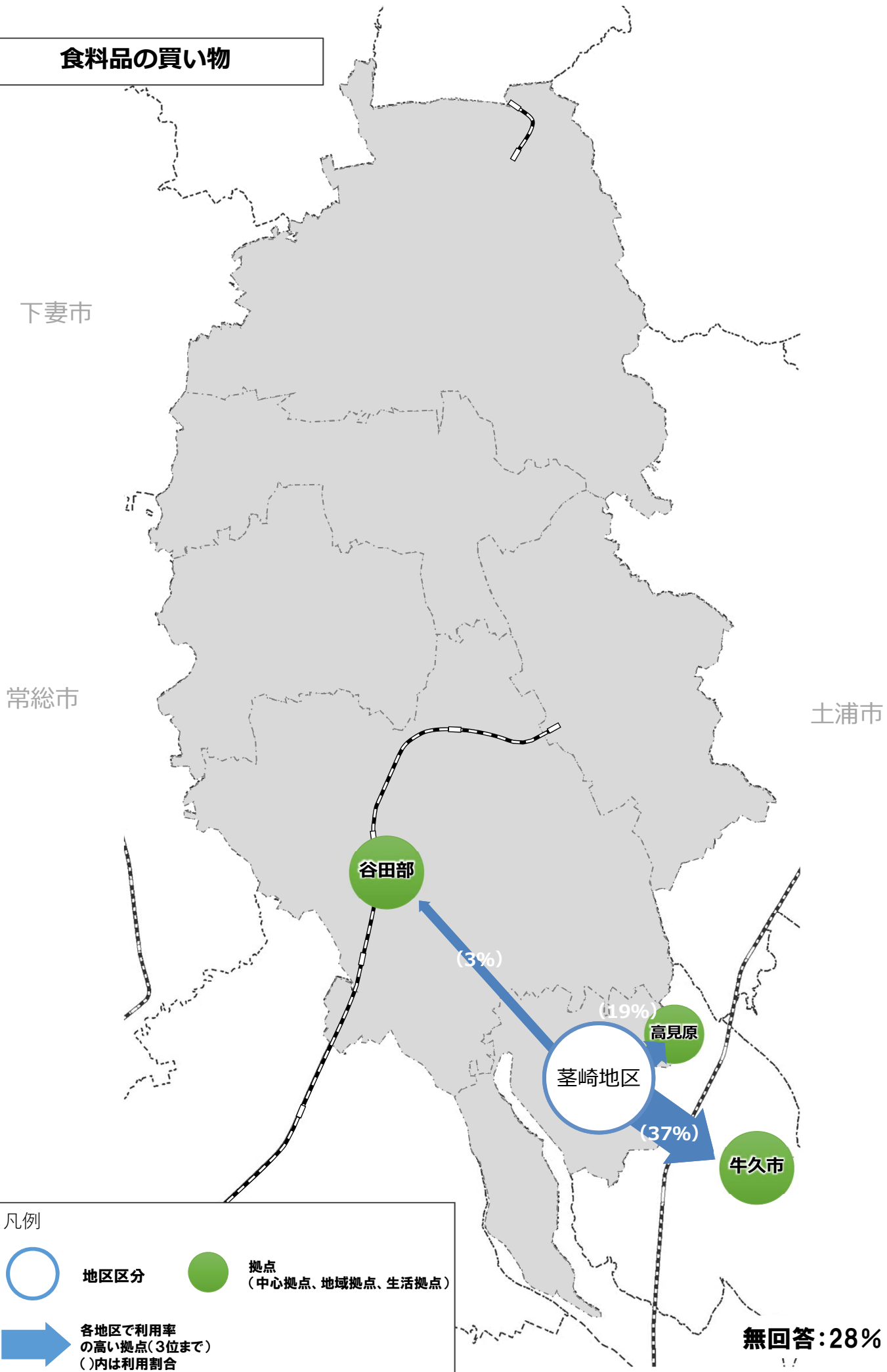
拠点
(中心拠点、地域拠点、生活拠点)



各地区で利用率
の高い拠点(3位まで)
()内は利用割合

無回答:31%

食料品の買い物



凡例

- 地区区分
- 拠点 (中心拠点、地域拠点、生活拠点)
- ➡ 各地区で利用率の高い拠点(3位まで) ()内は利用割合

生活用品の買い物

下妻市

常総市

土浦市

谷田部

(4%)

(19%)

高見原

荻崎地区

(36%)

牛久市

凡例



地区区分



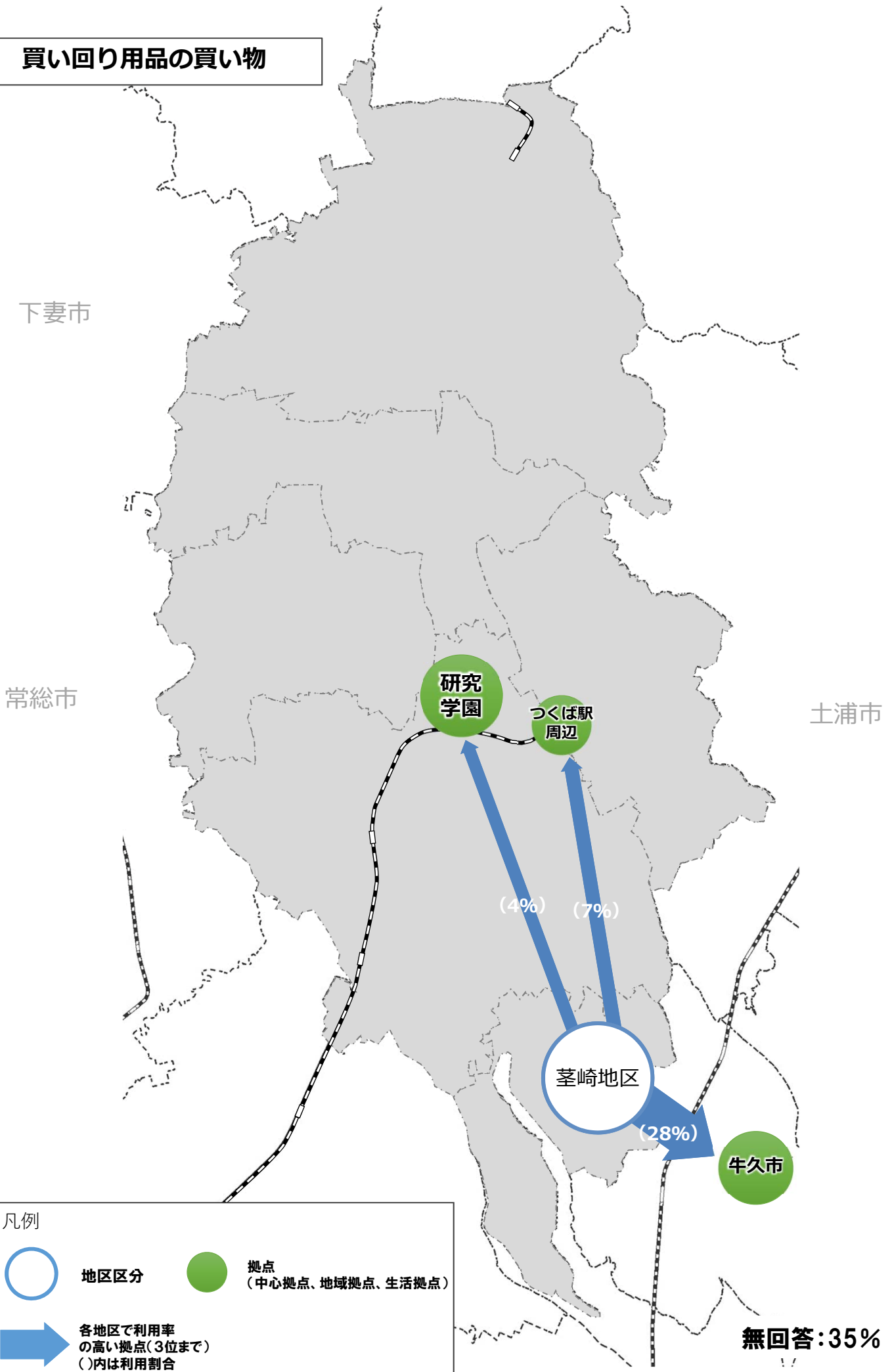
拠点
(中心拠点、地域拠点、生活拠点)



各地区で利用率
の高い拠点(3位まで)
()内は利用割合

無回答:31%

買い回り用品の買い物



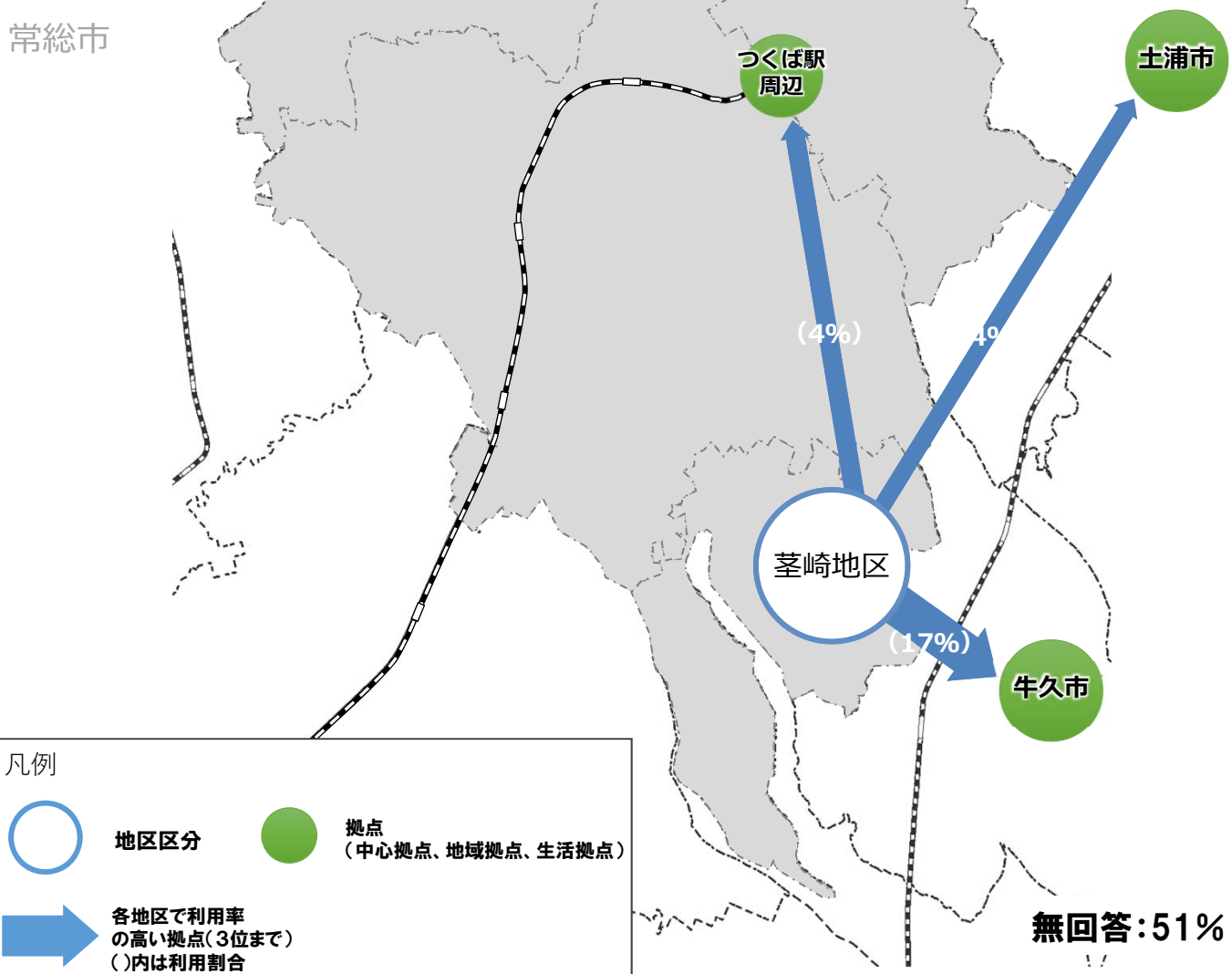
凡例

- 地区区分
- 拠点 (中心拠点、地域拠点、生活拠点)
- ➡ 各地区で利用率の高い拠点(3位まで) ()内は利用割合

スポーツ・レクリエーション

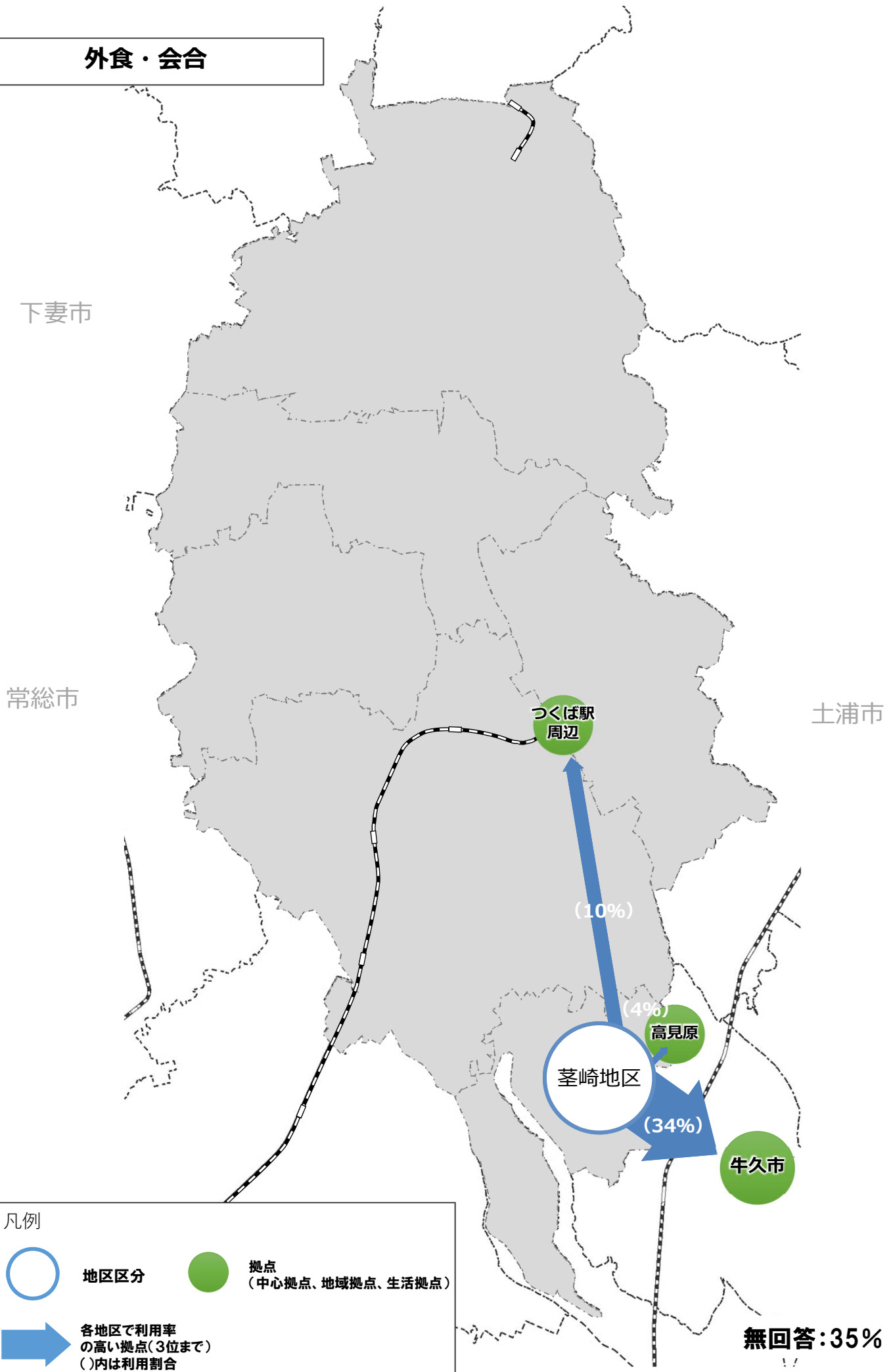
下妻市

常総市



無回答:51%

外食・会合



凡例



地区区分

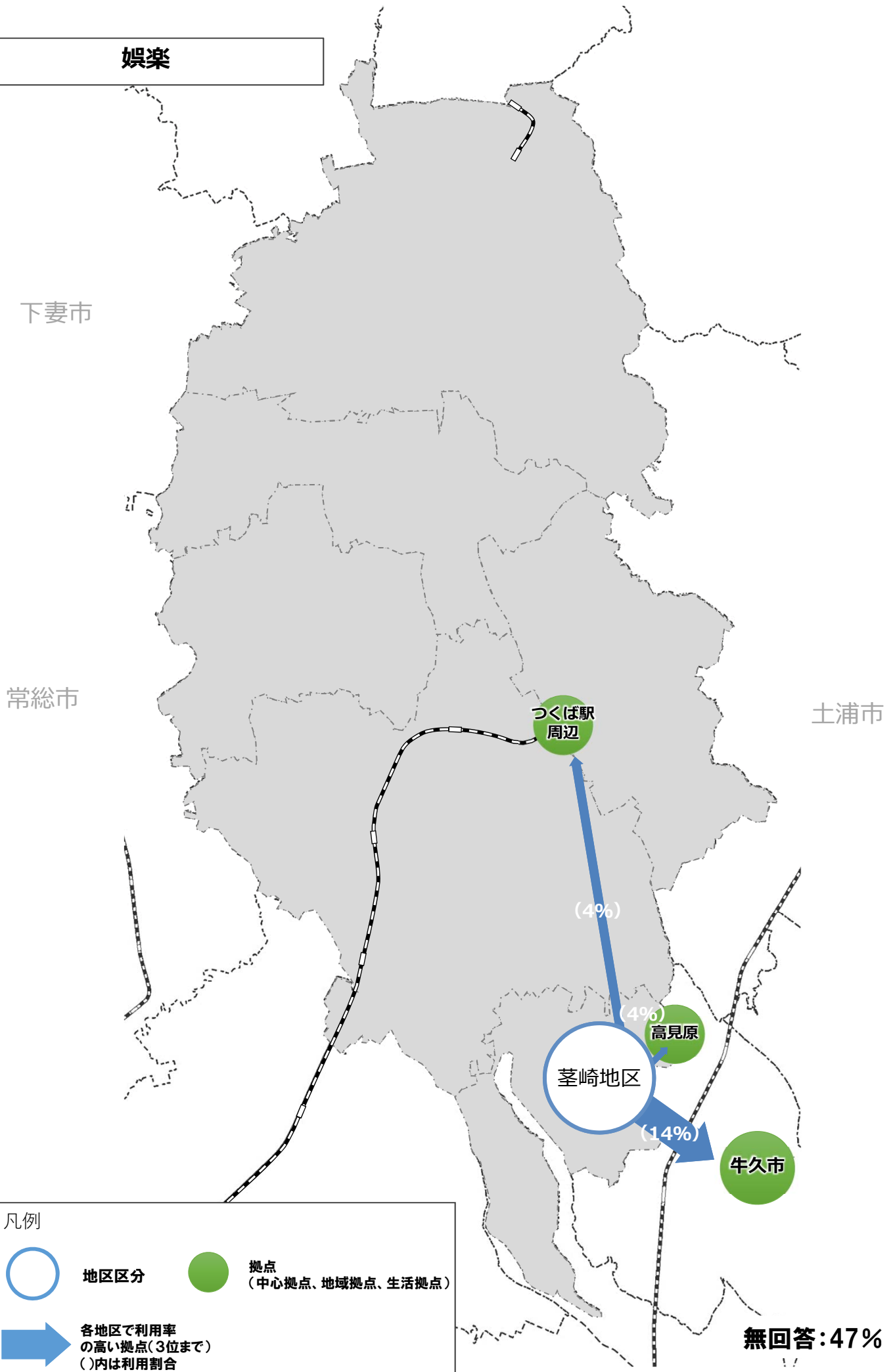


拠点
(中心拠点、地域拠点、生活拠点)

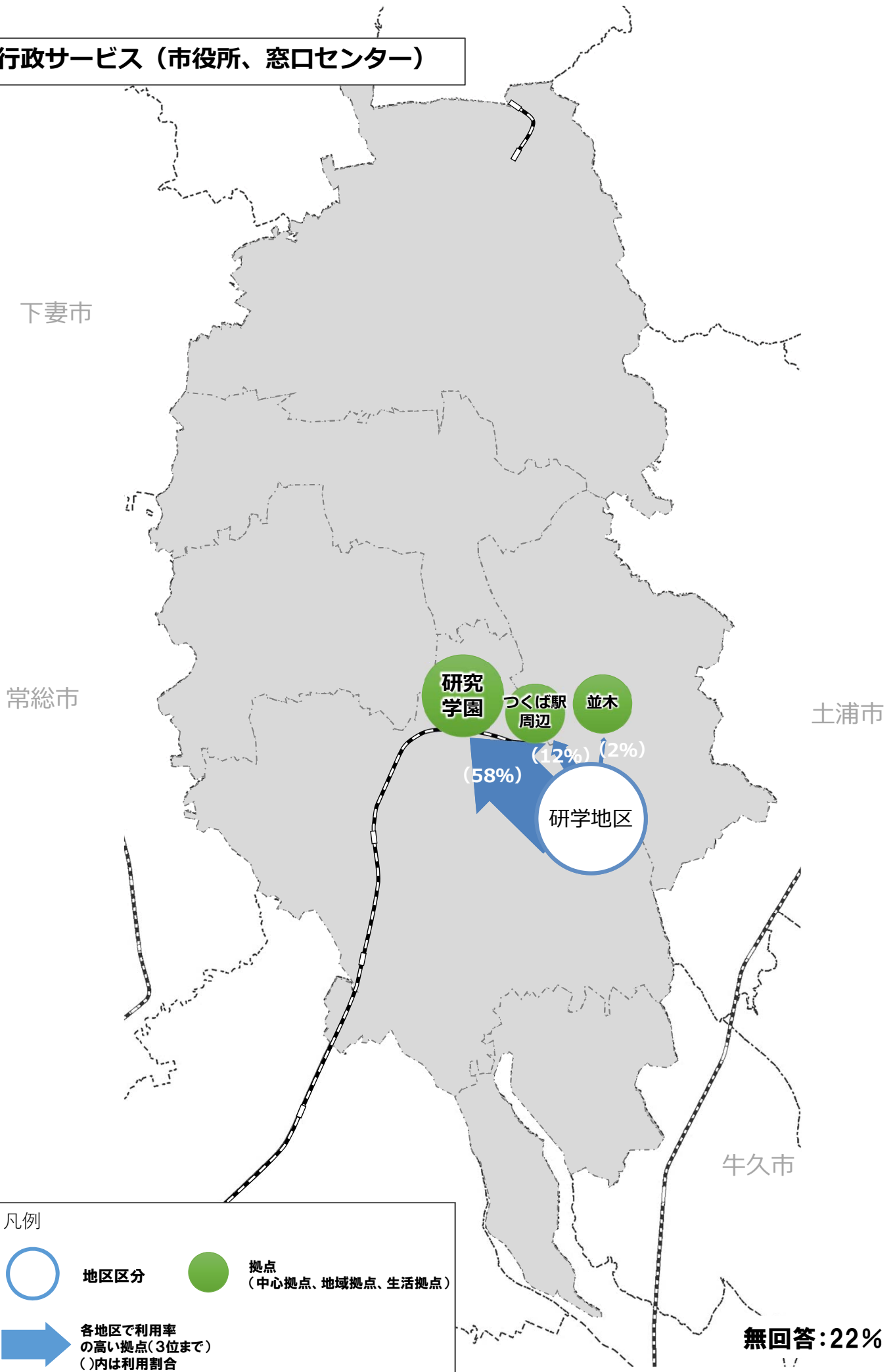


各地区で利用率
の高い拠点(3位まで)
()内は利用割合

娯楽



行政サービス（市役所、窓口センター）



凡例

- 地区区分
- 拠点 (中心拠点、地域拠点、生活拠点)
- ➡ 各地区で利用率の高い拠点(3位まで) ()内は利用割合

無回答:22%

医療期間（病院、診療所）

下妻市

常総市

土浦市

牛久市

谷田部

松代

つくば駅
周辺

研学地区

(38%)

(6%)

(10%)

凡例



地区区分



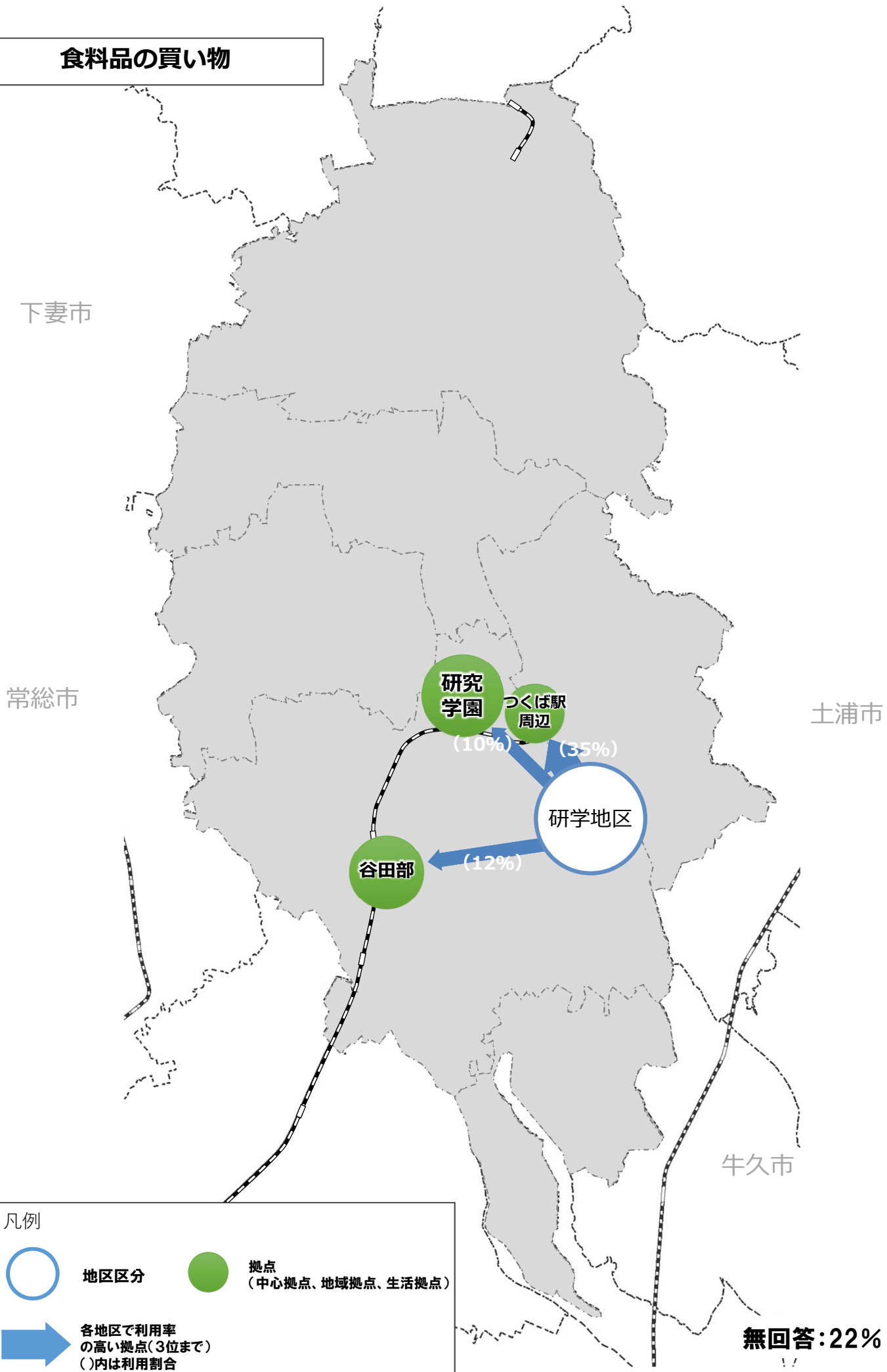
拠点
(中心拠点、地域拠点、生活拠点)



各地区で利用率
の高い拠点(3位まで)
()内は利用割合

無回答:20%

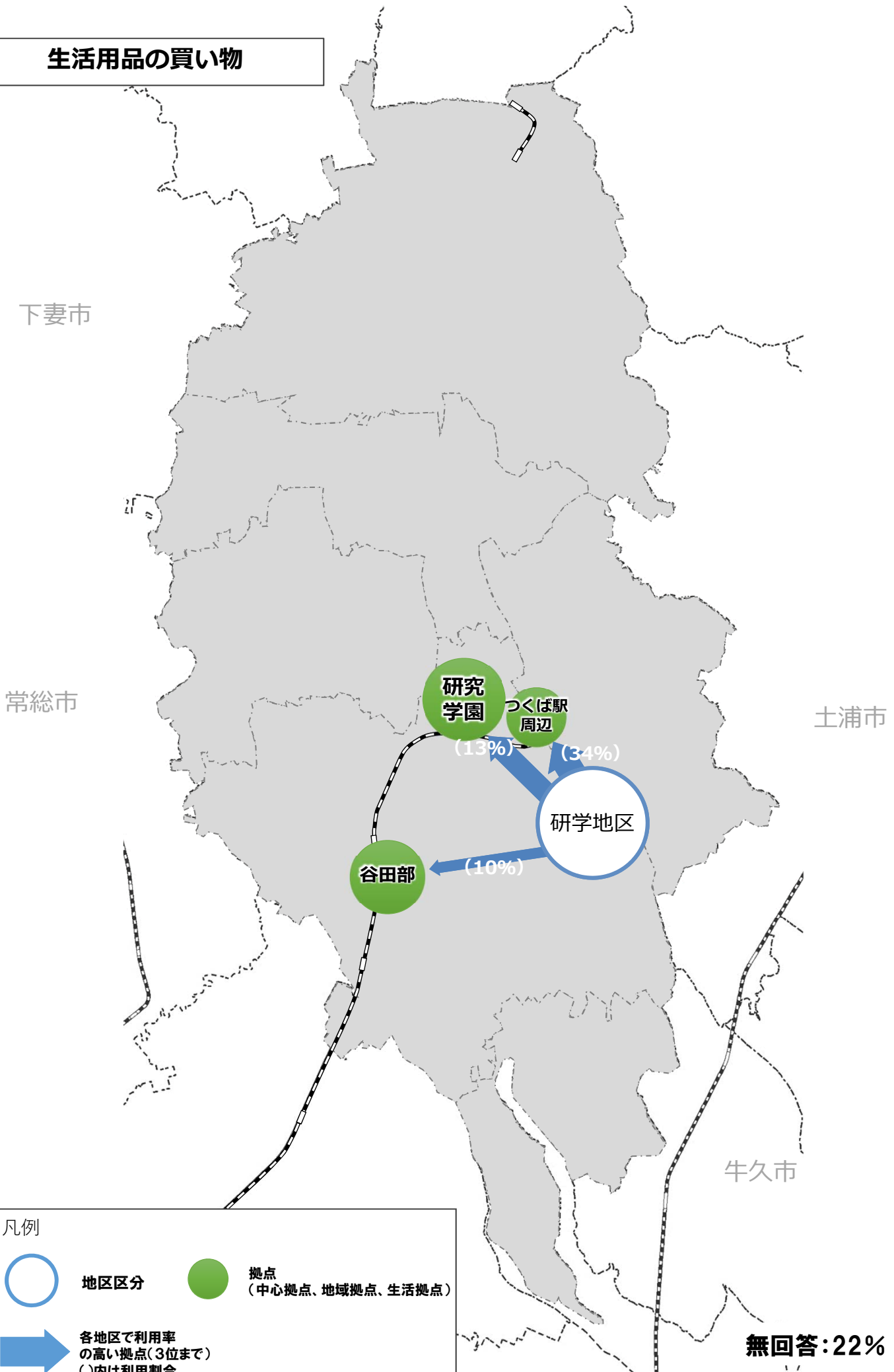
食料品の買い物



凡例

- 地区区分
- 拠点 (中心拠点、地域拠点、生活拠点)
- 各地区で利用率の高い拠点(3位まで) (内は利用割合)

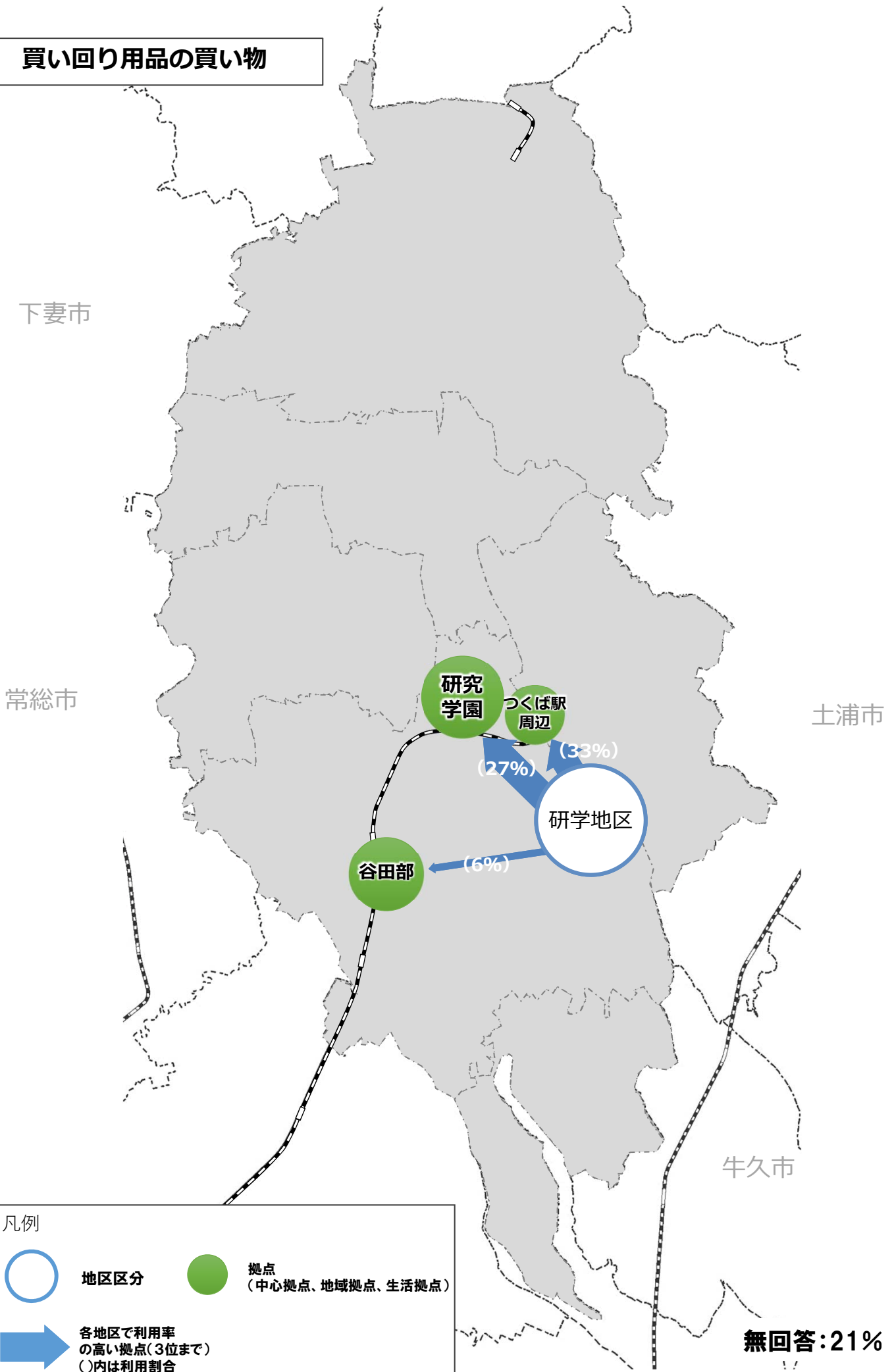
生活用品の買い物



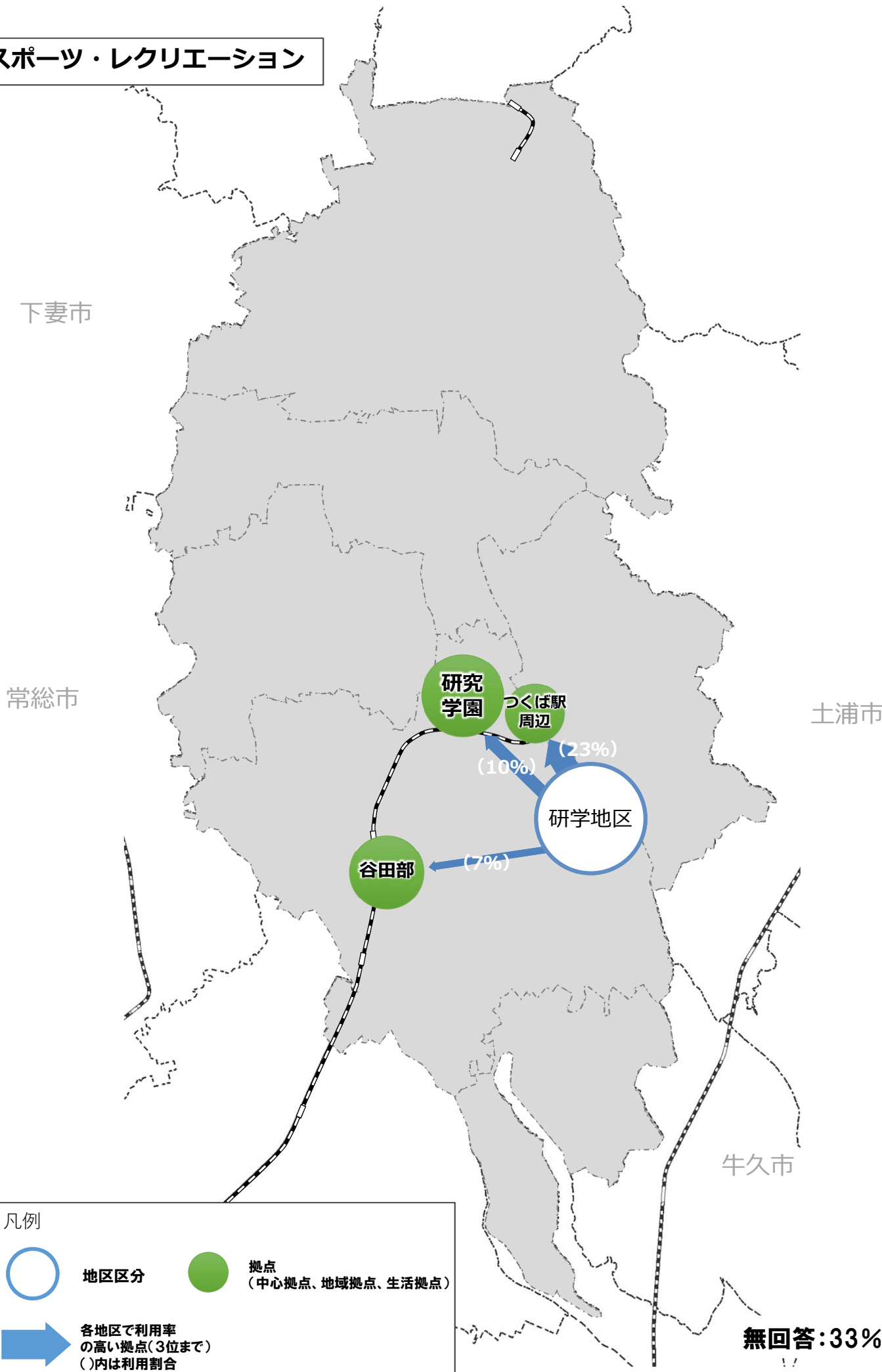
凡例

- 地区区分
- 拠点 (中心拠点、地域拠点、生活拠点)
- ➡ 各地区で利用率の高い拠点(3位まで) ()内は利用割合

買い回り用品の買い物



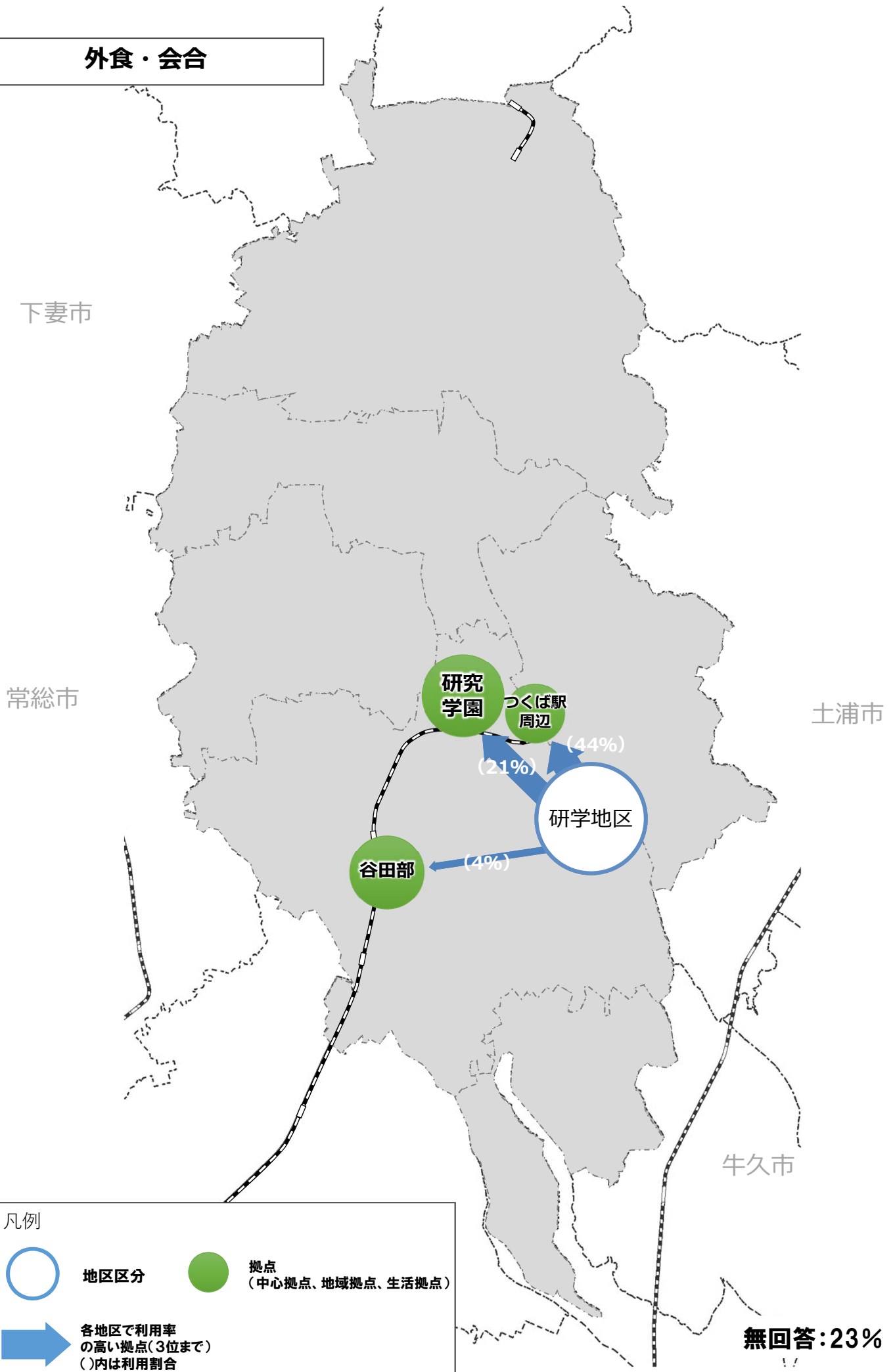
スポーツ・レクリエーション



凡例

- 地区区分
- 拠点 (中心拠点、地域拠点、生活拠点)
- ➡ 各地区で利用率の高い拠点(3位まで) ()内は利用割合

外食・会合

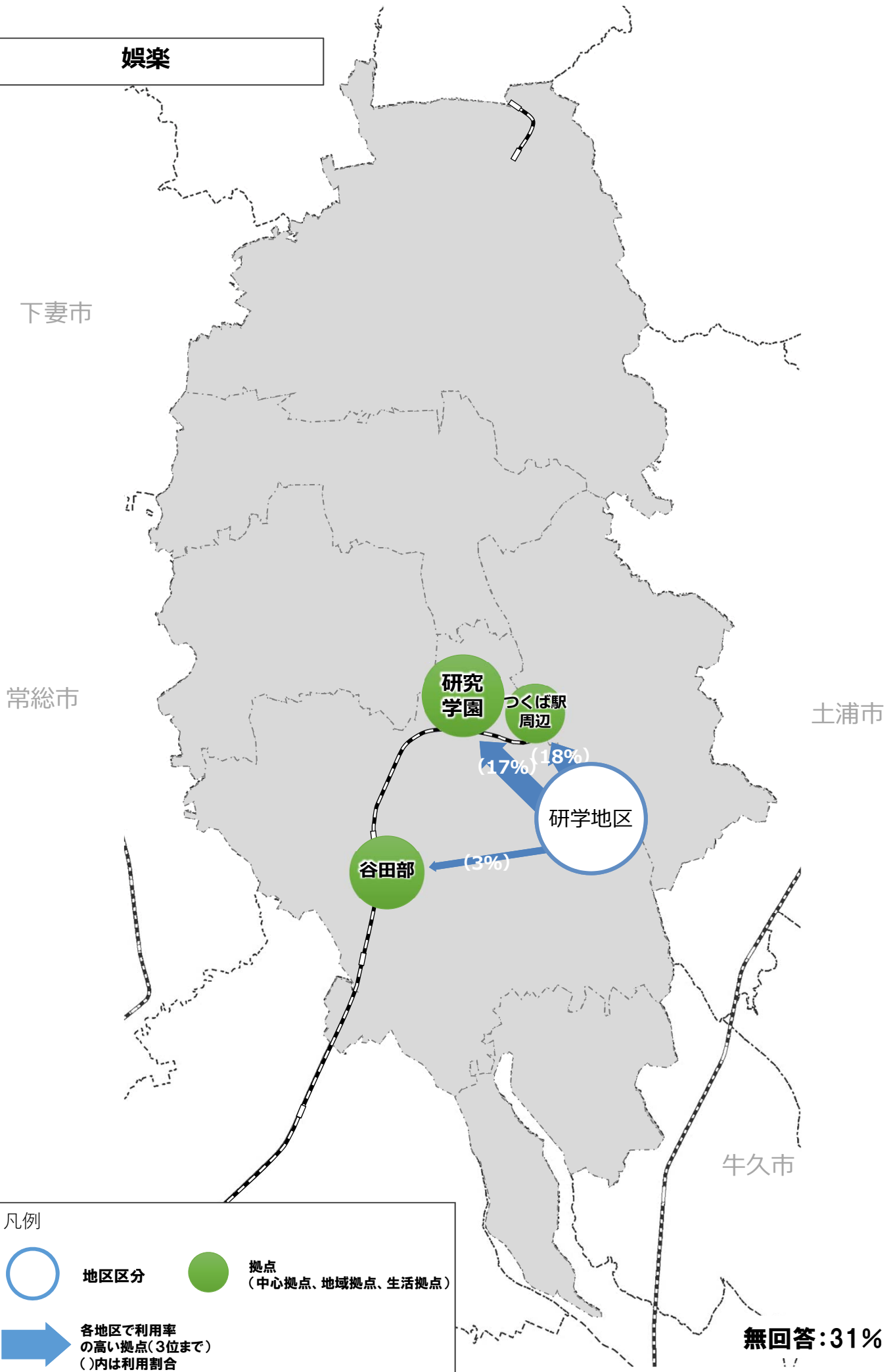


凡例

- 地区区分
- 拠点 (中心拠点、地域拠点、生活拠点)
- ➡ 各地区で利用率の高い拠点(3位まで) ()内は利用割合

無回答:23%

娯楽



凡例

- 地区区分
- 拠点 (中心拠点、地域拠点、生活拠点)
- ➡ 各地区で利用率の高い拠点(3位まで) ()内は利用割合

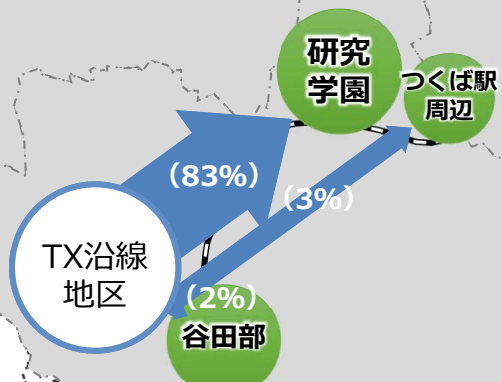
行政サービス（市役所、窓口センター）

下妻市

常総市

土浦市

牛久市

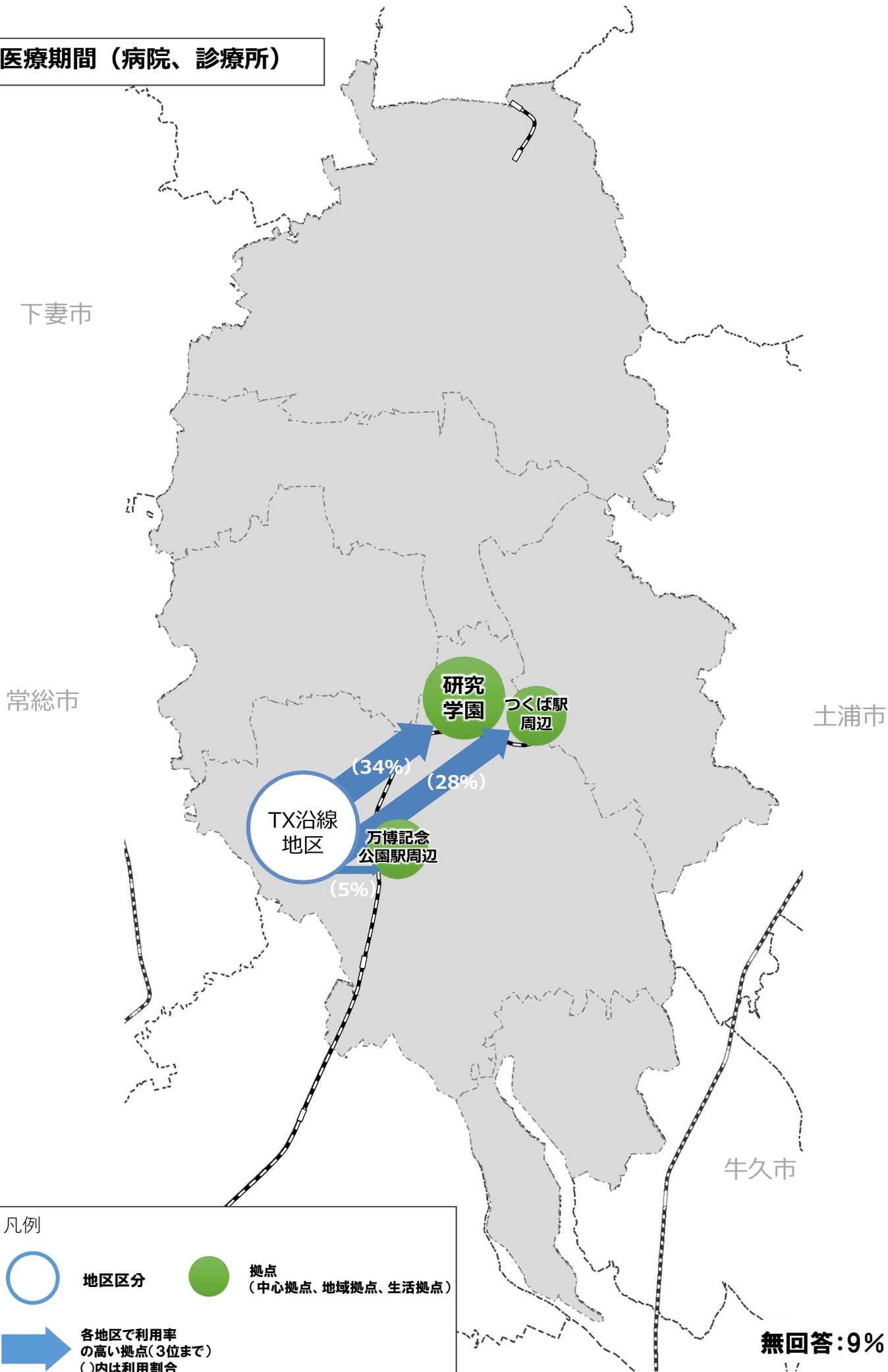


凡例

- 地区区分
- 拠点 (中心拠点、地域拠点、生活拠点)
- ➡ 各地区で利用率の高い拠点(3位まで) (内は利用割合)

無回答:9%

医療期間（病院、診療所）

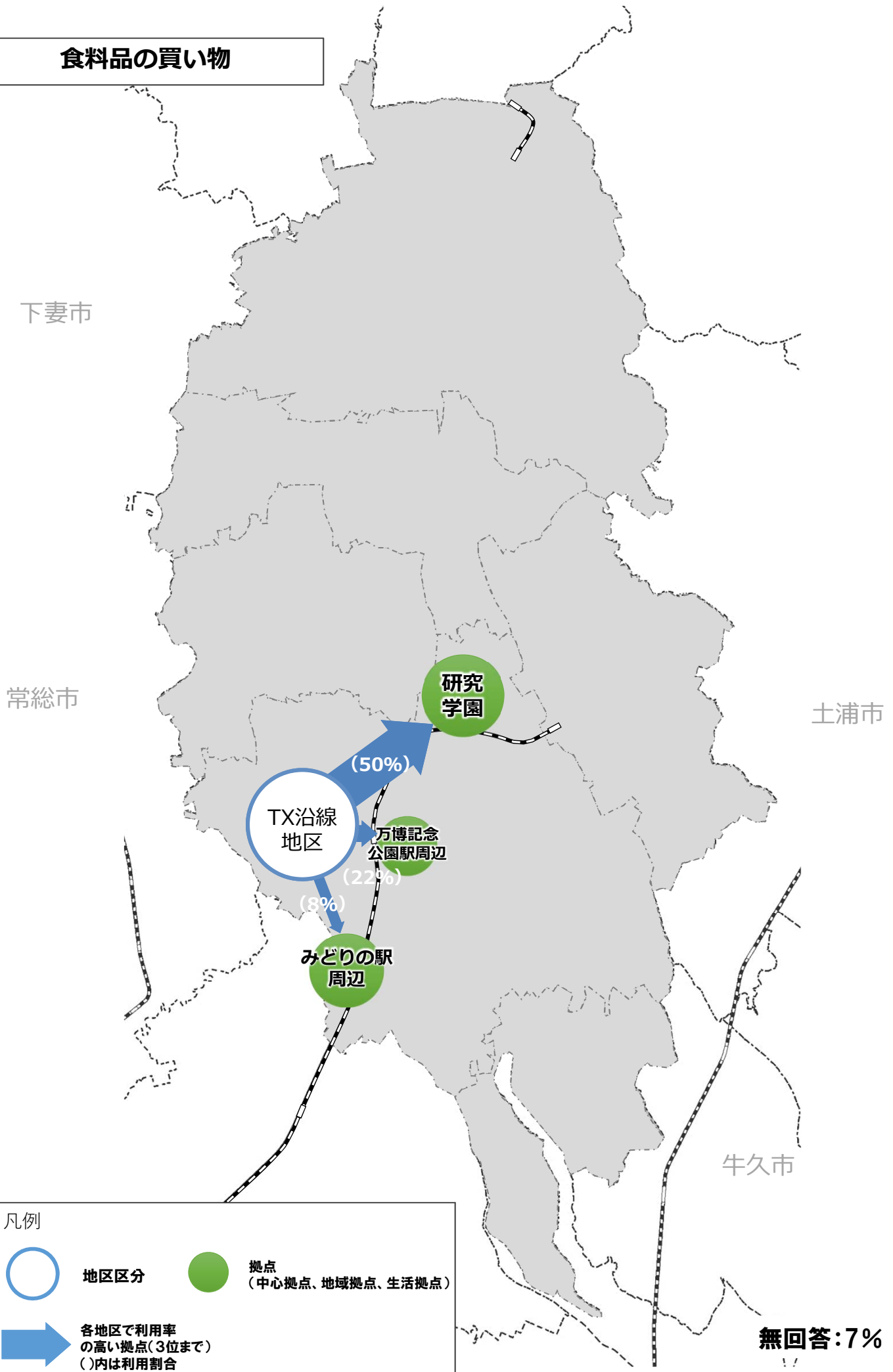


凡例

- 地区区分
- 拠点
(中心拠点、地域拠点、生活拠点)
- 各地区で利用率の高い拠点(3位まで)
()内は利用割合

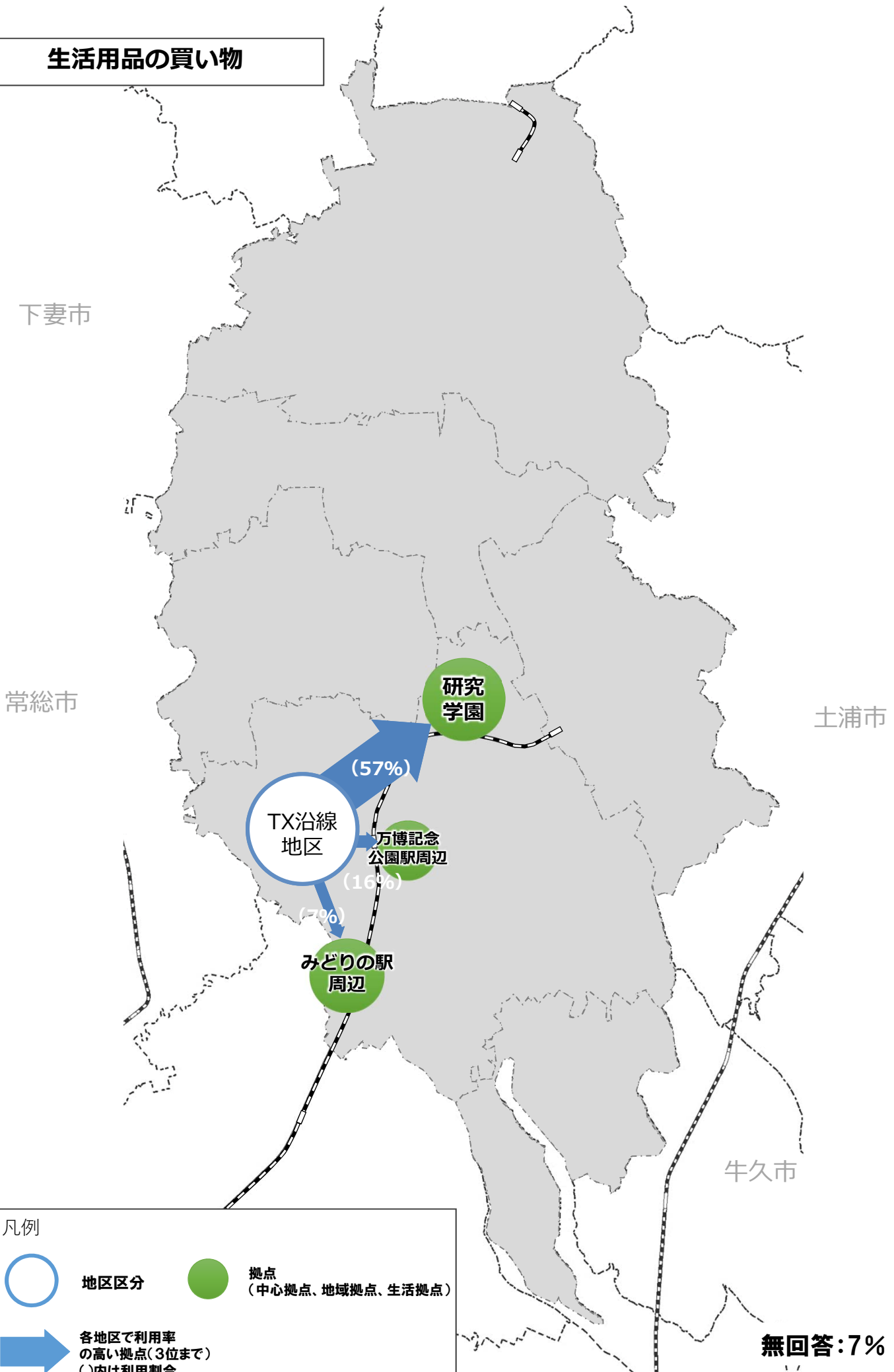
無回答:9%

食料品の買い物



無回答:7%

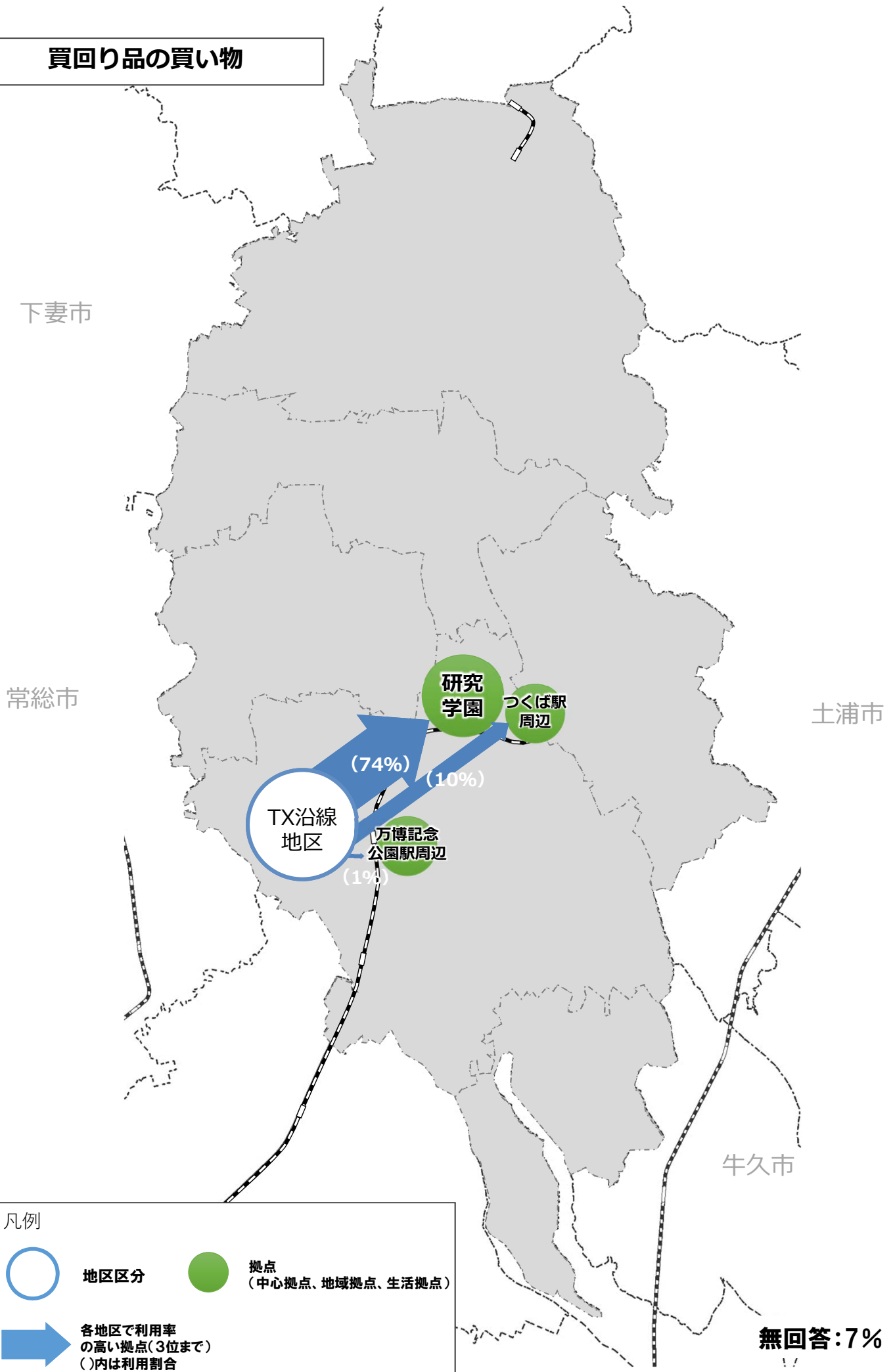
生活用品の買い物



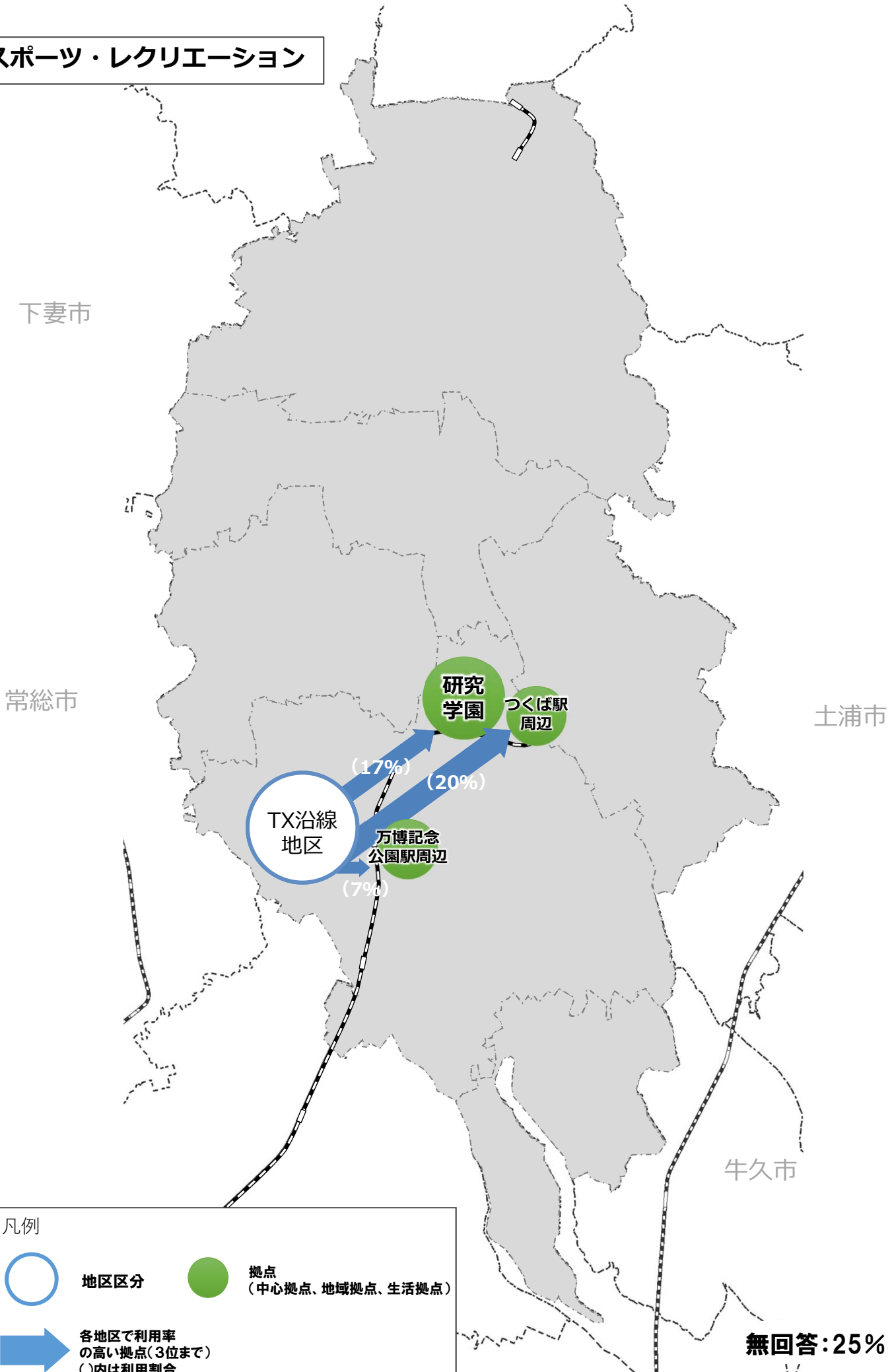
凡例

- 地区区分
- 拠点
(中心拠点、地域拠点、生活拠点)
- 各地区で利用率の高い拠点(3位まで)
()内は利用割合

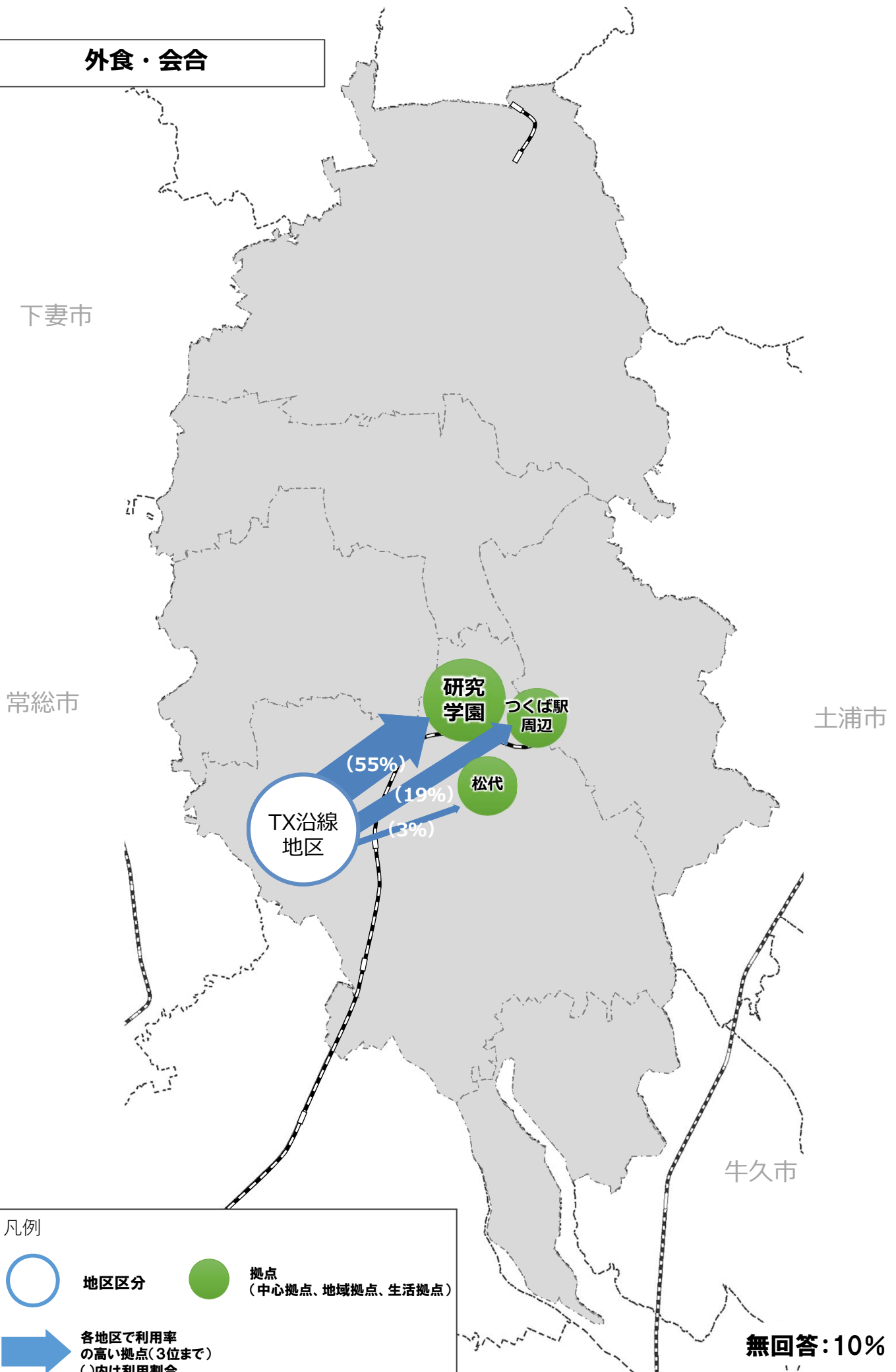
買回り品の買い物



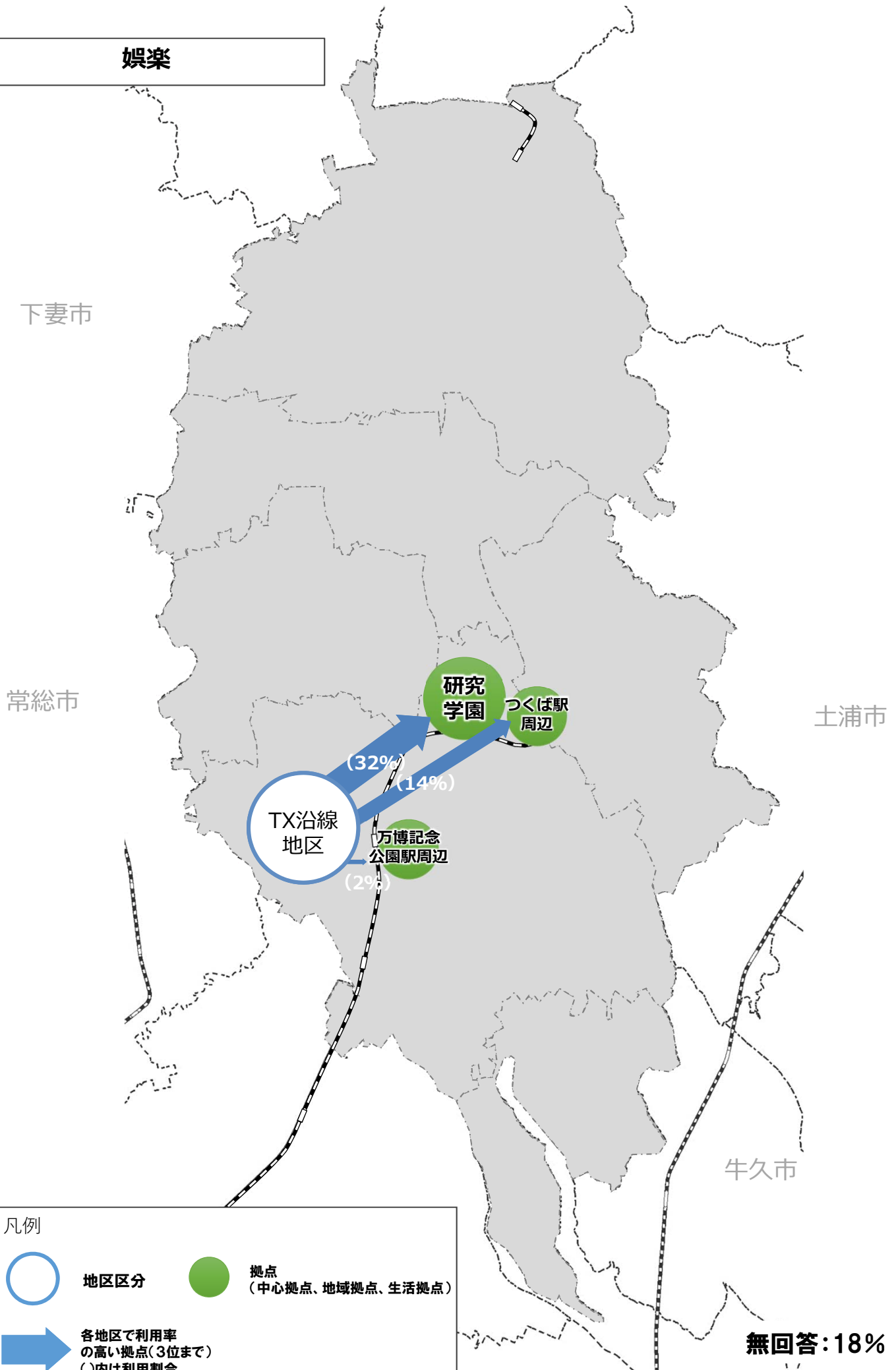
スポーツ・レクリエーション



外食・会合



娯楽



凡例

- 地区区分
- 拠点 (中心拠点、地域拠点、生活拠点)
- ➡ 各地区で利用率の高い拠点(3位まで) (内は利用割合)

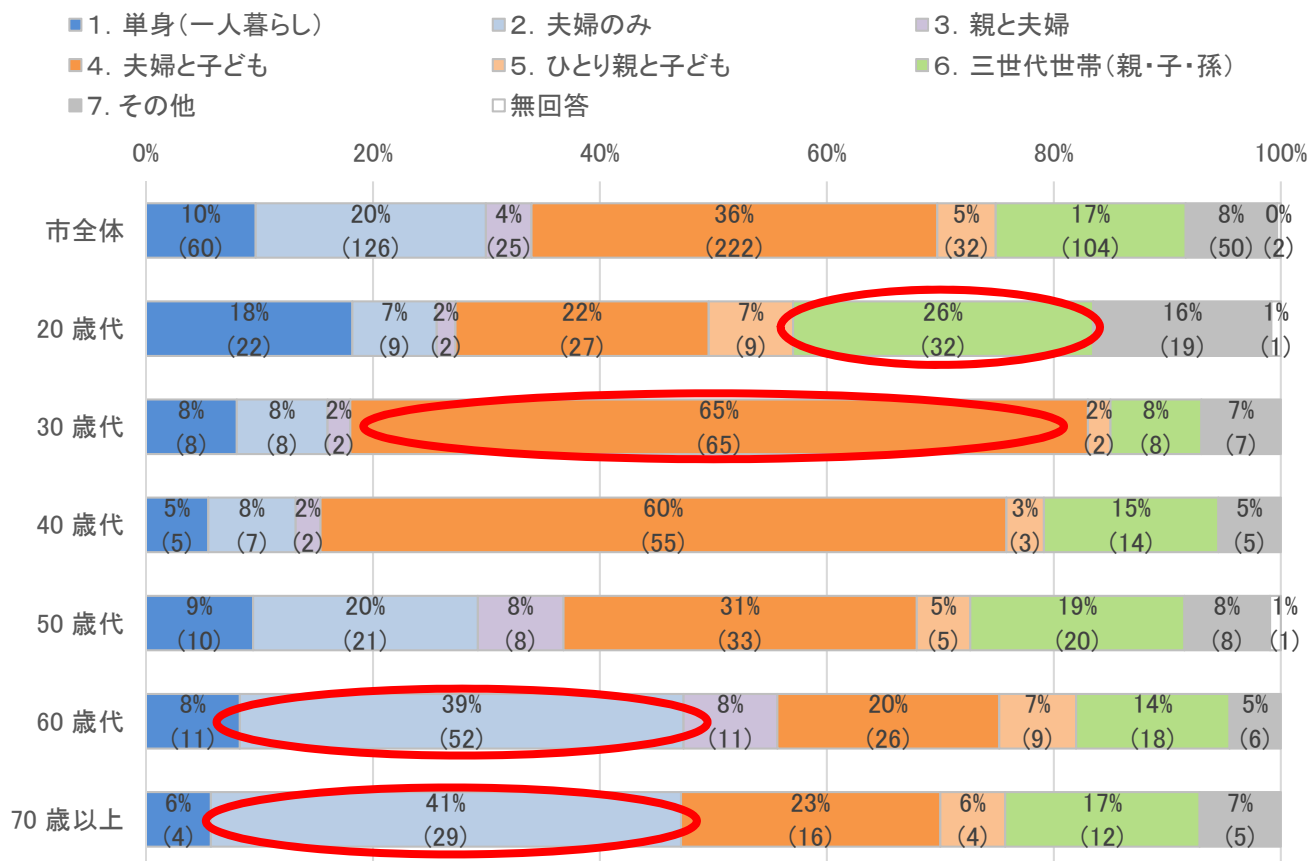
無回答:18%

3) 年代別の市民意向

① 家族構成

- 市全体では「夫婦と子ども」の割合が36%
- 「三世帯世帯」の割合は20歳代が26%と最も多く、次いで50歳代で19%
- 「夫婦と子ども」の割合が多いのは、30歳代で65%、次いで40歳代で60%
- 「夫婦のみ」の割合が多いのは、70歳代が41%と最も多く、次いで60歳代が39%

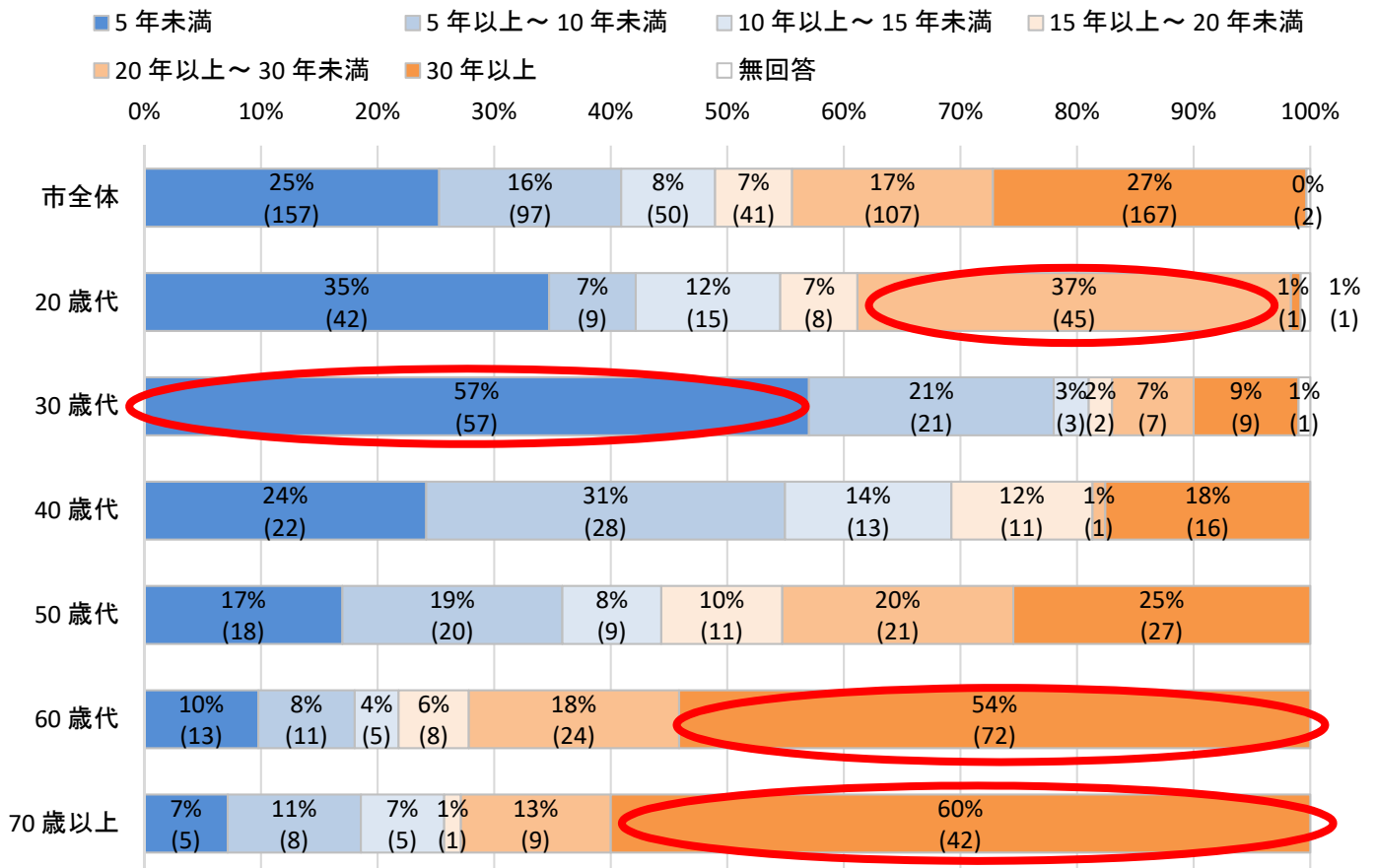
年代別の家族構成



②居住歴

- 市全体で「30年以上」が27%、次いで「5年未満」が25%
- 「30年以上」が多い年代は、70歳以上が60%と最も多く、次いで60歳代が54%、20歳代が37%
- 「5年未満」が多い年代は、30歳代が57%と最も多い

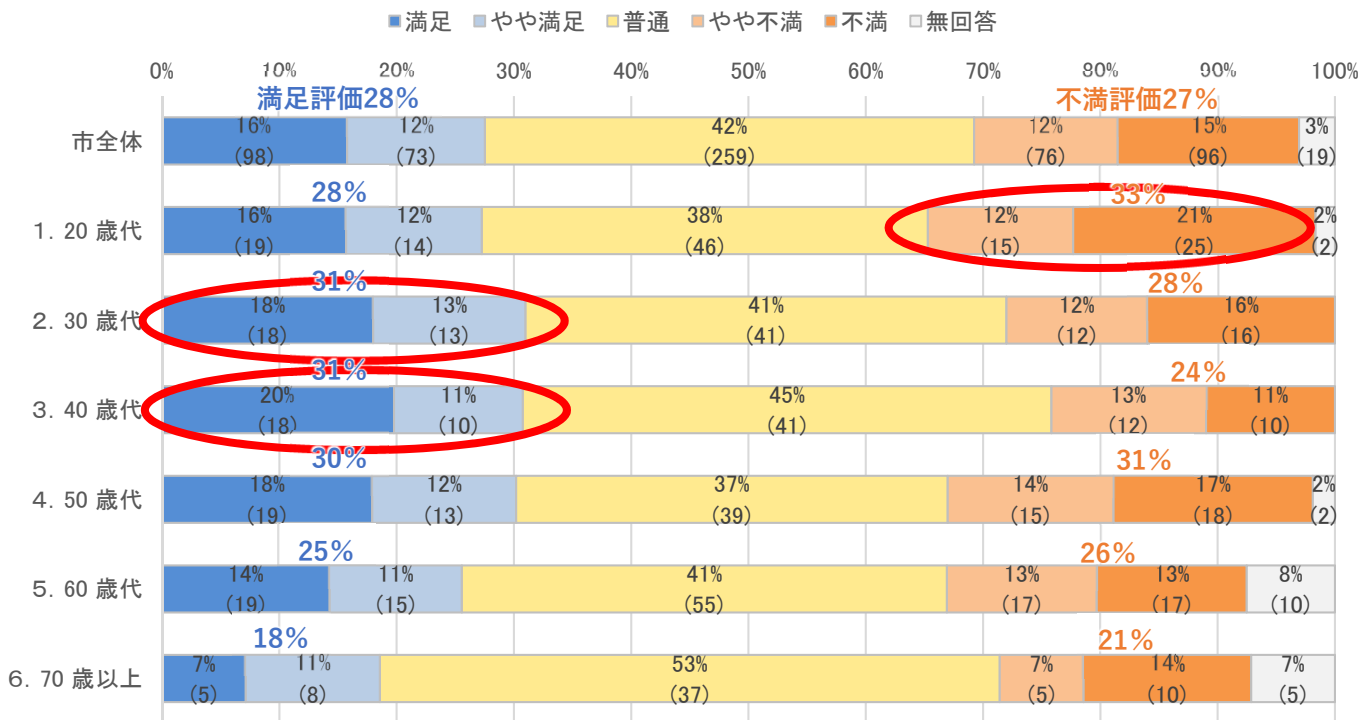
年代別の居住歴



③住みやすさの満足度

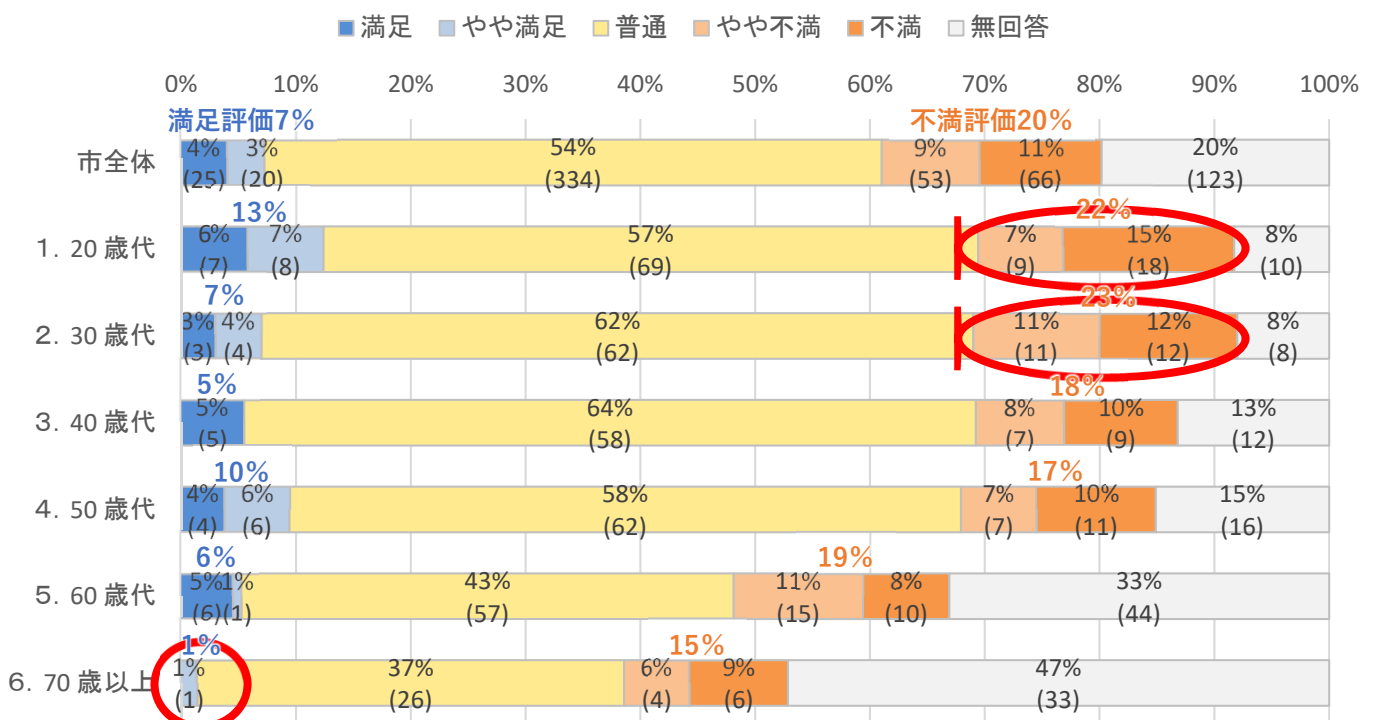
行政サービス（市役所、窓口センター）の利用

- 「満足」「やや満足」を含む「満足評価」は市全体で28%に対し、30歳代と40歳代が31%と最も高い
- 「やや不満」「不満」の「不満評価」は市全体で27%に対し、20歳代が33%と最も高く、次いで50歳代が31%



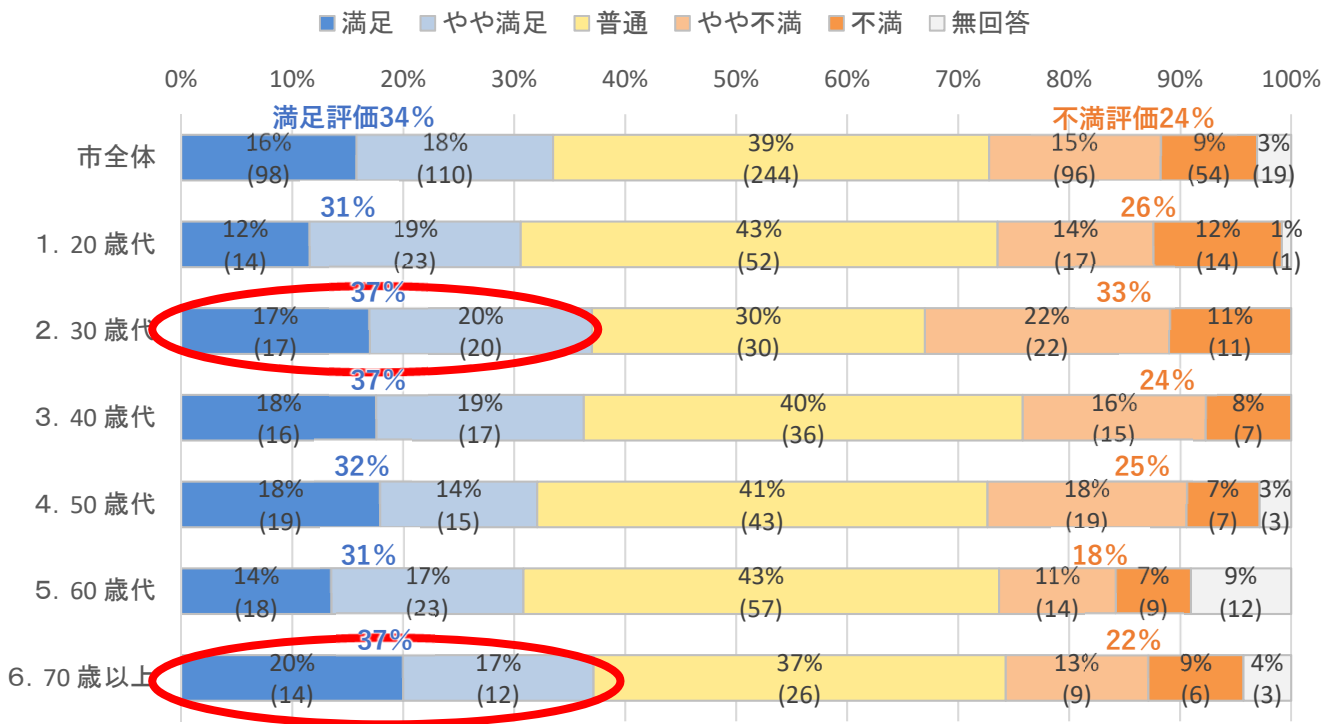
福祉施設（デイサービス等）の利用

- 「満足評価」は市全体で7%に対し、年代別では20歳代が13%と最も多く、次いで50歳代が10%
- 特に、70歳代以上の「満足評価」は1%
- 「不満評価」は、30歳代が32%と最も多く、次いで20歳代が22%



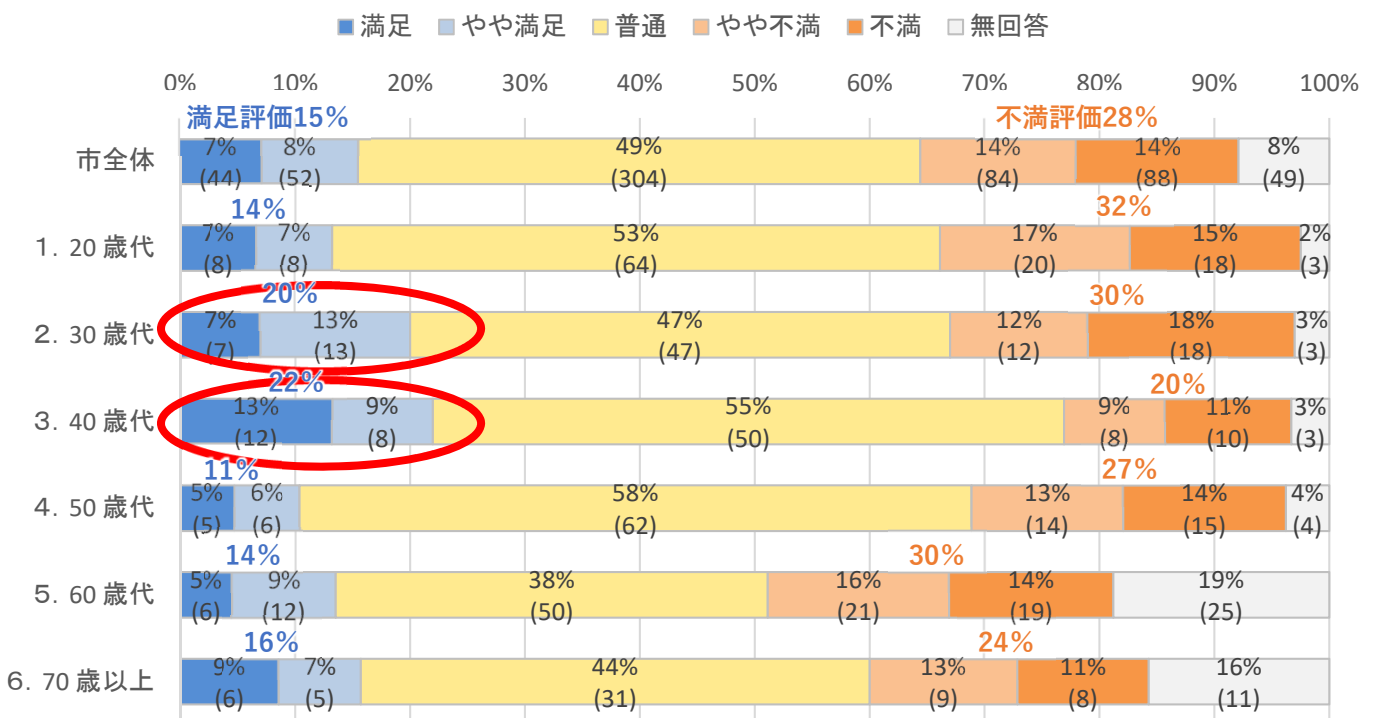
医療機関（病院、診療所等）の利用

- 「満足評価」は市全体で34%であり、年代別に見ると、30歳代と70歳以上が37%と最も多い
- 「不満足評価」は市全体で24%であり、年代別に見ると、30歳代が33%と最も多く、次いで20歳代が26%



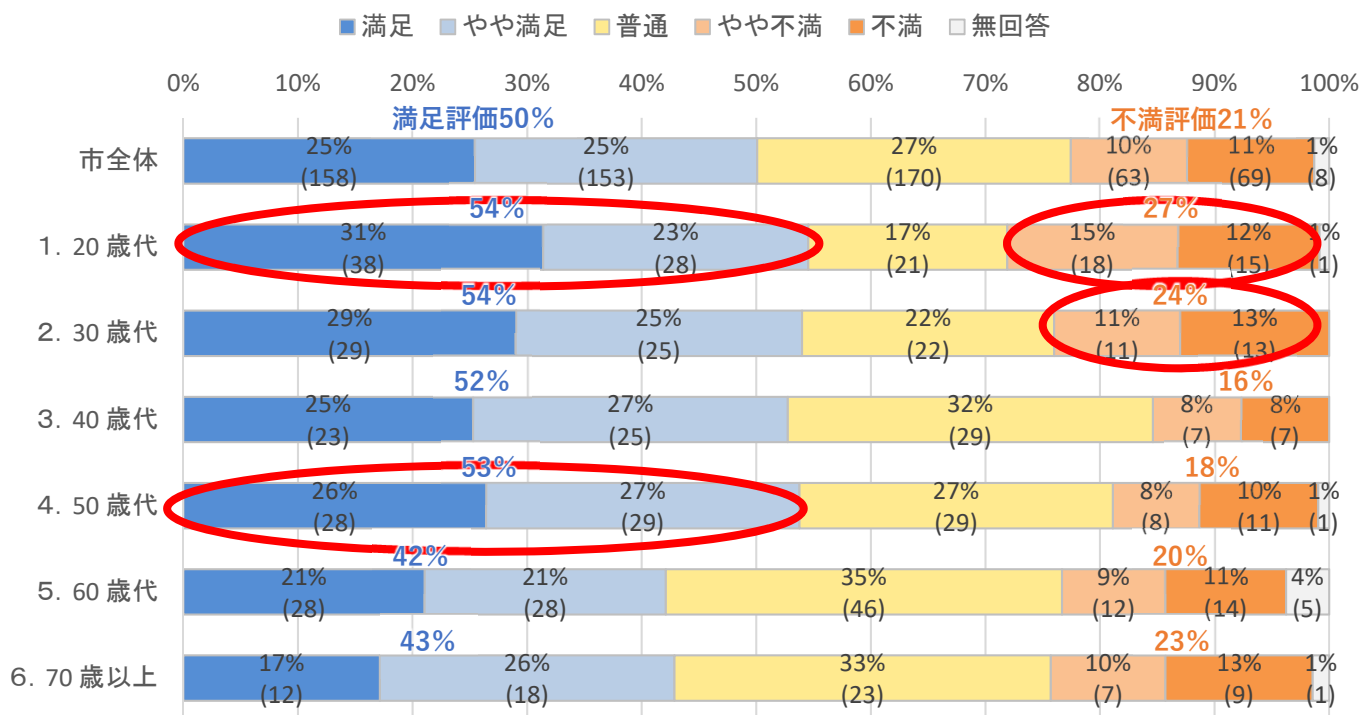
交流施設（公民館等）の利用

- 市全体で「満足評価」は15%で、「不満足評価」は28%
- 「満足評価」は40歳代が21%で最も多く、次いで30歳代が20%
- 「不満足評価」は、20歳代が32%で最も多く、次いで60歳代が30%



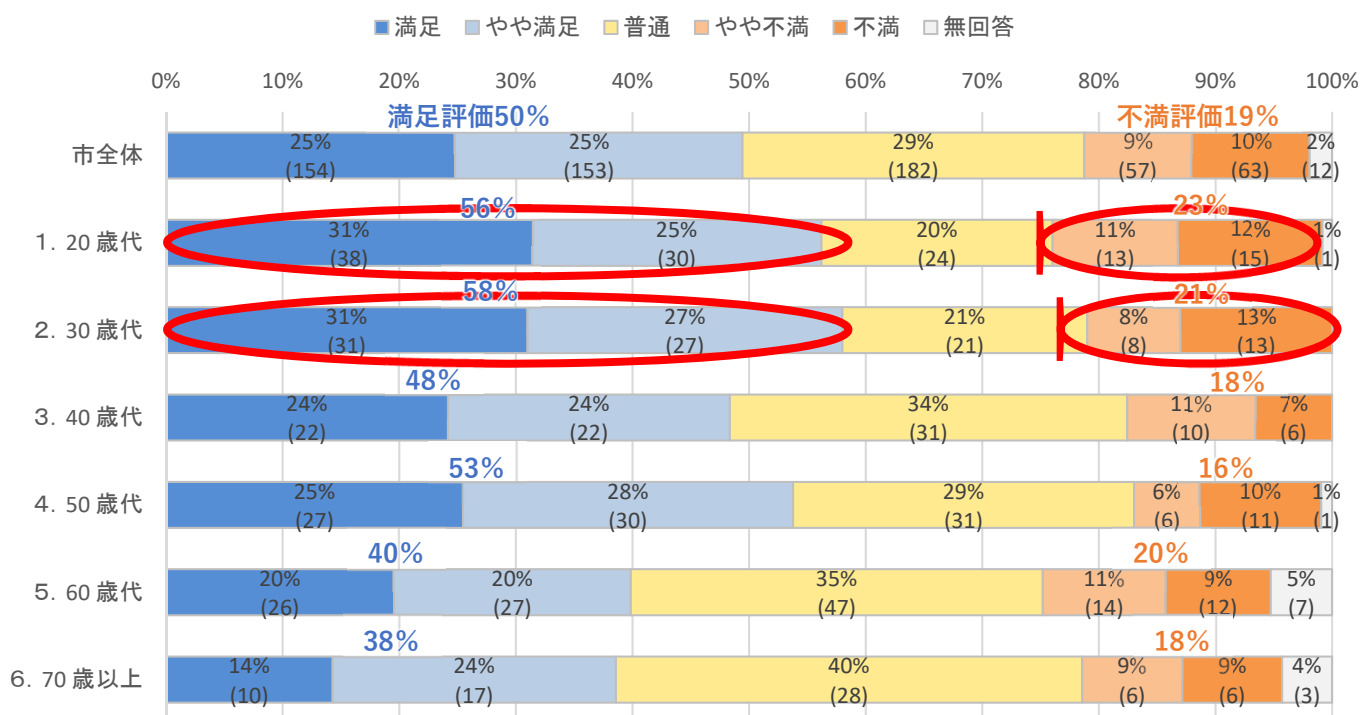
食料品等の買い物

- 市全体で、「満足評価」は50%、「不満足評価」は21%
- 「満足評価」は20歳代が54%で最も多く、次いで50歳代が53%
- 「不満足評価」は20歳代が27%で最も多く、次いで30歳代が24%



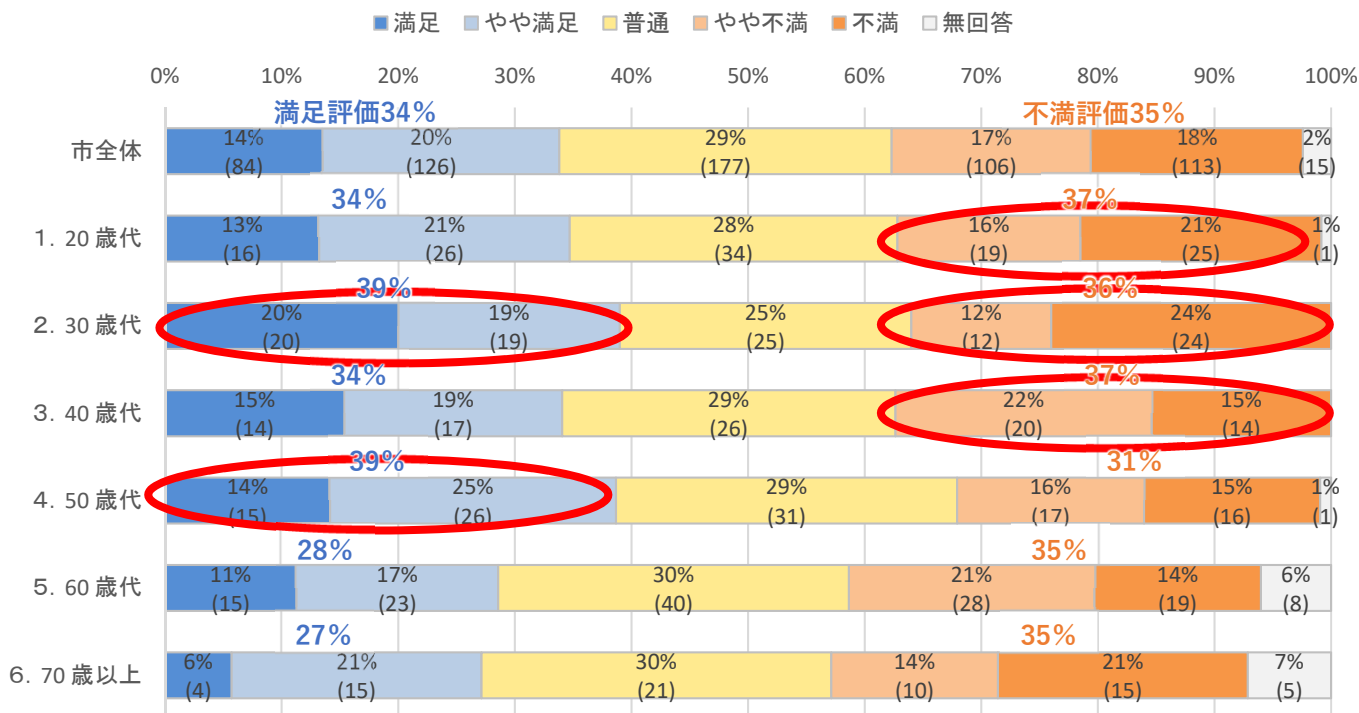
生活用品（洗剤、衛生用品等）の買い物

- 市全体で、「満足評価」は50%、「不満足評価」は19%
- 「満足評価」は30歳代が58%で最も多く、次いで20歳代が56%
- 「不満足評価」は20歳代が23%と最も多く、次いで30歳代が21%



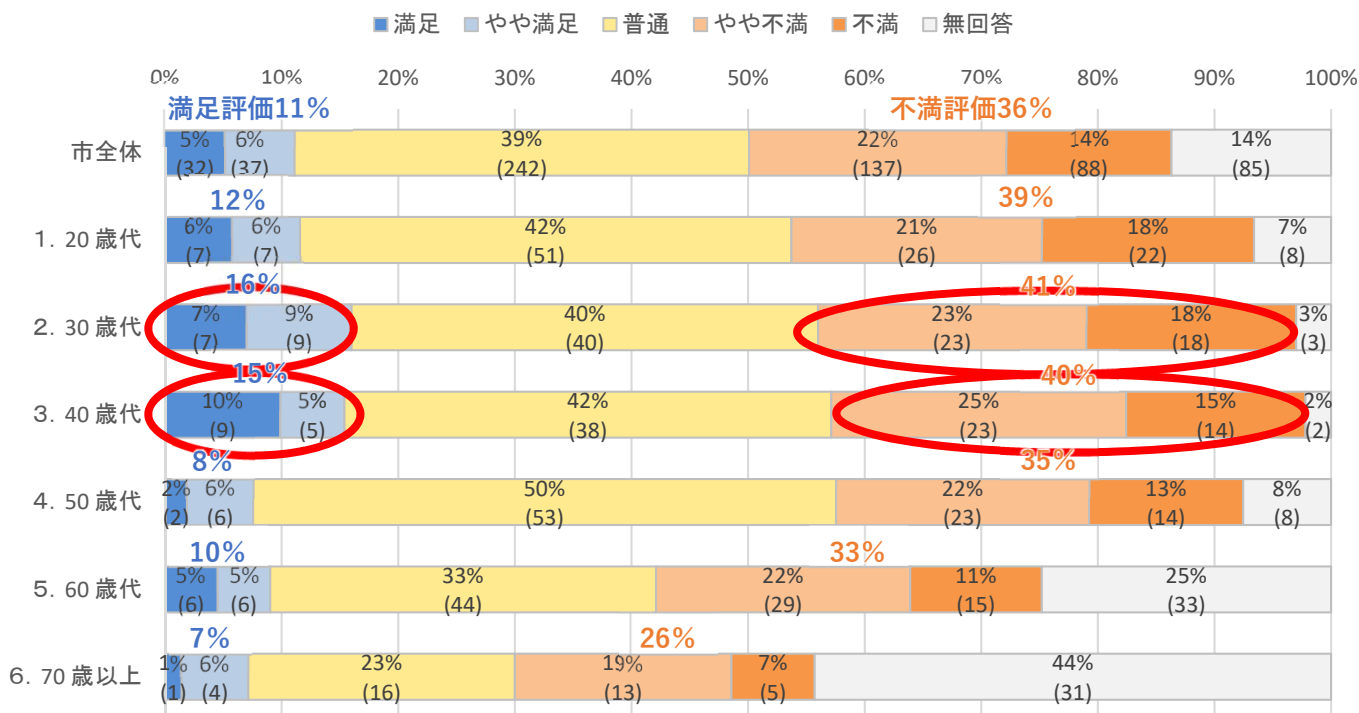
買回り品（洋服、家電、書籍等）の買い物

- 市全体で「満足評価」は34%、「不満足評価」は35%
- 「満足評価」は、30歳代と50歳代が39%で最も多い
- 「不満足評価」は、20歳代と40歳代が37%で最も多く、次いで30歳代が36%



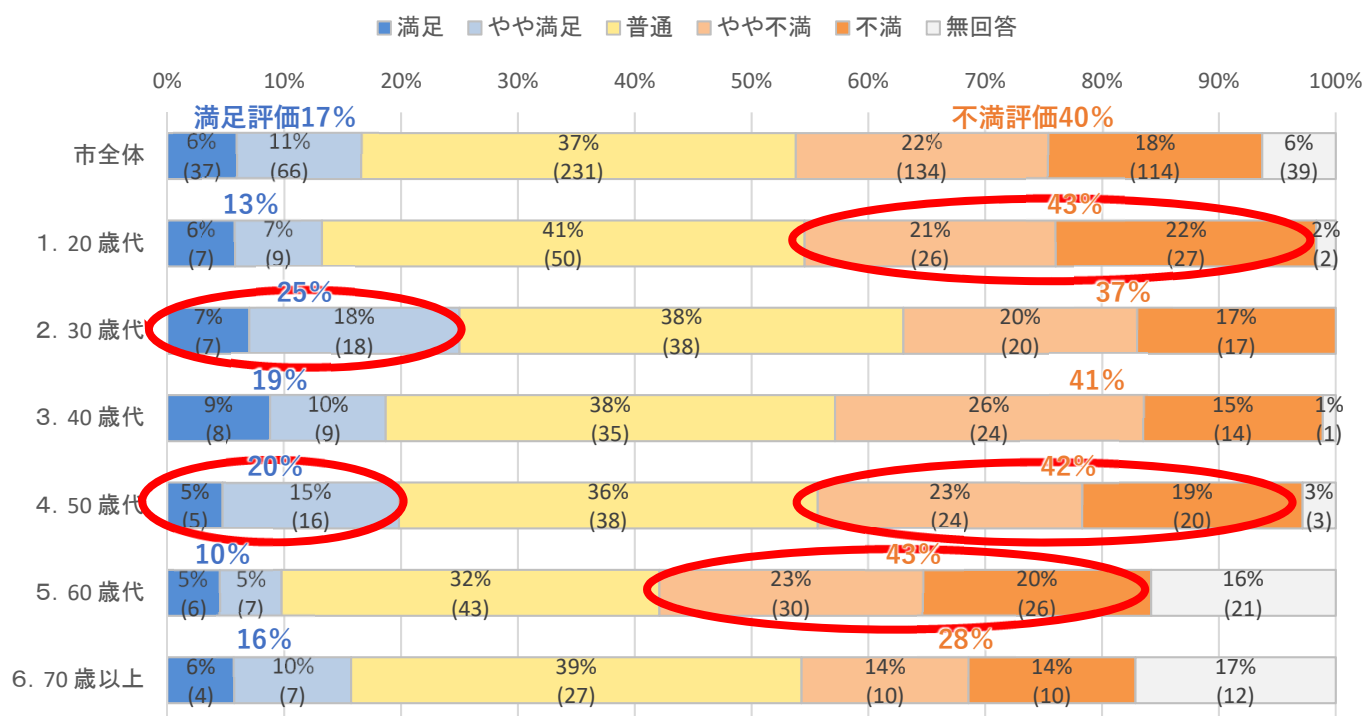
子育て支援施設や子どもの遊び場の利用

- 市全体で「満足評価」が11%、「不満足評価」が36%
- 「満足評価」は、30歳代が16%で最も多く、次いで40歳代が15%
- 「不満足評価」は、30歳代が41%で最も多く、次いで30歳代が40%



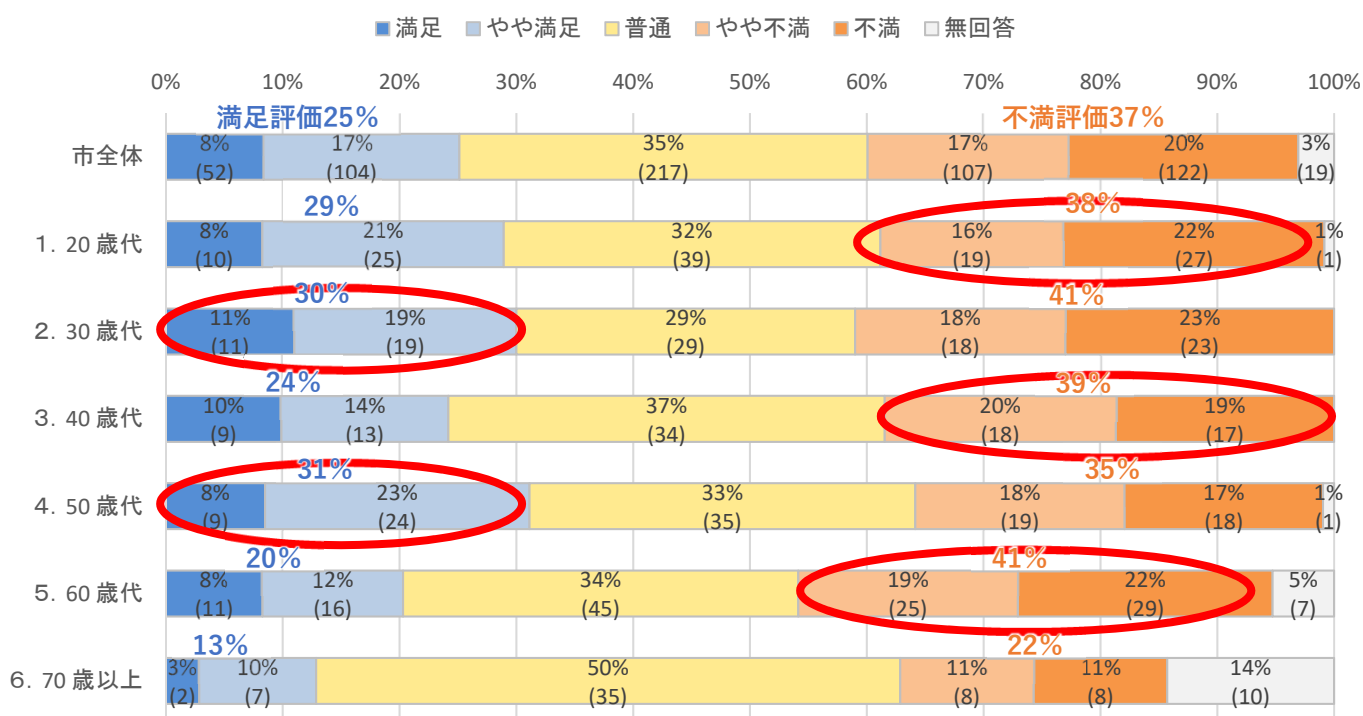
健康、スポーツ施設（体育館・ジム、公園等）の利用

- 市全体で「満足評価」は17%、「不満足評価」は40%
- 「満足評価」は、30歳代が25%で最も多く、次いで50歳代が20%
- 「不満足評価」は、20歳代と60歳代が43%で最も多く、次いで50歳代が42%



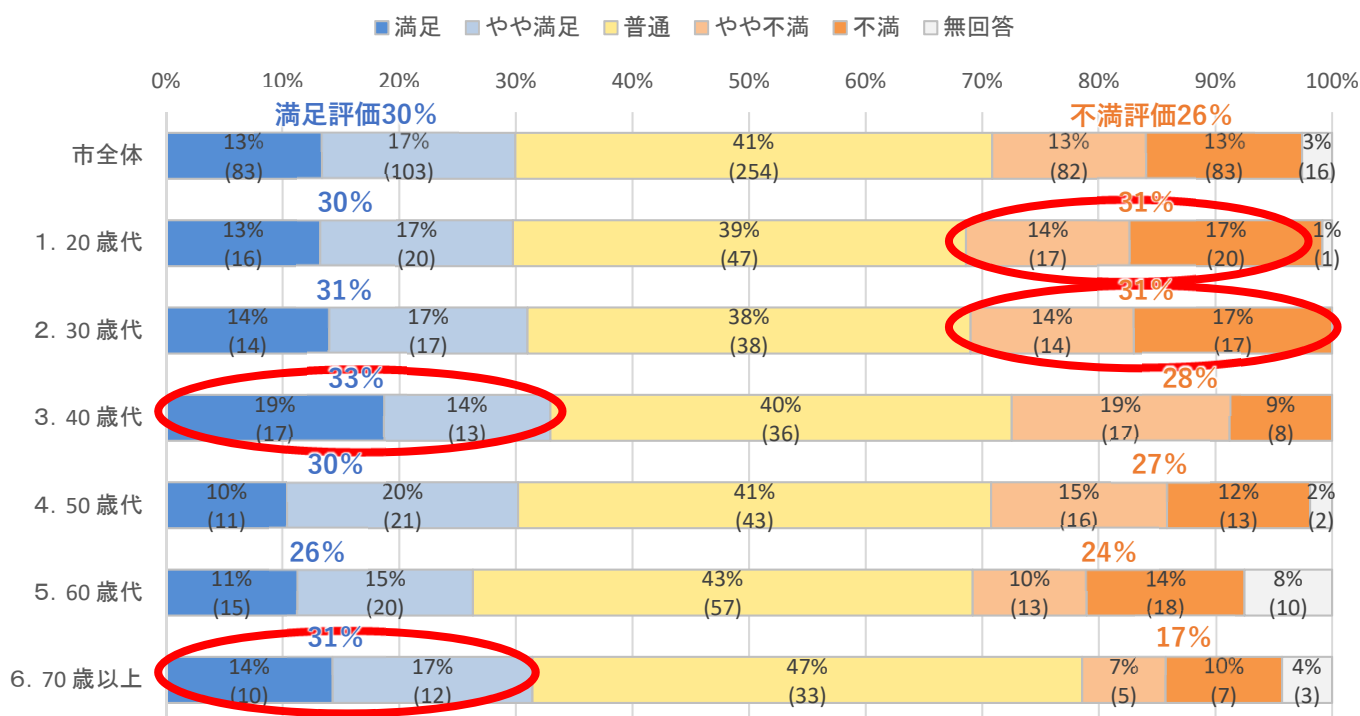
飲食店舗（レストラン、喫茶店、カフェ）の利用

- 市全体で「満足評価」は25%、「不満足評価」は37%
- 「満足評価」は、50歳代が31%で最も多く、次いで30歳代が30%
- 「不満足評価」は、20歳代と60歳代が41%で最も多く、次いで40歳代が39%



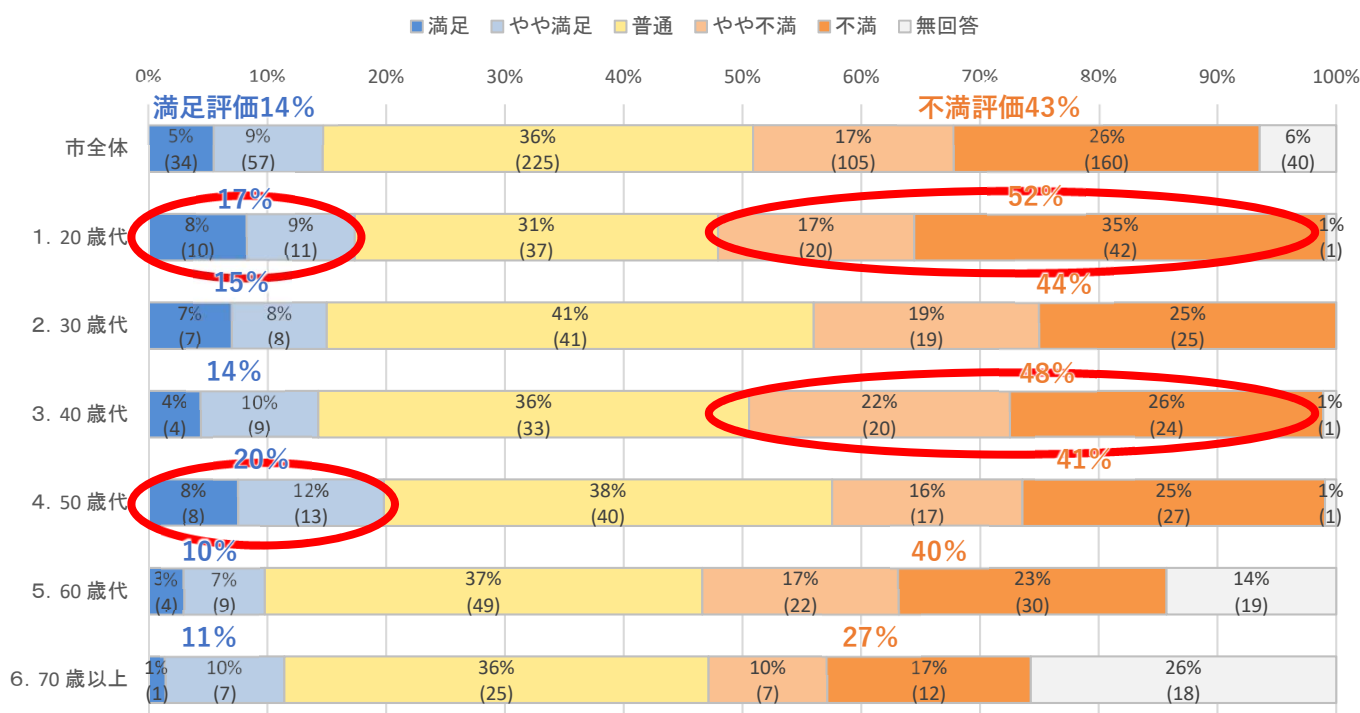
金融機関（銀行、郵便局等）の利用

- 市全体で「満足評価」は30%、「不満足評価」は26%
- 「満足評価」は、40歳代が43%で最も多く、次いで30歳代と70歳以上が31%
- 「不満足評価」は、20歳代と30歳代が31%で最も多く、次いで40歳代が28%



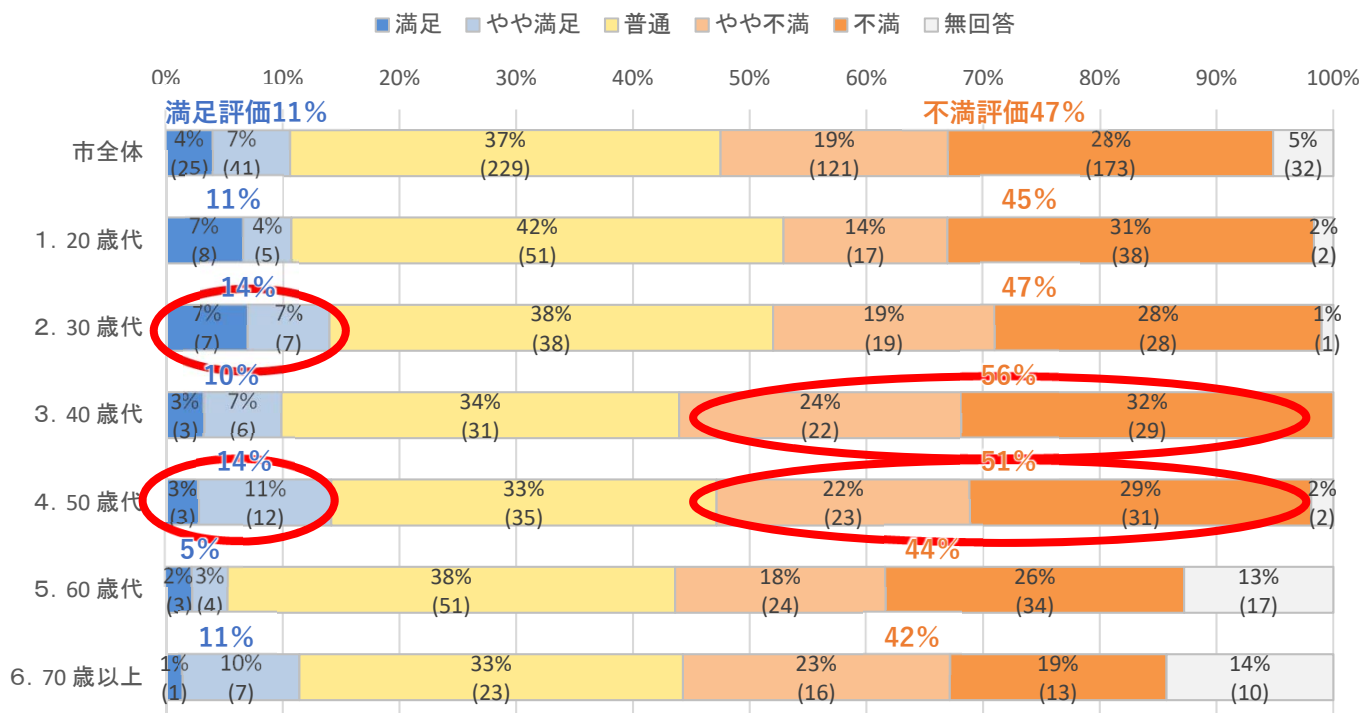
娯楽施設（映画館、ボーリング場等）の利用

- 市全体で「満足評価」は14%、「不満足評価」は43%
- 「満足評価」は、50歳代が20%で最も多く、次いで20歳代が17%
- 「不満足評価」は、20歳代が52%で最も多く、次いで40歳代が42%



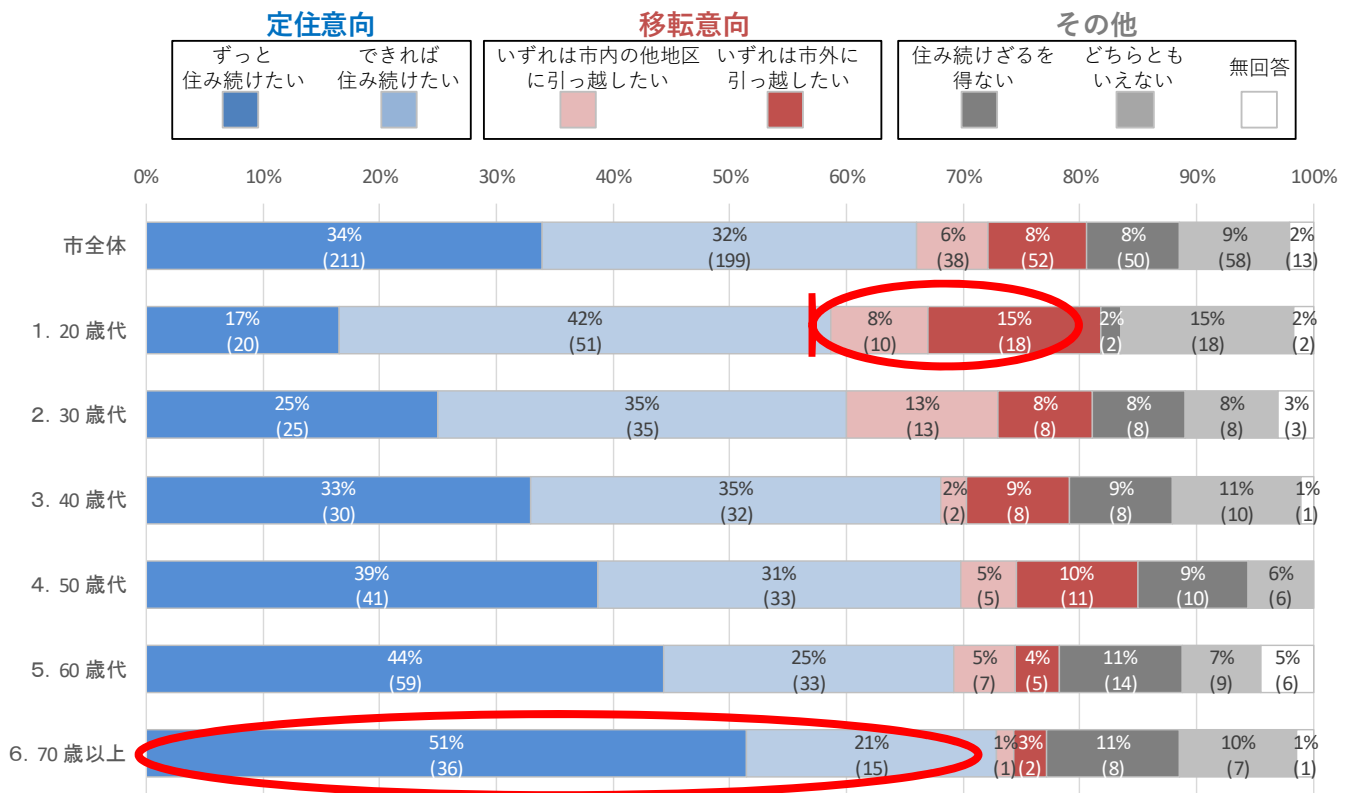
文化施設（図書館、ホール、美術館等）の利用

- 市全体で「満足評価」は11%、「不満足評価」は47%
- 「満足評価」は、30歳代と50歳代が14%で最も多く、次いで20歳代が11%
- 「不満足評価」は、40歳代が56%で最も多く、次いで50歳代が51%



④定住意向

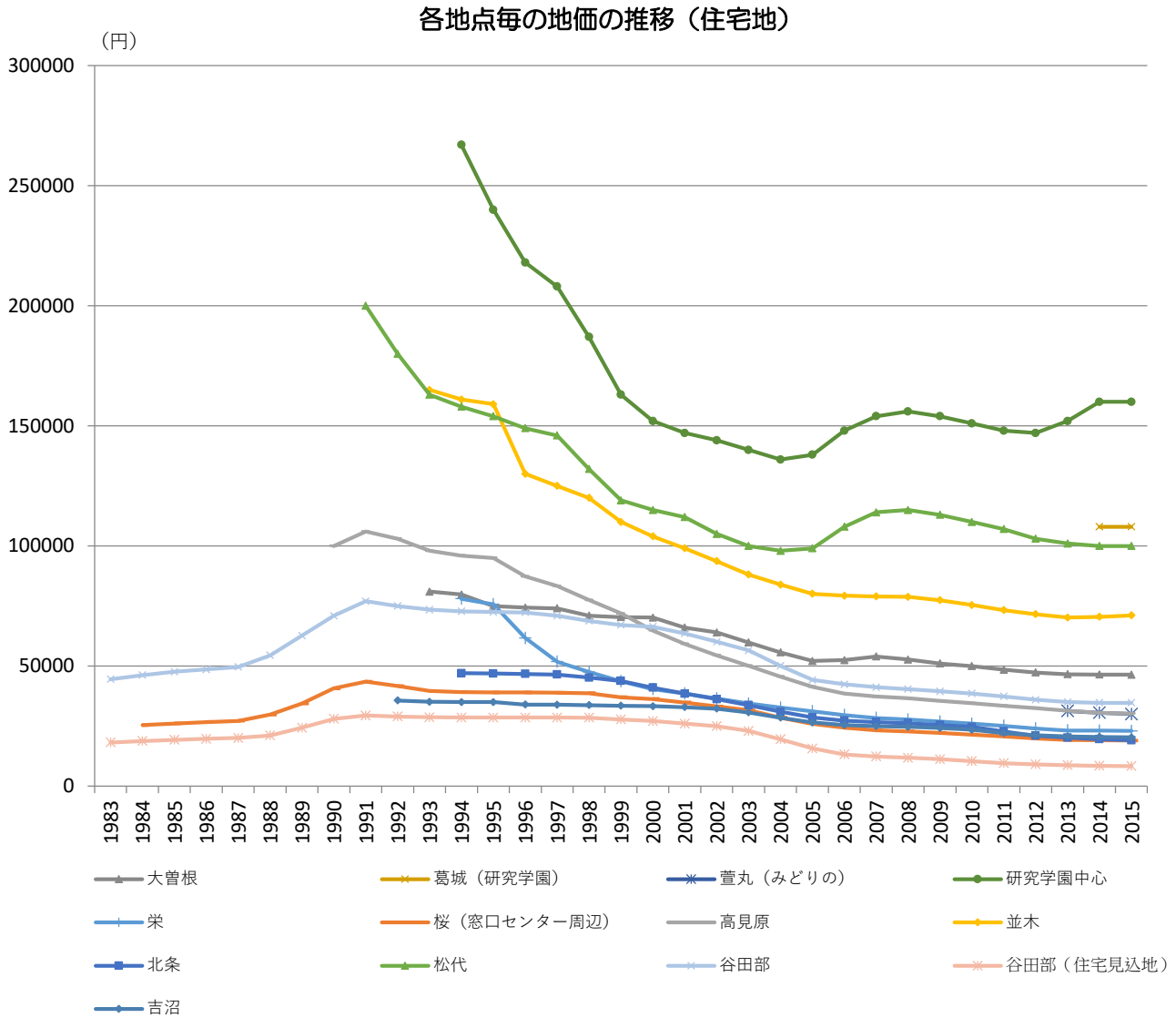
- 市全体で「定住意向（「ずっと住み続けたい」＋「できれば住み続けたい」）」は66%、「移転意向（「いずれは市内の他地区に引っ越したい」＋「いずれは市外に引っ越したい」）」は14%。
- 「定住意向」は70歳以上で72%で最も多く、次いで、50歳代で70%、60歳代で69%。
- 「移転意向」は、20歳代で23%で最も多く、次いで30歳代で21%。



1) 地価

①住宅地

- 研究学園地区周辺において、1990～2000年にかけて下落したものの、近年は高い水準を保っている。他地点については、わずかではあるが、下落傾向を示している。

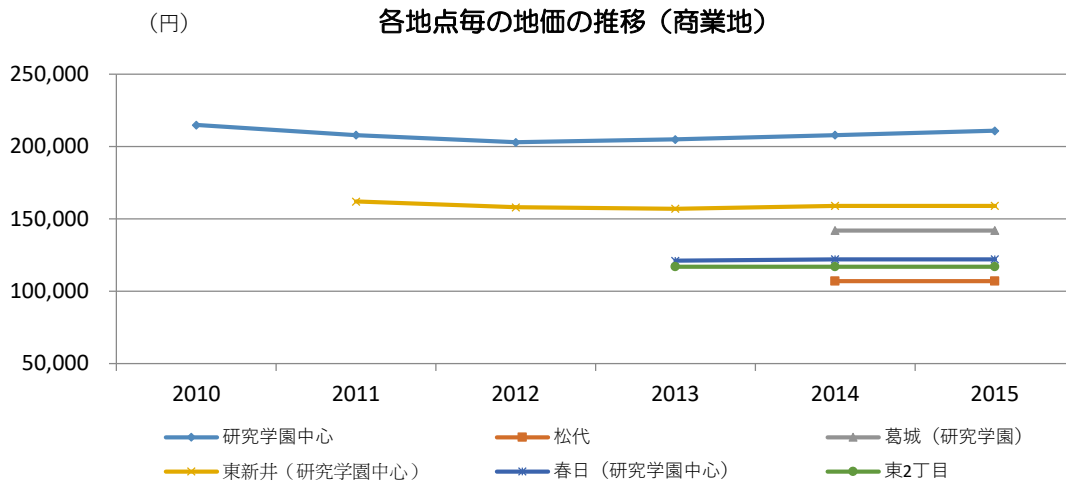


※住宅地は、主な地点を抜粋してグラフ化。

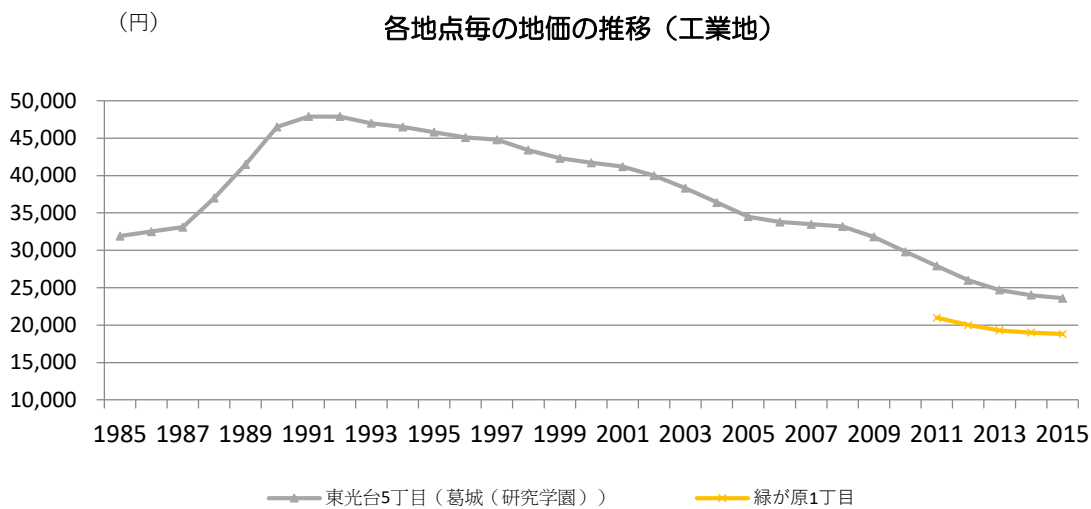
出典：国土数値情報

②商業地・工業地

- 商業地についてはここ5年間は価格水準はほぼ横ばいとなっている。
- 工業地は1900年代初頭から一貫して下落傾向となっている。



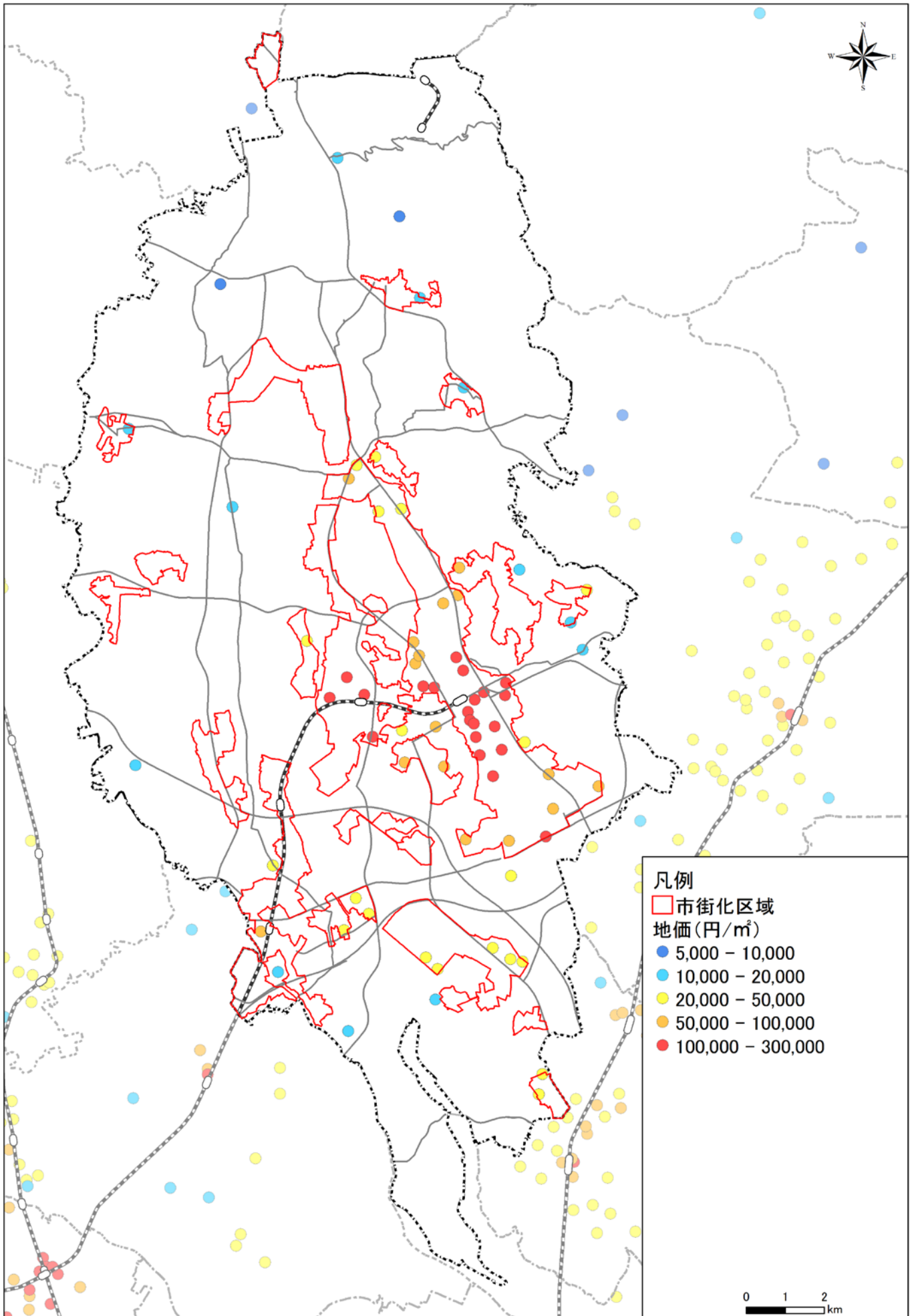
出典：国土数値情報



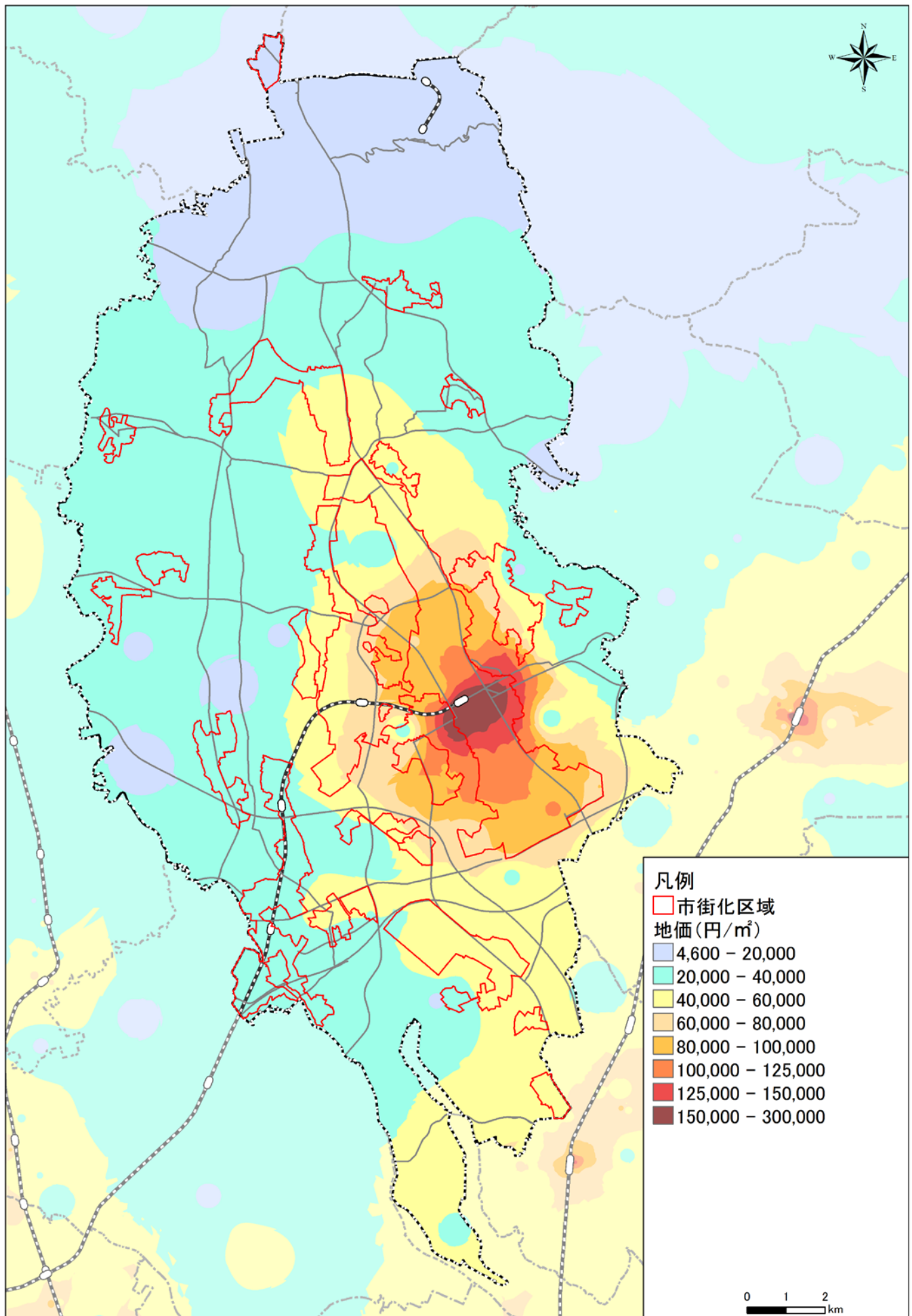
※商業地・工業地は、「国土数値情報都道府県地価調査 (平成27年)」に記載のある全てを掲載。

出典：国土数値情報

地価公示価格、県地価調査価格の分布状況

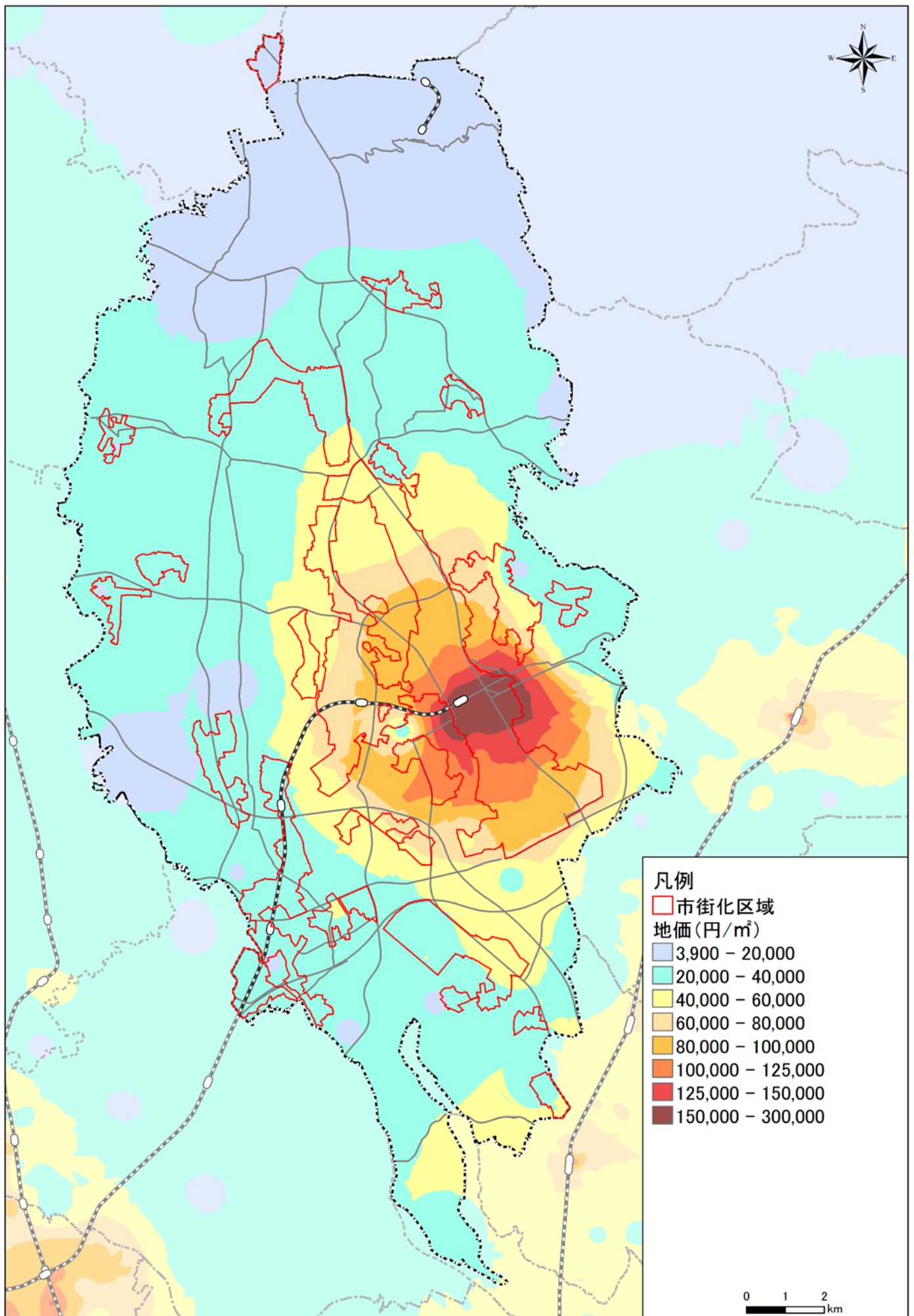


(参考資料) 地価マップ (2005年)

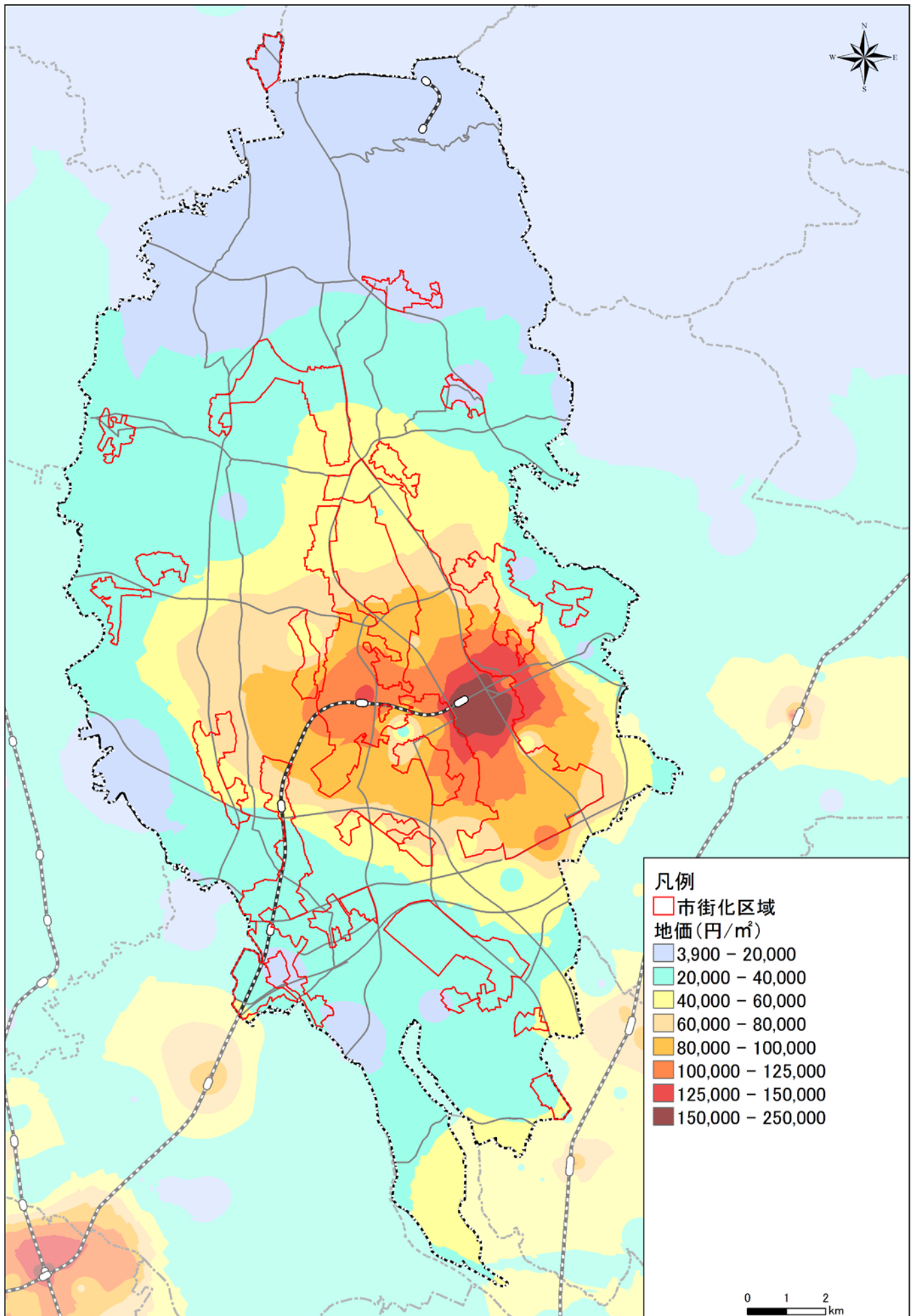


出典：国土数値情報をもとにGIS上で作成

(参考資料) 地価マップ(2010年)



(参考資料) 地価マップ (2015年)



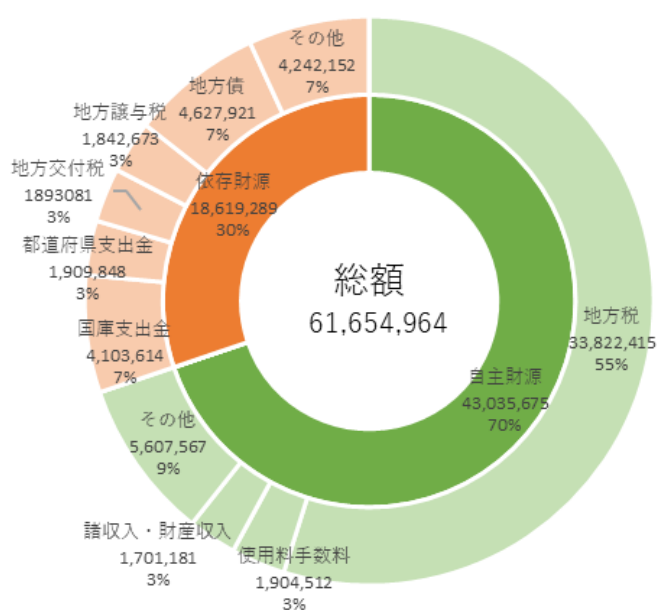
出典：国土数値情報をもとにGIS上で作成

2) 歳入・歳出構造

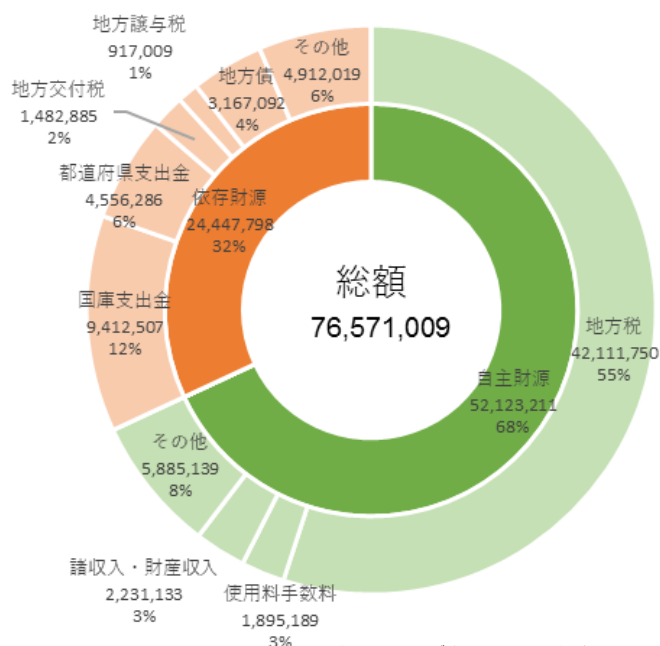
- 平成 17年と平成 27 年のつくば市の歳入状況（財源別）を比較すると、地方税、使用料等の 自主財源は約9億円増加していますが、自主財源比率は -2%と微減となっています。
- つくば市では、今後人口は増加の想定にあるため、歳入の増加が見込まれます。
- 将来的には、生産年齢人口の減少による税収の減少や、歳出面での高齢化の進行による社会保障関係費及び老朽化した都市インフラの更新や維持管理に伴う土木費、投資的経費の増加が懸念されます。

歳入の内訳

2005年（H17年）



2015年（H27年）

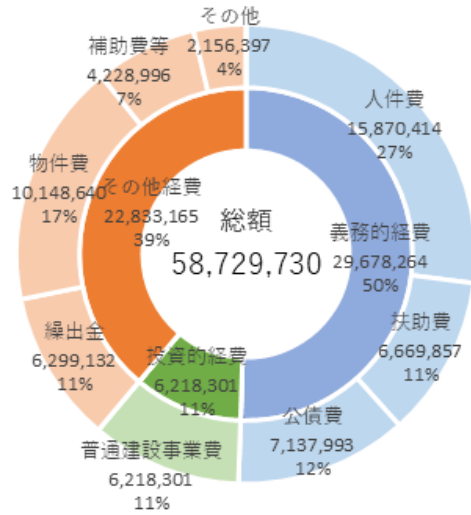


資料：つくば市歳入歳出決算書

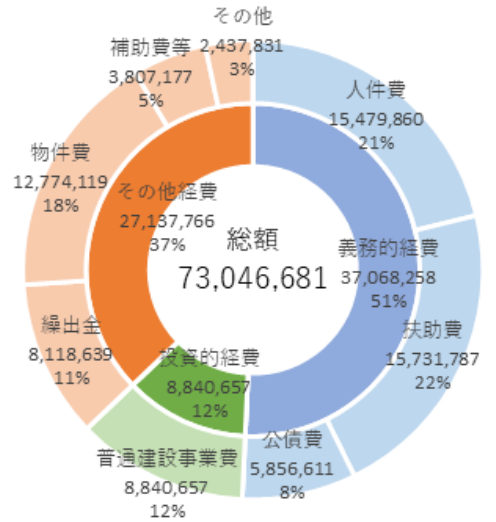
- 民生費が増加している。
- 高齢化による民生費の増加や都市インフラの維持のための投資的経費の増加が懸念される。

性質別
(歳出)

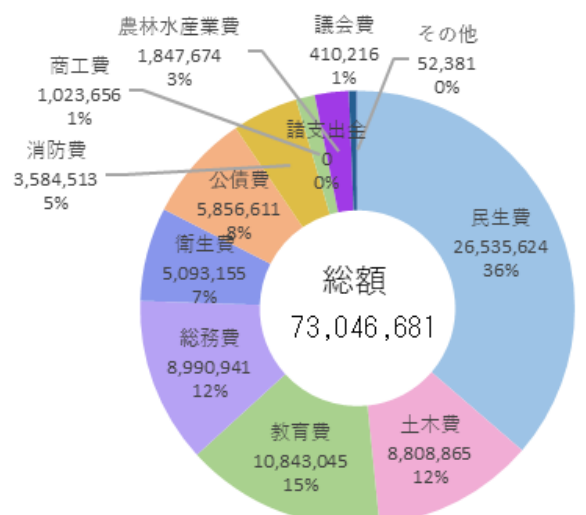
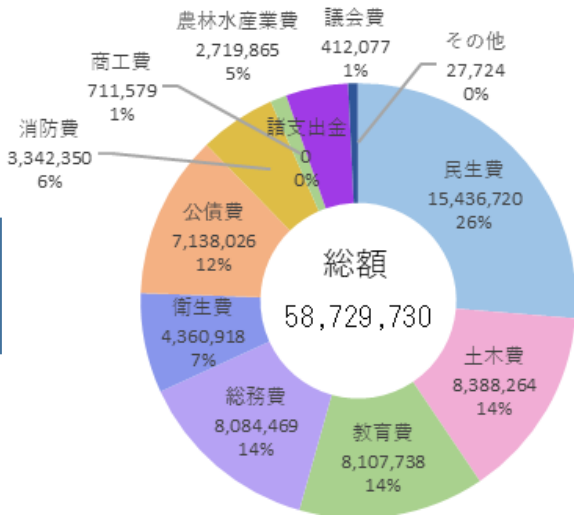
2005年
(H17年)



2015年
(H27年)



目的別
(歳出)

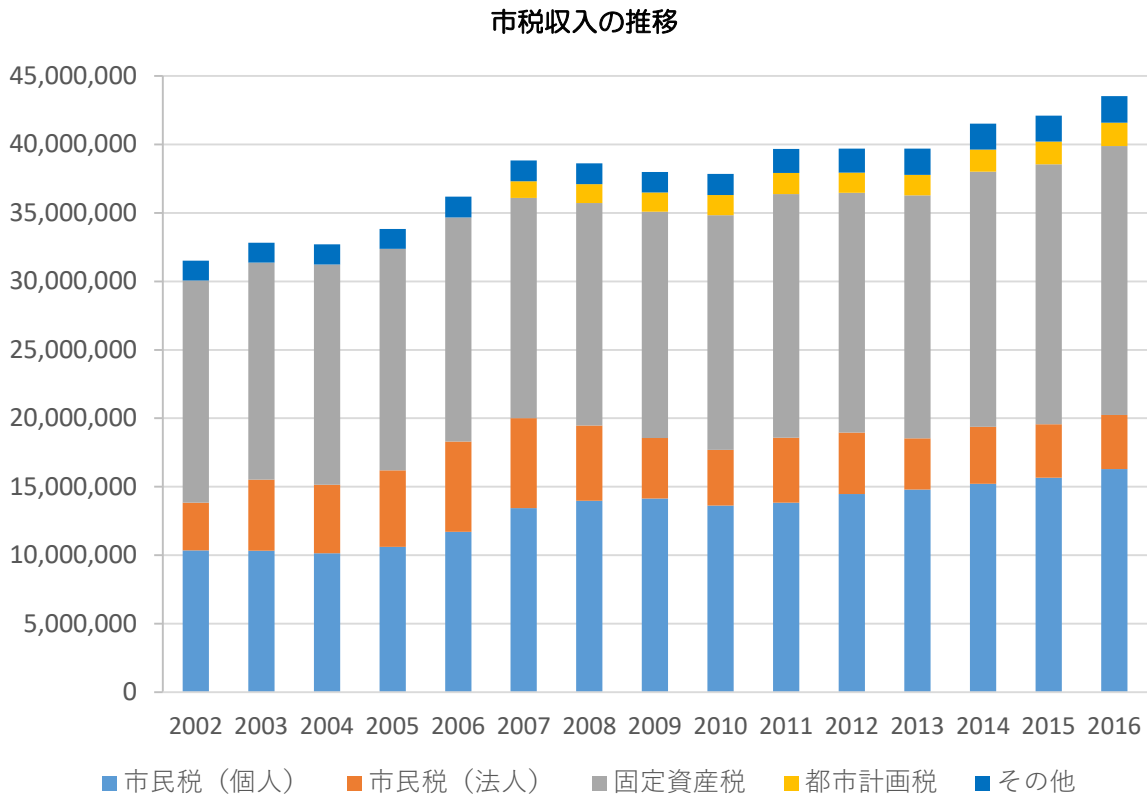


扶助費・・・児童や高齢者、生活に困窮する人などの社会保障関係の経費
 投資的経費・・・道路や公園、学校などの新たな社会基盤を整備するための経費
 義務的経費・・・人件費、扶助費および公債費の支出することが制度的に義務づけられている経費
 民生費・・・生活保護、高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、母子福祉などの福祉に関する費用

資料：総務省 市町村別決算状況調

3) 市税

- 人口動向に対応して、市税は増加傾向にある。

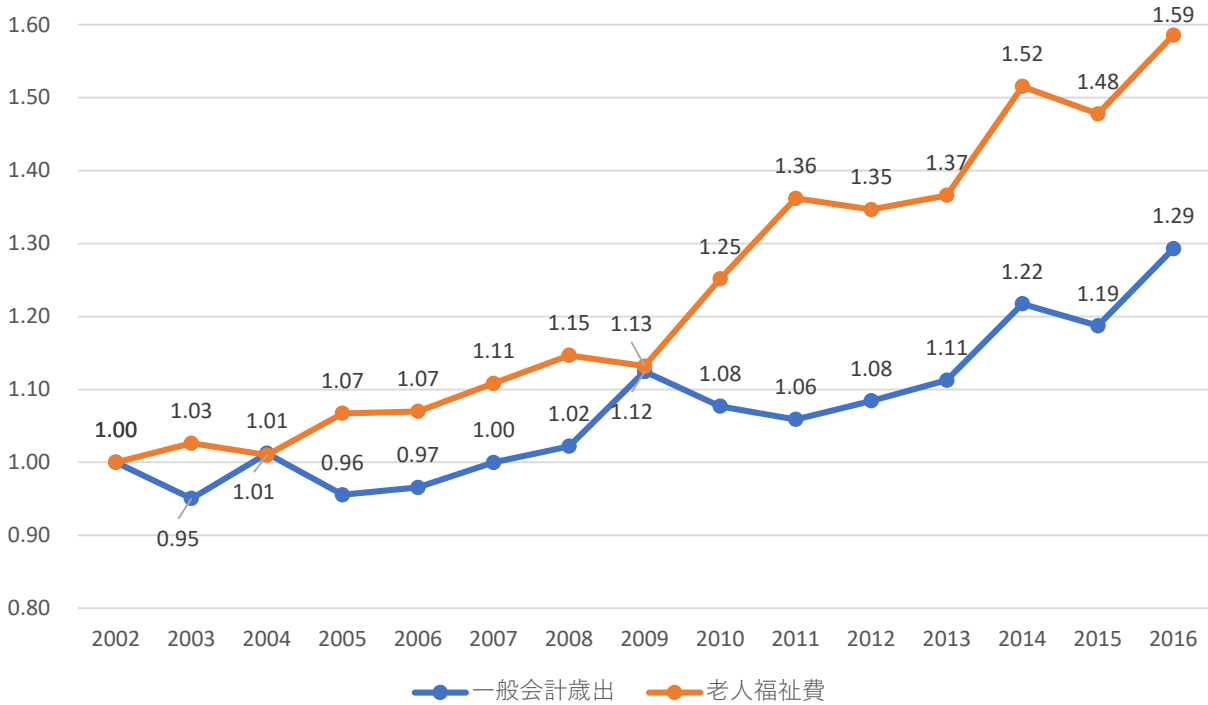


資料：つくば市歳入歳出決算書

4) 国民健康保険会計等の動向

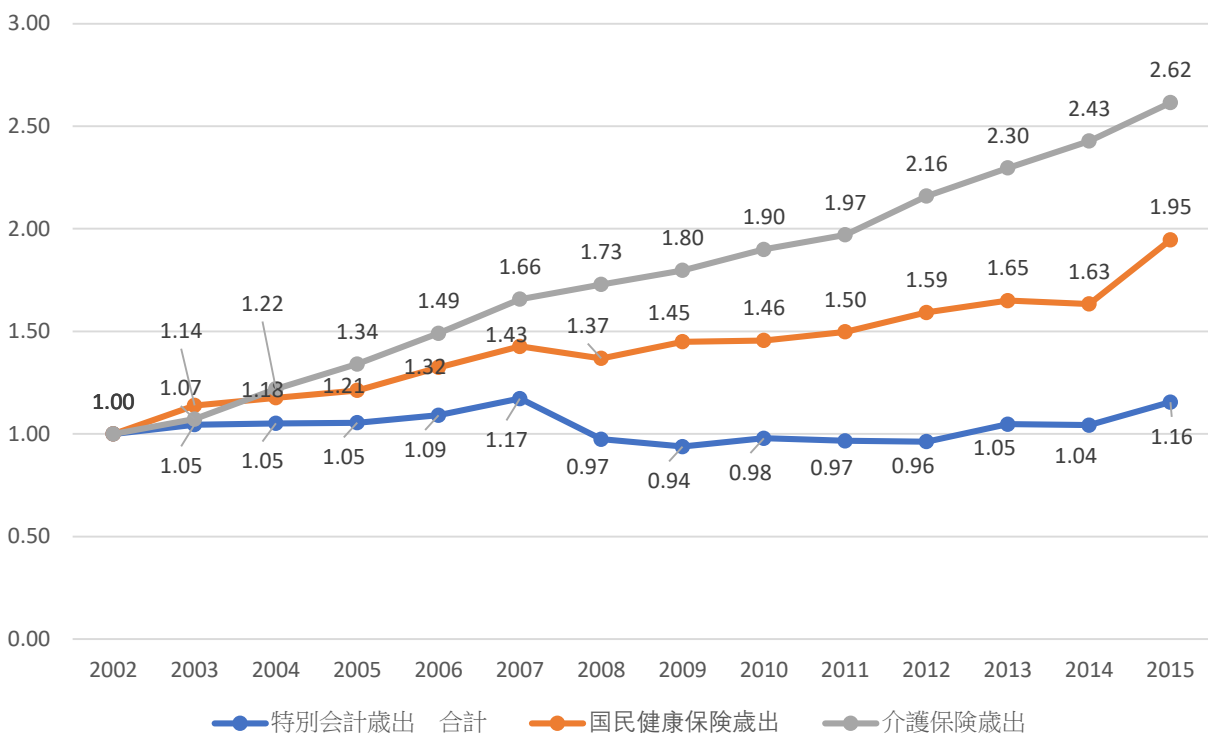
- 一般会計歳出額は横ばい傾向のなか、老人福祉費は増加している。
- 特別会計歳出額も横ばい傾向のなか、国民健康保険歳出や介護保険歳出が大きく増加している。

一般会計歳出額と老人福祉費の推移
*2002年を1.0とした指数



資料：市町村別決算状況調、つくば市歳入歳出決算書

特別会計歳出額と国民健康保険歳出、介護保険歳出の推移
*2002年を1.0とした指数

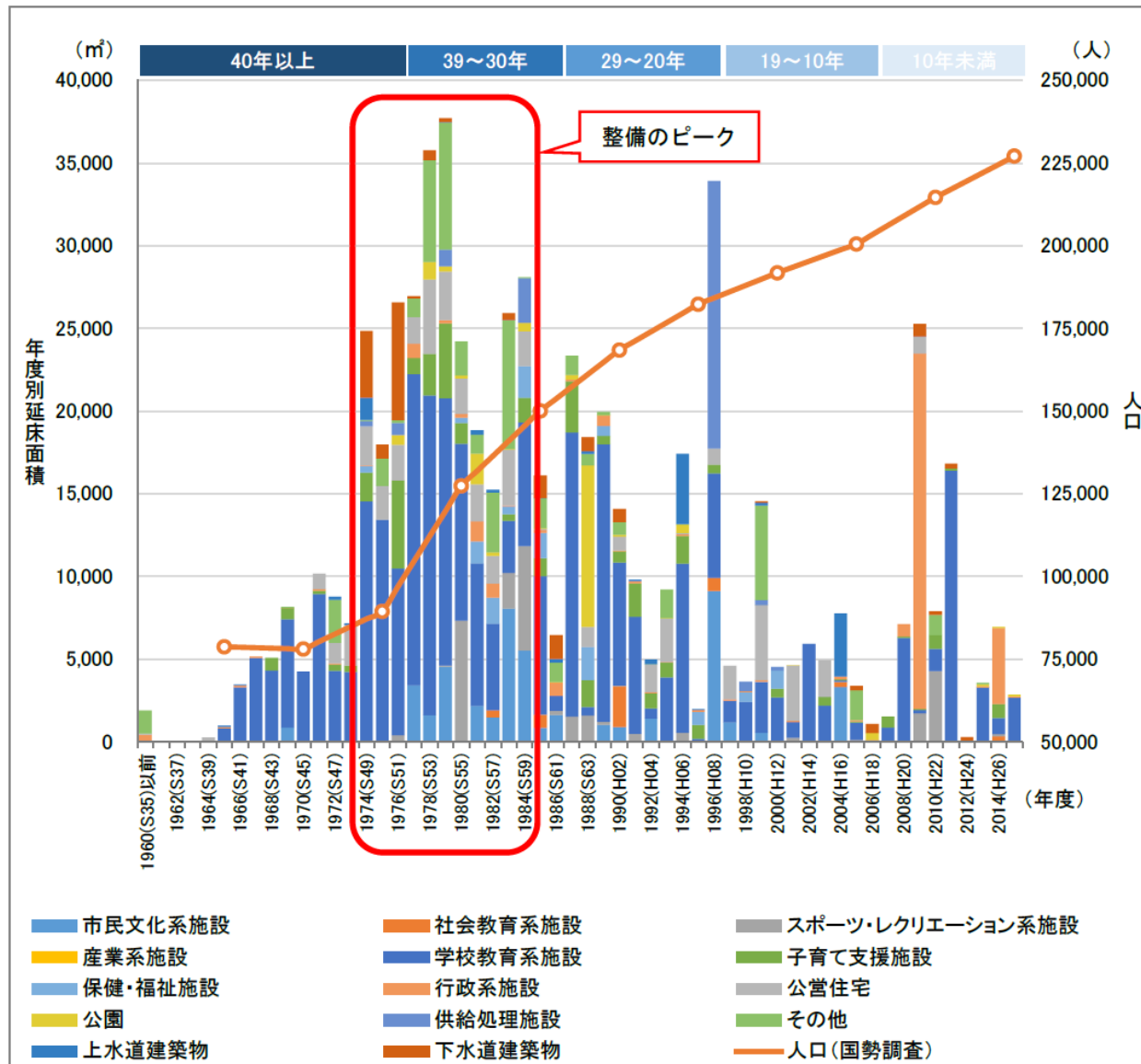


資料：つくば市歳入歳出決算書

5) 公共建築物の建築年度別整備状況

- 本市では、公共建築物が1974（昭和49）年度から1984（昭和59）年度までの11年間をピークに整備されるとともに、平成17年のつくばエクスプレスの開業等に伴い、近年においても施設整備を行ってきました。
- そのため、公共建築物の標準的な耐用年数（日本建築学会「建築物の耐久計画に関する考え方」）とされる60年で更新した場合に、2030年代後半から2040年代中頃までがピークとなります。

公共建築物の建築年度別整備状況



資料：つくば市公共施設等総合管理計画（平成29年2月）

6) 公共施設の更新等に係る将来費用

- 「公共施設等更新費用試算ソフト」の基本的な考え方により簡易シミュレーションすると、公共建築物とインフラ施設を合わせた今後40年間の更新等に係る費用総額は、8,436億円という結果になっている。

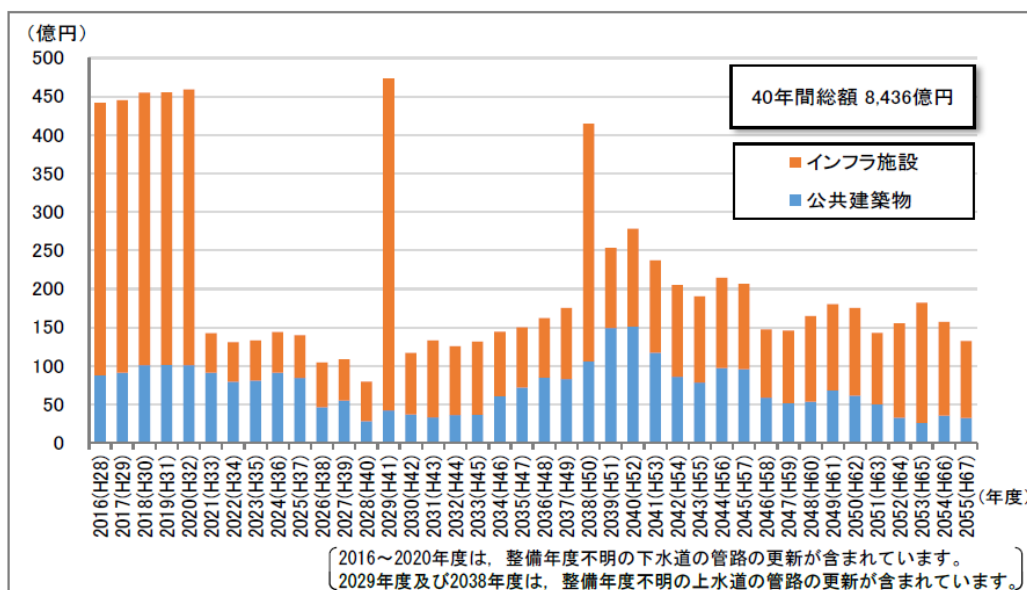
<試算の条件>

- 総務省の「公共施設等更新費用試算ソフト」の基本的な考え方により、今後40年間の費用を機械的に試算しています。
- 現在市が保有している公共施設を、それぞれ標準的な耐用年数経過後に、現在と同じ面積・延長等で更新等を行うと仮定しています。その際、公共施設の数量データに更新単価を乗じて計算しています。また、公共建築物は大規模改修を実施していないと仮定しています。

公共施設	更新等の基本的な考え方	数量
公共建築物	60年で更新（建替え）、30年で大規模改修	延床面積
道路	15年で舗装を打換え（道路面積を15年で割った面積を毎年度更新）	舗装面積
橋りょう	60年で橋りょうを更新（架け替え）	橋りょう面積
上水道施設	40年で管路を更新	管路延長
下水道施設	50年で管路を更新	管路延長

将来費用の簡易シミュレーション結果

公共施設	40年間の更新費用		
	公共建築物	インフラ施設	合計
一般公共建築物	2,732億円	—	2,732億円
インフラ	147億円	5,557億円	5,704億円
道路	—	1,975億円	1,975億円
橋りょう	—	145億円	145億円
上水道施設	47億円	1,351億円	1,398億円
下水道施設	100億円	2,086億円	2,186億円
合計	2,879億円	5,557億円	8,436億円



資料：つくば市公共施設等総合管理計画（平成29年2月）